



■未知への出発

S
NK

新星日本交響楽団 第一回演奏会

■指揮 村川千秋・諸井昭二

■曲目 フィンランディア・シベリウス／弦楽の為の木遣り唄・福島雄次郎／ブルースアンサンブルの為の交響曲・エハルド／交声曲「返せ沖縄」・木下そんき他／交響曲第5番「運命」・ベートーベン

10月2日(木)・午後7時

文京公会堂

■協賛・文化団体連絡会議

第1回定期演奏会

1969.10.2 文京公会堂

写真の指揮者は村川千秋氏

第1回定期演奏会では

諸井昭二氏も指揮にあたった
右は第1回定期演奏会ポスター



新星日響

イントロ・シンセオニティD序曲
伊福部昭(マリーベルトラン)
ストラヴィンスキー・パレエ「火の鳥」全曲

第36回定期演奏会 9月12日 水 7時 東京文化会館

指揮 山田一雄 マリ・ハ・安倍圭子
管弦楽 新星日本交響楽団

■創立 10周年

創立 10 周年

第36回定期演奏会
1979.9.12 東京文化会館
伊福部昭氏への委嘱曲
「オーケストラとマリンバのための
ラウダ・コンチェルタータ」が
山田一雄氏の指揮で初演された
マリンバ安倍圭子氏による
リハーサル風景
左は第36回定期演奏会ポスター



■そして20周年

第 12

1989.7.10 サ

目席客演指揮者

「毛

右は第 120 回定期

第 120 回定期演奏会

1989.7.10 サントリーホール

首席客演指揮者レナルド氏により

マーラーの交響曲第8番

「千人の交響曲」が

演奏された

右は第 120 回定期演奏会ポスター



■定期演奏



(上から)
特別演奏会
「戦争レクイエム」
1989.7.4
東京カテドラル
第100回定期を期し
ヴォルフ氏の指揮で
定期・特別演奏会の
2回にわたり演奏

第34回定期演奏会

1979.4.4
東京文化会館
指揮：外山雄三氏
Vn.：徳永二男氏
ブームス
ヴァイオリン協奏曲
などを演奏



第37回定期演奏会

1979.10.23
東京文化会館
指揮：コシュラー氏
モーツアルト
交響曲第36番 リンツ
などを演奏
そのリハーサル風景



会を中心とした活動

(上左から)

第38回定期演奏会

1979.11.26 東京文化会館
チェロ独奏にペレーニ氏を迎える
サン=サーンス
チェロ協奏曲第1番などを演奏



ペレーニ氏を囲んで記念撮影

第44回定期演奏会

1981.1.28 東京文化会館
指揮：井上道義氏
ヴァイオリン：ズスケ氏を迎える
ブルッフのヴァイオリン協奏曲1番
などを演奏



第59回定期演奏会

1982.10.1 東京文化会館
佐藤功太郎氏の指揮で
林光「白墨の輪組曲」を初演



第76回定期演奏会

1984.9.14 東京文化会館
指揮：フェルドブリル氏
ヴィオラ：ベニヤミーニ氏
バルトークのヴィオラ協奏曲などを演奏



(上左から)
第 78 回定期演奏会
1984.11.24
東京文化会館
指揮：クレチメル氏
ピアノ：シフ氏
ベートーヴェン
ピアノ協奏曲第 4 番
などを演奏

第 79 回定期演奏会
1984.12.19
東京文化会館
指揮：ノイマン氏
独唱：常森寿子
辻有子 鈴木寛一
勝部太氏らで
マーラー「嘆きの歌」



第 80 回定期演奏会
1985.1.28
東京文化会館
指揮：佐藤功太郎氏
独奏は新星日響
トップ奏者により
モーツァルトの
Ob. Cl. Hr. Fg. のため
の協奏交響曲を演奏

新星日響合唱団
1985.12 労音会館
指揮 ウィナール氏で
「第九」の練習



(上から)

第 89 回定期演奏会

1986.1.16 東京文化会館

指揮：山田一雄氏

独唱：常森寿子 伊原直子

鈴木寛一 高橋啓三の各氏

合唱：新星日響合唱団で

モーツアルトのレクイエム

などを演奏



第 91 回定期演奏会

1986.5.27 東京文化会館

指揮：山田一雄氏

ヴァイオリン：アルテンブルガー氏で

ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲

などを演奏



第 93 回定期演奏会

1986.7.16 東京文化会館

指揮：朝比奈隆氏

独唱：大倉由紀枝 辻宥子の各氏

マーラーの交響曲第 2 番「復活」を演奏

第 93 回定期演奏会

朝比奈隆氏の指揮による

リハーサルの一光景

(上から)

第 95 回定期演奏会

1986.11.28 東京文化会館

指揮：レナルド氏

ハープ：吉野直子氏による
リハーサル風景

ヒナステラのハープ協奏曲を演奏

第 96 回定期演奏会

1986.12.18 東京文化会館

指揮：レナルド氏

独唱にもチェコスロヴァキアから
プラフシャコヴァ キリロヴァ
リボラ ミクラーシュの各氏を迎え
ドヴォルザークのレクィエムを演奏

第 98 回定期演奏会

1987.2.23 東京文化会館

指揮：佐藤功太郎氏

ピアノ：ダン・タイソン氏で
シューマンのピアノ協奏曲を演奏
そのリハーサル風景

第 99 回定期演奏会

1987.4.20 東京文化会館

指揮：小林研一郎氏

独唱：伊原直子氏で

マーラーの交響曲第 3 番を演奏



第 104 回定期演奏会

1987.11.25

サントリーホール

指揮：ヴァーレック氏

チエロ：シフ氏

ショスタコーヴィチの

チエロ協奏曲第1番



第 111 回定期演奏会

1988.7.18

東京文化会館

指揮：レナルド氏

独唱：佐藤しのぶ

伊原直子 田口興輔

池田直樹の各氏で

ヴェルディの

レクイエム

第 115 回定期演奏会

1989.1.17

東京文化会館

指揮：現田茂夫氏

オーボエ：宮本文昭氏

R. シュトラウスの

オーボエ協奏曲



第 119 回定期演奏会

1989.6.9

サントリーホール

指揮山田一雄氏と

委嘱作曲の

作曲者一柳慧氏



■親子・地域



(上から)

●親子コンサート
窓ぎわのトットちゃん
黒柳徹子氏の出演で
大ヒット
1988.3.26
東京文化会館
指揮：現田茂夫氏



トモコのふしぎな
ペートーヴェン

出演は熊倉一雄氏と
間下このみちゃん
1987.3.29
簡易保険ホール
指揮：田中良和氏

スノーマン

1988.3.27
簡易保険ホール
指揮：現田茂夫氏

赤神と黒神

1986.7.25
越谷コミュニティ
センター
指揮：松井和彦氏
独唱：佐藤しのぶ氏



コンサートなどの活動



(上から)

木にとまりたかった木の話

1983.4.10 東京文化会館

指揮：佐藤功太郎氏

出演：黒柳徹子氏



●音楽鑑賞教室

生の音楽を聞く機会の少ない
子供たちに出かけていって演奏する
音楽鑑賞教室も新星日響の重要な活動

1980.6 須坂市小学校体育館



●地域コンサート

足立区民コンサート

1987.12.23

足立区東部区民福祉センター
新星日響弦楽四重奏団などが出演

所沢市民青空コンサート

1981.9.23

埼玉県営野外音楽堂

指揮：山田一雄氏



■交流会・録音・オペ



(上から)

●終演後の交流会

定期演奏会のあと出演者を迎えて
聴衆とともに楽しいひととき

第118回定期演奏会のあとで
参加者に語りかける外山雄三氏

1989.5.12 カフェハウスじゅらく



●おもしろ音楽館

毎回お客様を迎えて
聴衆とともに音楽を語る

ボリショイ・バレエ団プリマを迎える
第7回おもしろ音楽館

1988.10.9 豊島区勤労福祉社会館



●星空のコンサート

上高地などに出かけ自然の中で音楽
楽員と聴衆がともにすごす

木管による第5回のコンサート

1989.8.12 - 8.13 上高地から高山へ

●レコーディング

1989.3.7 - 3.8 新座市民会館
指揮：山田一雄氏

●東京国際指揮者コンクール

入賞コンサート

1989.1.25 簡易保険ホール



ラ・バレエ出演…



(上から)

●十夜連続大音楽会

1989.2.25

サントリーホール

●オペラへの出演

オペレッタ「メリーウィードー」

1989.2.7

伊奈市文化会館

●バレエへの出演

松山バレエ団との協演

「眠れる森の美女」

1988.12.13

東京文化会館



レニングラード・バレエ団

との協演(右)

1986.8 - 10





■創立 20 周年記念 祝賀会



(上から)

記念祝賀会における演奏

1989.6.26 東京会館

指揮：山田一雄氏

会場における楽団員たち

談笑する参加者

左から伊沢紀理事長

文化庁長官植木浩氏

樽松三郎楽団代表

会場全景



新星日本交響楽団 20 年史

1969 — 1989

大　　目

ごあいさつ

新星日本交響楽団は、1989年6月26日創立20周年を迎えることができました。これは、ひとえに皆さま方の温かいご支援、ご鞭撻の賜ものと心より深く感謝申し上げます。

新星日本交響楽団は1969(昭和44)年、“音楽を愛する人々”と手をたずさえてオーケストラ活動をすすめようと、演奏家が自主的・自覚的に、オーケストラを創立しました。

当時、楽器、楽譜など何もない状況から発足したもので、創立時の楽員諸君の苦労は筆舌に尽せぬものであったと聞いております。

私は、楽員自身が力を合わせて運営を続けてきたオーケストラにひかれ、1981(昭和56)年、財団法人設立時に理事長をお引き受けしましたが、当時すでに今日の発展を予想される基礎は完成していました。財団法人設立より8年、さらに皆さまより物心両面にわたるお力添えをいただきて、今日このように立派なオーケストラとして成長することができました。

新星日本交響楽団は、これからも創立の初心をしっかりと踏まえ、謙虚に活動しつつ、ますます大きな業績を残していきたいと考えております。

どうか新星日本交響楽団の、これから10年、20年をさらに倍する温かいご支援を賜わりますよう、心よりお願ひ申し上げ、ごあいさつにかえさせていただきます。

伊沢　紀
財団法人新星日本交響楽団 理事長

目 次

ごあいさつ 伊沢 紀	
新星日響 20周年に寄せて	7
座談会—新星日本交響楽団を語る	18
新星日本交響楽団 20年の歩み	
はじめに	32
第1章 新星日響の歩み	37
第2章 財団法人設立運動の成功	46
第3章 「窓ぎわのトットちゃん」の誕生	59
第4章 新しい飛躍をめざす新星日響	66
まとめにかえて	71

楽員が語る新星日響の 20 年とその展望 74

講 著者

筑紫興田楽団本白星連人出回は

資料編

1. 定期公演演奏記録

(1) 定期公演演奏記録（第1回～第125回）	94
(2) 作曲家別演奏曲目〔日本人作品〕	113
(3) 作曲家別演奏曲目〔外国人作品〕	116
(4) 国別作曲家数・作品演奏回数	124
(5) 定期演奏会・日本初演作品一覧	127
(6) 指揮者一覧	128
(7) 協演者一覧	130

2. 定期公演以外の演奏記録(1969—1989)

(1) オペラ・バレエ演奏記録	135
(2) 学校公演演奏記録	163
(3) 「親子コンサート」演奏記録	172

3. 楽員名簿

4. 財団法人理事・評議員・事務局員名簿	183
----------------------	-----

5. 関連記録—資料とその分析

(1) 創立時と現在の楽員数比較	184
(2) 定期演奏会・年度別開催回数	184
(3) 日本人作品演奏回数比較(1982—1985)	185
(4) 定期演奏会・日本人作品・作曲家別演奏回数(1969—1989)	186
(5) 定期演奏会・日本人作品・演奏指揮者別回数	186
(6) 定期演奏会・演奏作品国別作曲家数/作品演奏回数	187
(7) 年度別・演奏種別・全公演日数比較	188
(8) 契約公演・年度別演奏回数比較	189

6. 新星日本交響楽団20年史年表

新星日響 20周年に寄せて

新星日響
20周年記念誌

広がりつづける演奏活動の輪

植木浩
文化庁長官

財団法人新星日本交響楽団が創立 20 周年を迎え、記念誌を発行される運びになりましたことを心からお喜び申し上げます。

新星日響は、昭和 44 年、音楽大学を卒業したばかりの新進気鋭の演奏家を中心として組織され、以来、日頃の練習成果を披露する定期演奏会をはじめ、生のオーケストラ演奏に接する機会の少ない地域にも積極的に演奏活動の輪を広げ、我が国の音楽の振興に御尽力いただいております。

とくに、昭和 56 年に財団法人となってからは内容も一段と充実され、従来年 6 回だった定期演奏会を 9 回とし、当初 30 数名で発足した団員数も 80 名を数え、現在では押しも押されもせぬ我が国有数のオーケストラとなられましたことは、誠に御同慶に堪えません。

昨今、オーケストラの運営には誠に厳しいものがあると伺っており、文化庁としては、今後さらに各種の施策を通じて応援をしてまいる所存でございます。

この 20 周年を契機として楽団の皆様がさらに精進され、財団法人新星日本交響楽団がますます発展されますことを祈念して、お祝いのことばといたします。

平成元年 6 月

更なる努力と戦いを

朝比奈 隆
指揮者

早くも 20 周年と申したい処ですが、その 20 年の皆さんのご苦労は、大変なものだった事がよく判ります。

さて、これから 20 年は、希望に満ちた明るい未来ではあっても、更に一層の努力と戦いの日々であると思います。切に皆さんの健闘をいのります。

個性ある演奏活動を期待

五十嵐 喜芳
藤原歌劇団総監督

創立 20 周年おめでとうございます。

ひと口に 20 年と申しますが、おそらく当事者の皆様でなければ分からない、いろいろとご苦労の多い長い年月であったものとお察しいたします。オーケストラという最も困難な部類の仕事を、特定のスポンサーもなく、集まった同志の方々の熱意だけで始め、しかもこのような成功を 20 年後に立証されましたことに、同じ分野で団体運営に携わる者の一人として敬服いたしております。

オペラ団体にとってオーケストラは一心同体の仲間であり、近年の新星日本交響楽団のめざましい充実ぶりは、私どもにとりましても心強い限りです。藤原歌劇団が最近共演していただきました「蝶々夫人」では、昨秋の東京における本公演、この夏に中国地方を巡演した文化庁の青少年芸術劇場とも、おかげさまで大成功を収めることができました。

プロのオーケストラも東京への一極集中の例にもれず、いまや9団体がしのぎを削っておられるわけですが、これからも個性を發揮した演奏活動を推進されますよう期待いたします。芸術文化の振興に対する社会的関心が高まっております折から、私どももお互いに競い合いながら、それぞれの分野で責任ある仕事を心掛けてまいりたいと願っております。

新星日本交響楽団のますますのご発展を心より祈念いたしまして、ごあいさつに代えさせていただきます。

20周年を祝す

石井 真木

作曲家

オルガニ・トライベッタ

西野謙

新星日本交響楽団の創立20周年を心からお祝いもうしあげます。新星日響は20年まえ、新鋭の演奏家たちの自主的な運営によってつくられたと聞いております。そのオーケストラがわが国の貧困な文化政策にもかかわらず立派に維持されてきた、さらに20年間で質量とも充実したオーケストラに変貌、発展してきたという事実は、驚嘆に価することだとおもいます。とくに欧米のめぐまれたオーケストラ運営とくらべるとなおさらです。これにはさぞやオーケストラの皆さん、関係者の皆さんのご苦心、ご努力があったであろうと頭のさがるおもいがいたします。

20年前といいますと、私が初めての大オーケストラ作品「響層」を発表した年ですし、この新星日響が誕生した時とおなじ1969年6月に、私はベルリン芸術家プログラムの招きであたらしい音楽環境をもとめて西ベルリンに移住しました。なにかご縁を感じる次第ですが、このたび20周年の記念プロジェクトの一環として新作を書かせていただくことになり、非常に光栄に存じております。それに、10

周年には「ラウダ・コンチェルタータ」、一昨年の100回記念コンサートでは「サロメ」と、新星日響の節目節目で私の尊敬する師、伊福部昭先生の素晴らしい作品が演奏されています。このことを考えますと、20周年のあらたな節目の新作ということで恐ろしいほどの責任を感じています。あたらしい理念と語法によるよい作品にしたいと現在四苦八苦しているところです。

最後に、新星日響のなお一層のご発展を期待しつつ、輝かしき20周年のお祝いの意とさせていただきます。

1989年4月

誇りと感謝の気持ち

オンドレイ・レナルド

指揮者

I do honour and appreciate my colleagues of the Orchestra, their enthusiasm and good will, the way of their cooperation for achieving the best results. Please give them my sincere best wishes and regards.

力を合わせて最良の成果を達成なされました、オーケストラのみなさまの熱意と善意に対し、誇りと感謝の気持ちです。

みなさまの成功を心からお祈りして、あいさつを送ります。

10 ニュースペシャル 新星日響

新たな出発点

梶本 尚靖

株式会社梶本音楽事務所 代表取締役

たゆみなく歩み続け、人知れないご尽力を経て迎えられた 20 歳のお誕生日を心よりお祝い申し上げます。

微力ながら、梶本音楽事務所は、貴団の企画されるコンサートに指揮者やソリストを提供する仕事をさせていただいてまいりました。

20 年という年月は、何事においてもひとつの節目として大きな意味をもっていますが、とりわけオーケストラは、長い年月を重ねるほど味わいの深い成熟した音楽を聴かせてくれるのではないかと思います。その点で、創立 20 年というのは新たな出発点についたともいえるのではないでしょうか。

私は、7、8 年ほど前に、ボストン交響楽団とベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の創立 100 周年コンサートに出席したときの感動を、今でも忘れられません。このふたつのコンサートは、ともに 100 年にわたる歴史の重荷をずっしりと感じさせる出来事でした。同時に私は、現在欧米を代表する両オーケストラが、若い頃、つまり 20 年前後に、果して今日のような隆盛を想像していたであろうかとも考えました。

新星日本交響楽団の皆様が、1 世紀にわたる輝かしい歴史を築くための第一歩として、この 20 周年を位置づけ、今後、一層のご発展をなさることをお祈り申し上げます。

熟成を重ね素晴らしいハーモニーを

龍尚本社

新星日響社 サントリー音楽財団 佐治敬三

佐治 敬三

サントリー株式会社 社長

20年前、1969年は、思い起こせばサントリー株式会社が鳥井音楽財団（現在のサントリー音楽財団）を設立した、いわば、わが社がクラシック音楽との本格的な関わりを開始した記念すべき年にもあります。その活動が生み出したサントリーホールを、新星日響が1989年6月から定期公演の会場としてお使い下さることは、私にとりましてもひとしおの感慨を禁じえません。また、新星日響の皆様のご勇断に対し、この場をお借りして心より御礼を申し上げたいと思います。

私どもの取り扱っておりますウイスキーの、その生命ともいべき原酒は、ホワイトオーク材でつくられた樽の中、幾歳月も熟成のときを重ねます。ウイスキーの芳醇な香りと味わいは、モルト原酒と樽、そして歳月とが織りなすハーモニーの結晶であると申せましょう。

音楽をウイスキーにたとえる失礼を承知で申し上げれば、新星日響という希望に満ちた“モルト原酒”が、ホワイトオーク材を内壁にはりめぐらされたサントリーホールという“樽”の中で、未来永劫にわたり素晴らしいハーモニーを奏で続けて下さいますなら、これにまさるよろこびはございません。

日頃、皆様方の音楽にかける並々ならぬ情熱に深く感銘を受けている者のひとりとして、新星日響の創立20周年を心よりよろこび申し上げます。

“新星らしさ”いつまでも

新星時團

金曲

太刀川 瑠璃子

(脚) スターダンサーーズ・バレエ団

おめでとうございます。

創立より 20 年……。あっという間のことだと思います。我々も来年で創立以来 25 年を数えますので、日本のこういった仕事につきものの幾多の困難を乗り越えて 20 という数字に到った感慨は、我々のそれとほぼ同じものではないかと思います。

東京という、現在、世界有数の音楽マーケットでは、日夜とてつもなく多くのコンサートが繰り広げられており、オーケストラも海外から来日するものを含め大変な量にのぼっています。そういった状況のもと、貴団の活動が我々に与えてくれる新鮮さは得難いものです。わるい意味でプロでなく、いい意味でアマチュア的な新星らしさとでもいいましょうか。

近々サントリーホールに定期公演会場を移し、新たなサウンドづくりにのぞまれるとお聞きします。サントリーホールのもつ美しいアコースティックな響きが若々しい新星サウンドとブレンドし、いかなる美酒を我々に味わわせてくれるか、非常に楽しみです。

来年はまた初のヨーロッパ楽旅に出かけられるともお聞きします。ヨーロッパの聴衆を前にして、自分達の音というのはこれであるという提示をし、それに対して彼らがいかなる反応を示すか、これもまた楽しみなことです。

大きなマイルストーンを 20 という数字の上におき、これから的新星日響がどのような発展を示すか、とても楽しみに思います。

「新星」の20年に拍手

團 伊玖磨
作曲家

1969年に新星日本交響楽団が呱々の声を上げてから、今日に至る迄の20年の歴史は、特別な母胎を持たぬオーケストラの存在がほとんど不可能といわれる日本の社会の中にあって、実にたのもしい、そして感動的な歴史であった。音楽に奉仕する心を土台に、全メンバーが乏しきに堪え、一步一步高い境地に努力して登って行くこのオーケストラの姿を、僕は、自作のオペラの指揮者として、共演の回を重ねながら感動的に見詰めて来た。オペラ「夕鶴」の舞台を与えてくれた回数だけでも、上演史を調べてみると100回近い共演が記録されている。作曲者としては、どれ程の感謝を表して良いか判らない。苦労を分け合った友達、そうした感慨も湧いて来る。

楽員諸君の研鑽と努力に依って、また、加えるに経験の蓄積に依って、新星の実力はこの頃とみに深まって來た。コンサート・マスター佐藤慶子さん以下各セクションのチーフの指導力が実って著しく合奏能力も高まったし、いよいよこれから創立30年にかけてが新星の壮年期、言わば正念場にさしかかる時期だと思う。心して次なる10年に初志を貫いていただきたいと思うのは、僕ばかりでなく、大方の意見だと思う。

お互に、激励し合って、音楽の道を、より美しく、より高く、より逞しく進みたいと思う。

創立20年を心からお祝いして、新星日本交響楽団の輝かしい姿勢に拍手を送る次第である。

オーケストラ史に残る演奏活動

一 輪 山 中

東京労音

新星日本交響楽団が創立 20 周年を迎えたことを心からお祝い申しあげます。

新星日本交響楽団は、創立して間もない 1970 年 8 月に東京労音の委嘱作品＝大木正夫作曲の交響曲「ベトナム」の初演をはじめとして、労音制作のオペラ「カルメン」の演奏（1977 年）、東京労音創立 25 周年記念＝林光作曲カンタータ「脱出」の初演（1978 年）やカンタータ「人間をかえせ」（大木正夫作曲）、ベートーヴェン「第九交響曲」など、私たち労音会員にとって特筆すべき有意義な例会に出演され、労音運動に大きく寄与されてきました。

ふりかえると 20 年前、新星日本交響楽団が演奏家の自発的な意志によって組織され、広く聴衆とのきずなを強めながら、さまざまの困難をのり越えて今日まで、まさに団員自身の自主運営によって演奏活動を続けてこられ、そのなかから多くの成果を生み出されたことは、日本のオーケストラ運動史に明記すべきことで、高く評価されることでしょう。

今度、20 歳のいわば成人としての新たな第一歩をふみ出されることがあります、新星日本交響楽団が、これまで努力されてこられた聴衆との結びつきを一層強め、団員の総意にもとづく自主運営によって着実な発展をとげられることを切望してやみません。

1989 年 4 月

霸氣ある楽団

音楽東京

中山悌一

二期会理事長

新星日本交響楽団創立 20 周年、おめでとうございます。新星日響は若々しく清新の気に満ちた楽団であります。いってみれば、これが、この楽団の第一の特色でしょう。過密スケジュールや財政上の艱難などと闘うなかに、ややもすると職業ズレし、疲弊し、沈滞ムードに陥りがちなのですが、この楽団にはそれがない。何故か。この楽団の一種独特な霸気が、演奏という困難な営為を強い喜びに染め上げてしまうのです。つまり楽団員一人ひとりの芸術家としての姿勢に、この楽団の存在理由を見出すことができましょう。

新星日響の幅広い活動のなかでも、ピット内での仕事は大きな比重を占めているとかがっています。私どものオペラ公演でも強力な協演者として、いつも後味の爽やかな仕事を遂行してくれます。ピット内のオーケストラは舞台上の歌手の声に耳を傾けながら、また、ドラマ作りの曲線を念頭におきながら、柔軟な演奏を心掛けます。必然的に耳のよいオーケストラになりましょう。歌心を大切にし、劇音楽の勘所を的確に擱んでいます。つまり新星日響の技術とセンスというものが、オペラから栄養を摂っていることは間違いない事実でしょう。

私どもの二期会も、やがて 40 周年を迎えるとしています。ひとつの演奏団体の限りない技術の向上と主張の持続を、世代から世代へと引き継いでいくことの艱難を感じております。新星日響の 30 年、40 年先の霸気と健在を祈りつつ、ベンを措きます。

益々の御発展を祈り

松山樹子

日本バレエ協会専務理事 松山バレエ団藝術監督

新星日本交響楽団の創立20周年にあたり、心からの祝賀と益々の御発展をお祈り申し上げます。

日本のオーケストラの演奏活動は、バレエの公演活動と同じく大変な困難をともなってまいりましたが、新星日本交響楽団は常に精進をつみかさね、大きな成果をあげてまいりました。

私たちには貴楽団に対し深く敬意を表します。

これからも皆様と御一緒に日本の文化芸術の発展のために努力したいと存じます。

皆様に感謝をこめて。

新星日本交響楽団を語る



〈出席者〉

山田一雄
小森昭宏
宇野功芳
常森寿子

司会

榑松三郎

(敬称略)

人間味あふれる演奏が魅力

司会 皆さん、きょうはお忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。

おかげさまで新星日響は今年、創立 20 周年を迎えますが、きょうは、皆さんが日頃お感じになっていらっしゃる新星日響の魅力とか横顔についてお話しただけたらと思います。まず宇野先生から口火を切っていただけますか。

宇野 創立が昭和 44 年ですね。それで、47 年に初めて聴かせていただきました。そのころは定期演奏会が年に 3 回、ホールも文京公会堂だったかな、秋山さんの指揮で、「エロイカ」とか、林光のとか。初めて聴いた印象としては非常にフレッシュだったけれど、弦の鳴りが悪くて、一方、管はちょっと強すぎるというか、管弦のバランスが悪かったけれどいい印象は受けたんです。49 年に創立 5 周年の

演奏会を聴きました。これはあんまりよくなかったので、どうしたのかなと思っていました。昭和54年に創立10周年、山田先生がお振りになって、ハイドンの「シンフォニア」とか、「火の鳥」全曲演奏（日本初演）だったか、これが非常に素晴らしかったです。この創立10周年でほんとうのプロのオーケストラとして恥ずかしくない技量に達したと思ってとっても嬉しかったし、その後、山田先生が名誉指揮者になられていいコンタクトをとっておられるので、とくに去年からまた一層レベルアップしたとぼくは思います。**田山**

新星日響のいちばんいいところというと、「プロでござい」というようなクールな演奏ではなくて、最初から熱くなるというか、いい意味でアマチュアリズムというものがあって、指揮者とうまく噛み合合うと、熱っぽい感動的な人間味あふれる演奏をしてくれるんですね。それがいちばん新星日響の特徴で好きなところですね。技術的にも、とくに弦、金管がすごく好きですね。どれほど情熱的に演奏しても、金管が自分たちのバランスをよく知っているというのか、とび出さない。弦もいいし。だから今、ぼくはいちばん新星日響が好きなんですね。つい応援しちゃうんです。

司会 常森さんは私たちの演奏会のゲストでは、声楽家ではいちばん数多く共演していただいてますね。

常森 そうですか。私は昭和39年の大学の卒業なので、46年あたりに定期に出演させていただいたと思うんですが。私のデビューが44~45年なので、ほとんど同じような時代に育ってきた楽団という感じがするんです。それでたくさん出させていただいているのでしょうかし、同年代の方も多いですし、何となく関わり合いが多いですね。身内とまではいいませんけれど、いつも気になる人たちがたくさんいらっしゃる団体で、一緒に演奏できるときはとても一生懸命になってしまいます。



楽団員のご苦労とか、そういうこともよくわかるし、でも、皆さん苦労していらっしゃるから、気取ってないですよね。気取っている団体もいくつかあるような気がしますが、音楽を愛するというのがひしひしと感じられるというか、私もそのひとりなんですがね。

山田 いちばん最初は何をなさったの？

常森 いちばん最初どこで何をやったかは覚えてないですが、先生とは、モーツァルトの「レクイエム」を。

山田 させていただいたね。そのときは常森さんの歌があんまりきれいで涙が出た。それがそんな前になるのかな。

その秘密は運営方法にあるのでは

司会 では、山田先生。

山田 宇野先生ね、なぜフレッシュに感じられたかという原因というのは、私も同じく感じたのですが、そもそもこのオーケストラが自主運営という立場をとって、成立したということと大いに関わるのではないか。どこからの援助も指導や干渉もなく、すべてを自分たちだけで、運営・企画を命がけでやろうという全楽員たちの心意気が滲み出た結果だと思う。若いオーケストラという点から、あるいは先輩オーケストラたちのように「ゆとり」や奥深い「妙味」には不足だったかもしれないが、しかし宇野先生の言われた「ういういしいフレッシュなエネルギー」というものは、人生何事によらず常に感じねばならない。このお言葉を、これから長い楽団生活の中でより密度濃いものに育て、しかも気取らず、尊大ぶらずに我々の「核」にしたいと思っております。

小森 私の父はNHK交響楽団でティンパニーを叩いていた小森宗太郎ですけれど、昔からずっとN響を聴いておりましたが、新星とおつき合いするようになってほんとにびっくりしましたね。自主運営のせいでしょうか、みんなでつくろう、お客様と一緒に音楽を楽しもうという、そういう気持がひしひしと感じられるんですね。

山田 それは確かにぼくもそう思う。私はいろんなオーケストラ

を見ておりまして、日本のオーケストラはずいぶん貧乏なオーケストラもあるので、バンドボーイとかそういうのもたくさんいない場合もある。新星の場合はおられてもとても手が足りないから、楽員が椅子運びをしたり、トラックに積んだりするという生活そのものがやっぱり音楽に反映していると思う。これは言葉のうえではなくて、ほんとうにそう感じるんです。そういうことをしないで、演奏はおれたちだけ、あとは事務関係が全部やるということだから、変に自分たちは芸術家であるという優越感を感じるような、人間としてはだんだん半端になる。半端にならないということで、先ほどおっしゃった、フレッシュなトータルな人間がすべて音楽に出るというふうな感じがしているんです。だから、貧乏なほうがいいというわけじゃないけれど、そういう心掛けをもって、いつまでたっても赤子のような純粹さで音楽に打ち込むみたいなものが、現在の新星にはあるんじゃないかな。それがいちばんぼくは基本的に尊いものだというような気がします。

司会 そういうふうにおっしゃっていただくと非常に嬉しいですが、たまたまきょうもオーケストラのリハーサルがあって、私は9時15分ぐらいに練習場に行ったら、10時半から練習が始まるんですけど、もう管楽器のメンバーはチラホラ来はじめて、だいたい9時半、だから練習の始まる1時間前を目標に、管のメンバーはどんどん来てさらっているんです。そういうことを見ても、今でこそ、セッティング、楽器運びとか練習場の準備とか、そういうことを楽員はしなくなりましたが、その分早く来て少しでもトレーニングしたい。そういう伝統というか、演奏にかける意気込みというのはすごくあるように思われます。その態度が、早く来て少しでもいい状態で少しでもいいものをつくっていこうということになっていると思いま



す。

山田 どこのオーケストラでもいわゆる音楽教室をやっていますが、非常に冷たいオーケストラ、ただ弾いてやる、終わったら聴衆のほうも見ないでパッと散ってしまう、そういうオーケストラもあります。新星日響はそれとまた違う。彼等に聴かせるんだ、音楽を与えるんだ、高いところからおまえたちに与えてやるんじゃなくて、同じ音楽教室でも非常に立派だと思う。新星の演奏は心の純度が高くて頭が下がる。聞き手の身になって、「音楽というすばらしい文化」をより広めよう、より高めようという熱いものが感じられる。そのすがすがしい熱さの中に、私は、ガッシリした理念がどうも隠されているらしいと。また、このことが新星の未来へのあらゆるプラスにもなるし、長く生き延びることにもなる。

ふだんのオーケストラ練習の折、指揮者が「ここはこう、ここはこう」と注文しようとする。と、注文する前に私の前や後ろ、横も左も右からも、音楽が出てきて私を襲ってくるような、そういうオーケストラは非常に尊いと思う。

司会 先生が引っ張り出してくださるから。

山田 いやいや、ぼくはただ仏頂面をしていても音楽がくるということは、これはありがたいことですよ。そう思いますね。



司会 宇野先生も'88年1月にサントリーホールで新星日響を指揮されて……いかがお感じになられましたか。

宇野 ぼくが初めてリサイタルで新星日本交響楽団を選んだのも、このオーケストラにはれこんでいたからで、べつに新星日響がギャラを安くしてくれたとかいうのではないんですよ。どこのオーケストラを選ぶかというのは、ぼくの完全な自由だったわけで、何の疑いもなく新星日響にしたいと思った。そうしたらマネージャーが、これは失礼

だけど、「もうちょっと老舗の、名前のある、お客様の呼びやすいオケにしたらどうか。ほんとに自由なのだから」「だけど、自由なら自由だけに一層ぼくは新星日響にしたい。結果がいいに決まっているんだから」。やっぱり自分で指揮してほんとうに新星にしてよかったです」と思いました。

司会 ブルックナーの「シンフォニー四番」を振っていただいたんですね。あれはほんとうに名演ですね。

宇野 オーケストラがとにかく一生懸命やってくれて感激しました。

「トットちゃん」との出会い

司会 小森先生とは、7年前に音楽物語「窓ぎわのトットちゃん」の作曲をお願いして以来の長いお付き合いになりましたが……。

小森 ぼくは初めて「トットちゃん」でお付き合いさせて戴きました。これは飯沢匡先生とお芝居の仕事でずっとお付き合いしていたのが縁で、飯沢先生がこちらの理事長に就任なさって、しばらくして昭和56年ぐらいに黒柳さんの「トットちゃん」が出版されました。それを「ピーターと狼」みたいな音楽物語にしようという話になつて、新星に作曲を依頼された。ぼくはそれまで映画音楽とか劇伴程度のせいぜい大きくても30人ぐらいの編成のしかやったことがなかったんですけれど、新星からご依頼があって「トットちゃん」を作曲させていただいて、小林研一郎さんに指揮していただいて、ほんとうにしあわせだったと思います。あれでぼくもシンフォニーが書けるぞという自信が出てきました。それから、「トットちゃん」は子どもたちがとても喜んでくれたんですね。お母さま方から、シンフォニーの入門がああいうものでできたのはとてもしあわせだったとかがって、ほんとによかったなと思ったんです。

司会 「トットちゃん」はこれまでに80回を超える公演を全国的に行っております。

小森 そんなにやっていただける日本人のつくったオーケストラ

の曲はないでしょう。

司会 ないですね。

小森 ほんとうにしあわせだったと思います。

司会 「トットちゃん」は、うちが親子コンサートで毎年新しい音楽物語を創作していくことの第2弾でしたね。最初は「セロ弾きのゴーシュ」から始まって、そして、昨日初演した「夢の音楽物語・モモ」というので第9作になりました。これも始めたときはとにかく10年だけは何としても続けようということで、そういう音楽物語が来年で10作できるのですが、「トットちゃん」ほどヒットしたものはないんです。それにしても「トットちゃん」以外のいろいろな曲でも、(当たり前の話ですが)私たちのオーケストラが存在しなければ生まれてこない、そして、音楽物語というジャンルでこの9つの作品をつくれたということ、それは非常にいい仕事をしてきたなと思っています。それで、ああいう音楽物語の新しいのをどんどんつくっていくと、「来年は何やるのだろうか」と、わりと新しいものを期待してくれるお客様も非常に多くなってきました。



小森 それがとても大事なことだと思いますね。向こうではオーケストラの固定客とか、シアター・ゴアーズみたいな、演奏会へ行く客というのが定着しているでしょう。お芝居も音楽もそうですけれど、そういうのはまだまだ日本ではね。日常の会話に、「新星のこんどのお聴きになりましたか」みたいなのが、普通のサラリーマンでも学校でも話題になるようではないといけないと思うんです。

司会 「オペラ座の怪人はすごいらしい」というようなので、「新星のあれはすごいらしい」というコピーができるようにしないといけないですね。

みなさんに新星日響と共に演しての感想、いいことばかりおっ

しゃっていただいたのですが、悪いことというのは言いにくいで
しょうけど、これからはこうあるべきじゃないかというようなこと
でお感じになったことを、差し支えなかったら辛口のところもおっ
しゃっていただければと思います。

忙しさの質を変え基礎をしっかりと

常森 さっき座談会の始まる前に博松さんとお話をしていたので
すが、大変忙しくてスケジュールが混み混みでというお話をうか
がって、そうなのだろうなと思ったのが、このあいだの「メサイア」
の演奏だったんです。忙しいから研究が足りないのか、ただそこに
来て、「メサイアだから弾けるわ」というような、わりと単純な感じ
で練習に皆さん集まられたような雰囲気がありました。ついこのあ
いだですからいいっそうはっきりと心に残っているのですが、ほかの
ときも多分そうじゃないのかなというような気がするのです。何人
かの楽団員の個人的なお話でも、勉強する暇がもう少しほしいとう
かがいましたが、たぶん皆さんも、そうだと思うんです。ですから、
忙しさの質を変えて、忙しさを少なくして、ほんとうに音楽を演奏
する時間をたくさんとって、たとえばヘンデル、バッハ、ああいう
ものの演奏の方法とか、音楽のあらわし方とかを研究していれば、指
揮者の欲求にパッと食いつけると思うのです。「指揮者の技術がない
から私たちはこれ以上弾けないんだ」というような態度が少しあっ
たんですね。ところが、あの時ふたを開けてみるとお客様から「ブ
ラボー」がかかりましたね。ということは、ほんとうに指揮者がそ
のときに演奏を引き出したわけですね。そのときにはじめて楽団員
ものったわけです。練習のときに感じた態度では、何となく情熱が
なく、「棒がわからない」としかおっしゃらなかつた感じでしたね。

司会 それは先ほどいろいろお褒めいただいたことが基本にある
としても、忙しさだけじゃなくて、その原因をよく見ていろいろ改
善していかないことには、新星 25 年たちました、30 年たちました、
ただほかと何も変わらないものがあります、ということにつながっ

てしまうようなことですね。

常森 私もひとりの演奏家として感じるのでけれど、ほんとうに自分を見つめて勉強を続けていかないと演奏というのは落ちていくんですね。だから新星には、ほんとうに、アマチュアリズムとさつきからおっしゃっている情熱を持って、気取りのないというか、ひたむきに音楽を追求する団体に、これから成長していってほしいと思います。

山田 今の「メサイア」のお話に関連して、日本のオーケストラは、「メサイア」を含めて19世紀以前のものについて演奏は少ないですね。日本のオーケストラの弱点ですね。欧州では作曲家の語法も聴衆の受け止め方も、17、18、19世紀とひとつの歴史的な流れの中の縦の隣接感をもって培われてきているから、演奏家はもちろんお客様も何の抵抗もなくナチュラルにエンジョイしている。その姿をみると、日本のお客はまったく異質でびっくりします。これは誰を責めることも出来ない日本の宿命的なハンディです。文化の厚さ深さ——ともあれ日本の「後進性」を感じます。

これを徐々に埋めていく努力をしなければ、国際化などといわれる今日、永い展望の中で、今日の繁栄だけでは砂上の楼閣となりかねない。

しかも聴衆動員の点とからめて考えると、自主運営とは、なかなかご苦労が多いものですね。

司会 楽員の自主的な創意発想を大事にして、楽員の総意に基づいていろいろ運んでいるのですが、運営は大変ですね。

小森 曲目は全部楽員が決めていらっしゃるんですか。

司会 そうですね。楽員と、事務局で構成されたプログラム委員会も協議して、運営委員会で決定します。

小森 自主運営だと総花的になってしまうというんですか、ボリシーというか、「ここはどうしてもこうやりたい」という人がいて、それでみんなをひきずっていくみたいなのもあっていいと思うんですけど、年ごとにそういうのもあっていいと思うんです。

いつまでもこのフレッシュさを 淇

宇野 さっき常森さんがおっしゃったように、せっかくいい個性を持っていても、だんだん年数がたっていけば最初のフレッシュなところがなくなっていくわけだから、そういうのをなくさないように頑張ってくれないと、せっかく応援していてもね。ですから、たとえば1時間も前に集まるというようなよい習慣を伝統にしてしまって、新星の特徴をいつまでたってもなくさないようにしてほしいと思います。

山田 そしてその伝統も、外形だけでなく、説得力あるその精神を日に日に重ねてゆきたいですね。

司会 常森さんのお話は、オーケストラの土台であるロマン派以前のクラシックの勉強や研究が十分でないということ、そのへんのことがまだ不十分なまま今日までできているという点でのお話だと思います。これは、これから的新星の向上のための大きな課題だと思います。もうひとつは、オーケストラが常にリフレッシュするようにしていかないと、山田先生のおっしゃるように、古い何かがしおちゅうついてきてしまう、そこに対しても常に厳しく見つめていかないとフレッシュな新星でなくなるという——。

山田 横松さんのおっしゃるとおりです。だから、古くなれば気がつかないけれど考え方や苦がつくんです。その苦というのは絶対に排除しなければいけない。きれいにしていかなければならないと思う。異質なものを入れてもいいだろう、それでもって進展する質に変えなければ。オーケストラは10もあるし、そこに慎重にといふか、勇気を持って対決するみたいなことにしないと、新しい局面を乗り切ることができないし、そのいい機会だというのが20周年であるし、外国へ旅行することもいい機会だし、20周年以後を有益にしたい。

宇野 はるか昔から音楽の世界で活躍する、日本の音楽文化の発展に貢献された方たち、その歴史を語るうえで必ず記述されるべき人物たち

邦人作品を取り上げる特色を大切に

小森 外国からいろいろなオーケストラが来ていますが、いいオーケストラはそこのオーケストラの特色というか、これはウィーンフィルでなければ、これはニューヨークフィルでなければ、というサウンドがあるし、伝統があるわけです。日本というのはこれだけ西欧化されていても、たとえば自分の家をお建てになったときに、靴を脱がないでそのまま上がってしまう家をみんな建てないわけです。どうしても玄関で靴を脱いで上がる家を建てる、そういう生活を守っている。ですから、そういう西欧化されていない部分があるわけですね。音楽に対する感じ方も絶対違うと思うんです。円高になつたりしていろいろ向こうからたくさんオーケストラが来て、聴衆の耳も肥えてくるし、いろんな音楽が入ってくるようになると思うんです。そうすると、どうしてもこれからは特色のある新星というのを育てるためには、日本人の作曲家の曲を取り上げて演奏していっていただきたいと思うんです。今まででもずいぶんたくさん取り上げていただいているけれど。



司会 今年は定期9回のうち2回は新作、委嘱があって、もうひとつは初演というのがあります、9回のうち3回、日本人の曲を初演しますけれど、今年は少し今までよりは多いベースです。今まで9回のうち2回ぐらいのベースだったと思います。そういう意味で20周年ということで新しいものをつくっていくこと、再演だけじゃなくて、こういうことも長期的な見通しを持ちながらやっていこうと思います。先ほどの話に戻ってしまえば、どうしても忙しさのなかで、それから、定期というのも経費が非常にかかるから赤字を減らすために委嘱も少なくしたりとか、どうしてもそういう傾向

になっていってしまうところを、この20周年にいたって、逆の動き、今、クラシックやオーケストラに対してもいい風が吹いているときにこそ、そういう委嘱も含めてやっていきたいと思います。今そのチャンスを逃すと、まだどうしようかどうしようかということだと、5年も10年も同じ状態になってしまふと思うんです。

今までではやってないですけれど、たとえば今、音楽文化財団といふか、いろいろ芸術文化財団ができてきていますね。民間企業のアフィニスとか三菱信託とか、そういったところでそういうことは少しやすくなってきてますね。ですから、そういうことを活用しながら。

小森 ぼくは自分の作曲家としての反省の意味も含めてそう思ふけれど、たとえばN響の定期に尾高賞の作品があったことがありましたね。そうすると、これがいちばん最初にあるわけです。そうすると、そこだけお客様が来ないんです。尾高賞の作品だけ聴かないんです。それが終わった時間になってワーッと入ってくる。そういうふうになってしまったのは、いろいろな理由があるだろけれど、一端には作曲家の責任もあると思うんです。そこは反省して、委嘱されたら、つくったら大成功させて、また次からも、新星の日本人の作曲のはおもしろいのがあるぞというふうにならないと、聴衆が増えていかないと思います。

山田 伊福部昭先生や小森昭宏先生、その他の作曲家たちのお陰で日本人の新作の上演は、年々着実に開発されていく、これは日本の文化によい歴史の一端をもたらすだろうし、長い呼吸の中で本腰をかけたいし、プログラミングについては現在の新星の頭脳は素晴らしいし、よい演奏家の獲得も拡大したいし、20年という若さにこれらを乗せて、よりグローバルなビジョンを広め、夢でもいい、大きすぎてもいい、謙遜をもって音楽界を挑発していきたい。

司会 貴重なご意見ありがとうございます。それでは、このへんで座談会を終わらせていただきたいと思います。本日はお忙しいところをありがとうございました。

1989(平成元).4.3 於東武ホテル

新星日本交響樂團

20年の歩み

新星日本交響楽団 20 年の歩み

はじめに

新星日本交響楽団 20 年の歩み

新星日本交響楽団の創立 20 周年を記念してマーラーの交響曲第 8 番「千人の交響曲」が演奏されたのは、1989 年 7 月 10 日の第 120 回定期演奏会だった。定期公演の本拠地を前月からこの赤坂のサントリーホールに移したばかりだったが、舞台と後方の客席はオーケストラと合唱団のメンバー、そして 8 人の独唱者たちによって埋めつくされていた。それはまさに壯觀だった。しかもこの日の演奏は、多数の演奏者を必要とするモニュメンタルな作品が、ただ単に量的に聴衆を圧倒するものとして演奏されたのではなく、マーラーの音楽の深く内省的でしかも宇宙的な広がりを、聴き手にしっかりと印象づける名演となっていた。

この日の演奏を聴いた音楽評論家の宇野功芳氏は「それは僕が今までに実演で耳にした同曲中、疑いもなく最も優れたものであり、出演者全員に惜しみない拍手を送りたい」と『音楽之友』誌の批評に書き、続けて「新星日響もその持てる力のすべてを結集し、弦はもとより、たとえばホルンの重奏、木管のかけ合いの美しさ、フルート、オーボエのトップ奏者によるしばしばのデュエットのすばらしさなど、例を挙げ出したら切りがない。独唱者、そしてとくにコラスの実力は特筆すべきで、音色、音程、発音ともに優秀。」と絶賛したのだった。

新星日響の 20 年の演奏活動を振りかえるとき、この日の演奏に深い感慨を覚える人々も多いことだろう。なにしろ第 1 回定期演奏会

でベートーヴェンの《運命》が演奏されたとき、最後のトッティが大失敗に終わったことが今でも草創期の楽員たちの間では語り草となっているからである。あれから20年……。この日のマーラーの演奏は、20年という歳月のなかで、いちじるしい技術の向上とアンサンブルの緻密さ、そして豊かな音楽表現力をしっかりと身につけたことを実感させてくれた演奏会であったといえるだろう。

しかしそのことは、単に技術面での向上だけをあきらかにしたわけではなかった。さまざまな失敗をふくみながらも、第1回の定期公演が当時の聴衆に鮮烈なインパクトを与えたことは、作曲家の佐藤敏直がそのとき書いた次のような批評のなかによく読み取ることができる。

「熱っぽい音乐会だった。音楽がまったくやんだ瞬間、からだがしばりつけられたようになって、その空白の時間は息をする暇も与えてくれないほどだった。……飾りけのない率直な響き、てらいのない音の高まりには好感がもてた。」

この批評は、20年という時間の隔たりをこえてそっくりマーラーの「千人の交響曲」を感動的に演奏したこの日の新星日響への批評となりうるだろう。それはドイツのオーケストラが演奏するマーラーでもなければ、ウィーンのオーケストラのそれでもなかった。まぎれもない《日本の》オーケストラでしか表現することのできない、素晴らしいマーラーであったといえるだろう。

指揮者のオンドレイ・レナルドの的確な指揮ぶりは、同郷人マーラーへの共感にあふれたものだったが、同時に新星日響首席客演指揮者としてのレナルドに対する楽員たちの深い信頼感の反映でもあった。こうした相互のきずなによって生み出された演奏は、マーラーの音楽のなかに豊かにいきづいている宇宙的な人間讃歌をみごとに歌いあげていったといえるだろう。

このことは、新星日響の演奏のなかに、その創立以来一貫している真摯でみずみずしい演奏精神、人間的な共感を率直に表明する清新な演奏精神がいささかも失われていないことを強く感じさせるも

のだった。こうした演奏精神が、飛躍的に向上した演奏技術と一体となって、独特の個性を確立しつつあるように思える。ひとつは弦楽器の響きが、細やかな感情表現のひだに深く踏みこんでいく演奏スタイルであり、管楽器・打楽器の威嚇的ではない力強さと、しなやかで温かい音の響きである。こうした響きが作品と聴衆への深い共感となって彼らの演奏にあふれているのである。

近年実施された管楽器コンクールに新星日響の若手メンバーが多数入賞したことが話題となったように、個々の楽員の技術水準は非常に優れたものがある。しかしオーケストラの力量は、そのことだけで高まるものではない。新星日響が確立しつつある音楽的個性は、その創立時から日本のオーケストラ界に根深くしみついていた〈楽隊意識〉を断ち切ることでスタートしたことと無関係ではないだろう。このことが新星日響の出自であると同時に、〈楽隊意識〉とは異なる新しいオーケストラ像を模索し、つくりあげようとした楽員たちの協動の営みそのものが、新星日響の重要な伝統として新しく入団してくる楽員たちに受け継がれていった。

1986年夏に来日したレニングラード・バレエ団の指揮者のコロボフは、新星日響との仕事をとおしてその印象を次のように語っている。

「皆さんのオーケストラは、日本の新しい星という意味を持っているそうですね。この美しい名前の通り、若くてしなやかな感性を持ったオーケストラだというのが私の率直な感想です。若さの中にあっても、皆さんの仕事、音楽に取り組む姿勢は厳しさがあり、一つの信念を感じられました。今回の日本公演では別のオーケストラとも仕事をしたわけですが、彼らには私は全く違った印象を持っています。彼らとの仕事の間、私は皆さんの事を思い出し、再会を心待ちにしていました。全くの個人的感想ですが、なぜか彼らとは気に入った仕事ができませんでした。」(『新星』No. 115)

こうした評価が共演した内外の音楽家から寄せられているわけだ

が、それは近年の充実した新星日響の演奏活動への批評の中にもはっきりと現れている。

「山田を指揮台に迎えた新星日響は、いつもながらの相性の良さが光る説得力の豊かな快演を聴かせていた。レスピーギでは、作品の本質と違うことのないカラフルで華麗な表現が、なかなか内容の濃い演奏をうむこととなっていた。また、ロマンティックに語りあげられたサン=サーンスは、同時に一種独特の風格もが滲み出していた出来であり、そこに示された山田のヴェテランらしい対処は、表現の旨味によっても聴き手を楽しませたといってもよいだろう。」(第119回定期演奏会に対する柴田龍一氏の批評。『音楽の友』誌1989年8月号)

こうしたコンサート活動での近年の高い評価とともに注目されているのが、オペラ演奏における新星日響の充実した活躍ぶりである。オペラ作品での演奏は、そのオーケストラの素顔が出てくるものである。1984年11月に日生劇場で行われた二期会のオペラ公演「蝶々夫人」を聴いた音楽評論家の吉田秀和氏は、新星日響の演奏にふれて次のように書いている。

「新星日本交響楽団というオケのふだんの実力はわからぬが、この夜聴いた限りでは、金管がよく聴こえる割に、木管と弦が弱すぎた。ただしヴァイオリンのソロ、それから特に低音の弦の悲痛な響きは印象に残った。ブッチャーニのオペラでオケというと、指導動機と和音のことは時々はいわれるけれど、楽器の使い方の上でもかなりの工夫の跡があるのに、この夜の演奏で改めて気付かされ、私には収穫だった。」(『朝日新聞』1984年12月1日付夕刊)

当日の演奏を聴いたうえでこの批評を読むと、吉田秀和氏が評価していることのなかみがよくわかる。それは“オペラのオーケストラ”として、演奏するオペラの音楽的内容を新星日響が実に的確に表現していることを、吉田氏らしい表現で伝えているからである。アリアに寄り添うようにして演奏される独奏ヴァイオリンのオブリガートにしても、また金管楽器の演奏する指導動機にしても、それ

が舞台の上で歌い演じている歌手たちの呼吸と一体とならなければ、“オペラのオーケストラ”とはいえない。新星日響が劇場のオーケストラ・ピットのなかで長年培ってきたオペラ演奏の蓄積が、説得力ある演奏となって響いたのがこの日の「蝶々夫人」であった。

こうした演奏活動を積み重ねるなかで、新星日響は1989年6月、創立20周年を迎えた。その歩みについては、創立10周年に際して『新星日響10年史』が刊行されており、このなかで創立の経緯や初期の活動について詳しくふれておいた。あれから10年という時が経過したが、それは新星日響だけでなく日本の音楽界にとっても大きな変化と発展がみられた時期であったといえよう。楽団創立20周年を記念して新星日響20年の歩みを振りかえるにあたり、これまでの20年間を第1章で概観することとした。これは『新星日響10年史』といくぶん重複する部分もあるかもしれないが、20年という活動のなかで創立時の理念や初期の活動がどのように変化・発展していくのかに焦点をあてて記述したつもりである。また第2章からは、創立10周年以降の新星日響の活動の重要な出来事に焦点をあてつつ、新星日響の「これから」を展望するものとして記述することにした。さらに《資料編》として新星日響の演奏活動の詳細なデータを掲載することにした。20年にわたる新星日響の演奏活動の記録をとおして、日本のオーケストラ活動に役立つものとなれば幸いである。

第1章 新星日響の歩み

1. 創立の経緯——演奏家自身による新しいオーケストラの創設

新星日本交響楽団は1969（昭和44）年6月26日に、在京9オーケストラの7番目として当時の若い音楽家や音楽大学の学生たちによって創立された。創立の直接の契機となったのは、その半年前の1968（昭和43）年11月に来日したベトナム中央歌舞団の伴奏のために臨時に編成されたオーケストラだった。ここに参加していた当時の音大生たちは、翌年そのまま卒業して既成の音楽界に組み込まれていくのではなく、自分たちで新しいオーケストラをつくり納得のいく演奏活動をしてみたいと語りあっていた。

こうした背景には、当時のオーケストラ界が経営危機に見舞われ、楽員はハードスケジュールと低賃金のなかで次々と仕事を“こなしていく”だけという、およそ音楽的充足感とはかけはなれた実態のなかにおかれていったことが大きく影響していた。また1960年代をおして音楽大学とその学生数のいちじるしい増加という背景も無視できない。1962年を基準とすると、音楽大学の学生数は1967年で約2倍、71年には約3倍と急増しつつあった。巣立っていく音大生たちにとって、既成の音楽界への就職はきわめて厳しいものがあったからである。

だからおなじ苦労をするなら自分たちが納得のできる演奏活動をしていこう、という若い音楽家らしい夢と希望は、前述の臨時編成オーケストラを契機として急速に具体化していった。こうして音楽大学を巣立ったばかりの音大生たちは、1969年3月31日に25人ほどのメンバーで《オーケストラ設立準備委員会》を発足させ、新し

いオーケストラの設立へ向けて準備活動を始めた。そしてこの年の5月に次のような呼びかけの宣言文を発表したのだった。

音楽家のみなさん！

全身・全靈を投入して、すぐれた音楽創造をしたい

聞く人々に喜びと「明日」を与える音楽でありたい

そのことが即生活でもありたい

こうした呼びかけ文で始まる新しいオーケストラへの夢と願いは、新星日本交響楽団の音楽活動の原点をよくあらわしているといえるだろう。創立総会は1969年6月12日に開かれたが、議案討議が予定時間をこえたため再度6月26日に酪農会館会議室で創立総会がもたれ、ここで正式に新星日本交響楽団が設立された。その時はまだ新しいオーケストラの名称は固まっておらず、最終的に現在の「新星日本交響楽団」という名称になったのはこの年の7月23日に開かれた運営委員会において決定されたときからである。そしてこの年の10月2日に文京公会堂で第1回の定期演奏会がもたれた。このときの団員は35名だったが、メンバーは管楽器のほうが多く、弦楽器奏者のエキストラを必要としたのが実情だった。（資料編参照）

2. 創立された新星日響の4つの特徴

創立された新星日響は設立総会で全5章からなる規定を定めたが、そこには他のオーケストラとは異なる重要な4つの特徴がみられた。それを列挙すれば以下のようになる。

- ①オーケストラの目的に、広範な市民の音楽要求のために活動することを明確に掲げたこと。
- ②新しい日本の音楽文化を創造していくということを重要な活動のひとつとして掲げたこと。
- ③楽員総会を最高決議機関とした《自主運営体制》を運営の基本としたこと。

④楽団財政を「演奏収入・積立金・寄付金その他でもってまかぬ」（第13条）と明示し、経済的に自立した演奏団体として音楽活動の自由をうたったこと。

以上の4点はさまざまな経過をたどりつつも、創立20周年を迎えた今日までの新星日響の活動に貫かれ受け継がれているといえるだろう。

◆創造的なオーケストラ音楽の発展を重視

例えば新星日響の定期演奏会で演奏される日本人作品の演奏回数が創立以来一貫して日本のオーケストラのなかで最多であるという事実（資料編参照）、あるいは音楽物語「窓ぎわのトットちゃん」（黒柳徹子原作・小森昭宏作曲）など一連の「親子コンサート」での書き下ろし新作オーケストラ曲の誕生（資料編参照）などは、新星日響ならではの活動といえるだろう。これは偶然の産物ではなく、新星日響の創立時に掲げられた明確な目標がもたらしたものといってよい。

（新星日響）【国際音楽文書日影蔵】

◆若い聴衆の開拓、地域・聴衆と一体となった演奏活動

また全国各地の小・中・高等学校で行われてきた「音楽鑑賞教室」、あるいは「足立区民コンサート」など一連の地域コンサート、あるいは定期演奏会の会場に聴衆と楽員のための託児所を創立時から設置してきたこと、さらには新星日響の創立の翌年に「友の会」として活動を開始した「新星日響協会」という聴衆組織のさまざまな活動＝練習見学会とか“おもしろ音楽館”“星空のコンサート”等のイベントや旅行・交流会なども、聴衆と一緒に演奏活動をすすめていこうとする創立時の精神の具体化とみることができる。

◆演奏活動を支える楽団の《自主運営》

こうした活動の柱になっているのが、楽員自身による《自主運営》である。自主運営という言葉はさまざまな意味をもっているが、新星日響の場合は楽員自身が演奏活動と楽団運営に責任をもつということである。このために楽員はさまざまな部に所属してオーケストラの演奏活動だけでなく、運営面でも具体的な責任を担っていくか

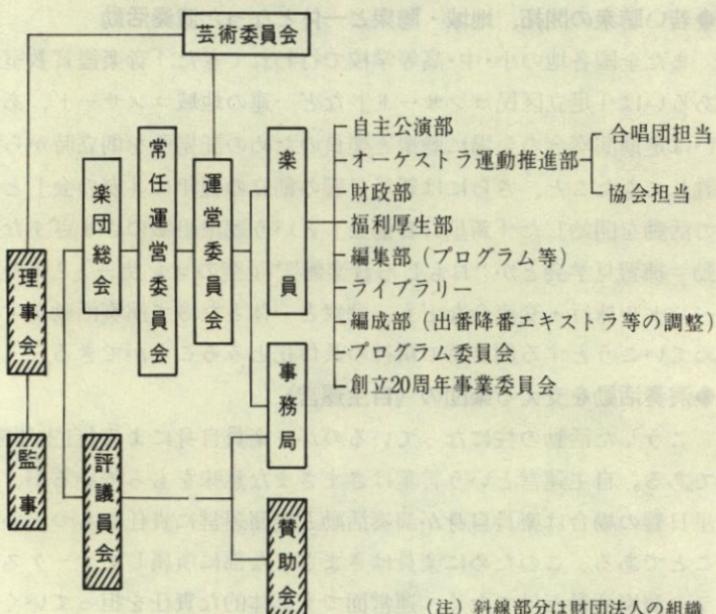
たちになっている。

この自主運営という組織形態の本領がもっとも具体的に發揮されたのは、1980年5月に文化庁のオーケストラに対する助成方法の変更が通告され、任意団体か財団法人化かの選択が迫られたときである。

◆ 楽員・聴衆・市民の募金運動で財団法人化を実現

この年、運営委員長として楽団運営の先頭に立っていた池田鐵が4月19日に交通事故死するという悲運に見舞われた。文化庁の助成方法見直し通知が楽団事務局に届いたのは、この池田鐵の死の直後だった。文化庁から示された助成方法変更の3条件は、① 財団法人であること。② 年間9回以上の定期演奏会を開催していること。③ 77名以上の楽団員を有すること、であった。新しく運営委員長に

【新星日本交響楽団組織図】(1989年時点)



(注) 斜線部分は財団法人の組織

選ばれた博松三郎をはじめとして、楽員たちはこのまま任意団体としてのオーケストラでいくのか、3000万円という巨額の基本財産を必要とし、楽員を20数名も増やさなければならない財団法人化の道を選ぶのかの岐路に立たされ、団内討論が激しくたたかわされた。こうした経過を経て8月に開かれた楽団臨時総会では、多くの困難や障害があっても楽団の将来的な発展を展望するならば楽団をいま財団法人化することが必要であるとの結論に達し、基本財産3000万円を募金によって集めることに取り組むことを決めた。そして新星日響の楽員たちは募金活動の先頭に立ち、1200人をこえる新星日響の聴衆や協会員・新星日響合唱団・幅広い市民・学生・音楽家たちの心温まる募金と協力を得てついにこの巨額の基本財産募金を成功させ、楽団の財団法人化を翌年3月に達成したのだった。こうした楽員自らの活動により、聴衆・市民と一体となってオーケストラの財団法人化を達成した例は日本の楽壇において初めてのことだった。その意味でも、新星日響の《自主運営》は大きな意味をもっている。といえるだろう。

3. この20年の演奏活動の特徴とその発展

◆真摯でみずみずしい演奏精神

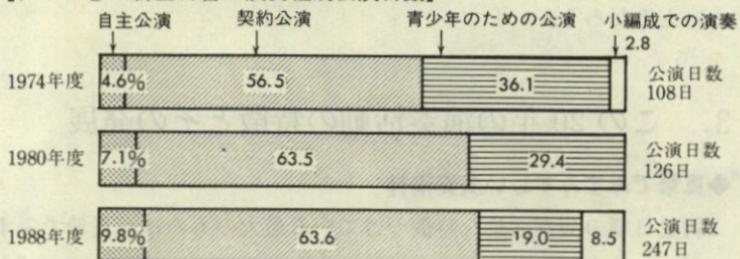
新星日響の演奏活動を特徴づけている最大のものは、真摯でみずみずしい演奏精神ということだろう。名誉指揮者の山田一雄は「全楽員のひとりひとりの良質な部分がこのオーケストラの共有財産だったことを感じました。芯の強さを感じとて驚きました。そして今までの私のオーケストラ観はまったく狂っていたと……。では『良質』とは何か? それはオーケストラを支えるメンタルな部分すなわち、精神的渴きのない健康な初々しさが、如何なる瞬間といえどもまず常に貴重な資質として根本にあることです。『技術の切り売り』に日々を過ごすのではなく……。」と語っている。この指摘は、新星日響創立の呼びかけ宣言にあった「全身・全靈を投入して、す

ぐれた音楽創造をしたい」という新しいオーケストラに託した願いの本質をみごとに解きあかしているといえよう。

◆新星日響の演奏活動の3つの柱

新星日響の演奏活動は、定期演奏会や親子コンサート等の楽団主催による「自主公演」、さまざまな依頼主との契約によって演奏する「契約公演」、さらに小・中・高等学校等の児童・生徒を対象とした「青少年のための公演」の3つに大別される。これらの比率はグラフ①にみるようにこの20年の活動のなかで変化していった。その最大のものは、全公演日数に占める自主公演の割合が一貫して高まっていたことだろう。これは定期演奏会だけをとってみても、資料編にみるように年間開催数が2~3回程度だった第Ⅰ期、5~6回程度だった第Ⅱ期から、財団法人化以後の年間9回というように着実な発展をみている。また先にふれた「親子コンサート」のような優れた自主企画による演奏会も大きな発展をとげている。

【グラフ① 新星日響・演奏種別公演日数】

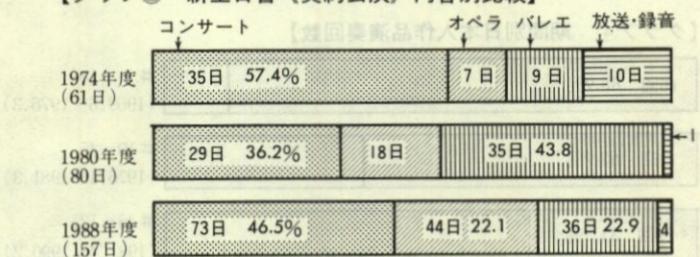


◆オペラ・バレエ公演での豊富で水準の高い演奏活動

もうひとつは契約公演の割合が大幅に高まっていたことである。とりわけグラフ②にみるようにオペラ・バレエの演奏機会が大きく増えていった。こうしたジャンルでの活躍は、量・質ともに舞台芸術の分野で新星日響が重要な役割を果たしていることを物語っている。とくにオペラの舞台は、演奏経験の量的な蓄積が大きな比重を占めているといわれている。その意味でいえば、東京での主要

オペラ団の公演のみならず文化庁主催の地方における青少年オペラ公演での長期の演奏旅行もたびたび経験してきており、その演奏経験はきわめて豊富だといえる。また日本人作曲家のオペラ作品の初演・再演にも大きな役割を果たしており、その真摯な演奏姿勢と水準の高い演奏によって作曲家の厚い信頼を獲得するまでになっていく。まさに日本のオペラ公演に不可欠の存在となりつつあるといえよう。

【グラフ② 新星日響《契約公演》内容別比較】



◆日本のオーケストラ作品と新星日響

日本のオーケストラ作品創造のために、新星日響がその創立以来一貫して日本人作曲家のオーケストラ作品を重視し、その演奏に努力してきたことは前にもふれた。こうした活動は日本のオーケストラ界に大きな影響を与え、日本人作品の演奏の機会を拡大することに大きく貢献していった。

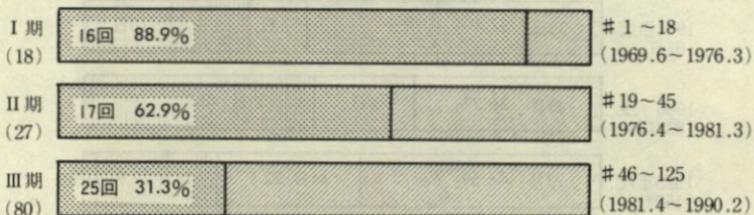
次のグラフ③④と資料編の全国20のプロ・オーケストラの日本人作品演奏回数を比較してみると、新星日響が一貫して日本人作品を重視し、その演奏に努力してきたことがよくわかる。これも創立時に掲げた「新しい日本の音楽文化を創造していく」ことを自分たちのオーケストラの重要な仕事と考えたことの反映である。期間別にみると、定期演奏会が年間2~3回程度だった第Ⅰ期はほぼ毎回のように日本人作品が取り上げられており、この傾向は年間5~6回の定期演奏会がもたらされた第Ⅱ期でも平均62.9%という高率だった。

財団法人化以後、定期演奏会が年間9回開催となった第III期の平均は31.3%と大きくダウンするが、これは年間開催回数の増加や外国人指揮者の登場も影響した結果であろう。

【グラフ③ 新星日響定期演奏会に占める日本人作品の演奏回数】



【グラフ④ 期間別日本人作品演奏回数】



こうした演奏回数の多さだけでなく、日本人作品の演奏水準の高さは多くの作曲家の信頼を得ていった。同時にそれまで演奏機会に恵まれなかつた作曲家の作品の演奏も特筆されるべき活動だったといえるだろう。いずれにしても、日本のオーケストラが自国のオーケストラ作品をメインプログラムとして演奏活動することが当然であるにもかかわらず、実態としては必ずしもそうではなかつた日本の音楽界において、新星日響の実践してきた演奏活動は、日本のオーケストラの本来的なあり方をきわめて正統的に実践してきた歩みだったといえるだろう。作曲家との共感に満ちた演奏活動は、その創立以来の新星日響の誇るべき伝統であり個性といえる。

◆新星日響とともに歩む新星日響合唱団

新星日響の演奏活動のなかで、その重要な音楽的パートナーとしての新星日響合唱団の活動も特筆される。この合唱団の発足は、1974

年4月3日の第13回定期演奏会で演奏されたプロコフィエフのカンタータ「アレクサンドル・ネフスキー」を歌うことからはじました。以後ペートーヴェンの「交響曲第9番」、モーツアルトの「レクイエム」、ヴェルディの「レクイエム」、ブリテンの「戦争レクイエム」など新星日響の定期演奏会で合唱付きの作品に出演してきた。最初はその作品ごとに参加者を募って組織され、多いときで300名をこえるメンバーが約半年の練習期間を経て本番の舞台に立ち、終わると解散する形をとっていたが、近年は恒常的な合唱団としての活動を行うようになっている。合唱指揮を郡司博が一貫して担当し、新星日響との共演を目的として活動するこの合唱団の実力は、宇野功芳氏が「特にコーラスの実力は特筆すべきで、音色・音程・発音ともに優秀」(マーラー《千人の交響曲》評)と絶賛していたように、第一級の水準にあるといえよう。こうした独自の合唱団を組織し、相互にはげましあって水準の高い演奏を生み出していくオーケストラと合唱団の見事なアンサンブルぶりは、新星日響の真摯な演奏姿勢が生み出した貴重な音楽創造物だといえるだろう。

こうしてこの20年間、新星日響はコンサートと劇場のピットでの演奏を両輪として活動してきた。欧米においてオペラとコンサート活動が一体のものとして位置づけられているように、新星日響のこれまでの演奏活動は期せずしてオーケストラ本来の活動スタイルの“日本的展開”といえるものになってきたと思う。こうした発展と飛躍の基礎を固めたのが、次章でふれる新星日響の財団法人化だった。

。ありすへ書くやうの文は開拓団中の楽曲
が由来生業曲、かく呼ぶの立場、むか奏楽の開拓団文日本星道
道室の向日葵、手紙等。式行アホの音心ヨシノホウ全の東
日本、ふるさと音の樂曲のよ、ねがはは開拓団の娘の品種の遊走大主教、ア
ハハ道を風流アホの音の樂曲、大いあひのよが事員に真大さき歎かば
のさあ社会音風のアホの樂曲の日々、さあひこ、お員樂曲、さあ
の皮筋ひよ、おほ、式行アホの音の樂曲、武器樂曲」外アーヴィング
子(都中)。さあほりも代官山は金より豊、チヒを駆けのよ武士よ

第2章 財団法人設立運動の成功

これまで第1章で新星日響の20年にわたる活動について概観してきたが、その歩みのなかで、楽団創立とならぶ大事業であり、また新星日響の演奏活動を大きく飛躍させる契機ともなった出来事として、楽団の財団法人化があげられるだろう。このことについては、すでに第1章でごく簡単にふれておいたが、本章ではこの問題をめぐる当時の動きをドキュメントとしてまとめておくことにする。

1. 『ラウダ・コンチェルタータ』の響き

創立10周年を前にして新星日響は日本人作曲家に記念作品の委嘱を考えていた。生まれたばかりの若いオーケストラが、それまでの新鮮で意欲的な活動によって楽壇に確固とした地歩を築きつつあったときだけに、ひとつの区切りとなる〈10周年〉という節目で記念作品をもつことは、自分たちのアイデンティティーを日本の音楽界に音楽そのもので表明することでもあった。こうして生まれたのが伊福部昭作曲の「オーケストラとマリンバのための『ラウダ・コンチェルタータ』」(1979)であった。この曲の誕生の経過を、作曲家の伊福部昭は次のように書いている。

「新星日本交響楽団の演奏には、創立の当初から、商業主義的な臭いの全くないことに心惹かれていた。1973年、第11回の定期で、たまたま私の作品が取り上げられたが、その演奏は若さと、迫力に満ちた真に見事なものであった。演奏が終わって楽屋を訪ねると、各楽員は、これから今日の演奏についての反省会があるのでといって忙しげに楽器などを片付けていた。私は、その熱気のようなものに押されて、誰にも会わずに引き下がった。(中略)そ

れから数年して、池田鐵氏が学校の私の室に訪ねて来られた。これが、池田さんと直接にお会いして、お話をした最初である。話は新星の10周年記念の演奏会に、何か新作を、と云うことであった。

種々と話が長引いて、帰路、学校の近処の小さな店で酒を交わしたのであったが、話が進むにつれて、彼の音楽に対する態度、美観、又、日本の音楽状況に対する意見が、信じ難い程に共感を覚えるものであった。このような巡り合わせを盲龜浮木とでも云うのであろうと思われた。」（『池田鐵の歩いた道、そして思い出』所収）

こうして誕生した新作は、1979年9月12日に東京文化会館大ホールで開かれた新星日響〈創立10周年記念〉第36回定期演奏会で初演された。その時の熱氣あふれる白熱的な演奏は、ライヴCD（フォンテックFOCD3222）として発売されているので確かめることができる。会場の聴衆を興奮させたその演奏は、新星日響の演奏活動が明確な個性を確立しつつあることをはっきりと物語るものだったと同時に、これまでほんの申し訳程度に演奏してきた日本人作曲家の作品が、演奏会のメイン・プログラムとして演奏され、それによってオーケストラが自己の存在を聴衆に語りかけるという重要な変化を生み出した画期的な一夜だったと思う。

こうして生まれた伊福部昭の新作は、当時としてはまったく異例のことだったが半年後（1980年4月17日）にNHKのFM放送で、尾高忠明指揮東京フィルハーモニー交響楽団の演奏、安倍圭子の独奏によって紹介されるという経過をたどった。聴衆不在の「前衛」音楽作品が横行した1960年代から70年代にかけての停滞を一気に吹き飛ばす伊福部昭の新作の登場は、日本のオーケストラ音楽の新しい飛躍の一歩を記す重要な出来事だったといえよう。ちなみにこの初演のレコードは、ベルギー、スイス、英、米、ブルガリアなどで販売され、現在も作曲家のものに反響が寄せられている。また1990年5月に予定されている新星日響の海外公演でのプログラムにも組

まれることが決定している。

2. 悲報に追い打ち

こうした成果に確信を深めた新星日響は、1980年度の定期演奏会で《伊福部昭の世界》と題したプログラムを2回にわたって組んだ。その演奏曲目は、伊福部昭の処女作である「日本狂詩曲」(1935)〔第40回定期演奏会=1980年5月13日〕と戦後の大作のひとつ「タブカラ交響曲」(1955/79)〔第41回定期演奏会=1980年7月16日〕であり、プロのオーケストラがこのように日本人作品をメインに選んだプログラムを連続して定期公演で演奏するというのは例がなかった。しかしそれは話題性だけを狙ったものでもなければ、義務感にもとづく悲壮なものでもなかった。ゼロから出発した自主運営オーケストラが、その創立時に掲げた「広範な市民の音楽要求のために活動すること」「新しい日本の音楽文化を創造していくということ」という目標を、半年前の体験をとおしてようやく自分たちの重要な仕事として実行しようとしたものだった。

ところがその先頭に立って奮闘していた楽団運営委員長の池田鐵が、1980年4月19日の午前9時40分頃、自宅近くの都道交差点で左折しようとした大型ダンプカーの左後輪に巻き込まれるという不慮の事故で亡くなるという非運に見舞われてしまった。当時の『読売新聞』朝刊は次のように報道した。

「同楽団は昨年9月、上野の東京文化会館で創立10周年の記念公演をしたばかり。来月で40回を数える定期演奏会では、毎回のプログラムに日本人作曲家の曲を演奏することで定評があった。また『足立区民コンサート』を始め、地域と深く密着した演奏活動は、音楽関係者の間で高く評価されている。こうした活動の“大黒柱”の突然の死だけに、事務局員は「これからどうしたらいいのか」と絶句するばかり。『公演から身の回りまで何でも面倒見のいい人で、“お父ちゃん”

と慕われていたのに……』と涙ぐむ女性の楽員の姿もあった」
(1980年4月20日付)

団地集会所を会場にしてしめやかに執り行われた池田鐵の葬儀(1980年4月21日)には、団地始まって以来という1300名の参会者であふれた。また5月13日の第40回定期演奏会には池田鐵追悼公演としてプログラム冒頭でモーツアルトの「レクイエム」より“ラクリモーサ”が演奏された。そして6日後の5月19日には、水道橋の労音会館で「池田鐵音楽葬」が行われ、その多彩な参会者の姿と故人を偲んで演奏された献曲が彼の生前の活動と人柄を雄弁に物語っていた。まさにこうした悲しみのさなかに、文化庁からのオーケストラに対する助成金支給方式変更の通達が示されてきたのだった。

3. “助成見直し”で選択を迫られた楽員たち

“悲報に追い打ち”とはまさにこのことをいうのだろう。文化庁から示された3つの条件は、いずれも新星日響にとって厳しいものだった。当時の新星日響の実態と文化庁が提示してきた条件を比較してみると、下表のようになる。

文化庁の方針は、これらの条件を満たしていないければ助成金は支給できないという重大な内容だった。そのため、新星日響は当初この助成方針の変更を求めて何度も文化庁に対して要請行動を行った。とくに5月22日には、楽団三役が指揮者の山田一雄、星出豊両氏の同行を得て文化庁長官に楽団の実態を直接訴え、方針の変

	1980年時点の新星日響	文化庁提示の助成条件
組織形態	人格なき社団という範疇に入る任意団体	公益法人格を有する団体 (昭和55[1980]年度内に)
定期演奏会開催回数	当時は年間6回	年間9回以上行っている団体 (昭和57[1982]年度より)
楽員数	当時は56名	77名三管編成以上を擁すること (昭和57[1982]年度より)

更を求めた。しかし文化庁側の方針に変更のないことが判明したため、新星日響は忙しい演奏スケジュールのなか、亡き池田鐵運営委員長の後任に選出された博松三郎新運営委員長を先頭にして三役会議、運営委員会、楽員集会、楽員間の討議等々、団内討議を深め、いろいろなケースを想定して財政的な試算を繰り返していった。そうした団内討議は、ときに深夜にまで及ぶことが幾度となくあったという。こうした討論を積み重ねるなかで、おりからのキエフ・バレエ団来日公演の演奏本番を前にした8月24日に、東京文化会館の会議室で臨時総会が開かれ、ここで楽団の財団法人化と定期演奏会の開催回数を増やし、楽員の増員をはかることが決定された。

楽団創立11年目にあたるこの年に、新星日響の楽員たちは激論を経て〈財団法人化・定期年間9回・楽員77名〉という目標をやり上げようと決断した。この背景には何があったのだろうか？見逃してはならないのは、こうした楽団の将来の方向をどうするのかという重要な問題を、新星日響は徹底して全楽員で論議していったことである。しかもそれが主体的な選択として行われたというところに新星日響らしさがあると思われる。

その創立以来、新星日響は楽員による自主運営を貫いてきた。この自主運営とは楽団運営と演奏活動の両方に楽員が責任をもつというものであった。そして重要なことは、スポンサーなしのオーケストラだったから余儀なくこうした運営形態をとったのではなく、自立した演奏団体として演奏活動の自由を確保し、自らが音楽創造に主体的に参画するためにこそ、この〈自主運営〉という運営形態がとられたということである。だから、こうした“助成見直し”というかたちで楽団の将来の選択が迫られたとき、新星日響の楽員たちは〈自主運営〉という運営形態がもつ本質的な「楽員自治」の精神を發揮し、自らの意思で前述の選択を行ったのである。

4. みんなでつくった《財団法人》

(1) 「まず知る」ことからの出発

さて、いざ〈財団法人化・定期年間9回・楽員77名〉という目標を決めたものの、その実現には大きな困難が予想された。ここで具体的に何が必要だったのかについてみておくことにしたい。

まず提示された文化庁の方針にある「公益法人格を有する団体」とは何か? ということの学習からはじまった。「財団法人設立に向けて」という手書きの楽団文書資料には次のような記述が見られる。

「公益法人には社団法人と財団法人の2つの種類があります。社団法人は基本財産1000万円で人を中心にして組織する団体法人、財団法人は基本財産5000万円で財産(金)を寄付することによって、その管理運営を中心とする法人です。」

当初、新星日響の財政基盤・組織の実態から社団法人化をめざして交渉してきましたが、在京のオーケストラでは社団法人にすることが困難であることが明らかになってきました。その交渉の中で文化庁の担当者が、新星日響が今すぐ財団法人を申請するのであれば、55[1980]年度から財産5000万円の申請基準を適用せず、54年度までの基本財産3000万円で受け付けると明言しました。さらに57[1982]年には7000万円の許可基準との情報も入ってきています。新星日響として将来的にも法人格を持つのであれば、今がその最後の機会となっているのです。」

こう説明したのち、この「財団法人設立に向けて」という文書は、「財団法人設立の意義」「1. 財団法人設立に当たって」「2. 財団法人設立のための財政的措置」「3. 楽員を増員することに関して」という内容で詳しく状況を分析し、団内討議のための材料を提供したのだった。

この資料を読んで感ずるのは、新星日響が自分たちのおかれた実態をきわめて冷静に分析していることであり、同時に単に「助成金の受皿」として財団法人化をとらえるのではなく、自分たちの演奏

活動を高め社会的に認知されたオーケストラとして発展させていくことをとする音楽上の要求と結びつけてとらえていたことである。

とくに楽員の増員については、これまでも演奏活動で多数のエキストラを必要としており、楽団の音楽づくりという観点からも増員を積極的な立場で進めようとの考えがうかがえる。資料によればその計画は、財団法人化の期限とされた1981年3月までに弦楽器を中心としてメンバーを12名増員することとし、さらに1981年7月までに弦楽器、バーカッション、ハープ、ピアノ等のメンバー10名を増員し、最終的に82名編成のオーケストラにするというものだった。こうした楽員の増員は、定期演奏会の年間9回開催とともに現実の演奏活動と直結していたこともあって、具体的な計画を立てることが可能だったかもしれない。しかし最後まで問題だったのは、財団法人化にあたっての基金をどう集めるかということだった。

(2) 急速に広がった寄付金募金運動

この問題で新星日響は、財団法人化に必要な基本財産3000万円と運用財産1000万円を広く市民・聴衆に募金を訴えて集めることとし、以下の3つを柱として運動を進めていくことにした。それは、①定期演奏会等の楽団の自主公演でのチケット販売等を増やし、経費節約につとめ基本財産への基金を確保する。② 楽員ひとりひとりが広く知人等に訴え、一人平均30万円を目標に寄付金を集め。③ 新星日響協会や新星日響合唱団等に協力を呼びかけ、ここにかかわっている人々の協力で寄付金を広く集める、というものだった。

こうして臨時楽員総会を終えた1980年9月から財団法人化のための募金運動が精力的に展開されることになった。この運動は翌1981年3月までの実質7カ月という短期間に大きな広がりを見せ、ついに目標を達成して財団法人化の実現に成功する。その間のようすは、全部で9号ほど発行された『財団法人新星日本交響楽団設立準備会ニュース』(以下『ニュース』と略記)に詳しい。

寄付金募集運動はまず楽員が中心となって、親兄弟・知人・友人とあらゆるツテを頼りに寄付を呼びかけるところからはじまった。

この動きは、楽員を取り巻く新星日響にきわめて近しい人々に大きな反響をよんだ。『ニュース』No.1(1980.9.29)によれば、9月25日まで寄せられた募金は1000円から100万円にいたるまで、個人募金で850万円に達していることが記されている。このことは、新星日響の楽員たちが日常的な生活のなかでの結びつきをフルに活かすという、非常にドブ板的な取り組みであったといえるだろう。

こうした楽員たちの動きは、そのドブ板的なレベルからもう一步広がった、音楽活動における近しい人々へと広がっていった。『ニュース』No.2(1980.10.6)には、新星日響合唱団のAさんが「新星日響がもっと素晴らしいオーケストラに育ち、良い響きを聴かせてくれるよう」との熱い願いをこめて個人で300万円を寄付したことが記されている。あるいは足立区民コンサートの会場で、「少ないんですけど、3人から預かってきました」と1500円をとどけてくれた人、あるいは「娘が立派に成人したので」と5歳からの保険が満期になった分10万円をそっくり寄付した東京労音の一会员など、寄付金それぞれが感動的なドラマをともなって寄せられていった。

寄付金の総額は、こうした募金運動をはじめて約1カ月後の10月8日には3000万円をわずかに超えるというハイ・スピードぶりだった。この背景には、財団法人認可の特例期間中(3000万円の基本財産で許可)に書類提出ができるのを示すために、文化庁に対して基本財産の残高証明を提出する必要があったからである。しかし、ともかくも3000万円集めたとはいえ、実態としては、そのうちの1000万円はこれまで楽団が会館建設用として演奏活動から備蓄してきたものであり、募金運動をさらに広げる必要があった。

『ニュース』No.4(1980.10.25)には、「寄付の集まりベースが落ちる」という見出しで楽観を戒めている。そこで寄付金募集の運動の輪をもっと大きく広げるために、新星日響は各界著名人32氏からなる呼びかけ人(芥川也寸志、安倍圭子、アントニン・キューネル、飯澤匡、いずみたく、井上頼豊、伊福部昭、小倉朗、小原安正、小村公次、上条恒彦、木村重雄、工藤順弘、郡司博、佐々木光、佐藤克

明、佐藤功太郎、佐藤敏直、瀬戸岡紘、田中健介、谷桃子、團伊玖磨、外山雄三、中沢桂、林光、ハンス・レーヴライン、星出豊、三木稔、三國一朗、三石精一、森正、山田一雄。五十音順による）の連名による《ご寄付のお願い》を発表し、各方面に働きかけることにした。

その呼びかけ文は次のように新星日響への募金を呼びかけていた。

「私たちは新星日本交響楽団がこれまで歩んできた真摯な演奏活動に深い共感をいたしています。理想の音楽をめざしてひたむきに努力を重ねる音楽家としての純粹さに強く心ひかれてきました。オーケストラという、音楽活動のなかでも特別に大変な仕事に取り組んでいるかれらの熱情と献身ぶりを見るにつけ、聞くにつけ、その苦労が並大抵のものではないことを私たちはよく知っています。しかし、オーケストラはそうした苦労をこえてなお魅力ある存在であることも事実です。かれらのエネルギーも、そしてそれにかかる私たちの関心も、オーケストラの限りない魅力にひかれ、しかもその音楽がたまらなく好きであるという点にこそ、その大いなる源泉があると思うのです。（中略）日本のオーケストラ界にあって、数多くの先進的な活動と実績をあげてきた新星日本交響楽団を、みすみす困難な状態のままにしておくわけにはいきません。どうかひとりでも多くの音楽愛好家の方々が、この財団法人化にあたって御寄付を寄せていただきますよう、心からお願い申し上げます。」

この「呼びかけ文」が発表された11月以降、寄付金募金の輪は音楽関係者の間に急速に広がっていった。そして12月23日までの募金活動全体で、約800名の人々から3800万円の寄付金が寄せられ、新星日響の財団法人設立の準備はほぼ整うことになった。さらにこの後も続々と寄付を申し出る人々が増え、翌1981年1月18日時点の集約では、新たに200名の人々が寄付を申し出、最終的には1467名、金額にして4004万円という巨額の寄付金が寄せられた。

こうした寄付金募金運動の大きな成功を背景に、新星日響は文化庁との折衝を重ね、財団法人化のための書類・事業計画・予算・理事者名簿・財産目録など関係書類の提出を終え、1981年1月に文化庁の課内検討を経て同年3月27日に文部大臣より正式に財団法人設立の許可が下りたのだった。それに先立って3月17日には財団法人設立発起人会が私学会館で開かれ、以下のような役員が選出された。

《財団法人新星日本交響楽団》役員

- ・理事長：飯澤 匠（劇作家）
- ・専務理事：博松 三郎（新星日響運営委員長）
- ・常務理事：渡辺 豊（新星日響事務局長）
- ・常務理事：藤井 賢吉（新星日響事務局次長）
- ・理事：伊福部 昭（作曲家）
- ・理事：小村 公次（音楽評論家）
- ・理事：熊木 勇（銀行支店長）
- ・理事：高津伊兵衛（にんべん社長）
- ・理事：塙 悟（弁護士）
- ・理事：藤井 康男（龍角散社長）
- ・理事：星出 豊（指揮者）
- ・理事：山田 一雄（指揮者）
- ・監事：工藤 順弘（医学博士）
- ・監事：田中 健介（税理士）

（3）財団法人化運動を支えたもの

この財団法人化運動をふりかえってみると、新星日響というオーケストラの成立と11年にわたる活動の積み重ねが見事に結実したという印象を受ける。

成功をもたらしたものは、ひとつには当事者であるオーケストラの楽員みずからの主体的な参画と行動であった。それはすでに述べたように「楽員自治」という言葉で表現される〈自主運営オーケストラ〉の重要な成果であったといえるだろう。さらには、新星日響

の楽員と聴衆との関係の独特の深い絆が形成されていたということである。

スポンサーなしの〈自主運営オーケストラ〉として出発した新星日響にとって、自分たちの演奏を聴いてくれる〈聴衆〉の存在はとりわけ重要な存在だった。楽員たちが定期演奏会のチケットを必死になって売り、その売り上げをグラフ化して事務所に掲示し、少しでもたくさん売ろうと楽員同士励ましあって精一杯の努力をした草創期、客席にいるひとりひとりの聴衆は、ステージから見る楽員たちにとってすべて「自分の」聴衆だった。「あいつも来てくれている」という舞台からの視線と、「あそこで演奏しているのがあいつか」という客席からの視線。ふたつの視線が行き交うなかで、新星日響の演奏は手抜きなどという言葉からはまったく無縁の、真摯でみずみずしさにあふれたものとなっていました。こうした楽員たちの姿勢に共感するなかで、新星日響を支える聴衆の自主的な組織である新星日本交響楽協会が生まれたのだった。この協会については『新星日響10年史』に詳しいが、その発足は「新星日響友の会」として楽団創立の翌年1970年2月10日につくられている。5年後にこの「友の会」は「協会」として発展的に改組されていくが、この財団法人化運動でも大きな役割を果たした。

新星日響協会は楽団が財団法人化を進める決意を決定したのを受けて、9月13日に開いた総会で特別決議を採択し、寄付金募集に強力に取り組むことにした。そして協会理事を先頭にして約120万円を集めるとの成果を上げた。金額的には必ずしも多いとはいえないが、その活動の底に流れるのは新星日響の楽員とその聴き手が一体となって自分たちの音楽活動をつくりあげているという発足時からの意識であろう。協会の活動は、定期会員制度や財団法人化によるさまざまな機構の変化との関係もあって、協会員の量的な拡大が必ずしもうまくいっているとはいえない。しかし毎回の定期演奏会の後で開かれる協会主催の「交流会」は大変好評である。これは第47回定期演奏会（1981年6月17日）からスタートした催しで、演

奏会の終了後みんなで近くの喫茶店に集まり、独奏者や指揮者・楽員を囲んでその日の演奏のことなどを語りあう集いである。熱演を終えたばかりの指揮者にあれこれと質問したり、自分が感動したことを持ちたる人もいる。また、その日初演された作品の作曲家が参加して聴き手の率直な感想に耳を傾ける、といった光景も見られる。それは実に和気あいあいとした雰囲気であるとともに、音楽の現場に立ち会う臨場感に似た独特の魅力にあふれており、この「交流会」を楽しみにしている人も多い。問題は会場難で、赤坂のサントリーホール付近に恰好の場所を見つけるためにいま関係者は苦労しているとのことである。このほか、協会独自で取り組んでいる「星空のコンサート」や「おもしろ音楽館」、練習見学会等々の充実・発展に新たに取り組みつつあるところだ。

この新星日響協会とならんで、新星日響が〈新星日響合唱団〉という独自の音楽的パートナーをもっていることも重要だ。このことについては第1章でもふれたが、財団法人化運動でこの〈新星日響合唱団〉はたのもしい役割を果たした。『ニュース』No.5(1980.11.1)はその模様を次のように伝えている。

「11月定期演奏会『フォーレ：レクイエム』、12月特別演奏会『第9』を歌う新星日響合唱団では、それぞれ9月16日、10月18日に新星日本交響楽団法人化のために寄付の受付をはじめて以来、10月28日までに両合唱団では、約210名、680万円の現金及び寄付申請が寄せられました。」

680万円という金額もすごいが、なによりもこの寄付金募金運動を支えていたのは、合唱団のメンバーのひとりひとりにとって新星日響というオーケストラの存在そのものが、みずからの音楽的充足にとって不可欠の存在であるという意識が強かったからであろう。同様に、新星日響とたびたび共演してきた三多摩第九合唱団でも、約1カ月ほどの短期間で82万7495円の寄付金が寄せられている。こうしたプロのオーケストラとアマチュア合唱団との関係は、〈よりよい演奏〉へと向かっていくなかで、人間として輝き燃焼することの

素晴らしいを双方が大切にしあってきただからにはかならない。オーケストラの側も、単に本番のステージだけの付き合いだけではなく、合唱団との交流会にカルテットや木管合奏などの演奏で積極的に参加し、そこで音楽の喜びをわかちあい、財団法人化についても訴えるという結びつきを広げていったのである。こうした交流が無数に繰り広げられた結果が〈財団法人化達成〉の原動力だったといえるだろう。

新星日響の財団法人化成功の経験は、日本のオーケストラが誰によって支えられるべきかを明確に指し示していると思う。『ニュース』最終号の裏面に細かい活字でびっしりと寄付申請者の名前が印刷されているが、その1467名の名前を見ると圧倒的に個人名であり、法人・団体名はごく少数である。このことはきわめて教訓的である。客席と舞台を結ぶ「個」と「個」の織りなす無数の糸こそが、新星日響というオーケストラの本質的な魅力ではないだろうか。

財団法人化された新星日響が、助成金の受給だけでなく文化庁主催の青少年オペラ公演の演奏を担当するなど、その活動の幅を大きく広げてきていることはよく知られている。また財団法人の組織そのものも充実がみられ、1987年10月9日には第1回の評議員会が東商スカイルームで開かれ、評議員15氏が選出された。（資料編参照）

また楽団の財政基盤を固めるために、税法上の優遇措置が適用される寄付の輪を広げ、賛助会員制度の充実・発展がいま楽団をあげて取り組まれている。こうした楽団運営の基本に、財団法人化運動のなかで得た教訓が大いに活かされる必要があるだろう。その意味でも、この財団法人化運動は新星日響の今後の展望を切り拓くうえでの豊かな財産であるといえるだろう。

第3章 「窓ぎわのトットちゃん」の誕生

1. 地域に根ざした演奏活動

新星日響の演奏活動のなかでとくに注目されるもののひとつとして「親子コンサート」があげられる。これは東京・足立区での永年にわたる新星日響の地域に根ざした演奏活動がその母体となっていた。『新星日響 10年史』はその経過を次のように記述している。

「東京の下町地帯にあたるこの足立区で、子供たちによい音楽を聴かせてやりたい、という地元の教師たちの願いは、1973年6月14日に足立区文化会館で行われた“足立区小学校音楽鑑賞教室”というかたちで実を結ぶこととなった。こうした取り組みの中心になったのが足立区音楽研究部という小学校の教師たちの組織だった。この音楽鑑賞教室は第1回足立区民コンサートがひらかれるまでの4年間に8回ほどひらかれている。こうした積み重ねの上に立って、さらに幅広い区民にも呼びかけて地域に音楽の輪を広げていこうという目的でひらかれたのがこの足立区民コンサートだった。それはいってみれば“普段着で音楽を楽しむ”ということを実現させる取り組みであったといえよう。」（『新星日響 10年史』57頁）

こうしてスタートした「足立区民コンサート」は、「おとなから子供までみんなでオーケストラの名曲を鑑賞したい」という要望に応えて独自のプログラムを工夫していった。そして第4回(1980.9.23)のコンサートでは作曲家の林光がのちに“オーケストラのための童話”として作曲することになる「セロ弾きのゴーシュ」の一部（「野ねずみの母子」）が初演された。それは既成の“お子様ランチ”的プログラムに全面的に頼るのではなく、オーケストラを初めて聴く人

であっても、オーケストラの魅力と音楽の楽しさを共有できるコンサートにいかなければならぬ、という「足立区民コンサート」をつくりあげていった人々の願いを反映したものだった。

この背景には、新星日響が創立以来一貫して「聴衆を大切にしていこう」という基本姿勢をもっていたことと、「新しい日本の音楽文化の創造」という目標を掲げていたからである。その具体的実践として、彼らは単にステージでの演奏だけでなくその準備の過程でミニ・コンサートを開き、宣伝し、チケットを売り、と文字どおり“地域に根ざして”ひとつひとつのコンサートを自らの手でつくりあげていったのである。

ここでの経験は、財団法人化運動に取り組んでいた新星日響の音楽面での重要な脱皮であったといえるのではないだろうか。「地域に根ざす」ということが、必ずしも地域に埋没することではないと同様に、「おとなから子供までみんなで楽しめる」オーケストラ作品が“お子様ランチ”である必要はなかったのである。新星日響の場合、日本の作曲家との協力によって子供だけでなくその親も楽しめる新しい作品を生み出していったところに大きな特徴があった。新星日響が「親子コンサート」という分野で新しい試みを恐れずに実践し、積み重ねていくことになる出発点がこの「足立区民コンサート」だったのである。

2. 「窓ぎわのトットちゃん」の誕生

第4回足立区民コンサートで一部初演された林光の「セロ弾きのゴーシュ」は、翌1981年5月に新星日響の自主製作レコードとして全曲が作曲されて録音・発売された。そしてこれをプログラムに組んだ「夏休み親子コンサート」が厚木市民会館など首都圏の7会場で演奏されたのがその年の夏休みだった。これは「足立区民コンサート」での経験を発展させた新星日響の新しいチャレンジだった。

好評のうちに終わったこの「夏休み親子コンサート」を1回限り

のものにしないために、新星日響は次の題材を探す必要に迫られた。こうしたとき、設立まもない《財団法人・新星日本交響楽団》の理事長に劇作家の飯澤匡が就任したことは、いまから考えると大きな意味をもっていたといえる。というのは、当時 470 万部という超ベストセラーになっていた黒柳徹子の『窓ぎわのトットちゃん』を音楽物語にするように勧めたのが、NHK の「ブーフーウー」いらい彼女の仕事仲間であった飯澤匡だったからである。そして作曲を担当したのが、やはり「ブーフーウー」で一緒に仕事をした小森昭宏であったというのも奇遇といえた。

この新星日響「親子コンサート」が生み出した最大のヒット作品の誕生の経緯を、当事者たちは初演のプログラムでの座談会で次のように語っている。

(博松) 黒柳さんは、「トットちゃん」の映像化を全部ことわられたと伺っていますが。

(黒柳) 映画化も、テレビ化も、アニメ化もね。でも音楽ならって飯澤理事長さんがおっしゃって。

(飯澤) なぜかっていうとね、筆者にははっきりした自分のイメージがあるのに、それを変な決定的なイメージにされて困るでしょう。だけど音楽だったらきれいにいくでしょからね。

こうして 1982 年 4 月 3 日に、東京・五反田の簡易保険ホールで小林研一郎の指揮により初演された音楽物語「窓ぎわのトットちゃん」は、黒柳徹子の熱演とイメージを豊かにひろげる小森昭宏の音楽、そして新星日響の素晴らしい演奏とによって大きな反響を巻き起こした。初演と同時に 2 社からライブ盤とスタジオ収録盤という 2 種類のレコードが発売されたというのも前例がなかった。そしてこの初演以来、音楽物語「窓ぎわのトットちゃん」は全国各地の「親子コンサート」で演奏され、その演奏回数は 80 回を数えるところまでできている。

3. 「親子コンサート」の発展

「足立区民コンサート」からスタートした新星日響の地域に根ざした演奏活動は、毎年新しい音楽物語を生み出すことを伝統として歩み始めた。この点でも、新星日響は現状に安住しないで挑戦を続ける音楽家の集団であるといえるだろう。

「窓ぎわのトットちゃん」に次いで生まれたのが、同じコンビによる音楽物語「木にとまりたかった木の話」(1983年)であり、以下オーケストラ絵本「モチモチの木」(斎藤隆介原作・青島広志作曲、1984年)、オーケストラのためのファンタジー「いばらの城のおひめさま」(グリム童話・青島広志作曲、1985年)、音楽物語「赤神と黒神」(松谷みよ子原作・松井和彦作曲、1986年)、オーケストラ・ファンタジー「トモコのふしぎなペートーヴェン」(西田豊子脚本・赤堀文雄構成編曲、1987年)、映像と生演奏による「スノーマン」(レイモンド・プリッグズ原作・ハワード・ブレイク作曲、1988年)、そして夢の音楽物語「モモ」(ミヒャエル・エンデ原作・山本純ノ介作曲、1989年)と続く。これら9作品は、日本のオーケストラがサン=サーンスの「動物の謝肉祭」やプロコフィエフの「ピーターと狼」などに匹敵する作品をもち、日本の聴衆に音楽の贈り物を届けるという仕事の一過程であるといえるだろう。

こうした「親子コンサート」の会場で、アンケート用紙に記入された聴衆の声は大変興味深いものがある。例えば「モチモチの木」の演奏を聴いた昭島市の36歳の主婦は次のようにその感想を記している。

「親子○○と付くものはたいてい子供は楽しめるのですが、割合子供に迎合するように出来ていますので、親はいつもしかたなくお付き合いという具合でした。ところが本日は親子共々たいへんに楽しめました。はじめて聞かせて頂きましたが、来年も是非にと思っております。欲を言わせて頂けますならば、私の市(昭島市)ではオーケストラに接する機会があまりございませんので、

是非おいでいただけないでしょうか。」(1984年7月23日、会場：新宿文化センター)

あるいは「窓ぎわのトットちゃん」を聴いた障害児学校のある男性教員は、

「子どもが大きな『雷鳴』に“コワイ！”といつて抱きつきふるえていたり、『夏の思い出』に“尾瀬だ！”といいました。よかったです。爆弾のところも必死に耳をおさえて……。ことばのないちえおくれの障害児でも、美しい音やリズム、メロディーに敏感に反応して喜怒哀楽を表現します。むしろ健常者のマヒした感性よりも鮮やかに……。ぜひ学校行事に取り入れたいなあと思います。」(1987年4月25日、会場：江戸川区総合文化センター)

これらの感想に共通しているのは、新星日響の演奏をただ単によかったというだけでなく、次は自分の居住地や職場で聴きたい、より多くの人といっしょに聴きたい、という願いが表明されていることである。このことは、膨大な量に達している「親子コンサート」のアンケートにかなり多くみられる反応である。「足立区民コンサート」で蒔かれた種は、こうして確実に広がりつつあったといえるだろう。

4. 日本のオーケストラとしての新星日響

新星日響は、こうした「親子コンサート」だけでなく学校での《音楽鑑賞教室》と呼ばれる演奏会に毎年たくさん出演している。その範囲は首都圏だけでなく、長野県や新潟県にまでおよんでいる。そこでの感想文の内容は、都市部も「地方」も大きな変化がない。つまり以下のような内容のものが圧倒的多数であるということだ。

学校にオーケストラが来た。

新星日本交響楽団が、來た。

小学校でも、よく來たけど、みんなもっとちっちゃくて、10人

ぐらいだった。

だから、こんな大きなのを見るのは、はじめてだから、すごく興奮した。

一番よかったですのは「田園」

学校でも一度きいたから、「ああ、あそこはこうなるんだ」とか、聞いても分かって楽しかった。

ただ、やっぱ迫力が全然ちがった。

学校のは、ステレオつつても、スピーカーが2つくらいだ。でも、生のは全部の楽器がぜんぶ、ちがうところから、きこえてくる。

だから、すごいんだと思う。

とにかく、すごかった。

(長野市立篠ノ井東中学校 望月俊春)

この感想文を読むと、これだけ音楽があふれている時代にもかかわらず生の演奏を聞く機会は依然としてごく少数の限られた地域の人々にしか与えられていない、という現実を思い知らされる。そしてこうした学校でのオーケストラの演奏活動が、次代の聴衆を育てるうえからもきわめて重要な、無限の可能性をもっていることを思わないではいられない。

新星日響は、その創立以来一貫してこうした学校での音楽鑑賞教室というかたちでの演奏活動を重視してきた。それはプログラム構成の工夫だけでなく、司会者の村田芳彦の巧みなリードという要素も大きい。つまりどんなハードな条件だとしても、演奏を聴いている子供たちにとっては一度っきりしかない“本物”的オーケストラとの出会いである、ということの自覚である。そのことが創立時の精神の具体化として、今日まで連綿としてオーケストラのなかに息づいているからこそ、蒔かれた種は思いがけない花を咲かせることとなる。

20年におよぶ新星日響の学校公演のなかで、その蒔かれた種を

しっかりと育んでいった聴き手がいる。現在、山形交響楽団で打楽器奏者として活躍している南悟さんがその人である。彼は中学生のときに新星日響の学校公演を聴いて感激し、「自分もあの中に入って音楽をやりたい」と決意したのだった。音大に進学し、オーディションに合格して念願の打楽器奏者になっていった経緯は、同じ山響の打楽器奏者三原千加さんの場合と酷似しているというのも面白い。三原さんの経緯については『どれみふぁ奮戦記—山響の15年』(読売新聞山形支局編・あうん社刊)に詳しいが、新星日響の創立時に重要な役割を果たした指揮者の村川千秋が創設した山響に、蒔かれた種の豊かな稔りがみられるというのも興味深い出来事だといえるだろう。

こうした《音楽鑑賞教室》での演奏と、大都会のきらびやかなコンサートホールでの演奏活動とのあいだにある落差を、新星日響の楽員たちは自分たちの音楽を誠実に“差し出す”ことによってみごとに乗り越えていったと思う。そこには限られたマニア的な聴衆だけでなく、音楽そのものを生活の一部、自分たちの日常生活の一部と実感できる広い層の聴衆を獲得しようと歩んできた新星日響の創立精神が豊かにいきづいているといえるだろう。

新星日響のこれまでの20年にわたる実践が体現してきたものは、“日本のオーケストラ”としての個性的な活動であったといえるだろう。“日本の”というとき、そこには抽象的な「聴衆」ではない、眼前のさまざまな生きた具体的な聴き手をたえず念頭におき、それを“自分たちのもの”として強く意識していった活動であることが、これまでみてきたように新星日響の演奏活動の大きな特徴であった。そして20年という節目を経て、新星日響の「これから」がどのように展開していくのかが大きく注目されている。それを次章でみていくことにしたい。

第4章 新しい飛躍をめざす新星日響

創立 20 周年を期して新星日響は定期演奏会の会場を、それまでの東京文化会館からサントリーホールに移した。ふりかえってみると、第1回の定期演奏会から第12回までは文京公会堂や日比谷公会堂、郵便貯金ホールといった会場がおもなものだった。当時の楽員たちは「上野の東京文化会館で早く定期演奏会がやれるようにしよう」と夢みていた。いってみれば「上野」は音楽家の檜舞台としてのシンボル的存在だったのである。その「上野」を定期演奏会の会場として初めて使ったのは 1974 年 4 月の第 13 回定期演奏会からで、この後はほぼ定期的に東京文化会館を定期演奏会の本拠地として演奏活動を行ってきた。

日本のオーケストラは、日比谷公会堂時代、東京文化会館時代を経て 1990 年代を新しい本拠地で新たな飛躍を期そうとしている。新星日響もその新しい飛躍を、1989 年 5 月の定期演奏会から赤坂のサントリーホールではじめたところである。

1. 海外公演の成功に向けて

新星日響は創立 20 周年記念事業の一環として、1990 年 5 月 20 日から 6 月 10 日までの日程でスペイン・オーストリア（ウィーン）・ドイツ民主共和国への初の海外公演を予定している。そのおもなプログラムは (A) スメタナ/「売られた花嫁」序曲、ショパン/ピアノ協奏曲第 2 番、マーラー/交響曲第 1 番、(B) モーツアルト/交響曲第 14 番、伊福部昭/オーケストラとマリンバのための「ラウダ・コンチェルタータ」、ベルリオーズ/幻想交響曲、(C) 武満徹／弦楽のためのレクイエム、ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲第 1 番、チャイコ

フスキー/交響曲第5番（および4番）。指揮者には名誉指揮者山田一雄、首席客演指揮者オンドレイ・レナルド、そして現田茂夫という新星日響指揮者団の面々。独奏者には仲道郁代（ピアノ）、安倍圭子（マリンバ）、石川静（ヴァイオリン）などの第一級の演奏家が予定されている。

こうした海外公演を、新星日響は日本のオーケストラとしての力量と存在感を存分に発揮する機会として位置づけて取り組んでいる。“輸入超過”となっている日本の音楽界のなかで、本場の作品だけでなく伊福部・武満作品をプログラムに組むことで、日本のオーケストラ作品の民族的でエネルギーッシュな響きと繊細な音楽表現力を、ヨーロッパの聴衆に正面から届けようとする新星日響の姿勢は大いに注目されるところである。とりわけマドリードでは、演奏作品すべてを日本人作品で組むという画期的なプログラムを予定している。こうした試みは、これまでの日本のオーケストラの海外公演が「オーケストラの本場で実力を試す」といったかたちで取り組まれることが多かったなかで、自立した日本のオーケストラとして対等な立場で自分たちの音楽を差し出していこうとするものだといえるだろう。こうしたかたちでの海外公演は、日本のオーケストラの海外公演のなかでもかつてなかったものとして、大きく注目されている。

2. 〈赤坂〉と〈池袋〉を新たな拠点に

新星日響は1989年6月から赤坂のサントリーホールを定期演奏会の本拠地として新たな活動を始めたが、ここでの演奏活動に加えて、新たに1991年4月のシーズンから池袋に新しくオープンする東京都芸術文化会館（仮称）でも定期演奏会をもつことにしている。これは巨大化する東京で、一極集中型ではなく地域に根ざしたオーケストラ活動がより重要になっているなかで、楽団創立以来池袋に事務局を構え、また楽員の多くもさまざまな意味で関係の深い「池袋」に

新星日響の演奏活動の拠点を築く構想として進められている。このことは、単に「日比谷」「上野」「赤坂」といったその時代ごとのシンボル的ホールでの活動だけではなく、これまでオーケストラとは必ずしも縁のなかった聴衆、あるいは潜在的な聴衆を掘り起こすという意味での“地域密着型”的オーケストラ活動が重要になっていけるとの認識から打ち出されたものである。

3. コンサート、オペラを軸とした第一級のオーケストラに

これまでの20年にわたる演奏活動をとおして、新星日響はその演奏力量を大いに高め、また「親子コンサート」をはじめとするすぐれた企画によって新たな聴衆開拓に力を入れてきた。こうしたなかで、年間の演奏活動日数はほとんど飽和状態に近いところまでできているのが実情である。具体例をあげれば、1988年度の年間演奏日数は自主公演22日、契約公演157日、青少年のための公演が47日、小編成による公演が21回となっている。単純に総計すれば年間247日を上回るハード・スケジュールである。

そこで前述したように、池袋でも新たに定期演奏会活動を開始することともあわせて、自主公演の比率を高め演奏活動の回数を絞りこむなかで、コンサート・オーケストラとしての質をより向上させようとしている。またもうひとつの軸として、これまでの国内のオペラ公演での“オペラのオーケストラ”としての豊富な演奏経験を活かし、より充実したオペラでの演奏活動を強化する方向を打ち出したことである。すでにオペラ「夕鶴」の演奏回数では国内トップの実績をもっているように、新星日響のオペラ演奏の豊富なレパートリーをさらに磨きあげ、きたるべき《オペラの時代》にオーケストラ演奏の面で重要な貢献ができるよう万全の体制を固めようとしている。こうした方向でのこれから的新星日響の活躍が大いに期待される。

4. 魅力的な企画と新しいオーケストラ活動をめざして

いま“クラシックの時代”と喧伝されているが、それを一時のブームに終わらせないためにも、すぐれた企画と魅力あるプログラムが求められている。新星日響は「親子コンサート」で培った新しい演奏会のスタイルを自主公演のなかで活かし、広げようとしている。そのなかで注目されたのが、1989年9月28日にサントリーホールで開かれた「我が隣人たちの音楽①」だった。この演奏会では、それまで日本ではほとんど演奏されてこなかったアジア・オセアニアの作曲家たち——インドネシアの女流作曲家トリスティ・カマル、オーストラリアのピーター・スカルソープ、中国の戴宏威、そして韓国出身で西ドイツ国籍の尹伊桑の作品が演奏された。これまでの欧米作品一辺倒だった日本のオーケストラ界のプログラムのなかで、こうした作品群はきわめて新鮮であり、また指揮者には外山雄三とならんでシンガポール交響楽団常任指揮者の朱暉が登場したこともかつてなかったことだった。この日の演奏会のように、さまざまな手法や傾向の異なる作品を一夜のコンサートに組んで演奏することはオーケストラにとってかなりの負担となる。しかし、こうした取り組みを一過性のものとして終わらせないで継続していくこそが重要だろう。こうした作品と演奏の真価は、ちょうど日本人作品が日本のオーケストラのプログラムのなかで重要な位置を占めるために長期的努力が必要だったと同じように、息の長い取り組みが必要であることをこの日の演奏会は物語っていた。

もういっぽうで、新星日響の最近の演奏活動の注目すべき点としてより幅広い聴衆層を開拓する試みとしての「クラシック・クライマックス」(1989年3月25/26日)や、地域に根ざした新しいスタイルの東武沿線コンサート・シリーズ(1989年・坂戸[3.30] 東松山[3.31] 川越[4.5] 新座[4.7] 板橋[4.8])が注目される。前者は指揮とお話し役に山本直純を迎え、「運命」「未完成」「カルメン」「新

世界」「四季」等々の名曲の数々を軽妙な語りを交えながらも水準の高い演奏によって聴かせ、新しいオーケストラ聴衆を獲得する試みとしてもたれたものだった。その反応は2日間ともチケットが完売ということが雄弁に物語っているように、いま良質の娯楽としてのクラシック音楽が求められていることの反映といえよう。東武沿線コンサートにしても、コンサート会場と居住地との距離の関係が新たな聴衆開拓の重要な要素となっていることを萌芽的に示していたことは重要である。こうした新たな聴衆開拓の試みをすすめることによって、いま新星日響は聴衆の裾野を広げ、定期演奏会の充実をはじめとした自主公演の発展に力を入れている。

5. 財政基盤の強化・確立に向けて

このような1990年代のオーケストラ活動を展望するうえで、どうしても避けて通ることのできない問題として、オーケストラの財政基盤の強化・確立の課題がある。楽員が安心して演奏活動に専念できるような環境をつくりだしていくためには、オーケストラを社会的に支えていく公的な振興基金の確立が求められている。

◇公的振興基金の拡充を求める世論を広げる課題

新星日響はその創立時に経済的に自立した演奏団体として「音楽活動の自由」を明確に掲げた。このことは必ずしもスポンサーの排除を意味してはいない。問題となるのは、オーケストラが財政的な面で基金提供者の直接的な関与の下におかれることによって、その音楽活動の自由な発展が大きく損なわれる危険性が考えられることである。もちろん財政規模が大きく膨らんだ現在の状況と比べると、創立時との機械的な比較は意味がない。しかしオーケストラが社会的存在であればこそ、その存在を公的に保障していくための国民的合意をどうつくりだすかが、むしろより大きな課題といえるだろう。その意味で、いま新星日響など自主運営オーケストラ5団体が進めている「東京オーケストラ事業協同組合」の活動発展は大きな意味

をもっている。また国の文化行政の根本的な拡充が、国民的な要求になるような運動を進めていく必要があるだろう。

◇新星日響の魅力を伝え、支援の輪を広げる課題

公的振興基金の抜本的な充実と同時に、新星日響の20年間の演奏活動が培ってきた独自の魅力を大いに語り、新星日響を財政的に支える〈贊助会員〉〈特別贊助会員〉を多数獲得する独自の活動を大きく広げていくことが求められている。自力で1400名もの聴衆・市民の募金の力で財団法人化を達成した経験に学び、オーケストラがいまの時代、誰のために演奏するのかという原点を確かめる必要があるだろう。こうした公的な（社会的存在としての企業の重要な役割も含めて）オーケストラ振興基金の拡充と、よりパーソナルな新星日響を支える広い聴衆・市民・音楽家の財政援助を含む支援活動を成功させていくことが、今まで以上に重要になっているといえるだろう。

まとめにかえて

日本のオーケストラ活動は、ヨーロッパ等と異なりオペラ活動と切り離された、いってみれば片肺飛行にも似たかたちで出発せざるを得なかった。こうした事情もあってか、日本においてはオーケストラ音楽が高踏な「芸術」として、また「教養」として上から与えられ拝聴するという関係に長らくおかれていったというのはきわめて不幸なことだった。

しかしオーケストラは、オペラ演奏をとおして良質の娯楽として演奏され聴かれるという関係を土台にしてはじめて、オーケストラ固有の芸術的主張を展開することができると思う。「オペラ」と「コンサート」の二つを両輪として音楽活動を展開するというオーケストラ本来の活動を、いま日本のオーケストラはようやく確立できるところまできたのではないだろうか。そしてその両輪を、洋の東西

を問わず古今のすぐれた作品だけでなく、日本の音楽創造の第一線に立って活動している多くの作曲家たちの協力を得て一体のものとして展開していこうというのが新星日響の大きな特徴だといえるだろう。フレッシュで、手を抜かない誠実な演奏、作曲家への共感にみちた演奏は、同時代を生きる我々と世界の作曲家たちとオーケストラのメンバーたちでつくりだす“音楽の歩み”そのものである。

しかし、こうしたオーケストラの演奏活動は現実の聴衆の存在を抜きにしては語れない。どんなにすぐれたオーケストラであっても、どんなにすぐれた内容の演奏であっても、聴衆のいない演奏というのは意味をもたない。より多くの人々にその演奏が聴かれることによってはじめて、そのオーケストラの演奏活動は社会的な存在となり、具体的な意味をもってくるようになる。その意味では、活字で綴られた新星日響の演奏活動 20 年を具体的に実感できるのは、新星日響の演奏会場に足を運ぶことであろう。音楽は、音の響きのなかではじめて具体的な意味をもち、新たな意味と広がりを獲得することができる。「まだ聴かぬ新星日響へ」と題したファンレターを寄せてくれた広島県福山市の金尾洵子さんは次のようにその気持ちを書いていている。

「オーケストラの話題が出たとき、そのグループの中の若い女の先生の、『私、学生時代からずっと新星のファンなのよ。温かな雰囲気で人間味のある演奏が魅力なのよね』という声が聞こえてきた。“新星？ いつも彼女が私に話すあの新星か”私は心の中に彼女を思いうかべた。

彼女とは新星日響合唱団でソプラノのパートリーダーをつとめている田中由美子さん。学生時代から数えると 25 年以上もの長い友人である。……3 年前に会ったときは、これから練習に出かけるといって生き生きと足早に去っていった。たまに届く便りは分厚いものの、その内容はいつも新星日響の定期演奏会のチラシと演奏会の話題である。……彼女の心をそこまでとらえて離さないその魅力を分析すべく、次回の私の上京は新星日響の公演予定を調

べてから……ということになりそうである。」(『新星』No.116)
こうした無数の「まだ聴かぬ新星日響へ」という思いを抱いてい
る人々に、新星日響の演奏が届けられるとき、新星日響は文字どお
り、「われわれのオーケストラ」となることだろう。新星日響は創立
20周年を機に、よりいっそう多くの人々に自分たちの演奏を聴いて
もらいたいと願っている。そして実際の演奏そのものの魅力をとお
して、自分たちの音楽の新たな可能性を広げようとしている。

こうして綴ってきた新星日響 20年の歩みであるが、文章だけでは伝えきれないさまざまな思いを実際の演奏はなんと雄弁に物語っていることだろう。まず聴いてみると、それが新星日響の魅力を味わう第一歩であると、いま痛切に感じている。音楽はなんといっても聴くことに始まり、それに尽きる、というのが正直な実感である。創立 20周年を経て、これから的新星日響のさらなる活躍に期待をして、この小史を閉じることにしたい。

楽員が語る新星日響の20年とその展望

〈出席者〉

赤堀 文雄

ヴィオラ

池田 敏美

ヴァイオリン

大隅 雅人

トランペット

岡部 純

コントラバス

小川 綾子

オーボエ

菅原 恵子

ファゴット

長倉 穂司

トランペット

万行 千秋

クラリネット

村田 芳彦

司会

(五十音順)

司会 まだ正式には20周年を迎えていませんけれど、成人式を迎える感想は。

菅原 20年という年は、とりあえず子どもが大人になる。だから、今まで甘えてきた面もこれからは厳しく問われる年に入ったなと思う。

長倉 10年たってワーッと騒いだときとはやっぱり違って、ちょっとは重いかなとは思う。

大隅 ぼくは昔のことは全然知らないんですけど、「10年史」を入団するときもらって、昔の辛い時期からは、現在はたぶん全然想像できないような状態にあるだろうけれど、それでも問題点がある。それをどうクリアしていくか、もっとその次の年に向かってのオーケストラを考えていくことじゃないかと思います。

岡部 オーケストラの20周年の感想というのはいえないけど、ぼく自身が新星に関わって7~8年たつようになって、自分自身の(成長しているのかどうかちょっとわからないんですけど)関わり合いの重みというのが、少しずつ感じてくるようになった今日このごろです(笑)。

小川 私も入ってわりとすぐ10周年だったので、そのときは「10

年史」とか見て当時の苦労が伝わってきたんですね。10年のころはまだそういう最中にもあったと思うんです。今あれから10年たってオケ自体が変わらざるを得なかつたし、あの当時は全然雰囲気も違うし、いろいろ変わってきたなと思います。でも、決して悪いように変わっているのじゃなく、いいこともたくさんあるので、もっとどんどんいい方向に変わっていくといいなという感じですね。

持続させていくことの重さ

池田 私は最初からいました。みんな若かったから、楽器ひく以外のことやらなければ成り立っていないのが現実でしたから、あんまり大変だという感じはほかからいわれるほどないですね。創立当時のメンバーはたぶんそうだと思うんです。それを20年たってどういうふうに続けていくのかという、続けようとしていく中身の問題での重さというか、今後はそれで荷が重いという感じです。新星はどういうふうになっていくのか、どういうふうにしていけばいいのかなという、そういうことでの大変さのほうが創立当時よりも大きいですね。世の中自体がずっと変わってきてるから、こっちのほうに行けばいいとかというのがはっきり見えないだけに、もっと自分たちでちゃんと考えてないといけないという重荷がすごくあります。

万行 私はまだ入って1年ちょっとで、大学を出てすぐ入ったという感じで、ほかのオケも知らないし、ほかの仕事もそんなにしてなかつたので、あまりえらそうなことはいえないですが、とにかく入る前から、新星というのは新しいオーケストラで若い人たちが集まっているオーケストラだという前評判をみんなから聞いていて、入っていきなり20周年といわれてもピンとこないですけど、でも、やっと20年たったということは、日本の受け皿のなかでだんだん評判もあがってきてるし、認められてきたオケだと思うから、これからはもっと質をあげていって、オケ自体の内容もそうだけど、仕事の質ももっといいものができたらいいなと思っています。

赤堀 大隅君が昔大変だったというようなことをいっていたけれど、昔より今のはうがかえって大変だというような気がする。でも、何でもそうじゃない？ 何か始めるより続けるほうが難しいですよ。続けるということは発展しなければ続かないんだから。

司会 こんどは創立のときのお2人に、創立のころというか、やり始めて間もないころぐらいまで、どこで切るかはご自由ですが、こういうオーケストラにしなければいけないと思っていたという、まずそのへんを。

赤堀 そのことになるとちょっと長くなるけれど、今から25年ぐらい前に東京交響楽団がつぶれかけたことがあるんです。あれは日本の音楽家にとってものすごいショックな大事件だったわけです。それが証拠に、そのときの東響の理事長の橋本さんでしたか、自殺したんです。なぜつぶれたかというと、TBSがそれまで助成金出していたのを打ち切ったわけです。だから、25年ぐらい前にはそういうふうな状況というのがオーケストラだけじゃなくて音楽界すべてを覆っていた。

つまり、戦後の何年間かは娯楽がなかったせいもあって、昔はテレビなんかありませんからオーケストラの楽隊屋はみんな稼げたんです。東京でもダンスホールとかキャバレーとかいっぱいあって、ぼくもタンゴ弾いていたことがありますけれど、それが1960年からの高度経済成長政策で日本の経済が資本主義国として上昇したわけですが、そのときに楽隊屋はおちこぼれていったわけです。芸術家というのは政治とか社会にだいたいうといから、腕さえよければどこでも食えるなんて思っているうちに、どこへ行っても食えなくなってしまった。そういうなかで東響の事件があった。東響だけじゃなくて楽隊屋は仕事がなく、給料が安く、たとえばスタジオのレコーディング料は10年ぐらい全然上がらないわけです。

だからそのときには、音大（芸大と武蔵野と国立の3つ）のなかでも、そういう社会的なテーマというのが学生の間でわりあい話されたと思うんです。自治会などもあり活発で、卒業してからど

うしようということですね。

池田 3つの音大の自治会・学友会の横の連絡組織が、自分たちの将来のこととずっと話し合っていた時期があるんです。そのときの仲間が今、二期会合唱団にいたり、今でも私たちとのつながりがある。

音楽家を支えるのは誰か

赤堀 そのときにはぼくらが考えたことが、ひとつには、これは音楽家自身の問題で、政治にうといとか社会性がないということは演奏にも影響しているわけで、つまり、ブラームスをやるんだ、マーラーをやるんだ、これは立派な芸術なんだぞ、これがわからないやつは馬鹿だ、というようないわゆる芸術至上主義的な態度がずっと続いていたわけです。これではお客様さんは来なくなるわけです。だから、そのときぼくらが考えたのは、これは日本の政府の政策が文化的に貧しいということがひとつ、つまり東響をつぶしてしまうようなそういうことと、それから一方では、音楽家の態度に問題があったんじゃないかな。

そのときにはまだ、ユニオンもなかった。どこのオーケストラにも組合がなかったんです。だからぼくたちとしては、新しい演奏家の組織をつくって演奏で聴衆につながっていく、聴衆の支持を得なければ音楽家はダメなんだ、ということを表明するためには新しい組織をつくらなければいけない。それが新星なんです。

そして、新星ができたのは1969年です。その翌年の70年に読響に組合ができました。それから、N響にも日フィルにも組合ができる、続々と組合ができたわけ。それだけ音楽家の無権利状態というのは、どうにもならないところまできていた感じですね。音楽家が組合をつくるなんてそう簡単にできるものじゃないんですね。今でもそうでしょう。芸團協なんか、芸人が組合つくるなんてとんでもないというような人が多いらしいし、音楽家だって似たようなもので、音楽家が組合をつくったのは、そこまで追い詰められたという

ことですね。

当然のことながら、組合活動というのは最初はお金だけですね。給料上げようとか、レコーディング単価を高くしようとか、そういう音楽家の意識の状態だった。

音楽家の社会的地位というのは経済的地位とは必ずしも一緒にならないもので、聴衆の支持を得ているということが社会的地位になるわけです。その地位があってこそ、われわれは文化庁でもスポンサーでも、これだけの聴衆がいるのだからお金出してくれと要求できるわけです。だから、社会的地位がない状態が、みなさんよくご承知の日フィルの悲劇を生んだわけです。

でも、その首切られた日フィルを誰が支えたかといったら、聴衆なんです。市民運動。まず第一に駆け込んだところが民放労連（民間放送労働組合連合会）ですけど、そこで民放労連からいろんな組合に訴えかけて、労働者が日フィルを支持して、そのころから日フィルが変わったわけですね。新星は最初からそういうお客様のほうを向いて発足したんだけど、そういうふうなニューストピックにはならなかった、日フィルに先を越された感じはするんです。

聴衆の支持を得ることによって音楽家の社会的地位を高めるということが、非常に大事だと思います。

新星のできたいきさつというのはそういうところですね。

池田 その入水自殺した当時、うちのだんなは東響にいたんです。だから、赤堀さんなんかからそういう話があったときに、同じようにきつい思いでやるのだったら、ガラス張りで全部納得づくでやれる職場のほうがいいというふうに決断があったんですね。新星の場合はお客様のことをいちばん先に考えて、お客様に依拠した楽団をつくっていこうと出発した。演奏という行為の対象というのがお客様抜きには考えられないことであるわけだから、それはごく当たり前の考え方で、それが新星の伝統じゃないかという気がしています。

司会 穂司 は10年ぐらい前に、新星がもっとオーケストラとして

かたちの上でもきちんとしていかなければならない、いきかけてきたところに入ってきたわけでしょう。

長倉 新星がそういう市民とともにというようなのはわかっていたけれど、現実としてお客様が来ないというときに入って、結局、どれだけいい商品持っていても、いくら立派な考えを持っていても、それに伴う腕と、それを評価してもらってお客様が入るということをずいぶん議論もしたし、ぼくは全然納得できないことも幾度もあったですね。新星が発展するのは望ましいけれど、発展していくにはどう普通のオケみたいにならなければいけないし、それをクリアしなければいいオケにはならないよ、ということはいってました。

大隅 ぼくもひとつの会社に入るような感じで、オーディション受かって事務所に行って、そのときに昔のいきさつなんかを聞いてわかりましたけれど、自主運営だからとか、そういう背景というのについては、入ろうとしている人間というのはそこまで見てないですね。

司会 幾つかあるオケのうちのひとつという意味ですか。

大隅 ええ。それで、今も昔もそう変わらないのかもしれないですけど、オーケストラに入るというのは、要するに何十人も受けにきて1番じゃなければいけないわけですね。ポストはたくさんあることじゃないし、どこのオケでもまず就職したい、自分の活動する場を見つけたい、そこでちょうど募集があったからという感じなんです。

岡部 ぼくの7~8年前の場合、ぼくの場合だけかもしれないんですけど、半年ぐらいずっと新星にエキストラで来てまして、それでぼくは入団したんです。その間にずいぶんまわりの方たちとか、あからさまにこういうオケなんだということを教え込まれたというか、そういうことをされた記憶はありますけれど。それも自分で納得して入ったとぼくは思っていますけど。

それで、最近見ていると、そういうコミュニケーションというか、

こういうオケなんだという、上から下といつてはおかしいけれど、そういうのが少し薄れてきて、入ってみて新人の人たちは、こんなオケだったのとまごつくということがあるんじゃないか。これはある程度、力を入れてやっていかなければいけないことじゃないかと思います。

司会 今の岡部君は、納得して入ったということだったけど、恵子はどうですか。

菅原 私の場合は同級生が何人が新星に入っていて、ファゴットの募集があるということだけで、じゃあ受けようかな。その当時、新星の募集があった前後5~6年間、ファゴットで都内のオーケストラで募集は新星しかなかったから、学校も卒業したばかりだったし、オケに入るということが第一の目標だったから、新星の基盤になっていることを何も知らずに、受けたというのが正直なところです。入ってからはいろいろ聞かされて、「あ、そうだったのか。へえー」というだけで、それを自分がどうこうするというのじゃなくて、自分としてはできるだけいい演奏をしてオケに対して応えるというか、自分には今吹いていくことが精いっぱいで、とにかくいい演奏をしたいということしか頭になかったですね。

赤堀 新星ができるべきさつというのは特殊ですね。そういう状況というのは今までの日本の音楽の歴史のなかで1回しかなかったわけだから。だけど、お客様のほうを向くという、お客様のために演奏するんだということであって、べつに特殊なことでは全然ないわけです。だから、その後組合ができて、組合も最初はお金のためにだけ集まっていたけれど、組合運動していくなかで、経済的・社会的地位を確保するためにも、だいいち音楽家の存在理由として、日本の文化とか、日本のなかで西洋音楽をやり、オーケストラをやっていくことの意義とか、そういうことを考えざるを得なくなってくるわけでしょう。ただ、お客様を大事にするという言葉だけだったらデパートでもやっていることだし、お客様は神様ですよとやっている、あれはほんとうに大事にしているわけじゃないでしょう。お

金儲けるためにやっているわけです。そうじゃなくて、ぼくたちは日本の国民としてというと大げさだけど、あの当時は、そこまで音楽家の地位が経済的にも社会的にも下がると、西洋音楽を日本でやっていることには意味があるのかということまでみんな考えたわけです。つまり自分も聴衆の1人として、聴衆と演奏家の区別なくみんなで日本の音楽をこれからどうしていこうか考えて、それによって運営の根本の方針を決めるんだということ、これがぼくらがいう自主運営だというわけです。

司会 当時は一般的風潮として、真面目にそういうことをちゃんとみんなで考えるということもしなかったですね。

赤堀 それは音楽家はそういう社会的な話は全然しないという、そんな話をするのは今でいえばダサイという風潮があったわけだし。

長倉 だから、赤堀さんの立場にぼくらがおかれたら同じことを考えたろうけれど、大隅にしてもぼくにしても、オケがあった、入れる余地があったので入ったというプロセスがいかんともしがたいので、問題は、入れるシステムとか、赤堀さんとか池田さんの語られる言葉というのは毎日聞く問題ではないんです。そういうのを正確には語られてないですね。そういうことが納得ずくで楽員集会でやるのだったらだいぶ違うとは思いますが、まだそこらへんはいろんな議論の余地があると思います。

それと同時に、オケがひとつの会社みたいなものですから、今、国がひとつの国だけで地球上で生きていけない、国際関係が大事なのと同じで、オケ同士のつながりというのがすごく大事になってきて協議会ができたりしてますね。だから、そういうことで今後若い人が入ってくるのに、オケ共通に、オケというのはこうありたいという、そういう時代にきていると思うんです。お互いにどうやっていい音楽社会にするかという時代にきている。ひとつのオケが自分の理念だけでやっていくよりも、そういう日本の音楽状況が改善されることが大事だと思います。

だから、ぼくがつくづく感じることは、10何年前に入って、常にスタートみたいな感じがあるんです。

音楽家として、生活者として

司会 綾ちゃん、そのへんはどうですか。

小川 戦争の話を忘れないように伝えなければいけないというのと似ている。この世界はオケの中にいる者にとっては技術的なものがすごく大きな割合を占めるでしょう。そういうのを伝えられたときに、「あ、なるほどな、あの人にいわれるならしようがない」と納得できるというふうに思えばいいけれど、「何いっての、理想ばかり追いかけて」というようなのが出ちゃうとうまく伝わらないんじゃないかな、というのが今まで感じたことですね。そのへんが非常に厳しい世界だと思うんですけど。

赤堀 ほんとうに技術の世界だからね。

小川 私たちも人間として生きてますから、家庭もあるし子どももいます。またその上に(そんなえらそうなことはいえないけれど)精いっぱいの演奏はしなければならない。それ以上に交流会に出なければならないというのは、実際にやることが多すぎて24時間では時間が足りないんです。家に帰っても練習したいし、明日の本番のことを考えると交流会に行けないという、そういうジレンマというんですか、やらなければいけないというのはわかっているけれど、とりあえず自分の演奏にある程度責任を持たなければいけないという現実とね。そういう毎日なんですけれど。

赤堀 もちろんうまくなければいけないけど、たとえば今の定期演奏会の新星のお客さんなど見ると、いいお客様ですよね。終わっても誰一人立たないといっていいぐらいだし。そういうものが滲み出ているんじゃないかな、これは手前味噌かもしれないけど、そう思う。

池田 私たち、なかにいる人間はいろいろ文句が多くて欠点ばかり目について、なかなか新星のよさがわからないということもある

と思うんです。ほかのオケの人から「新星というのはなかなか真面目で、非常にいい面を持っている」というようなことをいわれるわけ。それはわりと、なかの人間はわかってない。

小川 いいオケだよね（笑）。

司会 音楽教室を新潟で1日3回やって、全部学校回って、全部移動でというのがありますね。普通だったら、疲れが見えるはずだけれど、その疲れが見える度合がほかに比べたら少ない。うちの場合ははっきり手を抜いているというのは絶対ない。1週間あるうちの5日目ぐらいになると疲れが見えてくるけれど、演奏に現れない。みんなそうならないというのはこれはきっと伝統だろうなと思ったね。

大隅 このあいだ、ほかのオケと一緒にやったでしょう。あれのときにぼくの師匠が吹いてて、「新星ってきょう音楽教室があったんだな。なんでこんなに真面目にやっているんだ」って。そうやってみると、いざ演奏するときはうちのオケはみんなこうなっていってますよね。そこはすごくいいことだと思う。

菅原 いい意味でアマチュアなんだよね。やっぱり好きでやっている人が多い。

大隅 それが演奏にあらわれて、聴いている人にも伝わっていくことだと思いますけどね。

小川 だって、1日何回やっても聴くほうは初めて聴くのだから、そういう気持を忘れちゃいけないと思うけど。

赤堀 音楽教室に関しては絶対新星は評判がいいんだよね。

司会 1回うちでやると、新星と指定してくるんです。

赤堀 それはお客様を大事にしていることじゃないかな。

大隅 普通は演奏家ってそういうのじゃないかと思いますけど。

赤堀 だから、ぼくはべつに特殊なことをいっているとは思わないよ。音楽家の当然とするべき態度をとるオーケストラが理想だと思うわけであって。

小川 でも、そういうのは口でいうことじゃなくて、まわりが一

生懸命やってれば自然に伝わることだから、そういうのはなくさないようにならうがいいですね。

赤堀 だから、もしほかのオケでそういう違いがあるとしたら、ほかのオケは、さっきいわれたように燃えてアマチュアリズム持つて入団するんだけど、プロというのはそんなものじゃないというので、手を抜くことをまず覚えちゃうとか、そういうことがうちでは少ないということがひとつあるんじゃないかな。プロというのは手を抜くものだみたいなことがね。ほかのオーケストラだって定期演奏会なんかもちろんちゃんと立派にやっているんです。

司会 それと、見落としちゃいけないと思うのは、音楽教室で新星は評判がいいのは、編曲とか、司会で工夫があるからじゃないかな。

池田 何を聴かせたいかというような内容の問題までオケが自主的に考えていくというか、それはすごい特色だと思いますね。たとえばそれが「トットちゃん」を生んだり、いろんな創作ものがあるでしょう。あれなどもほかのオケの人から、どうしてもああいう企画性というのは真似できない。子どもの心理をよくつかんでいます。「そういう研究をよくやっている」といわれます。もしかしたら私たち、なかにいてあまり気がついていないかなという気がすることがたびたびあります。

小川 春休みとか夏休みとか、「じゃあ来年は何をするか」と、わりとみんなの話題に出ますものね。

赤堀 今でこそサントリーホールができるから、アコースティックな響きを聴きたいというお客さんが増えているけれど、これはつい最近のことなんです。長い間ずっとお客さんは減っていたわけで、それがサントリーホールができたこともひとつのきっかけにはなっているけれど、ユニオンとか新星、日フィル、都響なんかも組合がずいぶん音楽面でいろんな討議をして、聴衆の要求に応えていくにはどうしたらいいのかということ、そういったものの成果が、今少しずつあらわれているんじゃないかなと思うんです。

大隅 これから先もいろいろ運営していくうえで必ず当たるのが、働いた分に見合う給料をもらっているかというところだと思うんです。結局、自負だけで安い賃金で働いてるとそういうところにぶつかると思うんです。それは創立当時からずっと抱えていることだと思いますが、それをどういうふうに改善していくかも。こういうスケジュールはほんとうにからだによくないですね。実際に、さらう時間も少なくなっているし。練習、本番をずっと積み重ねていって、練習することによって本番が不安でなくなるという、ふだん学生時代にやっていた練習量を常に持っていることはできないですね。

小川 大隅君がオーディション受けるといったときに、私、奥さんにいったけれど、「大隅君は上手だし、入ってくれたらいいと思うけれど、あなたの生活のことを思うといまひとつ勧められないわ」ということをいったんですが、そういうことがないようなオケになればいいですね。

大隅 やっぱりオーケストラに入っている音楽をしたいと思う気持と、収入ということは常にオーディション受ける人も思っていることだと思うんです。そういう面でも、演奏はもちろんそうですけど――。

赤堀 給料がよくなければいい人も受けてこないしね。いい人は辞めていっちゃうし、もう少しいい給料のオーケストラにね。

自主運営の姿勢は貫きたい

司会 そこですね。根はこっちに張りながら、新星を経済的に支えてくれる団体や個人をたくさんつくるのが、これから必要だと思いますね。

長倉 いい演奏しているうちに、お客様にわかってもらうのと同じ理由でスポンサーにわかってもらい、新星に適合するようなスポンサーを捜したいですね。

大隅 スポンサーがついたことによって自主運営とのからみです

ね。絶対自主運営じゃなくなっちゃいますからね。お金出すほうはそれは何かを要求しますよ。それにそっぽ向いてはいられないですね。

菅原 その要求するというのはどういうのを要求してくるわけですか。たとえば東響に対して「すかいらーく」は何を要求してくるの?

長倉 それはスポンサーによって全然違うでしょう。

菅原 楽員ひとりひとりがいろいろ規制されるわけじゃないでしょ。だから、べつにスポンサーがついたからといって聴衆を大切にしないようにということは絶対いわない。スポンサーがついてもみんなが聴衆のために一生懸命やるということはべつに変わらないことですね。今までできるわけですね。

池田 たとえば銀行が1社あれば必ずその相手銀行も並んでいる。ビールだったらキリンビール、サントリー、何とかも、ウイスキーも全部の会社というようなかたち、あれは非常に理想的だと思うのね。

長倉 そのほうが自主運営を続けやすいですよ。

池田 今、新星の場合だと賛助会員は12~13社ぐらいでしょ。あれが10倍になり20倍になれば、ずいぶん条件はよくなりますね。

赤堀 自主運営といえば、ウィーンフィルなんか理想的な自主運営ですね。あれはまったく楽員で管理しているわけでしょう。お金は国から出ている。それがいちばん理想的な姿じゃないのかな。

たとえばウィーンフィルのニューイヤーコンサートなんか見てても、確かにこれは聴衆とつながっているよね。お客様の表情をテレビなんかで見ても、完全に聴衆の支持を得たオーケストラという、そういうところではじめてオーケストラの存在というのを確立するんです。

司会 では、どういうオケにこれから発展していくかというところで話をもらいたいと思います。個人的にこうだったらいいなというのでも構わないし、もしかしたらこうあるべきだというのを

持っている人もいるかもしれない、理想論でも現実的でもいいと思うけれど、将来像を。

万行 練習場がほしい。

池田 事務所とくついた練習場。

小川 あとは本拠地のホールをつくる。

池田 そうね。根拠地になるところを。

岡部 とにかく練習場ですね。その前の段階で倉庫がないと。

司会 でも、倉庫があっても練習場がなかったら積み下ろしは毎日あるわけだから、同じことだね。

万行 私はもっとシンフォニーをたくさんやりたいと思います。今まで数えたら何百回かコンサートやっていて、そのなかでベートーヴェンだって何曲かしかやってないし、何回もやったのもあるけど。

菅原 かたよっているからね。今、芸術委員というのをやっているんですけど、いろんな問題を抱えているわりに、芸術委員は何をやっているんだ、いつまでたっても何の結論も出ないままにただ時間ばかり費やしている、とまわりの人は思っていると思うんですけど、プレイヤーがプレイヤー同士のことを話し合うというのも、なんか変に弱気になったりして、このままではどう考えてもこれ以上、話をいいほうに進めるのはちょっと難しいので、よくうちを理解してくれるような音楽監督、それとトレーナーみたいな人もほしいなという感じもします。

司会 そのへんはいろいろ話し合っているでしょうけれど、一応話を前に戻して、大隅、どういうオケにしていくかというのはどうですか。

大隅 みんながいい演奏をして、なおかつ、それに見合った金をもらっているなと誇れるオーケストラにしたいですね。

岡部 今、ぼくは協会を池田さんを長にしてやっているんですけど、第2回目のコントラバス募金活動など、すごくこれは労力的に大変なことなんです。また、それに携わってない人は、どうしてそ

んな面倒くさいことをしているのかなときっと思っている仲間もいると思うんです。やっている者としては、すごくある人のところばかり（協会のことだけじゃないですが）労力のしわ寄せみたいのがいって、ぼくはそういうことをやっていくオケだと思っているから、そういうようなところで改善していかなくちゃいけないんじゃないかな。そういった意見です。

池田 いろんな人との出会いがあるんですね。大変だけどこっちから働きかけるといろんな答えが返ってくる、そのおもしろさというのがあります。もっとこうしたらしいんじやないか、演奏面でもそうだし、楽団の運営のことでも、いろんなところからいろんな答えが返ってくるという出会いのおもしろさというのを私は非常に感じます。いろんな人に支えられているんだなということを、私は度々感じができるというか、そういうありがたさみたいなものですね。

司会 そういう実感が持てる場だということでしょうね。ぼくなんかも外へ出て、こども劇場のおかあさんなんかと話しているとおもしろいけれど。穂司はどういうオケにしていきたいと思いますか。

長倉 今の聞いて、岡部君のいうのもわかるけれど、大変でしょう。そういう現象というのが今の体質だと、どうしても一部の人にはかたよるんです。というのは、自主性に任せられているわけでしょう。そうやるならやるでトータルにみんなに意識があれば、ひとりひとりはもうちょっと大変じゃないとは思うけれど、楽員集会にしたって、その内容たるや、自主運営ですといいながら、だいたい出る人は決まっている。避けてる人もいるだろうし、避けざるを得ない人もいる。

だから、ぼくがなってほしい理想というのは、みんなが心をいつもひとつにして、楽員集会はいつも60人以上出てとか、言葉だけの理想論じゃなくて、金銭的なゆとり、精神的なゆとりがなければできない。家にかえって女房と子供を養わなければいけない。そういうことで今までいうことはそれぞれよくわかるけれど、ときに

は出れない、関われない。これだけ忙しいと、ぼくだって芸術委員しかやらないし、その余った時間でどう生活を切り抜けていくかということが最大課題になってしまう。

池田 今も話に出たけれど、オーケストラ活動に専念できる給料と時間の余裕がほしいですね。

司会 赤堀さん、新星の将来はどうですか。

赤堀 楽員集会もやるし総会もやって、自主運営という制度の上で保証されたことは一応形式的にはできているわけだけど、それが十分に活かされてないわけ。自主運営ということは楽員の自主的な民主的な発意で楽団が音楽面をつくりあげていくことでしょう。その民主的というところがうまくいってない。それはもちろん長倉君がいったように、楽員集会に出ないとか楽員側の問題もあるけれど、三役がその場では聞いていても右から左へ素通りしてしまっているというようなこと、そういうものが改善されなければ、かたちだけの民主主義になってしまう。ほんとうに自主運営のよさを活かしていかなければいけない、それでなければ意味ないです。そうしなければこの新星の今までいわれた演奏のよさもいつかはなくなってしまう。

今までいわれたようにもちろんお金がほしい、いい演奏したい。いい演奏というのは単に技術が高いだけでなく、同時に、ほんとうに人間らしい生き生きした演奏をいつもしたい。それにはスケジュールにもう少し余裕がほしい。

今こそ、多数意見の集約を

長倉 ぼく、ひとりひとりはすごいパワーを感じるわけです。若い人もみんなちゃんとを考えているはずです。だから、それをうまく利用してないなと思います。

赤堀 利用していないというか、汲み上げてないということはありますね。

長倉 運営についてのいろんな意見でも、集団でまとめあげれば

いい答えが出てきそうなものなのに、それがそこまでいたってない。いろんな考え方があるけれど、誰か楽員にまとめる人がいて、「じゃあ、話し合おうじゃないか」といったら、きっとすごく出てくるんじゃないかなと思ったことは何回もある。

小川 そういう意味では、私たちの年代がちょっとだらしないなというふうに感じたことはありませんか。いわばこれからの団を支えていく年代でしょう。でも、自分を含めて私たちの年代はちょっとだらしないというか、まとめる力に欠けてるというか、その責任は感じるんです。

長倉 するいところがあるかもしれないね。

小川 ちょうど私たちはどっちともつかない年代に入ってきて、ここまできちゃったけれど、上の人と下の人の問題意識を、ギャップを、まとめていくかというのが私たちの年代でしょう。これから10年先の新星をどういうふうにしたらよくしていけるかというのは、今の30代後半というか、30代ぐらいの人の年代にかかっていると思うけれど、自分にはそういう力はないし、全体的にもそういう力にちょっと乏しいなというような責任を感じるんです。

長倉 たとえば岡部みたいに気がつかないところで一生懸命やっている人もいるのに、それに気づいてないということがあるかもしれない。だから、楽員集会じゃない何か話す機会がないとダメですね。楽員集会というのは、時間がないから、ほんとうの事務的な当面のクリアしなければいけないことを、とにかく報告して終わりみたいなところがある。

赤堀 確かに時間的にも肉体的にも大変だし余裕がないから、楽員集会が伝達だけに終わってしまうという物理的な現象はひとつはあるけれど、そういうものが続いていってしまうと、新しく入った若い人はそこでは事務的な発言しかできないんだという、そういう習慣になってしまって。だから、習慣を変えていかなければならない。

池田 運営委員会の責任もあるでしょうね。

長倉 民主的な運営委員会を円滑に行う。

赤堀 民主的な制度のおさらいみたいなことをいうのもちょっと気がひけるけれど、まず、総会というのが最高の決議機関です。これで1年間の方針を決めて、それに従って運営委員会は総会の権威を引き継いで1年間運営していくわけですね。そういう役割を持っている。総会というのはもちろん楽員全部。だから、楽員全部の信任を得た運営委員会というもの、もちろん投票するのだから不信任な人もいるだろうけれど、全体としては信任されているわけですね。そういう運営委員会というのが運営されていくのに、現状では管理者と従業員という関係みたいにみえてしまう。新しい人はたいていそういうふうに受け取っちゃうのじゃないですか。そのところを根本的に民主主義を復活させていかなければいけない。

長倉 最近とみに忙しいからね。

赤堀 忙しいということを考慮したうえでそういうやり方はあると思う。

司会 また、忙しくなければやっていけないのだったら、忙しいなかでどう民主主義をちゃんと貫くかということを考えなければいけないですね。

赤堀 それでこそはじめて生き生きした演奏を維持できるんじゃないかと思うんです。

長倉 ぼくらは半ばの年代だから、直接三役の人たちとわりと気軽に話すんですけど、新しく入った人はそれすらできないというか、それなりのストレスってあるでしょう。まだぼくなんて文句いっちゃうみたいなことができるけれど。

これだけ人数が増えると人間関係変わりますものね。だって、昔は一人に対して話す時間というのはすごく多かったけれど、今は新しく入った人とセクションも違えばそんなに話もしないし、それこそ何を考えているかよくわからない。

赤堀 だから、さっき恵子ちゃんがいった芸術委員の音楽的な指摘の問題にしても、そういう雰囲気のなかでは相当程度までいえる

ようになると思うけど。もちろん、音楽家としていえないということもあるだろうけれど、できるかぎり音楽上も楽員管理ということをやったほうがいいと思うんです。それにはそういう何でもいえる雰囲気が必要ですね。

大隅 だけど、難しい面もありますよね。表面上はうまくいっているようでも、そういうことをいわれたことに対してやっぱりとなるところが出てくると、こんど一緒にアンサンブルするときなんかキビシイようなものを感じるんじゃないかと思いますけど。

長倉 ぼくなんかは逆に芸術委員を離れたところで、プレイヤーとして個人的にもっといえる雰囲気がほしいと思うことはありますけど、むしろそのほうがお互い個人対個人で気が楽で。

赤堀 これもひとつの課題だと思うね。運営の面での民主主義をもっと復活強化させるということと同時に、音楽上の問題での民主主義というのはどういうかたちであるべきかということは、いわばはじめての経験みたいな、おそらく日フィルなどでもそうだと思うけれど、その点ではずいぶん苦労しているんじゃないかと思うのね。自分たちで模索していかなければ、少なくとも日本では過去にそういうことはなかったから。過去になかったからといって簡単に芸術監督を呼んできて、それにすべてを任せるというのは具合が悪いんじゃないかと思うけどね。

司会 ぼくはときどき思うんですけど、オーケストラのチューニングのときにオーボエに合わせるでしょう。いちばん弱いところにみんな合わせるわけですね。あれはたぶんオーケストラの基本だろうと思うんです。だから、赤堀さんがおっしゃった音楽上の民主主義というのは、可能なのじゃないか。

では、話したいことはたくさんあると思いますが、紙面の都合もありこの辺で終わらせていただきます。本日はご苦労様でした。

1989(平成元)年3月20日(月)於江東文化センター

講演会の音楽監督としての活動に対する感想
主な講演会の音楽監督としての活動に対する感想

新星日本交響楽団 20年史

資料編

二郎表記、人間の心をもつた「人間」の形態。
資料編 常会令治文八月五日 01 頁 1 頁
七二郎状記アドバイス。人間の心をもつた「人間」の形態。
〔二〕現中臨山0001現。木のひだりを想。諸方異風流。
〔三〕武吉御前田御空ひゆうひゆう高音質の踏脚石。それをめぐる。
「人間」の心をもつた「人間」の形態。
〔五〕立派な御社。人間の心をもつた「人間」の形態。

1. 定期公演演奏記録

Chronological List of Subscription Concerts

(1) 定期公演演奏記録(第1回～第125回) Subscription Concerts

1969年

- 第1回 10月2日/文京公会堂 指揮/村川千秋・諸井昭二
• シベリウス/交響詩「フィンランディア」[諸井昭二]
• 福島雄次郎/弦楽のための木遣り唄(1969)[諸井昭二]
• エヴァルト/5声部の金管合奏のための交響曲[指揮者なし]
• ポール・デュカス/パレエ「ラ・ベリ」より“ファンファーレ”
[指揮者なし]
• 助川敏弥編曲/カンタータ「返せ沖縄」より、序章・II・III・IV章
[村川千秋]
• ベートーヴェン/交響曲第5番 ハ短調「運命」[村川千秋]

1970年

- 第2回 3月11日/渋谷公会堂 指揮/村川千秋
独唱(奏)/山根弥生子(Pf) 成田絵智子(Alt) 宮崎義昭(Ten)
合唱/合唱団わだち
• シベリウス/組曲「カレリア」より“行進曲風に”
• ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第3番 ハ短調
• 清瀬保二/レクイエム「無名戦士」(1962)
• ベートーヴェン/交響曲第7番 イ長調
第3回 11月5日/日比谷公会堂 指揮/村川千秋
• スメタナ/交響詩「わが祖国」より“モルダウ”
• 田村徹/管弦楽のためのプレリュード(1970)【日本初演】
• 小山清茂/弦楽のためのアイヌの唄(1964)
• チャイコフスキイ/交響曲第5番 ホ短調

1971年

- 第4回 3月5日/文京公会堂 指揮/外山雄三
• 武満徹/弦楽のためのレクイエム(1957)

- ドヴォルザーク/交響曲第9番 ホ短調「新世界より」
 - チャイコフスキー/交響曲第6番 ロ短調「悲愴」
- 第5回 7月2日/文京公会堂 指揮/外山雄三
独奏/北川暁子(Pf)
小倉朗/弦楽合奏のためのソナチネ(1963)
大木正夫/交響曲「ベトナム」より「ドンロックの10人の娘」(1970)
- 【高時計録】
ショパン/ピアノ協奏曲第1番 ホ短調
ラームス/交響曲第1番 ハ短調
- 第6回 10月11日/郵便貯金ホール 指揮/森正
芥川也寸志/弦楽のための三章[トリプティック](1953)
ショパン/ピアノ協奏曲第2番 ヘ短調
シベリウス/交響曲第2番 ニ短調
- 1972年**
- 第7回 3月6日/文京公会堂 指揮/山田一雄
独奏/黒沼ヨリ子(Vln)
ウェーバー/歌劇「魔弾の射手」序曲
間宮芳生/ヴァイオリン協奏曲(1959)
チャイコフスキー/交響曲第4番 ヘ短調
- 第8回 7月6日/文京公会堂 指揮/秋山和慶
ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスター・ジンガー」序曲
林光/交響曲 ト調(1953)
ベートーヴェン/交響曲第3番 変ホ長調「英雄」
- 第9回 12月27日/郵便貯金ホール 指揮/外山雄三
独唱/小池容子(Sop) 成田絵智子(Alt) 下野昇(Ten)
田島好一(Bar)
合唱/東京労音合唱団
高田三郎/山形民謡によるバラード(1965)
ベートーヴェン/交響曲第9番 ニ短調「合唱付」
- 1973年**
- 第10回 3月1日/渋谷公会堂 指揮/山岡重信
独奏/村上弦一郎(Pf)
平尾貴四男/古代讃歌(1935)
モーツァルト/ピアノ協奏曲第24番 ハ短調
ラームス/交響曲第4番 ホ短調
- 第11回 7月3日/文京公会堂 指揮/山岡重信
伊福部昭/交響譚詩(1943)
モーツァルト/交響曲第36番 ハ長調「リンツ」

- ・チャイコフスキー/幻想的序曲「ロメオとジュリエット」
 - ・ストラヴィン斯基/バレエ組曲「火の鳥」
- 第 12 回 12月 18 日 / 中野サンプラザ 指揮 / 伴有雄
 独唱 / 佐藤則子 (Sop) 成田絵智子 (Alt) 高丈二 (Ten)
 川村英二 (Bar)
- 合唱 / 尚美高等音楽院合唱団
 • 広瀬量平 / 祝典序曲「ウィンター・ワンダーランド」(1971)【舞台初演】
 • ベートーヴェン / 交響曲第 9 番 ニ短調「合唱付」

1974 年

- 第 13 回 4 月 3 日 / 東京文化会館 指揮 / 外山雄三
 独唱 / 成田絵智子 (Alt)
 合唱 / 三多摩青年合唱団、合唱団白樺、川崎労音合唱団、中央合唱団、新星友の会合唱団、アレクサンドル = ネフスキーコンサート、東京女声アンサンブル、東京労音合唱団有志
 • 外山雄三 / 沖縄民謡によるラブソディ (1964)
 • ベルリオーズ / 幻想交響曲
 • プロコフィエフ / カンタータ「アレクサンドル = ネフスキー」
- 第 14 回 9 月 29 日 / 東京文化会館 指揮 / アントニン・キューネル
 独奏 / ヤン・ホラーク (Pf)
 • スメタナ / 歌劇「壳られた花嫁」序曲
 • ドヴォルザーク / ピアノ協奏曲 ト短調
 • ベートーヴェン / 交響曲第 6 番 へ長調「田園」
- 第 15 回 12 月 26 ・ 27 日 / 日比谷公会堂 指揮 / 山田一雄
 独唱 / 中沢桂 (Sop) 戸田敏子 (Alt) 砂川稔 (Ten) 栗林義信 (Bar)
 合唱 / 新星日響とともに歌う「第九」合唱団、新星友の会合唱団、文京混声合唱団
 • 佐藤敏直 / 星と大地とによる舞曲 (1974)【委嘱作・初演】
 • ベートーヴェン / 交響曲第 9 番 ニ短調「合唱付」

1975 年

- 第 16 回 3 月 10 日 / 東京文化会館 指揮 / アントニン・キューネル
 • ドヴォルザーク / 交響曲第 8 番 ト長調
 • スメタナ / 交響詩「わが祖国」より“モルダウ”“シャルカ”
 • ヨゼフ・スーク / 交響詩「プラハ」【日本初演】
- 第 17 回 7 月 22 日 / 東京文化会館 指揮 / 森正
 • ブリテン / 青少年のための管弦楽入門 (語り / 森正)
 • 外山雄三 / 管弦楽のためのディヴェルティメント (1961)

- モーツアルト/セレナード第13番 ト長調「アイネ・クライネ・ナハ
トムジーク」

- ベートーヴェン/交響曲第5番 ハ短調「運命」

第18回 12月26・27日/日比谷公会堂 指揮/山田一雄
 独唱/小池容子(Sop) 秋葉京子(Alt) 田原祥一郎(Ten)
 栗林義信(Bar)
 合唱/新星日響とともに歌う「第九」合唱団、新星日響合唱団、文京混声
 合唱団
 小倉朗/オーケストラのためのコンポジション「嬰へ」(1975)
 ベートーヴェン/交響曲第9番 =短調「合唱付」

1976年

第19回 4月8日/東京文化会館 指揮/アントニン・キューネル
 独奏/和波孝禕(Vln)
 ノヴァーク/交響詩「タトラスにて」【日本初演】
 メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調
 フランク/交響曲 =短調

第20回 7月22日/東京文化会館 指揮/星出豊
 独奏(唱)/野坂恵子(箏) 中沢桂(Sop) 木村宏子(Alt)
 田原祥一郎(Ten) 岡村喬生(Bas)
 合唱/新星日響ヴェルディ合唱団、東京声専音楽学校合唱団
 三木稔/「破の曲」二十絃箏とオーケストラのための協奏曲(1974)
 ヴェルディ/レクイエム

第21回 9月14日/東京文化会館 指揮/三石精一
 独奏/シャンドール・ファルヴァイ(Pf) 北川暁子(Pf)*
 林光/管弦楽のための変奏曲(1955)
 シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調
 ストラヴィン斯基/バレエ組曲「ペトルーシュカ」*

第22回 12月22日/日比谷公会堂 指揮/山田一雄
 独唱/常森寿子(Sop) 志村年子(Alt) 田原祥一郎(Ten)
 芳野靖夫(Bar)
 合唱/新星日響「第九」合唱団
 小山清茂/管弦楽のための信濃囃子(1946)
 ベートーヴェン/交響曲第9番 =短調「合唱付」

1977年

第23回 4月6日/東京文化会館 指揮/山田一雄
 独奏/堀了介(Vlc)
 広瀬量平/チェロ協奏曲「悲(トリステ)」(1971)

- ・ビゼー/組曲「カルメン」
 - ・ムソルグスキー/組曲「展覧会の絵」
- 第 24 回 5月 6 日 / 東京文化会館 指揮 / 森正
独奏 / 江藤俊哉 (Vln)
- ・三善晃 / オーケストラのためのレオス (1976)
 - ・チャイコフスキイ / ヴァイオリン協奏曲 ニ長調
 - ・マーラー / 交響曲第 1 番 ニ長調「巨人」
- 第 25 回 7月 26 日 / 東京文化会館 指揮 / ハンス・レーヴライン
独唱 / 中沢桂 (Sop) 木村宏子 (Alt) 鈴木寛一 (Ten)
芳野靖夫 (Bar)
- 合唱 / 新星日響「モーツアルト・レクイエム」合唱団
- ・ブームス / 交響曲第 2 番 ニ長調
 - ・モーツアルト / レクイエム ニ短調
- 第 26 回 9月 5 日 / 東京文化会館 指揮 / アントニン・キューネル
独奏 / 堤剛 (Vlc)
- ・ワーグナー / 歌劇「ローエングリン」第 3 幕への前奏曲
 - ・ドヴォルザーク / チェロ協奏曲 ロ短調
 - ・チャイコフスキイ / 交響曲第 6 番 ロ短調「悲愴」
- 第 27 回 12 月 27 日 / 日比谷公会堂 指揮 / 外山雄三
独唱 / 林光 (詩朗読) 曾我栄子 (Sop) 成田絵智子 (Alt)
丹羽勝海 (Ten) 勝部太 (Bar)
- 合唱 / 新星日響「第九」合唱団
- ・林光 / 声とオーケストラのための「日本共和国初代大統領への手紙」
【日本初演】
 - ・ベートーヴェン / 交響曲第 9 番 ニ短調「合唱付」

1978 年

- 第 28 回 3 月 1 日 / 東京文化会館 指揮 / 山田一雄
独奏 / 前橋汀子 (Vln)
- ・團伊玖磨 / 「日本からの手紙」第 3 番 (1974)
 - ・團伊玖磨 / 「日本からの手紙」第 2 番 (1969)
 - ・ベートーヴェン / ヴァイオリン協奏曲 ニ長調
 - ・ショスタコーヴィチ / 交響曲第 1 番 ヘ短調
- 第 29 回 4 月 24 日 / 東京文化会館 指揮 / 尾高忠明
独奏 / 宮沢明子 (Pf)
- ・武満徹 / グリーン (ノヴェンバーステップス II) (1967)
 - ・グリーグ / ピアノ協奏曲 イ短調
 - ・チャイコフスキイ / 交響曲第 5 番 ホ短調
- 第 30 回 7 月 20 日 / 日比谷公会堂 指揮 / 渡辺曉雄

- 独唱/常森寿子(Sop) 芳野靖夫(Bar)
- 合唱/新星日響「フォーレ・レクイエム」合唱団
- ・小山清茂/管弦楽のための木挽唄(1957)
 - ・シベリウス/交響曲第1番 ハ短調
 - ・フォーレ/レクイエム
- 第 31 回 12月 26・27日/日比谷公会堂 指揮/ハンス・レーヴライン
独唱/真島美弥(Sop) 志村年子(Alt) 板橋勝(Ten)
平野忠彦(Bar)
- 合唱/新星日響「第9」合唱団
- ・シューベルト/交響曲第8番 ロ短調「未完成」
 - ・ベートーヴェン/交響曲第9番 ニ短調「合唱付」
- 1979年**
- 第 32 回 1月 10日/東京文化会館 指揮/ハンス・レーヴライン
独唱/中沢桂(Sop) 板橋勝(Ten) 平野忠彦(Bar)
- 合唱/新星日響「カルミナ・ブラーナ」合唱団、東京荒川少年少女合唱隊
- ・ウェーバー/歌劇「魔弾の射手」序曲
 - ・ロベルト・スッターラ/オーケストラのためのソナタ(1967)【日本初演】
 - ・カール・オルフ/カルミナ・ブラーナ
- 第 33 回 2月 3日/東京文化会館 指揮/山田一雄
独奏/弘中孝(Pf)
- ・広瀬量平/オーケストラのための「カラヴィンカ」【東京初演】
 - ・リスト/ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調
 - ・ブルックナー/交響曲第4番 変ホ長調「ロマンティック」(ノヴァーク版)
- 第 34 回 4月 4日/東京文化会館 指揮/外山雄三
独奏/徳永二男(Vln)
- ・佐藤敏直/星と大地とによる舞曲(1974)
 - ・ブームス/ヴァイオリン協奏曲 ニ長調
 - ・ショスター・ヴィチ/交響曲第5番 ニ短調
- 第 35 回 7月 25日/東京文化会館 指揮/佐藤功太郎
合唱/新星日響「ケルビーニ・レクイエム」合唱団
- ・佐藤 真/管弦楽のためのラプソディー(1978)【舞台初演】
 - ・ハイドン/交響曲第48番 ハ長調「マリア・テレジア」
 - ・ケルビーニ/レクイエム第1番 ハ短調
- 第 36 回 9月 12日/東京文化会館 指揮/山田一雄
独奏/安倍圭子(Marimba)
- ・伊福部昭/オーケストラとマリンバのための「ラウダ・コンチェルタータ」(1979)【委嘱作・初演】

- ・ハイドン/シンフォニア ニ長調
 - ・ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」
- 第 37 回 10月 23 日/東京文化会館 指揮/ズデニエック・コシュラー
独唱/常森寿子(Sop) 木村宏子(M. Sop) 鈴木寛一(Ten)
芳野靖夫(Bar)
- 合唱/新星日響「モーツアルト・レクイエム」合唱団
- ・モーツアルト/交響曲第 36 番 ハ長調「リンツ」
 - ・モーツアルト/レクイエム ニ短調
- 第 38 回 11月 26 日/東京文化会館 指揮/森正
独奏/ミクローシュ・ペレーニ(Vlc)
- ・高橋悠治/めしは天(1978)
 - ・サン=サーンス/チェロ協奏曲第 1 番 イ短調
 - ・チャイコフスキイ/ロココ風の主題による変奏曲
 - ・ラフマニノフ/交響曲第 2 番 ホ短調
- 1980 年**
- 第 39 回 3月 31 日/東京文化会館 指揮/星出豊
独唱/中沢桂(Sop) 志村年子(Alt) 高橋啓三(Bas)
合唱/三友合唱団、新星日響合唱団
- ・ドヴォルザーク/レクイエム
- 第 40 回 5月 13 日/東京文化会館 指揮/山田一雄
独奏/山下和仁(Guitar)
- ・コダーリ/ガランタ舞曲
 - ・ジュリアーニ/ギター協奏曲 イ短調
 - ・ロドリーゴ/アランフェス協奏曲
 - ・伊福部昭/日本狂詩曲(1935)【舞台初演】
- 第 41 回 7月 16 日/東京文化会館 指揮/佐藤功太郎
独唱/齐藤昌子(Sop) 志村年子(Alt) 佐々木正利(Ten)
高橋啓三(Bar)
- 合唱/新星日響合唱団
- ・R. シュトラウス/交響詩「ティル=オイレンシュピーゲルの愉快ない
たずら」
 - ・モーツアルト/ミサ曲 ハ長調「戴冠ミサ」
 - ・伊福部昭/タブカラ交響曲(1954)
- 第 42 回 9月 15 日/東京文化会館 指揮/ハンス・レーヴライン
独奏/津堅直弘(Trumpet)
- ・ワーグナー/「ファウスト」序曲
 - ・フンメル/トランペット協奏曲 変ホ長調
 - ・ブラームス/交響曲第 4 番 ホ短調

- 第 43 回 11月 27 日/東京文化会館 指揮/ハンス・レーヴライン 11回 02 第
独唱/常森寿子(Sop) 芳野靖夫(Bar) 作曲/平井義喜 鋼琴
合唱/新星日響合唱団
- R. シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」
 - モーツアルト/交響曲第 40 番 ト短調
 - フォーレ/レクイエム
- 1981 年
- 第 44 回 1月 28 日/東京文化会館 指揮/井上道義 11回 03 第
独奏/カール・ズスケ(Vln)
- ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲第 1 番 ト短調
 - ブルックナー/交響曲第 9 番 ニ短調(ノヴァーク版)
- 第 45 回 3月 26 日/東京文化会館 指揮/小林研一郎 11回 04 第
独奏/田近完(Pf)
- 石桁真礼生/交響曲 嬰ヘとハを基音とする(1965)
 - モーツアルト/ピアノ協奏曲第 20 番 ニ短調
 - ベルリオーズ/幻想交響曲
- 第 46 回 5月 16 日/東京文化会館 指揮/山田一雄 11回 05 第
独唱/中沢桂(Sop) 木村宏子(Alt) 鈴木寛一(Ten) 木川田澄(Bas)
合唱/新星日響合唱団
- 柴田南雄/ディアフォニア(1979)
 - ブルックナー/テ・デウム ハ長調
 - サン=サーンス/交響曲第 3 番 ハ短調
- 第 47 回 6月 17 日/新宿文化センター 指揮/アントニン・キューネル 11回 06 第
独奏/神野明(Pf)
- スメタナ/交響詩「わが祖国」より“ボヘミアの森と平原から”
 - ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第 2 番 ハ短調
 - パルトーク/管弦楽のための協奏曲
- 第 48 回 7月 15 日/東京文化会館 指揮/山田一雄 11回 07 第
独奏/沢井忠雄(箏)
- ベルリオーズ/序曲「海賊」
 - 石井眞木/箏と管弦楽のための雅影(1980)
 - シューベルト/交響曲第 9 番 ハ長調「グレート」
- 第 49 回 10月 26 日/東京文化会館 指揮/佐藤功太郎 11回 08 第
独奏/渡辺康雄(Pf)
- シューマン/交響曲第 3 番 変ホ長調「ライン」
 - 矢代秋雄/ピアノ協奏曲(1967)
 - ラヴェル/「ダフニスとクロエ」第 2 組曲

- 第 50 回 11月 21 日 / 東京文化会館 指揮 / オンドレイ・レナルド
 独唱 / 曽我栄子 (Sop) 伊原直子 (Alt) 小林一男 (Ten)
 芳野靖夫 (Bar)
 合唱 / 新星日響合唱団
 • ドヴォルザーク / スターバト・マーテル
- 第 51 回 12月 24 日 / 日比谷公会堂 指揮 / オンドレイ・レナルド
 独唱 / 中沢桂 (Sop) 木村宏子 (Alt) 鈴木寛一 (Ten) 勝部太 (Bar)
 合唱 / 新星日響合唱団
 • スホニュー / リトル・スイート・バッサカリア Op. 3 (1939/67) 【日本初演】
 • ベートーヴェン / 交響曲第 9 番 ニ短調「合唱付」

1982 年

- 第 52 回 1 月 26 日 / 東京文化会館 指揮 / 外山雄三
 独奏 / 三戸泰雄 (Vln)
 • シューベルト / 交響曲第 8 番 ロ短調「未完成」
 • メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲 ホ短調
 • コダーリ / 組曲「ハーリ・ヤーノ・シュ」
- 第 53 回 2 月 19 日 / 新宿文化センター 指揮 / 国分誠
 独奏 / 金昌国 (Flt) 篠崎史子 (Harp)
 • モーツアルト / 交響曲第 36 番 ハ長調「リソツ」
 • モーツアルト / フルートとハープのための協奏曲 ハ長調
 • ブラームス / 交響曲第 1 番 ハ短調
- 第 54 回 3 月 22 日 / 東京文化会館 指揮 / 山田一雄
 独奏 / 井上直幸 (Pf)
 • 吉松隆 / 朱鷺による哀歌 (1980)
 • モーツアルト / ピアノ協奏曲第 27 番 変ロ長調
 • チャイコフスキイ / 交響曲第 4 番 ヘ短調
- 第 55 回 4 月 23 日 / 新宿文化センター 指揮 / 沢安彦
 独奏 / 堀米ゆず子 (Vln)
 • チャイコフスキイ / 幻想的序曲「ロメオとジュリエット」
 • ブラームス / ヴァイオリン協奏曲 ニ長調
 • ベートーヴェン / 交響曲第 7 番 イ長調
- 第 56 回 5 月 7 日 / 東京文化会館 指揮 / 佐藤功太郎
 独奏 / 野島稔 (Pf)
 • 武満徹 / 地平線のドーリア (1966)
 • ラフマニノフ / バガニーニの主題による狂詩曲
 • チャイコフスキイ / 交響曲第 2 番 ハ短調「小ロシア」
- 第 57 回 6 月 28 日 / 新宿文化センター 指揮 / 小林研一郎

- 独奏/久保陽子(Vln) 金出勝 指揮 新星日響合唱団
 • ベルリオーズ/序曲「ローマの謝肉祭」小川 佐藤功太郎
- 池辺晋一郎/ヴァイオリン協奏曲(1981)日比谷田崎
- チャイコフスキー/交響曲第5番 ホ短調 新星日響合唱団
- 第 58 回 7月 14 日/東京文化会館 指揮/ハンス・レーヴライン
 独唱/中沢桂(Sop) 芳野靖夫(Bar) 新星日響合唱団
 合唱/新星日響合唱団 新星日響合唱団
 • ブラームス/ドイツ・レクイエム 新星日響合唱団
- 第 59 回 10月 1 日/東京文化会館 指揮/佐藤功太郎
 独唱/大倉由紀枝(Sop) 牧川修一(Ten) 勝部太(Bar)
 合唱/新星日響合唱団 新星日響合唱団
 • 林光/「白墨の輪」組曲(1982)【委嘱新作・初演】新星日響合唱団
 • シューベルト/ミサ曲第2番 ド長調 新星日響合唱団
 • チャイコフスキー/交響曲第6番 ロ短調「悲愴」新星日響合唱団
- 第 60 回 11月 4 日/東京文化会館 指揮/佐藤功太郎
 独奏/ミハイル・ブレトニヨフ(Pf) 新星日響合唱団
 • チャイコフスキー/ピアノ協奏曲第1番 ハ短調 新星日響合唱団
 • チャイコフスキー/交響曲「マンフレッド」新星日響合唱団
- 第 61 回 12月 23 日/日比谷公会堂 指揮/ヨハネス・ヴィンクラー
 独唱/中沢桂(Sop) 中田智穂子(Sop)* 荘智世恵(Alt)
 鈴木寛一(Ten) 小松英典(Bar)
 合唱/新星日響合唱団 新星日響合唱団
 • ウド・ツィンマーマン/「ヒロシマというとき」日本語版(1981/82)*
新星日響合唱団
 • ベートーヴェン/交響曲第9番 ハ短調「合唱付」新星日響合唱団
- 1983年 新星日響合唱団
- 第 62 回 1月 31 日/東京文化会館 指揮/星出豊
 独唱/辻宥子(M. Sop) 勝部太(Bas) 新星日響合唱団
 • ニールセン/交響曲第4番「不滅」 新星日響合唱団
 • チャイコフスキー/歌劇「オルレアンの少女」組曲【演奏会形式初演】
- 第 63 回 3月 9 日/東京文化会館 指揮/山田一雄
 • ベートーヴェン/交響曲第5番 ハ短調「運命」 新星日響合唱団
 • ショスタコーヴィチ/交響曲第5番 ハ短調 新星日響合唱団
- 第 64 回 4月 22 日/新宿文化センター 指揮/佐藤功太郎
 独奏/迫昭嘉(Pf) 新星日響合唱団
 • パッヘルストコフスキーア/トッカータとフーガ 新星日響合唱団
 • ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 新星日響合唱団
 • ストラヴィンスキーア/バレエ組曲「春の祭典」新星日響合唱団

- 第 65 回 5月 26 日 / 東京文化会館 指揮 / 朝比奈隆
 独唱 / 常森寿子 (Sop) 伊原直子 (Alt) 小林一男 (Ten)
 池田直樹 (Bar)
 合唱 / 新星日響合唱団
 • ベートーヴェン / 荘厳ミサ曲 ニ長調
- 第 66 回 6月 23 日 / 新宿文化センター 指揮 / 小林研一郎
 独奏 / 小山実稚恵 (Pf)
 • 浦田健次郎 / 祝典のための音楽 (1968)
 • リスト / ピアノ協奏曲第 1 番 変ホ長調
 • シベリウス / 交響曲第 2 番 ニ長調
- 第 67 回 9月 24 日 / 東京文化会館 指揮 / 松尾葉子
 独奏 / 金昌国 (Flt)
 • ラヴェル / 道化師の朝の歌
 • 尾高尚忠 / フルート協奏曲 作品 30b (1948)
 • リムスキイ = コルサコフ / 交響組曲「シェエラザード」
- 第 68 回 10月 25 日 / 新宿文化センター 指揮 / 山田一雄
 独奏 / 数住岸子 (Vln)
 • ムソルグ斯基 / 穂山の一夜 (原典版) 【日本初演】
 • ベルク / ヴァイオリン協奏曲
 • ブラームス / 交響曲第 4 番 ホ短調
- 第 69 回 11月 19 日 / 東京文化会館 指揮 / 佐藤功太郎
 独奏 / ミハイル・ブレトニヨフ (Pf)
 • ドビュッシー / 牧神の午後への前奏曲
 • ショパン / ピアノ協奏曲第 2 番 ヘ短調
 • ベートーヴェン / 交響曲第 3 番 変ホ長調「英雄」
- 第 70 回 12月 26 日 / 東京文化会館 指揮 / オンドレイ・レナルド
 独唱 / 中沢桂 (Sop) 荒道子 (Alt) 山路芳久 (Ten) 小松英典 (Bar)
 合唱 / 新星日響合唱団
 • ゼリエンカ / ウベラチューラ・ジョコーザ (楽しい序曲) (1982) 【日本初演】
 ベートーヴェン / 交響曲第 9 番 ニ短調「合唱付」

1984 年

- 第 71 回 1月 17 日 / 東京文化会館 指揮 / オンドレイ・レナルド
 独唱 / 常森寿子 (Sop) 鈴木寛一 (Ten)
 合唱 / 新星日響合唱団、東京荒川少年少女合唱隊
 • プロコフィエフ / 交響曲第 1 番 ニ長調「古典交響曲」
 • カール・オルフ / カルミナ・ブランナ
- 第 72 回 3月 29 日 / 東京文化会館 指揮 / 山田一雄

独奏/園田高弘(Pf)

- モーツアルト/交響曲第41番 ハ長調「ジュピター」
- ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調「皇帝」
- ラヴェル/ボレロ

第73回 4月20日/東京文化会館 指揮/井上道義
協演/日本音楽団
三木稔/「急の曲」—2つの世界のための交響曲(1981)
ホルスト/組曲「惑星」

第74回 5月12日/東京文化会館 指揮/佐藤功太郎
独唱/曾我栄子(Sop) 伊原直子(Alt) 小林一男(Ten)
高橋啓三(Bar)
合唱/新星日響合唱団
ヴェルディ/レクイエム

第75回 6月25日/東京文化会館 指揮/小林研一郎
独唱/瀬山詠子(Sop)
石桁真礼生/交響的暗示(暗示IV)ソプラノとオーケストラによる
(1983)
マーラー/交響曲第1番 ニ長調「巨人」

第76回 9月14日/東京文化会館 指揮/ヴィクター・フェルドブリル
独奏/ダニエル・ペニヤミニー(Vla)
シューベルト/交響曲第8番 ロ短調「未完成」
ハリー・サマーズ/パッサカリアとフーガ(1954)
バルトック/ヴィオラ協奏曲
R.シュトラウス/「ばらの騎士」組曲

第77回 10月18日/東京文化会館 指揮/佐藤功太郎
独奏/加藤知子(Vln)
池辺晋一郎/星が飛ぶ時のための序曲【委嘱作・初演】
ラロ/ヴァイオリン協奏曲第2番 ニ短調「スペイン交響曲」
ラヴェル/亡き王女のためのバヴァーヌ
ドビュッシー/交響詩「海」

第78回 11月24日/東京文化会館 指揮/ルドルフ・クレチメル
独奏/アンドラーシュ・シフ(Pf)
ハイドン/交響曲第88番 ト長調
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第4番 ト長調
ドヴォルザーク/交響曲第8番 ト長調

第79回 12月19日/東京文化会館 指揮/ヴァーツラフ・ノイマン
独唱/常森寿子(Sop) 辻宥子(Alt) 鈴木寛一(Ten) 勝部太(Bar)
合唱/新星日響合唱団
マーラー/カンタータ「嘆きの歌」

1985年

- 第 80 回 1月 28 日 / 東京文化会館 指揮 / 佐藤功太郎
独奏 / 松浦真一(Ob) 荒井伸一(Cla) 古野淳(Hrn)
菅原恵子(Fag)
・武満徹 / 弦楽のためのレクイエム(1957)
・モーツアルト / オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットのための
協奏交響曲 変ホ長調
・ムソルグスキー / 組曲「展覧会の絵」(ラヴェル編曲)
- 第 81 回 2月 14 日 / 東京文化会館 指揮 / 大町陽一郎
独奏 / 藤井一興(Pf)
・ワーグナー / 楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「前奏曲と愛の死」
・モーツアルト / ピアノ協奏曲第 23 番 イ長調
・ベートーヴェン / 交響曲第 6 番 へ長調「田園」
- 第 82 回 4月 1 日 / 東京文化会館 指揮 / 山田一雄
独奏 / 園田高弘(Pf)
・モーツアルト / 交響曲第 40 番 ト短調
・ラフマニノフ / ピアノ協奏曲第 3 番 ニ短調
・レスピーギ / 交響詩「ローマの松」
- 第 83 回 5月 20 日 / 東京文化会館 指揮 / 佐藤功太郎
・佐藤敏直 / 哀歌(1982)
・バッハ / ブランデンブルク協奏曲第 4 番 ト長調
・ベルリオーズ / 幻想交響曲
- 第 84 回 6月 1 日 / 東京文化会館 指揮 / 国分誠
独奏 / 伊藤恵(Pf)
・尾高惇忠 / オーケストラのための「イマージュ」(1981)
・ショーマン / ピアノ協奏曲 イ短調
・ブルックナー / 交響曲第 4 番 変ホ長調「ロマンティック」(ノヴァー
ク版)
- 第 85 回 7月 16 日 / 新宿センター 指揮 / 秋山和慶
独唱 / 常森寿子(Sop) 大島洋子(Sop) 伊原直子(Alt)
鈴木寛一(Ten) 小松英典(Bas)
合唱 / 新星日響合唱団
・バッハ / ミサ曲 ロ短調
- 第 86 回 10月 21 日 / 東京文化会館 指揮 / ハンス・ワルター・ケンペル
独奏 / 中村絃子(Pf)
・ハイドン / 交響曲第 100 番 ト長調「軍隊」
・ショパン / ピアノ協奏曲第 2 番 へ短調
・ブラームス / 交響曲第 2 番 ニ長調
- 第 87 回 11月 12 日 / 東京文化会館 指揮 / 佐藤功太郎

- 独奏(唱)/塙川悠子(Vln) 曾我栄子(Sop)
 • 入野義朗/小管弦楽のための「シンフォニエッタ」(1953)
 • メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調
 • マーラー/交響曲第4番 ト長調

第 88 回 12月 13 日 / 東京文化会館 指揮 / フランティシェック・ワイナール
 独唱 / 大島洋子(Sop) 木村宏子(M. Sop) 饗場知昭(Ten)
 小松英典(Bas)
 合唱 / 新星日響合唱団
 • イジー・パウエル / イニシャル (1974) 【日本初演】
 • ベートーヴェン / 交響曲第9番 ニ短調「合唱付」

1986年

第 89 回 1月 16 日 / 東京文化会館 指揮 / 山田一雄
 独唱(奏) / 常森寿子(Sop) 伊原直子(Alt) 鈴木寛一(Ten)
 高橋啓三(Bas) 江森登(Accordion)
 合唱 / 新星日響合唱団
 • モーツアルト / 交響曲第32番 ト長調
 • モーツアルト / ドイツ舞曲より「3つのドイツ舞曲」第3番
 • モーツアルト / 「ドイツ舞曲」
 • モーツアルト / 「6つのドイツ舞曲」第5番
 • モーツアルト / セレナード第6番 ニ長調「セレナータ・ノットゥルナ」
 • モーツアルト / レクイエム ニ短調

第 90 回 4月 21 日 / 東京文化会館 指揮 / 佐藤功太郎
 独唱 / 西松甫味子(アガーテ) 日比啓子(エンヒエン) 工藤博(ガス
 パール) 饗場知昭(マックス) 高橋修一(隠者) 福島明也(キ
 リアン) 松本進(クーノ) 牧野正人(オットカール) 遠藤久美
 子・小山田裕子・蒲原史子・長尾康世(花娘) 平野忠彦(ザミエ
 ル、ナレーション)
 合唱 / 新星日響合唱団
 • ウェーバー / 歌劇「魔弾の射手」演奏会形式

第 91 回 5月 27 日 / 東京文化会館 指揮 / 山田一雄
 独奏 / クリスチャン・アルテンブルガー(Vln)
 • 伊福部昭 / 土俗の三連画(1937)
 • ベートーヴェン / ヴァイオリン協奏曲 ニ長調
 • レスピーギ / 交響詩「ローマの祭」

第 92 回 6月 18 日 / 東京文化会館 指揮 / 国分誠
 独奏 / 工藤重典(Flt)
 • モーツアルト / フルート協奏曲第1番 ト長調
 • ブルックナー / 交響曲第7番 ホ長調(ノヴァーク版)

- 第 93 回 7月 16 日/東京文化会館 指揮/朝比奈隆
 独唱/大倉由紀枝(Sop) 辻宥子(Alt)
 合唱/新星日響合唱団、三多摩市民合唱団
 • マーラー/交響曲第 2 番「復活」
- 第 94 回 10月 29 日/簡易保険ホール 指揮/ルドルフ・クレチメル
 独奏/杉谷昭子(Pf)
 • スメタナ/歌劇「売られた花嫁」序曲
 • ブラームス/ピアノ協奏曲第 1 番 = 短調
 • ドヴォルザーク/交響曲第 9 番 ホ短調「新世界より」
- 第 95 回 11月 28 日/東京文化会館 指揮/オンドレイ・レナルド
 独奏/吉野直子(Harp) 深山尚久(Vln)
 • スメタナ/交響詩「わが祖国」より“ヴィシェフラード”
 • ヒナステラ/ハープ協奏曲
 • リムスキイ=コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」
- 第 96 回 12月 18 日/東京文化会館 指揮/オンドレイ・レナルド
 独唱/マグダーレーナ・プラフシアコヴァ(Sop) イダ・キリロヴァ(Alt)
 フランティシェック・リボラ(Ten) ベテル・ミクラーシュ(Bas)
 合唱/新星日響合唱団
 • ドヴォルザーク/レクイエム

1987 年

- 106
 第 97 回 1月 31 日/東京文化会館 指揮/外山雄三
 独奏/前橋汀子(Vln)
 • メンデルスゾーン/交響曲第 4 番 イ長調「イタリア」
 • 外山雄三/ヴァイオリン協奏曲(1963)
 • ファリヤ/バレエ組曲「三角帽子」
- 第 98 回 2月 23 日/東京文化会館 指揮/佐藤功太郎
 独奏/ダン・タイソン(Pf) 佐藤慶子(Vln)* 深山尚久(Vln)**
 • 諸井誠/ヴァイオリンとオーケストラのための協奏組曲(1963)**
 • シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調
 • R. シュトラウス/交響詩「英雄の生涯」*
- 第 99 回 4月 20 日/東京文化会館 指揮/小林研一郎
 独唱/伊原直子(Alt)
 合唱/新星日響合唱団、東京荒川少年少女合唱隊
 • マーラー/交響曲第 3 番 = 短調
- 第 100 回 5月 15 日/東京文化会館 指揮/山田一雄
 • ストラヴィンスキイ/バレエ組曲「火の鳥」(1919 年版)
 • 伊福部昭/舞踊曲「サロメ」(1986 年改訂版)【定期演奏会 100 回記念
 委嘱作・初演】

- ・ラヴェル/ボレロ
- 第 101 回 6 月 22 日/東京文化会館 指揮/佐藤功太郎
独奏/田中修二(Pf) 渡辺康雄(Pf)*
- ・バーンスタイン/「キャンディード」序曲
 - ・バーンスタイン/交響曲第 2 番「不安の時代」*
 - ・ガーシュイン/ラブソディー・イン・ブルー
 - ・ガーシュイン/パリのアメリカ人
- 第 102 回 7 月 6 日/東京文化会館 指揮/ヘルムート・ヴォルフ
独唱/大倉由紀枝(Sop) アダルベルト・クラウス(Ten)
小松英典(Bas)
- 合唱/新星日響合唱団、東京荒川少年少女合唱隊
- ・ベンジャミン・ブリテン/戦争レクイエム
- 第 103 回 10 月 14 日/東京文化会館 指揮/三石精一
独奏/花房晴美(Pf)
- ・モーツアルト/交響曲第 35 番 ニ長調「ハフナー」
 - ・別宮貞雄/ピアノ協奏曲(1981/83)
 - ・バルトーク/管弦楽のための協奏曲
- 第 104 回 11 月 25 日/サントリーホール 指揮/ウラジミール・ヴァーレック
独奏/ハイシリッヒ・シフ(Vlc)
- ・ドヴォルザーク/序曲「謝肉祭」作品 92
 - ・ショスタコーヴィチ/チェロ協奏曲第 1 番 変ホ長調
 - ・ヤナーチェク/シンフォニエッタ
- 第 105 回 12 月 9 日/東京文化会館 指揮/ラインハルト・ペータース
独奏/漆原啓子(Vln) 上村昇(Vlc) 迫昭嘉(Pf)
- ・ベートーヴェン/ヴァイオリン、チェロ、ピアノのための三重協奏曲
ハ長調
 - ・ブラームス/交響曲第 1 番 ハ短調
- 1988 年**
- 第 106 回 1 月 12 日/東京文化会館 指揮/武藤英明
独奏/ズデニエック・ティルシャル(Hrn)
- 合唱/新星日響合唱団
- ・R. シュトラウス/ホルン協奏曲第 1 番 変ホ長調
 - ・D.C. ヴァチカージュ/アベラツィオ【日本初演】
 - ・チャイコフスキイ/交響曲第 4 番 ヘ短調
- 第 107 回 2 月 17 日/サントリーホール 指揮/バスカル・ヴェロ
独唱/常森寿子(Sop) 芳野靖夫(Bar)
- 合唱/新星日響合唱団
- ・ブランク/バレエ組曲「牝鹿」

- ラヴェル/マ・メール・ロワ(全曲)
 - フォーレ/レクイエム
- 第 108 回 4月 16 日/東京文化会館 指揮/現田茂夫
独奏/仲道郁代(Pf)
- ショパン/ピアノ協奏曲第 2 番 へ短調
 - マーラー/交響曲第 5 番 営ハ短調
- 第 109 回 5月 10 日/東京文化会館 指揮/山田一雄
- 細川俊夫/オーケストラのための「遠景」I (1987)
 - モーツアルト/交響曲第 14 番 イ長調
 - ブラームス/交響曲第 2 番 ニ長調
- 第 110 回 6月 13 日/東京文化会館 指揮/武藤英明
独奏/神谷郁代(Pf)
- モーツアルト/歌劇「魔笛」序曲
 - ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第 5 番 変ホ長調「皇帝」
 - ムソルグ斯基/組曲「展覧会の絵」(ラヴェル編曲)
- 第 111 回 7月 18 日/東京文化会館 指揮/オンドレイ・レナルド
独唱/佐藤しのぶ(Sop) 伊原直子(Alt) 田口興輔(Ten)
池田直樹(Bar)
- 合唱/新星日響合唱団、三多摩市民合唱団
- ヴェルディ/レクイエム
- 第 112 回 10月 21 日/簡易保険ホール 指揮/ワシーリー・シナイスキー
- チャイコフスキイ/幻想的序曲「ロメオとジュリエット」
 - チャイコフスキイ/弦楽合奏のセレナード ハ長調
 - チャイコフスキイ/交響曲第 5 番 ホ短調
- 第 113 回 11月 29 日/東京文化会館 指揮/国分誠
独奏/アンドレイ・デイエフ(Pf)
- 芥川也寸志/弦楽のための三章[トリプティック](1953)
 - チャイコフスキイ/ピアノ協奏曲第 1 番 変ロ短調
 - ワーグナー/楽劇「神々の黄昏」より「葬送行進曲」
 - R. シュトラウス/交響詩「ツァラトゥストラはかく語りき」
- 第 114 回 12月 23 日/サントリーホール 指揮/カール・マルティン
独唱(奏)/今井奈緒子(Org.) 渡辺葉子(Sop) 郡愛子(Alt)
若本明志(Ten) 芳野靖夫(Bar)
- 合唱/新星日響合唱団
- ヘンデル/オルガン協奏曲第 6 番 変ロ長調
 - ベートーヴェン/交響曲第 9 番 ニ短調「合唱付」

1989 年

- 137 第 115 回 1月 17 日/東京文化会館 指揮/現田茂夫

- 独奏(唱)/宮本文昭(Ob) 佐藤しのぶ(Sop)*
 • R. シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」
 • R. シュトラウス/オーボエ協奏曲 ニ長調
 • J. シュトラウス/オペレッタ「こうもり」より“序曲” “侯爵さま、あなたのようなお方は”*
- J. シュトラウス/トリッチ・トラッチ・ボルカ
 • J. シュトラウス/オペレッタ「こうもり」より“チャルダッシュ”*
 • J. シュトラウス/ビチカート・ボルカ
 • J. シュトラウス/アンネン・ボルカ
 • J. シュトラウス/ワルツ「ウィーン気質」
 • J. シュトラウス/皇帝円舞曲
- 第116回 2月13日/東京文化会館 指揮/ハンス・ヨアヒム・カウフマン
 独唱/常森寿子(Sop) 郡愛子(Alt) 鈴木寛一(Ten) 136
 小松英典(Bas)
 合唱/新星日響合唱団
 • ヘンデル/メサイア(モーツアルト版)
- 第117回 4月17日/東京文化会館 指揮/現田茂夫 140
 • ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスターインガ」前奏曲
 • モーツアルト/交響曲第40番 ハ短調
 • ストラヴィン斯基/舞踊組曲「春の祭典」
- 第118回 5月12日/東京文化会館 指揮/外山雄三
 独奏/村田四郎(Flt)
 • オッフェンバッハ/喜劇「天国と地獄」序曲
 • ドリーブ/バレエ音楽「コッペリア」より“ワルツ”
 • チャイコフスキイ/「白鳥の湖」より“情景” “4羽の踊り” “チャルダッシュ”
 • ドヴォルザーク/スラブ舞曲第10番
 • ブラームス/ハンガリアン舞曲第5・6番
 • ヴォーン・ウィリアムス/「グリーンスリーヴズ」による幻想曲
 • 和田薰/管弦楽のための民舞組曲(1, 4, 5曲)
 • シベリウス/交響詩「フィンランディア」
 • 外山雄三/フルートとオーケストラのための幻想曲【日本初演】
 • チャイコフスキイ/大序曲「1812年」(共演/浦和学院吹奏楽部)
- 第119回 6月9日/サントリーホール 指揮/山田一雄
 独奏/井上圭子(Org.)
 • 一柳慧/オルガンとオーストラの「EXISTENCE」【創立20周年記念
 委嘱作・初演】
 • レスピギ/交響詩「ローマの松」
 • サン=サーンス/交響曲第3番 ハ短調

- 第120回 7月10日 / サントリーホール 指揮/オンドレイ・レナルド
 独唱/名古屋木実(Sop) 西松甫味子(Sop) 大島洋子(Sop)
 岩森美里(Alt) 大藤裕子(Alt) 伊達英二(Ten)
 小松英典(Bar) 芳野靖夫(Bas)
 合唱/新星日響合唱団、東京ライエンコーラ、東京荒川少年少女合唱隊
 • マーラー/交響曲第8番 変ホ長調[千人の交響曲]
- 第121回 10月7日 / サントリーホール 指揮/ラインハルト・ペータース
 • ベートーヴェン/交響曲第6番 へ長調「田園」
 • ベートーヴェン/交響曲第5番 ハ短調「運命」
- 153 第122回 11月20日 / サントリーホール 指揮/大友直人
 独奏/ズデニエック・ティルシャル(Hrn)
 • 石井眞木/オーケストラのための「碎動鬼(風のエモーション)」【創立
 20周年記念委嘱作・初演】
 • R. シュトラウス/ホルン協奏曲第2番
 • ベルリオーズ/幻想交響曲
- 第123回 12月7日 / サントリーホール 指揮/アルベルト・ヴェントゥーラ
 独唱/林康子(Sop) ジュゼッペ・ジャコミーニ(Ten) ピエロ・カ
 プチッリ(Bar)
 • ロッシーニ/「泥棒かささぎ」序曲
 • ブッチーニ/歌劇「トスカ」より“たえなる調和”(ジャコミーニ)
 • ブッチーニ/歌劇「トスカ」より“歌に生き、恋に生き”(林)
 • ヴェルディ/歌劇「マクベス」第3幕パレエ
 • ヴェルディ/歌劇「マクベス」より“あわれみも、ほまれも、愛も”(カ
 プチッリ)
 • ブッチーニ/歌劇「トスカ」より“二人の愛の家へ”(ジャコミーニ、
 林)
 • ヴェルディ/歌劇「エルナーニ」より“エルナーニよ一緒に逃げて”
 (林)
 • レオンカヴァッロ/歌劇「道化師」前奏曲とプロローグ(カブッチッ
 リ)
 • レオンカヴァッロ/歌劇「道化師」より“衣裳をつけろ”(ジャコミーニ)
 • ブッチーニ/歌劇「蝶々夫人」より“かわいい坊や”(林)
 • ブッチーニ/歌劇「西部の娘」より“私は自由の身になったと彼女に伝
 えてくれ”

1990年

- 第124回 1月25日 / サントリーホール 指揮/現田茂夫
 独唱/佐藤しのぶ(Sop)
 • ラヴェル/ラ・ヴァルス

- ・ラヴェル/ボレロ
- ・J. シュトラウス/春の声
- ・J. シュトラウス/ウィーン気質
- 【歌】・J. シュトラウス/オペレッタ「ジブシー男爵」序曲
- 【歌】・ジーツィンスキー/ウィーンわが夢の都
- ・J. シュトラウス/ウィーンの森の物語

第 125 回 2月 28 日 / サントリーホール 指揮/飯守泰次郎

合唱/新星日響合唱団、二期会合唱団

- ・ヴェルディ/歌劇「アイーダ」より“序曲”“大行進曲”“凱旋の合唱”
- ・ヴェルディ/歌劇「トロヴァトーレ」より“序曲”“アンヴィルコーラス”“兵士の合唱”
- 【歌】・ワーグナー/歌劇「さまよえるオランダ人」より“序曲”“つむぎ歌”“水夫たちの合唱”“幽霊のうた”
- ・ワーグナー/歌劇「タンホイザー」より“序曲”“巡礼の合唱”“大行進曲”

(2) 作曲家別演奏曲目[日本人作品]

List of Composer (Works by Japanese)

作曲家名	定期 作 品 名
芥川也寸志 Akutagawa, Yasushi	6 弦楽のための三章(トリプティーク)(1953)
別宮 貞雄 Bekku, Sadao	113 弦楽のための三章(トリプティーク)(1953)
團 伊玖磨 Dan, Ikuma	103 ピアノ協奏曲(1981/83)
福島雄次郎 Fukushima, Yūjirō	28 「日本からの手紙」第2番(1969)
林 浩光 Hayashi, Hikaru	28 「日本からの手紙」第3番(1974)
	1 弦楽のための木遣り唄(1969)
	8 交響曲 ト調(1953)
	21 管弦楽のための変奏曲(1955)
	27 声とオーケストラのための「日本共和国初代大統領への手紙」(1977)【委嘱作・初演】
	59 「白墨の輪」組曲(1982)【委嘱作・初演】
平尾貴四郎 Hirao, Kishio	10 古代讃歌(1935)

作曲家名	定期 作 品 名
廣瀬 量平 Hirose, Ryôhei	12 祝典序曲「ウインター・ワンダーランド」(1971)【舞台初演】 23 チェロ協奏曲「悲(トリスティ)」(1971) 33 オーケストラのためのカラヴィンカ(1978)【東京初演】
細川 俊夫 Hosokawa, Toshio	109 オーケストラのための「遠景」I (1987)
一柳 慧 Ichiyanagi, Toshi	119 オルガンとオーケストラの“EXISTENCE”(1989)創立20周年記念作品【委嘱作・初演】
伊福部 昭 Ifukube, Akira	11 交響譚詩(1943) 36 オーケストラとマリンバのための「ラウダ・コンチャエルタータ」(1979)創立10周年記念作品【委嘱作・初演】 40 日本狂詩曲(1935)【舞台初演】 41 タブカーラ交響曲(1954) 91 土俗の三連画(1937) 100 舞踊曲「サロメ」(1986)定期公演100回記念作品【改訂初演】
池辺晋一郎 Ikebe, Shinichirô	57 ヴァイオリン協奏曲(1981) 77 星が飛ぶ時のための序曲(1984)創立15周年記念作品【委嘱作・初演】
入野 義朗 Irino, Yoshirô	87 小管弦楽のための「シンフォニエッタ」(1953)
石井 真木 Ishii, Maki	48 箏と管弦楽のための雅影(1980) 122 オーケストラのための「碎動鬼(風のエモーション)」(1989)創立20周年記念作品【委嘱作・初演】
石桁真礼生 Ishiketa, Mareo	45 交響曲 嬰ヘとハを基音とする(1965) 75 交響的默示(默示IV)ソプラノとオーケストラによる(1983)
清瀬 保二 Kiyose, Yasuji	2 レクイエム「無名戦士」(1962)
小山 清茂 Koyama, Kiyoshige	3 弦楽のためのアイヌの唄(1964)

作曲家名	定期作品名
間宮 芳生 Mamiya, Michio	22 管弦楽のための信濃囃子(1946) 30 管弦楽のための木挽唄(1957)
三木 稔 Miki, Minoru	7 ヴァイオリン協奏曲(1959) 20 二十絃箏協奏曲「破の曲」(1974)
三善 見 Miyoshi, Akira	73 「急の曲」—2つの世界のための交響曲(1981)
諸井 誠 Moroi, Makoto	24 オーケストラのためのレオス(1976)
小倉 朗 Ogura, Rō	98 ヴァイオリンとオーケストラのための協奏組曲(1963)
大木 正夫 Ōki, Masao	5 弦楽のためのソナチネ(1963) 18 オーケストラのためのコンポジション「嬰へ」(1975)
尾高 悅忠 Otaka, Atsutada	5 交響曲「ベトナム」より“ドンロックの10人の娘”(1970)
尾高 尚忠 Otaka, Hisatada	84 オーケストラのための「イマージュ」(1981)
佐藤 真 Satō, Makoto	67 フルート協奏曲 Op. 30b(1948) 35 管弦楽のためのラプソディー(1978)
佐藤 敏直 Satō, Toshinao	15 星と大地とによる舞曲(1974) 【委嘱作・初演】 84 星と大地とによる舞曲(1974) 83 哀歌(1982)
柴田 南雄 Shibata, Minao	46 ディアフォニア(1979)
助川 敏弥 Sukegawa, Toshiya	1 カンタータ「返せ沖縄」(1969)(うたごえ集団創作・オーケストラ編曲・助川敏弥)
高橋 悠治 Takahashi, Yūji	38 めしは天(1978)
高田 三郎 Takata, Saburō	9 山形民謡によるパラード(1965)
武満 徹 Takemitsu, Tōru	4 弦楽のためのレクイエム(1957) 29 グリーン(ノヴェンバーステップス II)(1967)
田村 徹 Tamura, Tōru	80 弦楽のためのレクイエム(1957) 56 地平線のドーリア(1966) 5 管弦楽のためのプレリュード(1970)【初演】

作曲家名	定期演奏会時期	作品名
外山 雄三 Toyama, Yūzō	13 17 97 118	沖縄民謡によるラプソディ(1964) 管弦楽のためのディヴェルティメント(1961) ヴァイオリン協奏曲(1963) フルートとオーケストラのための幻想曲(1989)【初演】
浦田健次郎 Urata, Kenjirō	66	祝典のための音楽(1968)
和田 薫 Wada, Kaoru	118	管弦楽のための民舞組曲〔第1、4、5曲〕
矢代 秋雄 Yashiro, Akio	49	ピアノ協奏曲(1967)
吉松 隆 Yoshimatsu, Takashi	54	朱鷺によせる哀歌(1979/80)

注) 作曲家名はアルファベット順による

(3) 作曲家別演奏曲目[外国人作品]

List of Composer (Works by Foreigner)

作曲家名	作品名	定期演奏会時期
バッハ J.S. Bach	トッカータとフーガ ブランデンブルク協奏曲第4番 ロ短調ミサ曲	64 83 85
バルトーク B. Bartók	管弦楽のための協奏曲 ヴィオラ協奏曲	47, 103 76
ベートーヴェン L.v. Beethoven	交響曲第3番 交響曲第5番「運命」 交響曲第6番「田園」 交響曲第7番 交響曲第9番「合唱付」	8, 69 1, 17, 63, 121 14, 81, 121 2, 55 9, 12, 15, 18, 22, 27, 31, 51, 70, 61, 88, 114
	ピアノ協奏曲第3番 ピアノ協奏曲第4番 ピアノ協奏曲第5番 ヴァイオリン協奏曲 Vn, Vc, Pfのための三重協奏曲	2 78 72, 110 28, 91 105

作曲家名	作品名	各品番	定期演奏会時期
ベルク A. Berg	ミサ・ソレムニス	65	
ベルリオーズ H. Berlioz	ヴァイオリン協奏曲	68	
バーンスタイン L. Bernstein	幻想交響曲	13, 45, 83, 122	
ビゼー G. Bizet	序曲「海賊」	48	
ブラームス J. Brahms	序曲「ローマの謝肉祭」	57	
ブリテン B. Britten	交響曲第2番「不安の時代」	101	
ブルック M. Bruch	「キャンディード」序曲	101	
ブルックナー A. Bruckner	「カルメン」組曲	23	
ケルビーニ L. Cherubini	交響曲第1番	5, 53, 105	
ショパン F. Chopin	交響曲第2番	25, 86, 109	
ドビュッシー C. Debussy	交響曲第4番	10, 42, 68	
ドリーブ L. Delibes	ハンガリアン舞曲第5番	118	
デュカス P. Dukas	ハンガリアン舞曲第6番	118	
ドヴォルザーク A. Dvořák	ヴァイオリン協奏曲	34, 55	
	ピアノ協奏曲第1番	94	
	ドイツ・レクイエム	58	
ドビュッシー C. Debussy	青少年のための管弦楽入門	17	
ドリーブ L. Delibes	戦争レクイエム	102	
ドヴォルザーク A. Dvořák	ヴァイオリン協奏曲	44	
ドヴォルザーク A. Dvořák	交響曲第4番「ロマンティック」	33, 84	
ドヴォルザーク A. Dvořák	交響曲第7番	92	
ドヴォルザーク A. Dvořák	交響曲第9番	44	
ドヴォルザーク A. Dvořák	テ・デウム	46	
ドヴォルザーク A. Dvořák	レクイエム	35	
ドビュッシー C. Debussy	ピアノ協奏曲第1番	5	
ドビュッシー C. Debussy	ピアノ協奏曲第2番	6, 69, 86, 108	
ドビュッシー C. Debussy	牧神の午後への前奏曲	69	
ドビュッシー C. Debussy	交響詩「海」	77	
ドリーブ L. Delibes	舞踊組曲「コッペリア」のワルツ	118	
ドヴォルザーク A. Dvořák	バレエ「ラ・ベリ」のファンファーレ	1	
ドヴォルザーク A. Dvořák	交響曲第8番	16, 78	
ドヴォルザーク A. Dvořák	交響曲第9番「新世界より」	4, 94	
ドヴォルザーク A. Dvořák	序曲「謝肉祭」	104	
ドヴォルザーク A. Dvořák	スラップ舞曲第10番	118	
ドヴォルザーク A. Dvořák	ピアノ協奏曲	14	

作曲家名	作品名	定期演奏会時期
	チェロ協奏曲	26
	レクイエム	39, 96, 111
	スター・バト・マーテル	50
エヴァルト V. Ewald (1860-1935) [URS]	5声部の金管合奏のための交響曲	1
ファリヤ M. Falla	バレエ組曲「三角帽子」	97
フォーレ G. Fauré	レクイエム	30, 43, 107
フランク C. Frank	交響曲ニ短調	19
ガーシュイン J. Gershwin	パリのアメリカ人	101
ヒナステラ H. Ginastera (1916-1983) [ARG]	ラプソディー・イン・ブルー	101
ジュリアーニ M. Giuliani	ハープ協奏曲	95
グリーグ E. Grieg	ピアノ協奏曲	29
ヘンデル G.F. Händel	オルガン協奏曲第6番	114
ハイドン F.J. Haydn	メサイア	116
ホルスト G. Holst	交響曲第48番「マリア・テレジア」	35
フンメル E.N. Hummel	交響曲第88番	78
	交響曲第100番「軍隊」	86
	シンフォニア	36
ヤナーチェク L. Janácek	組曲「惑星」	73
コダーリ S. Kodály	トランペット協奏曲	42
ラロ E. Lalo	E.N. Hummel	104
レオンカヴァッロ Leoncavallo	シンフォニエッタ	104
リスト F. Liszt	ガランタ舞曲	40
マーラー G. Mahler	組曲「ハーリ・ヤーノシュ」	52
	スペイン交響曲	77
	歌劇「道化師」より	77
	・前奏曲とプロローグ	123
	・衣裳をつけろ	123
マーラー G. Mahler	ピアノ協奏曲第1番	33, 66
	交響曲第1番「巨人」	24, 75
	交響曲第2番「復活」	93
	交響曲第3番	99
	交響曲第4番	87

作曲家名	作品名	定期演奏会時期
F. Mendelssohn	交響曲第5番	108
	交響曲第8番「千人の交響曲」	120
	カンタータ「嘆きの歌」	79
メンデルスゾーン	交響曲第4番「イタリア」	97
F. Mendelssohn	ヴァイオリン協奏曲	19, 52, 87
モーツアルト	交響曲14番	109
W.A. Mozart	交響曲第32番	89
	交響曲第35番「ハフナー」	103
	交響曲第36番「リンツ」	11, 37, 53
	交響曲第40番	43, 82, 117
	交響曲第41番「ジュピター」	72
	セレナード第13番「アイネ・クラ	17
	イネ・ナハトムジーク」	
	セレナード第6番「セレナータ・ノ	89
	ット・ウルナ」	
	3つのドイツ舞曲第3番 K. 605	89
	ドイツ舞曲 K. 611	89
	6つのドイツ舞曲第5番 K. 600	89
	歌劇「魔笛」序曲	110
	ピアノ協奏曲第20番	45
	ピアノ協奏曲第23番	81
	ピアノ協奏曲第24番	10
	ピアノ協奏曲第27番	54
	フルート協奏曲第1番	92
	FlとHarpのための協奏曲	53
	Ob, Cl, Hr, Fgのための協奏交	80
	響曲	
	ミサ曲ハ長調「戴冠ミサ」	41
	レクイエム	25, 37, 89
ムソルグ斯基	組曲「展覧会の絵」	23, 80
M. Mussorgsky	禿山の一夜(原典版)	68*
ニールセン	交響曲第4番「不滅」	62
K. Nielsen	交響詩「タトラ山にて」作品26	19*
ノヴァーク	交響詩「タトラ山にて」	
V. Novák (1870-1949)	[TCH]	
オッフェンバック	喜歌劇「天国と地獄」序曲	118
J. Offenbach	オペラ「浮城物語」序曲	

作曲家名	作品名	定期演奏会時期
オルフ K. Orff	カルミナ・ブランナ	32, 71
ハウエル J. Pauer	「イニシャル」(1974)	88
ブルランク R. Poulenc	バレエ組曲「牝鹿」	107
プロコフィエフ S. Prokofiev	交響曲第1番「古典交響曲」 カンタータ「アレクサンドル・ネフスキー」	71 13
プッチーニ G. Puccini	歌劇「トスカ」より ・たえなる調和 ・歌に生き、恋に生き ・二人の愛の家へ	123 123 123
ラフマニノフ S. Rachmaninov	交響曲第2番 ピアノ協奏曲第2番 ピアノ協奏曲第3番 バガニーニの主題による狂詩曲	38 47, 64 82 56
ラヴェル M. Ravel	「ダフニスとクロエ」第2組曲 「道化師の朝の歌」 「ボレロ」 「亡き王女のためのバヴァーヌ」 「マ・メール・ロア」 「ラ・ヴァルス」	49 67 72, 124 77 107 124
レスピーギ O. Respighi	交響詩「ローマの松」 交響詩「ローマの祭」	82, 119 91
リムスキーコルサコフ Rimsky-Korsakov	交響詩「シェエラザード」	67, 95
ロドリゴ J. Rodrigo	アランフェスの協奏曲	40
ロッシーニ G. Rossini	歌劇「泥棒かささぎ」序曲	123
サン=サーンス C. Saint-Saëns	交響曲第3番ハ短調 Op. 78 チエロ協奏曲第1番イ短調 Op. 38 33	46, 119 38
ショーベルト F. Schubert	交響曲第8番ロ短調「未完成」 交響曲第9番ハ長調「グレート」 ミサ曲第2番ト長調 D. 167	31, 52, 76 48 59

作曲家名	作品名	定期演奏会時期
シューマン	交響曲第3番「ライン」	49
R. Schumann	ピアノ協奏曲イ短調	21, 84, 98
ショスタコーヴィチ	交響曲第1番ヘ短調 Op. 10	28
D. Shostakovich	交響曲第5番ニ短調 Op. 47	34, 63
シベリウス	チエロ協奏曲	104
J. Sibelius	交響曲第2番ニ長調 Op. 43	6, 66
	交響詩「フィンランディア」	1, 118
	「カレリア」組曲 Op. 11	2
ジーツィンスキイ	ウィーンわが夢の都	124
R. Sieczynski		
スマタナ	交響詩「わが祖国」	95
B. Smetana	第1曲ヴィシェフラード	3, 16
	第2曲モルダウ	16
	第3曲シャールカ	47
	第4曲ボヘミアの森と平原より	15, 94
ハリー・サマーズ	歌劇「売られた花嫁」序曲	76
Harry Somers (1925-)	[CAN] ハリー・ソマース	
ヨハン・シュトラウス	ワルツ「ウィーン気質」Op. 345	115, 124
J. Strauss II	皇帝円舞曲 Op. 437	115
	ワルツ「春の声」Op. 410	124
	アンネン・ポルカ	115
	ビチカート・ポルカ	115
	トリッヂ・トラッヂ・ポルカ	115
	喜歌劇「こうもり」より 序曲	115
	曲・侯爵さま、あなたのような お方は	115
	喜歌劇「ジプシー男爵」序曲	124
	ワルツ「ウィーンの森の物語」	124
リヒャルト・シュトラ	交響詩「英雄の生涯」Op. 40	98
ウス	交響詩「ツァラトゥストラはかく語りき」	113
R. Strauss	交響詩「ティル=オイレンシュピー ゲルの愉快ないたずら」	41
	交響詩「ドン・ファン」Op. 20	43, 115

作曲家名	作品名	定期演奏会時期
	組曲「ばらの騎士」	76
	ホルン協奏曲第1番 Op. 11	106
	ホルン協奏曲第2番	122
	オーボエ協奏曲ニ長調	115
ストラヴィンスキー I. Stravinsky	バレエ組曲「火の鳥」	11, 36, 100
	バレエ組曲「ペトルーシュカ」	21
	バレエ組曲「春の祭典」	64, 117
スホニュー Eugen Súchoň (1908-) [TCH]	リトル・スイート・バッサカリア	51*
ヨゼフ・スーク Josef Suk (1874-1935) [TCH]	交響詩「プラハ」	16*
スッター Robert Suter (1919-) [SUI]	オーケストラのためのソナタ('67)	32*
チャイコフスキー P.I. Tchaikovsky	交響曲第2番ハ短調「小ロシア」	56
	交響曲第4番ヘ短調	7, 54, 106
	交響曲第5番ホ短調	3, 29, 57, 112
	交響曲第6番ロ短調	4, 26, 59
	マンフレッド交響曲	60
	幻想序曲「ロメオとジュリエット」	11, 55, 112
	弦楽セレナード	112
	バレエ音楽「白鳥の湖」より	
	・情景	118
	・4羽の踊り	118
	・シャルダッシュ	118
	序曲「1812年」	118
	ピアノ協奏曲第1番	60, 113
	ヴァイオリン協奏曲ニ長調	24
	ロココ風の主題による変奏曲	38
	歌劇「オルレアンの少女」	62【演奏会形式】*
ヴァチカージュ D.C. Vackář (1906-84) [TMR]	アベラツィオ Apellatio	106*
ボーン=ウィリアムス R. Vaughn-Williams	グリーンスリーヴズによる幻想曲	118
ヴェルディ G. Verdi	レクイエム	20, 74
	歌劇「マクベス」より	
	・第3幕バレエ	123
	・あわれみも、ほまれも、愛も	123

作曲家名	作品名	定期演奏会時期
	歌劇「エルナーニ」より ・エルナーニよ一緒に逃げて	123
	歌劇「アイーダ」より ・序曲	125
	・大行進曲	125
	・凱旋の合唱	125
	歌劇「トロヴァトーレ」より ・序曲	125
	・アンヴィルコーラス	125
	・兵士の合唱	125
ワーグナー	「ファウスト」序曲	42
R. Wagner	「ニュルンベルクのマイスター」 ・ンガーピアノ曲	8, 117
	歌劇「ローエングリン」第3幕への 前奏曲	26
	樂劇「トリスタンとイゾルデ」より 前奏曲と愛の死	81
	樂劇「神々の黄昏」より葬送行進曲	113
	歌劇「さまよえるオランダ人」より ・序曲	125
	・つむぎ歌	125
	・水夫たちの合唱	125
	・幽霊のうた	125
	歌劇「タンホイザー」より ・序曲	125
	・巡礼の合唱	125
	・大行進曲	125
ウェーバー	歌劇「魔弾の射手」序曲	2, 32
C.M.v. Weber	歌劇「魔弾の射手」演奏会式上演	90
ゼリエンカ	ウベラチューラ・ジョコーザ	70* (曲題)
Ilia Zeljenka	(楽しい序曲) [1982]	(1932-) [TCH]
ウド・ツィンマーマン	「ヒロシマというとき」(1981/82)	61*
Udo Zimmermann	日本語版	(1943-) [GDR]

注) *印は日本初演作品。また現代作曲家の国籍は以下の略号によって表した。
 [SUI] スイス, [TCH] チェコスロバキア, [ARG] アルゼンチン, [CAN] カナダ, [GDR] ドイツ民主共和国, [URS] ロシア連邦

(4) 国別作曲家数・作品演奏回数

Count of Composer's Number and Works

国 稷	作 曲 家 名	演 奏 数
アメリカ合衆国 USA(2人、4曲)	バーンスタイン Leonard Bernstein ガーシュイン George Gershwin	2 2
アルゼンチン Argentine	ヒナステラ Alberto Ginastera	1
オーストリア Austria (8人、61曲)	ベルク Alban Berg ブルックナー Anton Bruckner ハイドン Franz Joseph Haydn マーラー Gustav Mahler モーツアルト Wolfgang Amadeus Mozart シューベルト Franz Peter Schubert ジーツィンスキ Rudolf Sieczynski ヨハン・シュトラウス Johann Strauss II	1 5 4 8 27 5 1 10
チェコスロvakia Czechoslovakia (9人、26曲)	ドヴォルザーク Antonin Dvorák ヤナーチェク Leos Janácek ノヴァーク Vítězslav Novák パウエル Jiri Pauer スメタナ Bedrich Smetana スホニュー Engen Suchoň スーク Josef Suk ヴァチカージュ D.C. Vackár ゼリエンカ Ilja Zeljenka	12 1 1 1 7 1 1 1 1
デンマーク Denmark	ニールセン Carl Nielsen	1
フィンランド Finland	シベリウス Jean Sibelius	6
フランス France (12人、28曲)	ベルリオーズ Hector Berlioz ビゼー Georges Bizet ドビュッシー Claude Debussy ドリーブ Léo Delibes デュカス Paul Dukas フォーレ Gabriel Fauré フランク César Frank ラロ Edouard Lalo オッフェンバッハ Jacques Offenbach プーランク Francis Poulenc	6 1 2 1 1 3 1 1 1

国 種	作 曲 家 名	演 奏 数
	ラヴェル Maurice Ravel	7
	サン=サーンス Camille Saint-Saëns	3
ハンガリー Hungary	バルトーク Béla Bartók	3
(3人、7曲)	コダーリ Zoltán Kodály	2
ドイツ Germany	リスト Franz Liszt	2
(13人、88曲)	バッハ Johann Sebastian Bach	3
	ベートーヴェン Ludwig van Beethoven	31
	ブラームス Johannes Brahms	15
	ブルック Max Bruch	1
	ヘンデル Georg Friedrich Händel	2
	フンメル Johann Nepomuk Hummel	1
	メンデルスゾーン Felix Mendelssohn-Bartholdy	4
	オルフ Carl Orff	2
	シューマン Robert Alexander Schumann	4
	リヒャルト・シュトラウス Richard Strauss	9
	ワーグナー Richard Wagner	12
	ウェーバー Carl Maria von Weber	3
	ウド・ツィンマーマン Udo Zimmermann	1
イギリス United Kingdom	ブリテン Benjamin Britten	2
(3人、4曲)	ホルスト Gustav Holst	1
	ボーン・ウィリアムス Ralph Vaughan Williams	1
イタリア Italy	ケルビーニ Luigi Cherubini	1
(8人、23曲)	ジュリアーニ Mauro Giuliani	1
	レオンカヴァッロ Ruggero Leoncavallo	2
	マスカニ Pietro Mascagni	1
	プッチーニ Giacomo Puccini	4
	レスピーギ Ottorino Respighi	3
	ロッシーニ Gioacchino Rossini	1
	ヴェルディ Giuseppe Verdi	10
ノルウェー Norway	グリーグ Edvard Grieg	1
ポーランド Poland	ショパン Frédéric François Chopin	5
ロシア・ソヴィエト Soviet Union	エヴァルト V. Ewald	1
(8人、48曲)	ムソルグスキー Modest Petrovich Mussorgsky	3
	プロコフィエフ Sergei Prokofiev	2
	ラフマニノフ Sergei Rachmaninov	5

国 稷	作 曲 家 名	演 奏 数
	リムスキイ=コルサコフ Nikolai Rimsky-Korsakov	2
	ショスタコーヴィチ Dmitry Shostakovich	4
	ストラヴィンスキー Igor Stravinsky	6
	チャイコフスキー Peter Ilyich Tchaikovsky	25
スペイン Spain	ファリヤ Manuel de Falla	1
(2人、2曲)	ロドリーゴ Joaquin Rodrigo	1
スイス Switzerland	スッター Robert Suter	1
日本 Japan	芥川也寸志 Akutagawa, Yasushi	2
(37人、63曲)	別宮 貞雄 Bekku, Sadao	1
	團 伊玖磨 Dan, Ikuma	2
	福島雄次郎 Fukushima, Yūjirō	1
	林 光 Hayashi, Hikaru	4
	平尾貴四男 Hirao, Kishio	1
	広瀬 量平 Hirose, Ryōhei	3
	細川 俊夫 Hosokawa, Toshio	1
	一柳 慧 Ichiyanagi, Toshi	1
	伊福部 昭 Ifukube, Akira	6
	池辺晋一郎 Ikebe, Shinichirō	2
	入野 義朗 Irino, Yoshiro	1
	石井 真木 Ishii, Maki	2
	石桁真礼生 Ishiketa, Mareo	2
	清瀬 保二 Kiyose, Yasuji	1
	小山 清茂 Koyama, Kiyoshige	3
	間宮 芳生 Mamiya, Michio	1
	三木 稔 Miki, Minoru	2
	三善 晃 Miyoshi, Akira	1
	諸井 誠 Moroi, Makoto	1
	小倉 朗 Ogura, Rō	2
	大木 正夫 Ōki, Masao	1
	尾高 悅忠 Otaka, Atsutada	1
	尾高 尚忠 Otaka, Hisatada	1
	佐藤 真 Satō, Makoto	1
	佐藤 敏直 Satō, Toshinao	2
	柴田 南雄 Shibata, Minao	1
	助川 敏弥 Sukegawa, Toshiya	1
	高橋 悠治 Takahashi, Yūji	1

国籍	作曲家名	作品名	演奏回数	演奏数
高田三郎	Takata, Saburô	管弦楽のためのプレリュード	1	1
武満徹	Takemitsu, Tôru	「祝典序曲」	4	16
田村徹	Tamura, Tôru	「星と大地とによる舞曲」	1	1
外山雄三	Toyama, Yûzô	「日本狂詩曲」	4	50
浦田健次郎	Urata, Kenjirô	「オーケストラとマリンバのためのラプソディー」	1	1
和田薰	Wada, Kaoru	「リトル・スイート・パッサカリ」	1	1
矢代秋雄	Yashiro, Akio	「アーヴィングの手紙」	1	1
吉松隆	Yoshimatsu, Takashi	「アーヴィングの手紙」	1	1

(5) 定期演奏会・日本初演作品一覧

List of the First Performed Works

定期	作曲家名	作品名	指揮者
3	田村徹	管弦楽のためのプレリュード (1970)	村川千秋
12	廣瀬量平	☆祝典序曲「ウィンター・ワンド ーランド」(1971)	伴 有雄
15	佐藤敏直	★星と大地とによる舞曲 (1974)	山田一雄
16	ヨゼフ・スク	交響詩「プラハ」	A. キューネル
19	ノヴァーク	交響詩「タトラスにて」	A. キューネル
27	林光	★声とオーケストラのための 「日本共和国初代大統領への 手紙」(1977)	外山雄三
32	R. スッター	オーケストラのためのソナタ (1967)	H. レーヴライン
35	佐藤真	☆管弦楽のためのラプソディー (1978)	佐藤功太郎
36	伊福部昭	★オーケストラとマリンバのた めの「ラウダ・コンチェルタ タ」(1979)	山田一雄
40	伊福部昭	☆日本狂詩曲(1935)	山田一雄
51	スホニー	「リトル・スイート・パッサカリ ア」	O. レナルド

定期	作曲家名	作 品 名	指揮者
59	林 光	★「白墨の輪」組曲(1982)	佐藤功太郎
61	U. ヴィンマーマン	「ヒロシマというとき」 (1981/82)	J. ヴィンクラー
62	チャイコフスキー	歌劇「オルレアンの少女」演奏会 形式	星出 豊
68	ムソルグ斯基	「禿山の一夜」(原典版)	山田一雄
70	ゼリエンカ	ウベラチューラ・ジョコーザ (1982)	O. レナルド
77	池辺晋一郎	★「星が飛ぶ時のための序曲」 (1984)	佐藤功太郎
88	I. バウエル	「イニシャル」(1974)	F. ワイナール
100	伊福部昭	★舞踊曲「サメロ」(1948/86)	山田一雄
106	ヴァチカージュ	「アベラツィオ」(1970)	武藤英明
118	外山雄三	フルートとオーケストラのため の「幻想曲」(1989)	外山雄三
119	一柳 慧	★オルガンとオーケストラの 「EXISTENCE」	山田一雄
122	石井眞木	★オーケストラのための「碎動 鬼(風のエモーション)」	山田一雄

注) ☆印は舞台初演。★印は委嘱作品

(6) 指揮者一覧

List of Conductor

指揮者名	定期演奏時期
秋山和慶 Akiyama, Kazuyoshi	8, 85
朝比奈隆 Asahina, Takashi	65, 93
伴 有雄 Ban, Ario	12
ヴィクター・フェルドブリル Victor Feldrill (CAN)	76
現田茂夫 Genda, Shigeo	108, 115, 117, 124
星出 豊 Hoshide, Yutaka	20, 39, 62
井上道義 Inoue, Michiyoshi	44, 73

指揮者名	定期演奏時期
飯盛泰次郎 Iimori, Taijirō	125
ズデニエック・コシュラー Zdeněk Košler (TCH)	37
小林研一郎 Kobayashi, Kenichirō	45, 57, 66, 75, 99
国分 誠 Kokubu, Makoto	53, 84, 92, 113
アントニン・キューネル Antonin Kühnel (TCH)	14, 16, 19, 26, 47
ルドルフ・クルチメル Rudolf Krecmer (TCH)	78, 94
ハンス・ワルター・ケンペル Hans Walter Kämpfel (FRG)	86
ハンス・ヨアヒム・カウフマン Hans Joachim Kaufmann (FRG)	116
ハンス・レーヴライン Hans Löwlein (FRG)	25, 31, 32, 42, 43, 58
オンドレイ・レナルド Ondrej Lenard (TCH)	50, 51, 70, 71, 95, 96, 111, 120
松尾葉子 Matsuo, Yōko	67
三石精一 Mitsuishi, Seiichi	21, 103
村川千秋 Murakawa, Chiaki	1, 2, 3
諸井昭二 Moroi, Shōji	1
森 正 Mori, Tadashi	6, 17, 24, 38
武藤英明 Mutō, Hideaki	106, 110
カール・マルティン Karl Martin (SUI)	114
ヴァーツラフ・ノイマン Václav Neumann (TCH)	79
大町陽一郎 Ōmachi, Yōichirō	81
大友直人 Ōtomo, Naoto	122
尾高忠明 Otaka, Tadaaki	29
ラインハルト・ペータース Reinhard Peters (FRG)	105, 121
佐藤功太郎 Satō, Kōtarō	35, 41, 49, 56, 59, 60, 64, 69, 74, 77, 80, 83, 87, 90, 98, 101
汐澤安彦 Shiozawa, Yasuhiko	55
ワシーリー・シナイスキー Vasily Sinaisky (URS)	112
外山雄三 Toyama, Yūzō	4, 5, 9, 13, 27, 34, 52, 97, 118
フランティシェック・ワイナール František Vajnál (TCH)	88
ウラジミール・ヴァーレック Vladimir Válek (TCH)	104
パスクアル・ヴェロ Pascal Verrot (FRA)	107
アルベルト・ヴェントゥーラ Alberto Ventura (ITA)	123
渡辺暁雄 Watanabe, Akeo	30
ヨハネス・ヴィンクラー Johannes Vinkler (GDR)	61
ヘルムート・ウォルフ Hermud Wolf (FRG)	102
山岡重信 Yamaoka, Shigenobu	10, 11
山田一雄 Yamada, Kazuo	7, 15, 18, 22, 23, 28, 33, 36, 40, 46, 48, 54, 63, 68, 72, 82, 89,

指揮者名	定期演奏時期
	91, 100, 109, 119

注) 配列はアルファベット順による。演奏時期の項の数字は定期公演の回数を表し、その数字が太字のものは、日本人作品が演奏されたことを表す。

(7) 協演者一覧 List of Soloist

種別/協演者	定期演奏時期
【ピアノ】 Pianist(26名)	
山根弥生子 Yamane, Yaoko	2
村上弦一郎 Murakami, Genichirō	10
ヤン・ホラーク Jan Horák (TCH)	14
シャンドール・ファルヴァイ Sándor Falvai (HUN)	21
宮沢 明子 Miyazawa, Meiko	29
広中 孝 Hironaka, Takashi	33
田近 完 Tajika, Hiroshi	45
神野 明 Jinno, Akira	47
渡辺 康雄 Watanabe, Yasuo	49, 101
井上 直幸 Inoue, Naoyuki	54
野島 稔 Nojima, Minoru	56
アンドラーシュ・シフ András Schiff (HUN)	78
藤井 一興 Fujii, Kuzuoki	81
伊藤 恵 Itō, Kei	84
中村 紘子 Nakamura, Hiroko	86
杉谷 昭子 Sugitani, Shōko	94
ダン・タイソン Dang Tai Song (VIE)	98
田中 修二 Tanaka, Shūji	101
花房 晴美 Hanabusa, Harumi	103
仲道 郁代 Nakamichi, Ikuyo	108
神谷 郁代 Kamiya, Ikuyo	110
アンドレイ・ディエフ Andrei Diev (URS)	113
北川 晓子 Kitagawa, Akiko	5, 21

ミハイル・プレトニョフ	Michail Pletnev (URS)	60, 69
園田 高弘	Sonoda, Takahiro	72, 82
迫 昭嘉	Sako, Akiyoshi	64, 105
【ヴァイオリン】	Violinist(16名)	
黒沼ユリ子	Kuronuma, Yuriko	7
和波 孝禕	Wanami, Takayoshi	19
江藤 俊哉	Etô, Toshiya	24
徳永 二男	Tokunaga, Tsugio	34
カール・ズスケ	Karl Suske (GDR)	44
三戸 泰雄	Mito, Yasuo	52
堀米ゆづ子	Horigome, Yuzuko	55
久保 陽子	Kubo, Yôko	57
数住 岸子	Suzumi, Kishiko	68
加藤 知子	Katô, Tomoko	77
塩川 悠子	Shiokawa, Yûko	87
クリスチャン・アルテンブルガー	Christian Altenburger (AUT)	91
佐藤 慶子	Satô, Keiko	98
漆原 啓子	Urushibara, Keiko	105
前橋 汀子	Maehashi, Teiko	28, 97
深山 尚久	Miyama, Naohisa	95, 98
【その他の弦楽器】	Other Strings	
ダニエル・ベニヤミニ(Vla)	Daniel Benyamini (ISR)	76
堀 了介(Vlc)	Hori, Ryôsuke	23
堤 剛(Vlc)	Tsutsumi, Tsuyoshi	26
ミクローシュ・ペレーニ(Vlc)	Miklós Perényi (HUN)	38
ハインリッヒ・シフ(Vlc)	Heinrich Schiff (AUT)	104
上村 昇(Vlc)	Kamimura, Noboru	105
【管楽器】	Wind Instruments	
金 昌国(Flt)	Kim Chang-Kook	53, 67
工藤 重典(Flt)	Kudô, Shigenori	92
村田 四郎(Flt)	Murata, Shirô	118
宮本 文昭(Obe)	Miyamoto, Fumiaki	115
ズデニエック・ティルシャル(Hrn)	Zdenek Tylsar (TCH)	106, 122
津堅 直弘(Trp.)	Tsuken, Naohiro	42
【その他の独奏楽器】	Other Solo Instruments	
安倍 圭子(Marimba)	Abe, Keiko	36
江森 登(Accordion)	Emori, Noboru	89

種別/協演者		定期演奏時期
今井奈緒子(Organ)	Imai, Naoko	114
井上 圭子(Organ)	Inoue, Keiko	119
野坂 恵子(二十絃箏)	Nosaka, Keiko	20
沢井 忠雄(箏)	Sawai, Tadao	48
篠崎 史子(Harp)	Shinozaki, Ayako	53
吉野 直子(Harp)	Yoshino, Naoko	95
山下 和仁(Guitar)	Yamashita, Kazuhito	40
【ソプラノ】		
小池 容子	Koike, Yōko	9, 18
佐藤 則子	Satō, Noriko	12
中沢 桂	Nakazawa, Katsura	15, 20, 25, 32, 39, 46, 51, 58, 61, 70
常森 寿子	Tsunemori, Toshiko	22, 30, 43, 65, 71, 79, 85, 89, 107, 116
曾我 栄子	Soga, Eiko	27, 74, 87
真島 美弥	Majima, Miya	31
齊藤 昌子	Saitō, Masako	41
大倉由紀枝	Ōkura, Yukie	59, 93, 102
中田智恵子	Nakata, Chieko	61
瀬山 詠子	Seyama, Eiko	75
大島 洋子	Ōshima, Yōko	85, 88
遠藤久美子	Endō, Kumiko	90
小山田裕子	Oyamada, Yūko	90
日比 啓子	Hibi, Keiko	90
蒲原 史子	Kamahara, Fumiko	90
長尾 康世	Nagao, Yasuyo	90
西松甫味子	Nishimatsu, Fumiko	90, 120
マグダレーナ・ブラフシアコヴァ	Magdalena Blahusiaková (TCH)	96
佐藤しのぶ	Satō, Shinobu	111, 115, 124
渡辺 葉子	Watanabe, Yōko	114
名古屋木実	Nagoya, Konomi	120
林 康子	Hayashi, Yasuko	123
【アルト】		
成田絵智子	Narita, Echiko	2, 9, 12, 13, 27
戸田 敏子	Toda, Toshiko	15
秋葉 京子	Akiba, Kyōko	18
木村 宏子	Kimura, Hiroko	20, 25, 37, 46, 51, 88

種別/協演者	定期演奏時期
志村 年子 Shimura, Toshiko	22, 31, 39, 41
伊原 直子 Ihara, Naoko	50, 65, 74, 85, 89, 99, 111
莊 智世恵 Sô, Chiyoé	61
辻 有子 Tsuji, Yûko	62, 79, 93
荒 道子 Ara, Michiko	70
イダ・キリロヴァ Ida Kirilová (TCH)	96
郡 一愛子 Kôri, Aiko	114, 116
岩森 美里 Iwamori, Misato	120
大藤 裕子 Ôfuji, Yûko	120
【テノール】	
宮崎 義昭 Miyazaki, Yoshiaki	2
下野 昇 Shimono, Noboru	9
高 丈二 Kô, Jôji	12
砂川 稔 Sunagawa, Minoru	15
田原祥一郎 Tawara, Shôichirô	18, 20, 22
鈴木 寛一 Suzuki, Kanichi	25, 37, 46, 51, 61, 71, 79, 85, 89, 116
丹羽 勝海 Niwa, Katsuumi	27
板橋 勝 Itabashi, Masaru	31, 32
佐々木正利 Sasaki, Masatoshi	41
牧川 修一 Makikawa, Shûichi	59
山路 芳久 Yamaji, Yoshihisa	70
工藤 博 Kudô, Hiroshi	90
フランティシェック・リボラ Frantisek Livora (TCH)	96
アダルベルト・クラウス Adalbert Kraus	102
田口 輿輔 Taguchi, Kôsuke	111
若本 明志 Wakamoto, Akeshi	114
伊達 英二 Date, Eiji	120
ジュゼッペ・ジャコミーニ Giuseppe Giacomini (ITA)	123
小林 一男 Kobayashi, Kazuo	65, 74
糸場 知昭 Aiba, Tomoaki	88, 90
【バス・バリトン】	
田島 好一 Tajima, Kôichi	9
川村 英二 Kawamura, Eiji	12
栗林 義信 Kurabayashi, Yoshinobu	15, 18
岡村 喬生 Okamura, Takao	20

種別/協演者	定期演奏時期
芳野 靖夫 Yoshino, Yasuo	22, 25, 30, 37, 43, 58, 107, 120
勝部 太 Katsube, Futoru	27, 51, 59, 62, 79
平野 忠彦 Hirano, Tadahiko	31, 32, 90
高橋 啓三 Takahashi, Keizô	39, 41, 74, 89
木川田 澄 Kikawada, Kiyoshi	46
小松 英典 Komatsu, Hidenori	61, 70, 85, 88, 102, 116, 120
池田 直樹 Ikeda, Naoki	65, 111
高橋 修一 Takahashi, Shûichi	90
福島 明也 Fukushima, Akiya	90
松本 進 Matsumoto Susumu	90
牧野 正人 Makino, Masato	90
ペテル・ミクラーシュ Peter Mikulás (TCH)	96
ピエロ・カブッチッリ Piero Cappuccilli (ITA)	123

2. 定期公演以外の演奏記録(1969—1989) Concerts Excluding the Subscriptions

(1) オペラ・バレエ演奏記録

Performances with Opera and Ballet

月日	作品名	歌手	上演団体	指揮者	場所
〔1969年〕					
●オペラ					
12.10	「沖縄」(うたごえ集団創作)	黒田透子	音楽センター	井上頼豊	渋谷
〔1970年〕					
●オペラ					
4. 2	「沖縄」(7回)	黒田透子	音楽センター	村川千秋	岐阜他
4.21	「沖縄」	田山	劇団		
5. 6	「沖縄」	田山	團扇子	外山雄三	渋谷
5. 8	「」		『』	村川千秋	文京
5.10	「」		『』	外山雄三	渋谷
5.12	「」		『』	村川千秋	文京
5.13	「」		『』	村川千秋	川崎
5.27	「沖縄」(3回)	田山	『』	守屋博之	徳島他
6. 7	「沖縄」		『』		
6. 9	「沖縄」(9回)		『』	村川千秋	高崎他
6.29					
12.18	オペレッタ「シンデレラ」	ともしび		井上正志	小金井
12.20	「」	ともしび	東京シティ	八王子	
●バレエ					
9.30	「眠れる森の美女」		東京シティバレエ	福田一雄	【録音】
〔1971年〕					
●オペラ					
2.28	オペレッタ「シンデレラ」	ともしび		井上正志	文京他
4. 2	「」	木暮実	劇団		
4. 3	「」		『』		
6.25	「ナブッコ」	田山	声専オペラ研究会	星出 豊	都市 H

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
●バレエ				
1.24	「白鳥の湖」	東京労音	三石精一	厚生年金
3.23	"	"	"	八王子
4.24	「リゼット」	小林恭バレエ	福田一雄	文京
6. 4	「エスマーラルダ」	東京シティバレエ	福田一雄	【録音】
11.14	「リゼット」	東京労音／ 小林恭バレエ	福田一雄	文京
[1972年]				
●オペラ				
3.19	「沖縄」(14回)	音楽センター	山田一雄	和歌山他
4. 8	"	"	守屋博之	
4.22	「沖縄」(4回)	音楽センター	山田一雄	浜松他
4.30	"	"	守屋博之	
5.13	「沖縄」(6回)	"	"	長野他
5.27	"	"	"	
6. 5	「リゴレット」	東京声専音楽学校	杉浦正一	都市 CH
6. 6	「沖縄」(6回)	音楽センター	山田一雄	八王子
6.15	"	"	守屋博之	
7.18	「セヴィリアの理髪師」	日本音楽企画	堤俊作	都市 H
7.19	"	"	"	"
7.21	「アルジェのイタリア女」	"	"	"
7.22	"	"	"	"
●バレエ				
3. 4	「白鳥の湖」	東京バレエ	福田一雄	横浜
4.15	「胡桃割人形」	"	"	厚生年金
[1973年]				
●オペラ				
3. 8	「道化師」他	下館労音	外山雄三	下館
6.19	「椿姫」	東京声専音楽学校	杉浦正一	都市 H
7.12	「セヴィリアの理髪師」	教育委	福永陽一郎	長野
7.13	"	"	"	小千谷
8. 9	オペレッタ「おむすびころ ともしび りん」	井上正志	渋谷	
8.10	"	"	"	"
12.16	「アマールと夜の訪問者」	東京室内歌劇場	黒木良治	厚木
●バレエ				
2. 3	「白鳥の湖」	東京バレエ	福田一雄	千葉

月日	作品名	客演者	上演団体	指揮者	場所
2. 4	"	"	"	"	川崎
2.17	"	"	"	"	甲府
2.24	"	"	"	"	横須賀
4. 8	「コッペリア」	東京バレエ	福田一雄	千葉	
4.13	"	"	"	"	厚生年金
4.14	"	"	"	"	"
4.19	"	"	"	"	川崎
4.22	"	"	"	"	"
4.24	「バフチサライの泉」	小林恭バレエ	福田一雄	厚生年金	
4.25	「コッペリア」	東京バレエ	三石精一	横須賀	
7.15	「胡桃割人形」	東京バレエ	福田一雄	川崎	
7.18	"	"	"	"	新宿
7.21	"	"	"	"	千葉
7.27	"	"	"	"	横須賀
9.15	「竹取物語」	マンナバレエ	木村雅信	郵便貯金	
10.26	「邪馬台」	白鳥バレエ	三石精一	郵便貯金	
11.25	「ジゼル」	谷桃子バレエ	福田一雄	文京	
12. 8	「白鳥の湖」	東京バレエ	福田一雄	千葉	
12. 9	「ドレミの唄」	白鳥バレエ	堤 俊作	渋谷	
12.15	「白鳥の湖」	東京バレエ	福田一雄	厚生年金	
〔1974年〕					
●オペラ					
1. 7	「ヘンゼルとグレーテル」	静岡県オペラ協会	小川晶久	静岡	
1.24	「魔弾の射手」	東京室内オペラ協会	杉浦正一	郵便貯金	
1.25	「三人の女達の物語」	日本オペラ協会	山田一雄	都市CH	
10. 3	「こんにゃく問答」	日本オペラ協会	山田一雄	都市CH	
10. 4	「三人の女達の物語」	日本オペラ協会	山田一雄	都市CH	
12. 3	「フィガロの結婚」	静岡県オペラ協会	小川晶久	静岡	
●パレエ					
1.12	「白鳥の湖」	東京バレエ	福田一雄	川崎	
2.24	「胡桃割人形」	東京芭音	福田一雄		
6.28	「白鳥の湖」	東京バレエ	沢田 弘	千葉	
10.18	「ジゼル」	小林紀子バレエ	三石精一	郵便貯金	
10.22	"	"	"	"	"

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
〔1975年〕				
●オペラ				
1.18	「偽りの恋に実りなし」	東京室内オペラ協会	杉浦正一	都市 CH
1.19	「」	「」	「」	「」
3.25	「綾の鼓」	日本オペラ協会	星出 豊	郵便貯金
	「あまんじゃくとうりこひめ」		／林 光	
	「鹿踊りのはじまり」			
3.26	「」	「」	「」	「」
7. 8	ミュージカル「ヒステリー タイムズ」	三多摩青年合唱団		読売 H
7. 9	「」	「」	「」	「」
7. 9	「ミラクル博士」	東京オペラ	星出 豊	杉並
	「スペインの時」	プロデュース		
7.10	「」	「」	「」	「」
7.12	ミュージカル「ヒステリー タイムズ」	三多摩青年合唱団		立川
7.13	「」	「」	「」	「」
7.15	「運命の力」	日本音楽企画	三石精一	郵便貯金
7.16	「」	「」	「」	「」
7.17	「」	「」	「」	「」
7.18	「」	「」	「」	「」
11. 3	「カルメン」	二期会	北村協一	立川
11.15	「蝶々夫人」	「」	「」	「」
11.16	「カルメン」	「」	「」	「」
11.24	「春琴抄」	日本オペラ協会	山田一雄	郵便貯金
11.26	「」	「」	「」	「」
●バレエ				
1.31	「眠れる森の美女」	東京労音	福田一雄	厚生年金
2.10	「嵐が丘」	小林恭バレエ	福田一雄	文京
2.11	「」	「」	「」	「」
3.16	「白鳥の湖」	小林紀子バレエ	三石精一	郵便貯金
3.29	「ジゼル」	小林紀子バレエ	三石精一	日生劇場
3.30	「」	「」	「」	「」
10.30	「ダフニスとクロエ」	小林紀子バレエ	三石精一	郵便貯金
10.31	「」	「」	「」	「」

月日	作品名	音楽家	上演団体	指揮者	場所
[1976年]					
●オペラ					
3.10	「あやめ」「俊寛」		日本オペラ協会	星出 豊	郵便貯金
3.11	『夢』 "第一回小			"	"
3.21	「夕鶴」		行田夕鶴を見る会	土肥 泰	行田
3.25	「夕鶴」		川越よい音楽を聞く会	土肥 泰	埼玉
4.10	「夕鶴」		埼玉音鑑	土肥 奏	埼玉
4.22	「靈媒」他		日本音楽企画	三石精一	都市 CH
4.23	"			"	"
5.21	「後宮からの誘拐」		藤原歌劇団	杉浦正一	都市 CH
5.22	『日暮』 "			"	"
5.23	"			"	"
10.14	「春琴抄」		日本オペラ協会	荒谷俊治	虎の門
10.15	『日暮』 "			"	"
11.13	「椿姫」		アポロ八	北村協一	立川
11.17	"			"	"
11.28	「カルメン」			"	"
12. 3	「椿姫」		二期会 小	荒谷俊治	新潟
●バレエ					
1. 7	「バフチサライの泉」	小林恭	バレエ	福田一雄	文京
3.24	「白鳥の湖」	東京シティ	バレエ	三石精一	小田原
8. 2	「胡桃割人形」	さゆり会	バレエ	三石精一	中野 SH
8. 3	"			"	"
10.29	「白鳥の湖」	貝谷	バレエ	福田一雄	帝劇
10.30	"			"	"
[1977]					
●オペラ					
1.26	「セヴィリアの理髪師」	静岡県オペラ協会	小川晶久	静岡	11.8
2. 5	「赤い陣羽織」	吉田音楽事務所	小川晶久	静岡	
2.26	「赤い陣羽織」	吉田音楽事務所	星出 豊	郵便貯金	
2.27	"		"	"	"
2.28	「吉四六昇天」	日本オペラ協会	山田一雄	東京文化	
3. 2	"			"	"
3. 9	「炭焼姫」「黒い鏡」		星出 豊	郵便貯金	
3.10	"		"	"	"
3.17	「夕鶴」	伊東市民劇場	森 正	伊東	

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
6. 3	「秘密の結婚」	藤原歌劇団	星出 豊	都市 CH
6. 4	"	"	"	"
6. 5	"	"	"	"
7.14	「カヴァレリア・ルスティカ ーナ」「パリアッチ」	日本音楽企画	小松一彦	郵便貯金
7.15	"	"	"	"
7.16	"	"	"	"
10. 6	「修禅寺物語」	日本オペラ協会	星出 豊	中央会館
10. 7	"	"	"	"
10. 8	"	"	"	"
10.22	「カルメン」	東京労音	外山雄三	東京文化
10.26	「カルメン」	川崎労音	外山雄三	川崎
11. 4	「カルメン」	東京労音	外山雄三	東京文化
11. 8	「夕鶴」	東京女学院	團伊玖磨	東京文化
11.19	「カルメン」	八王子労音	外山雄三	八王子
12.14	「魔笛」	静岡県オペラ協会	小川晶久	静岡
●バレエ				
2.18	「胡桃割人形」	小林紀子バレエ	福田一雄	郵便貯金
10.28	「オーロラの結婚」	貝谷バレエ	福田一雄	帝劇
10.29	"	"	"	"
〔1978年〕				
●オペラ				
1. 6	「フィガロの結婚」	二期会	北村協一	立川
2.11	「ファウスト」	二期会	佐藤功太郎	神奈川
3. 8	「こんにゃく問答」「死神」	日本オペラ協会	星出 豊	郵便貯金
3. 9	"	"	"	"
3.14	「修禅寺物語」	二期会	森 正	虎の門
3.17	「ウィンザーの陽気な女房 たち」	二期会	ヤン・ボッパー ／田中信昭	虎の門
3.24	「イドメネオ」	藤原歌劇団	杉浦正一	都市 CH
3.25	"	"	"	"
3.26	"	"	"	"
7. 7	「町の広場」	藤原歌劇団	星出 豊	都市 CH
7. 8	"	"	"	"
7. 9	"	"	"	"

月日	作品名	登場曲	上演団体	指揮者	場所
9.11	「イル・カンパネルロ」	東京室内オペラ劇場	杉浦正一	都市 CH	都内
	「オペラのけいこ」				
9.12	『夕鶴』	『夕鶴』	二期会	團伊玖磨	長岡
9.13		『夕鶴』			
9.14		"		"	"
10. 1	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	長岡	都内
10. 2	"				
10. 3	「夕鶴」(3回)	"	石橋義也	新潟	都内
10. 5	"	"			
10. 6	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	新潟	都内
10.29	「夕鶴」				
11. 3	「あまんじやくとうりこひめ」	こんにゃく座	林光	立川	都内
11.11	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	千葉	都内
●バレエ					
1.24	「ゼンツァーノの花祭り」	東京都	福田一雄	東京文化	都内
2.22	「レ・シルフィード」	スターダンサーズバレエ	佐藤功太郎	渋谷	都内
2.23	"	"	"	"	"
8.29	「コッペリア」	さゆり会バレエ	福田一雄	中野 SH	都内
8.30	"	"	"	"	"
9.23	「いのち」	スターダンサーズバレエ	渡辺暁雄	渋谷	都内
10.24	「眠れる森の美女」	小林紀子バレエ	福田一雄	郵便貯金	都内
10.25	"	"	"	"	"
〔1979年〕					
●オペラ					
1.16	「天国と地獄」	長門美保歌劇団	小松一彦	東京文化	都内
1.17	"	"	"	"	"
1.18	"	"	"	"	"
2.27	「修禪寺物語」	日本オペラ協会	渡辺暁雄	東京文化	都内
2.28	"	"	"	"	"
3. 8	「天守物語」	日本オペラ協会	星出豊	郵便貯金	都内
3. 9	"	"	"	"	"
10. 3	「フィガロの結婚」	モーツアルト・オペラ研究会	高橋誠也	神奈川	都内
10.28	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	館山	都内
10.30	"	"	"	豊橋	都内
11. 3	"	"	"	静岡	都内

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
11. 7 }	「夕鶴」(11回)	日生劇場	團伊玖磨	日生劇場
11.12 }				
11.27	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	長野
11.28	"	"	"	上越
●パレエ				
2.18	「リゼット」	小林恭パレエ	福田一雄	郵便貯金
2.23 }	「ジゼル」	小林紀子パレエ	三石精一	郵便貯金
2.24 }	"	"	"	"
3.30	「ジゼル」	宮木パレエ学園	堤 俊作	郵便貯金
6.12	「リゼット」	谷桃子パレエ	福田一雄	神奈川
7.15	「白鳥の湖」	レニングラード・マーリイ劇場	ガマレイ	神奈川
7.17	"	"	"	静岡
8. 5	「眠れる森の美女」	"	"	仙台
8. 6	「白鳥の湖」	"	"	郡山
8. 7	"	"	"	浦和
8. 8	"	"	"	高崎
8.10	「ジゼル」	"	"	東京文化
8.11	「白鳥の湖」	"	"	"
8.12	「眠れる森の美女」	"	"	"
8.13	"	"	"	"
8.14	パレエ名作集	"	"	"
8.15	「眠れる森の美女」	"	フェドトフ	神奈川
[1980年]				
●オペラ				
1.20	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	藤沢
9.27	「夕鶴」	"	"	長井
9.28	「夕鶴」	"	"	天童
10.12	「夕鶴」	"	"	横須賀
10.17	「ウンディーネ」	東京室内オペラ協会	星出 豊	都市RH
10.18 }	"	"	"	"
10.19	"	"	"	"
11. 6	「蝶々夫人」	二期会	佐藤功太郎	新潟
11.10	「セヴィリアの理髪師」(2回)	日生劇場	佐藤功太郎	日生劇場
11.11	" (2回)	"	"	"
11.12	" (2回)	"	"	"
11.13	" (2回)	"	"	"

月日	作品名	音楽家	上演団体	指揮者	場所
11.29	「蝶々夫人」(2回)		足利市民会館	佐藤功太郎	足利
12. 2	〃 (2回)		"	"	"
12. 3	木馬	現物	(2回)	"	"
●バレエ	春	出早	樹陰堂		
1.26	バレエ名作集		ボリショイ劇場	クラス	東京文化
1.27	木馬	現物	"	"	"
1.29	「ジゼル」		"	"	"
2.12	「バフチサライの泉」	小林恭バレエ	福田一雄	郵便貯金	
2.16	「ジゼル」	ボリショイ劇場	クラス	中野SH	
2.17	〃	"	"	神奈川	
2.18	「ジゼル」	ボリショイ劇場	クラス	中野SH	
2.19	バレエ名作集	"	"	"	"
5.16	「雪姫」	東京シティバレエ	福田一雄	郵便貯金	
7.19	「白鳥の湖」(2回)	東京バレエ劇場	堤俊作	新宿文化	
8.10	「白鳥の湖」	キエフ・バレエ	リヤーボフ	名古屋	
8.12	〃	"	"	東京文化	
8.13	「ロメオとジュリエット」	"	"	"	"
8.14	〃	"	"	"	"
8.15	「ライモンダ」	"	"	"	"
8.16	「白鳥の湖」(2回)	"	"	"	"
8.17	〃	"	"	千葉	
8.19	〃	"	"	厚生年金	
8.20	「ロメオとジュリエット」	"	"	"	"
8.21	「白鳥の湖」	"	"	静岡	
8.22	〃	"	"	神奈川	
8.26	「胡桃割人形」	さゆり会バレエ	福田一雄	中野SH	
8.27	〃	"	"	"	"
9. 9	「白鳥の湖」	キエフ・バレエ	リヤーボフ	豊橋	
9.10	〃	"	"	NHK・H	
9.11	〃	"	"	"	"
9.18	「妖精の接吻」他	スター・ダンサーズ バレエ	佐藤功太郎 福田一雄	東京文化	
9.19	現物	現物	"	三石精一	郵便貯金
10.20	「ドン・キホーテ」	小林恭バレエ			
12. 5	「胡桃割人形」	東京バレエセンター	福田一雄	郵便貯金	

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
〔1981年〕				
●オペラ				
2.15	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	厚木
9. 4	「泣いた赤鬼」	日生劇場	星出 豊	日生劇場
9. 5	「」	''	''	''
9.11	「魔笛」(4回)	東京室内オペラ協会	杉浦正一	都市 CH
9.14	「」			
9.17	「カヴァレリア・ルスティカ」 ナ」「修道女アンジェリカ」	ステファノオペラ 劇場	河地良智	都市 CH
9.18	「」	''	''	''
10.10	「ドン・ジョヴァンニ」	モーツアルトの会	''	横浜
10.17	「蝶々夫人」	茨城オペラ研究会	福森 湘	水戸
11. 9	「魔笛」(2回)	日生劇場	手塚幸紀	日生劇場
11.10	「」(2回)	''	''	''
11.11	「」(2回)	''	''	''
11.12	「」(2回)	''	''	''
12. 5	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	太田
●バレエ				
1. 8	「胡桃割人形」	谷桃子バレエ	福田一雄	郵便貯金
1. 9	「」	''	''	''
1.11	「白鳥の湖」	マールイ・バレエ	コージン	新潟
1.14	「白鳥の湖」	''	''	東京文化
1.15	「」(2回)	''	''	''
1.17	「ロメオとジュリエット」 (2回)	''	''	東京文化
1.18	「白鳥の湖」	''	''	東京文化
1.20	「白鳥の湖」	''	''	神奈川
1.21	「ロメオとジュリエット」	''	''	静岡
1.22	「白鳥の湖」	''	''	名古屋
2. 9	「白鳥の湖」	''	''	宇都宮
2.10	「白鳥の湖」	''	''	東京文化
2.11	「白鳥の湖」(2回)	''	''	''
4. 3	「眠れる森の美女」	小林紀子バレエ	三石精一	郵便貯金
4. 4	「ラ・バヤダール」			
5. 2	「コッペリア」 「ダッタン人」	小林恭バレエ	福田一雄	郵便貯金
6. 5	「レ・シルフィード」	小林紀子バレエ	三石精一	郵便貯金

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
6. 6	"	"	"	ヨルノハセ
6.18	「レ・シルフィード」他	牧バレエ	福田一雄	郵便貯金
7.25	「幻想交響曲」他	井上バレエ	"	郵便貯金
8.26	「白鳥の湖」	さゆり会バレエ	"	新宿文化
8.27	"	芭道	"	人間科学館
10.22	「ドン・キホーテ」	小林恭バレエ	"	郵便貯金
〔1982年〕				
●オペラ				
1.12	「ラ・ボエーム」	ステファノオペラ劇場	河地良智	郵便貯金
1.13	"	"	"	"
3. 2	「唐人お吉」	日本オペラ協会	星出 豊	郵便貯金
3. 3	"	"	"	"
5. 3	「夕鶴」	二期会	石橋義也	簡易保険
6.18	「夕鶴」(8回)	"	團伊玖磨	立川他
7.21	「蝶々夫人」(6回)	文化庁／二期会	佐藤功太郎	越谷他
7.22	"	青少年芸術劇場		
7.26	"			
8.28	「泣いた赤鬼」(5回)	日生劇場	星出 豊	日生劇場
8.31	"			
9.23	「ヒロシマのオルフェ」	日本オペラ協会	広井 隆	都市CH
	「寢太」	"	星出 豊	"
9.24	"	"	"	"
9.25	"	"	"	"
10. 8	「ボッカチオ」	尚美学園	荒谷俊治	浅草公会堂
10.11	「蝶々夫人」	藤沢市民オペラ	福永陽一郎	藤沢
10.15	「椿姫」	船橋市民オペラ	黒岩英臣	船橋
10.17	"	"	"	"
10.23	「蝶々夫人」	習志野市民オペラ	福永陽一郎	習志野
11. 8	「蝶々夫人」(8回)	日生劇場	手塚幸紀	日生劇場
11.12	"			
11.29	「三部作」(ブッチャーニ)	日本オペラ協会	福森 湘	東京文化
11.30	"	"	"	"
12. 1	"	"	"	"
12. 4	「蝶々夫人」	二期会	手塚幸紀	甲府

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
●バレエ				
1. 9	「バフチサライの泉」	小林恭バレエ	堤 俊作	郵便貯金
1.20	「ドン・キホーテ」	谷桃子バレエ	福田一雄	新宿文化
1.21	"	"	"	"
1.23	「コッペリア」「胡桃割人形」 「人魚姫」	東京バレエ劇場	"	新宿文化
1.24	"	"	"	"
5. 8	「ペトルーシュカ」「エスメラルダとカジモド」「レ・シルフィード」	小林恭バレエ	"	郵便貯金
5.28	「海賊」	貝谷バレエ	星出 豊	簡易保険
5.29	"	"	"	"
10.20	「胡桃割人形」	小林恭バレエ	福田一雄	郵便貯金
10.28	「オルフェウス」	小林紀子バレエ	三石精一	郵便貯金
10.29	"	"	"	"
[1983年]				
●オペラ				
1.23	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	磐田
6.14	「蝶々夫人」(2回)	二期会	北村協一	飯田
6.15	"	"	"	"
6.16	"	"	"	"
7. 3	「蝶々夫人」	二期会	北村協一	沼津
7. 8	「蝶々夫人」(5回)	二期会	汐澤安彦	足利
7.18				
10. 1	「夕鶴」(2回)	二期会	汐澤安彦	入間
10.14	「マハゴニー」市との興亡」	藤原歌劇団	星出 豊	都市 CH
10.15	(4回)			
10.16				
11. 6	「蝶々夫人」	中野 SH／二期会	佐藤功太郎	中野 SH
11. 8	「夕鶴」(6回)	日生劇場	團伊玖磨	日生劇場
11. 9				
11.10				
11.22	「夕鶴」	文化庁／二期会	汐澤安彦	虎の門
12.18	「夕鶴」	文化庁／二期会	佐藤功太郎	長野

月日	作品名	香取井	上演団体	指揮者	場所
●バレエ					
1. 8	「ペトルーシュカ」		小林恭バレエ	国分 誠	郵便貯金
1.21	「ジゼル」		谷桃子バレエ	福田一雄	新宿文化
1.22	"		"	"	"
6.11	「胡桃割人形」		貝谷バレエ	堤 俊作	簡易保険
8. 1	「ジゼル」(8回)		こども芸術劇場	三石精一	江別他
8.10					
9.10	「白鳥の湖」(5回)		ボリショイバレエ	ジュライティス	神奈川他
1.	「ロメオとジュリエット」				
9.18	「ジゼル」(3回)				
10. 2	「白鳥の湖」(7回)		ボリショイバレエ	ジュライティス	昭和女子他
1.	「ロメオとジュリエット」				
10.12	「ジゼル」(11回)				
10.29	「バフチサライの泉」		小林恭バレエ	福田一雄	簡易保険
[1984年]					
●オペラ					
5.28	「夕鶴」		二期会	汐澤安彦	横須賀
6.29	「カルメン」		"	星出 豊	新宿文化
7. 8	「夕鶴」		二期会	團伊玖磨	掛川
9.21	「蝶々夫人」		文化庁／二期会	佐藤功太郎	豊田他
1.	(10回)		移動祭芸術祭		
10. 5					
11. 4	「蝶々夫人」		二期会	佐藤功太郎	武藏野
11. 5	「ヘンゼルとグレーテル」		日生劇場	佐藤功太郎	日生劇場
1.	(8回)				
11. 9					
11.28	「蝶々夫人」(3回)		二期会	森 正	日生劇場
1.					
11.30					
●バレエ					
1. 7	「ドン・キホーテ」		小林恭バレエ	福田一雄	簡易保険
2.11	「白鳥の湖」		貝谷バレエ	堤 俊作	羽生
11.18	「白鳥の湖」		谷桃子バレエ	三石精一	渋谷

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
[1985年]				
●オペラ				
2. 9	「夕鶴」	船橋市民ホール ／二期会	團伊玖磨	船橋
4.20	「蝶々夫人」	二期会	佐藤功太郎	人見
5.18	「夕鶴」(2回)	二期会	團伊玖磨	新宿文化
7.12	「蝶々夫人」	埼玉市民オペラ	長谷川ひろし	浦和
7.13	"	"	"	"
7.19	「ヘルプ」(6回)	文化庁/日本オペラ ／青少年芸術劇場	星出 豊	伊勢原他
8. 3	"			
7.25	「ヘンゼルとグレーテル」	文化庁／二期会	佐藤功太郎	三郷他
8.12	(小編成)(16回)	こども芸術劇場		
9.25	「メリーウィドー」	文化庁／二期会	松尾葉子	山梨他
10. 5	(9回)	移動芸術祭		
10.14	「夕鶴」(6回)	伊那市／二期会	汐澤安彦	伊那他
10.17	"			
10.24	「春琴抄」	日本オペラ協会	星出 豊	新宿文化
10.25	"			
11. 1	「マノン・レスコー」	藤原歌劇団	ガダーニョ	東京文化
11. 2	「夕鶴」	二期会	汐澤安彦	岩手他
11. 3	"			
11. 4	「マノン・レスコー」	藤原歌劇団	ガダーニョ	東京文化
11. 6	"	"	"	"
●バレエ				
1. 5	「バフチサライの泉」	小林恭バレエ	福田一雄	簡易保険
1. 8	「ロメオとジュリエット」	谷桃子バレエ	福田一雄	郵便貯金
1. 9	"			
1.18	「メディア」	貝谷バレエ	福田一雄	簡易保険
11.22	「ジゼル」	東京シティバレエ団	堤 俊作	簡易保険
[1986年]				
●オペラ				
1.25	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	市川
3.26	「蝶々夫人」	藤原歌劇団	福森 湘	江戸川
5. 2	「蝶々夫人」	二期会	佐藤功太郎	練馬
7.24	「フィガロの結婚」	二期会	佐藤功太郎	新宿文化
7.25	「ヘルプ」(6回)	日本オペラ協会 青少年芸術劇場	星出 豊	江戸川他
8. 2	"			

月日	作品名	客演計	上演団体	指揮者	場所
8. 7	「ヘンゼルとグレーテル」	文化庁／二期会	佐藤功太郎 厚木他		
8.24	(小編成)(14回)	横濱市こども芸術劇場			
9.21	「メリー・ウィドー」	日本文化庁／二期会	松尾葉子 花巻他		
10. 1	(8回)	移動芸術劇場			
10.13	「夕鶴」	二期会	汐澤安彦 人見記念		
10.20	「ヘンゼルとグレーテル」	文化庁／二期会	現田茂夫 飯田他		
10.22	(6回)	千葉県立音楽センター(西毛洋子)			
10.23	「ヘンゼルとグレーテル」	文化庁／二期会	佐藤功太郎 長岡		
10.24	「夕鶴」(2回)	文化庁／二期会	尾高忠明 長野		
11. 4	「セヴィリアの理髪師」	日生劇場	手塚幸紀 日生劇場		
11.10	(10回)	日生劇場 会場二 横濱市			
11.11	「妖精ヴィッリ」	藤原歌劇団	星出 豊 新宿文化		
11.12	「カヴァレリア・ルスティカ」	同上			
11.13	「ナ」	同上			
12. 2	「夕鶴」(2回)	二期会 東	團伊玖磨 駒ヶ根		
●バレエ					
1. 5	「ドン・キホーテ」	谷桃子バレエ	三石精一 郵便貯金		
1. 6	「」	同上			
1.18	「白鳥の湖」	貝谷バレエ	堤 俊作 簡易保険		
2.10	「ジゼル」「動と静」	スターダンサーズ 田中良和	東京文化		
2.11	「」	バレエ 谷			
5.31	「獅子」	貝谷バレエ	末広 誠 厚生年金		
8. 2	「ジゼル」他(7回)	スターダンサーズ	三石精一 菊地他		
8. 9	「」	同上			
8.30	「白鳥の湖」(6回)	レニングラード・	フェドトフ 神奈川他		
9.15	「検察官」(2回)	バレエ	他		
	「ジゼル」(4回)				
	「名作集」(2回)				
10. 2	「白鳥の湖」	レニングラード・	フェドトフ 静岡他		
10.10	「ジゼル」	バレエ	他		
11.19	「白鳥の湖」(3回)	松山バレエ	堤 俊作 東京文化		
11.21	「」	同上			
[1987年]					
●オペラ	「」	大庭田根	鈴鹿口山		
7.16	「夕鶴」(2回)	二期会	松井和彦 浦和		

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
7.25	「ヘンゼルとグレーテル」	文化庁／二期会	佐藤功太郎	近江八幡他
8.10	(13回)(小編成)	こども芸術劇場		
7.28	「修禅寺物語」(小編成)(5回)	文化庁／日本オペラ	星出 豊	八王子他
8. 2		テ		
8.28	「泣いた赤鬼」	日生劇場	松井和彦	日生劇場
8.29	"	"	"	"
9.25	「メリーウィドー」(8回)	文化庁／二期会	松尾葉子	刈谷他
10. 4		移動芸術劇場		
10.23	「セヴィリヤの理髪師」	二期会	レオーネ	新宿文化
10.25	(3回)			
11. 9	「魔笛」(10回)	日生劇場／二期会	手塚幸紀	日生劇場
11.16				
11.11	「小野小町」別篇(3回)	日中共同オペラ	高 健春	厚生年金
11.18		(小編成)		
12. 1	「蝶々夫人」	東京オペラプロ	松岡 究	都市CH
	(小編成)	デュース		
12. 2	"	"	"	"
12.25	「ヘンゼルとグレーテル」	横浜シティオペラ	大野和士	神奈川
	(2回)			
●バレエ				
1. 9	「リゼット」	谷桃子バレエ	福田一雄	郵便貯金
1.10	"	"	"	"
1.24	「白鳥の湖」	貝谷バレエ	堤 俊作	簡易保険
9. 3	「白鳥の湖」	谷桃子バレエ	三石精一	【録音】
10.31	「ジゼル」(3回)	日生劇場／松山バレエ	堤 俊作	日生劇場
11. 3				
[1988年]				
●オペラ				
3.17	「シモン・ボッカネグラ」	東京オペラプロ	ボロンタ	簡易保険
		デュース		
3.18	"	"	"	"
3.24	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	山梨
3.28	「夕鶴」	二期会	佐藤功太郎	松本
4.20	「ドン・カルロ」	ローゼの会	三石精一	新宿文化
4.14	「魔笛」	山口俊彦	現田茂夫	目黒【録音】
4.22	「椿姫」	松竹映画	増井信貴	浦和【録音】

月日	作品名	音楽家	上演団体	指揮者	場所
7.26	「修禅寺物語」(4回)	文化庁/日本オペラ/青少年芸術劇場	星出 豊	小野他	
7.29					
7.29	「ヘンゼルとグレーテル」(小編成)(12回)	文化庁/二期会	佐藤功太郎	出雲他	
8.10		こども芸術劇場			
9.23	「カルメン」(6回)	文化庁/二期会	佐藤功太郎	羽生他	
9.30		移動芸術劇場			
10. 2	「カルメン」	二期会	佐藤功太郎	長野	
10.22	「蝶々夫人」	藤原歌劇団	菊地彦典	岩手	
10.24	"	"	"	青森	
11. 1	「魔弾の射手」(10回)	日生劇場	大友直人	日生劇場	
11. 7					
11.11	「蝶々夫人」	藤原歌劇団	菊地彦典	新宿文化	
11.12	"	"	"	"	
11.21	「夕鶴」(2回)	二期会	佐藤功太郎	厚木	
12.24	「ヘンゼルとグレーテル」	二期会	佐藤功太郎	新宿文化	
12.15	"	"	"	"	
●バレエ					
1.23	「白鳥の湖」	谷桃子バレエ	三石精一	新宿文化	
1.24	"	"	"	"	
5.27	「新当麻曼陀羅」	松山バレエ	堤 俊作	練馬	
5.29	"	"	"	"	
5.30	"	"	"	【録音】	
9.13	「ライモンダ」(1回)	ボリショイバレエ	シナイスキー	神奈川	
9.20	「白鳥の湖」(2回)	(8回)			
	「ジゼル」(3回)				
10. 5	「ライモンダ」(3回)	ボリショイバレエ	シナイスキー	東京文化他	
10.16	「白鳥の湖」(5回)	(13回)			
	「ジゼル」(4回)他				
10.29	「ダフニスとクロエ」	小林紀子バレエ	三石精一	郵便貯金	
11.24	「ジゼル」	山本礼子バレエ	堤 俊作	太田	
11.25	"	"	"	"	
12. 4	「眠れる森の美女」	松山バレエ	堤 俊作	厚木他	
12.13	(4回)				
12.27	「胡桃割人形」	小林紀子バレエ	三石精一	郵便貯金	
〔1989年〕					
●オペラ					
2. 7	「メリー・ウィドー」	二期会	松尾葉子	伊那	

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
3.14	「ヘンゼルとグレーテル」	二期会／桐蔭学園	佐藤功太郎	桐蔭
3.15	「」	"	"	"
3.18	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	新井
5. 9	「蝶々夫人」	東京オペラプロ デュース	松岡 究	都市 CH
5.10	「」	"	"	"
6.23	「魔笛」(3回)	二期会	高関 健	新宿文化
6.25				
6.30	「蝶々夫人」	二期会	佐藤功太郎	新潟
7. 1	「」	"	"	柏崎
7.26	「蝶々夫人」(4回)	文化庁／日本オペラ／ 青少年芸術劇場	福森 湘	倉敷他
7.29				
7.29	「コシ・ファン・トゥッテ」	二期会オペラ研修 所	河地良智	新宿文化
7.30	「ヘンゼルとグレーテル」	文化庁／二期会	佐藤功太郎	川越他
8.13	(小編成)(12回)	こども芸術劇場		
8. 6	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	神奈川
8.25	「カルメン」	二期会／藤原	佐藤功太郎	新宿文化
9. 7	「椿姫」	二期会	佐藤功太郎	甲府
10. 4	「美女と野獣」	日本オペラ協会	星出 豊	新宿文化
10. 5	「」	"	"	"
10.29	「ラ・ボエーム」	茨城オペラ協会	レニッケ	水戸
11. 2	「蝶々夫人」(11回)	日生劇場	佐藤功太郎	日生劇場
11.10				
11.24	「アイーダ」(4回)	藤原歌劇団	ペントウーラ	東京文化
12. 3				
12.27	「ヘンゼルとグレーテル」	二期会	佐藤功太郎	新宿文化
12.28	「」	"	"	"
●バレエ				
3. 2	「ラ・シルフィード」(3回)	東京バレエ	ゲヴァル	東京文化
3. 4				
7.15	「コッペリア」	松山バレエ	提 俊作	新宿文化
7.16	「」	"	"	"
8.27	「眠れる森の美女」(4回)	ベルミ・バレエ		神奈川他
1	「胡桃割人形」(4回)			
9.24	「白鳥の湖」(6回)			
	「バレエコンサート」(1回)			

月日	作品名	上演団体	指揮者	場所
10.14	「ロメオとジュリエット」	松山バレエ	堤 俊作	簡易保険
10.15	「」	『』	『』	『』
10.28	「オーロラの結婚」	小林紀子バレエ	三石精一	郵便貯金
12.15	「胡桃割人形」	井上バレエ	堤 俊作	郵便貯金
12.16	「」	『』	『』	『』
〔1990年〕				
●オペラ				
1.14	「椿姫」	二期会	大野和士	新宿文化
1.21	「夕鶴」	二期会	團伊玖磨	下田
2.24	「蝶々夫人」	二期会	大野和士	東京文化
2.25	「」	『』	『』	『』
2.26	「」	『』	『』	『』
3. 6	「こうもり」	二期会	北原幸男	簡易保険
3.17	「夕鶴」	二期会	三石精一	立川
3.24	「蝶々夫人」	二期会	佐藤功太郎	岡谷
●バレエ				
1. 8	「リゼット」	谷桃子バレエ	末広 誠	簡易保険
1. 9	「」	『』	『』	『』
1.26	「ジゼル」	スターダンサーズ	田中良和	郵便貯金
1.27	「」	『』	『』	『』

オペラ・バレエ演奏作品一覧

作曲家	作品名	回数
〔オペラ作品〕		
日本 Japan		
芥川也寸志 Akutagawa, Yasushi	暗い鏡(ヒロシマのオルフェ)	5
別宮 貞雄 Bekku, Sadao	三人の女達の物語	2
團 伊玖磨 Dan, Ikuma	夕鶴 Yûzuru	84
林 光 Hayashi, Hikaru	あまんじゃくとうりこひめ	3
池辺晋一郎 Ikebe, Shinichirô	死神	2
入野 義朗 Irino, Yoshirô	綾の鼓	2
木下そんき他 Kinoshita, Sonki	沖縄	54
小山 清茂 Koyama, Kiyoshige	こんにゃく問答	4
牧野由多可 Makino, Yutaka	あやめ	2
〃	鹿踊りのはじまり	2

作曲家	作品名	回数
松井 和彦 Matsui, Kazuhiko	泣いた赤鬼	9
三木 稔 Miki, Minoru	春琴抄	6
水野 修孝 Mizuno, Shûkô	天守物語	2
" "	美女と野獣	2
小倉 朗 Ogura, Rô	寝太	3
大栗 裕 Ôguri, Hiroshi	赤い陣羽織	2
清水 倭 Shimizu, Osamu	俊寛	2
" "	炭焼姫	2
" "	修禅寺物語	10
高木東六 Takagi, Tôroku	唐人お吉	2
" "	おむすびころりん	2
井上 正志 Inoue, Masashi	シンデレラ	5
三多摩青年合唱団集団創作	ヒステリータイムズ	4
日中共同製作	小野小町	3
オーストリア Austria		
ハイドン Franz Joseph Haydn	偽りの恋に実りなし L' infedeltà delusa	2
レハール Franz Lehár	メリー・ウィドー The merry widow	26
モーツアルト	イドメネオ Idomeneo, rè di Creta	3
Wolfgang Amadeus Mozart	後宮からの誘拐 Die Entführung aus dem Serail	3
" "	フィガロの結婚 Le nozze di Figaro	4
" "	ドン・ジョヴァンニ Don Giovanni	1
" "	コシ・ファン・トゥッテ Così fan tutte	1
" "	魔笛 Die Zauberflöte	27
ヨハン・シュトラウス	こうもり Die Fledermaus	1
Johann Strauss II		
スッペ Franz von Suppé	ボッカチオ Boccaccio	1
アメリカ USA		
メノッティ Gian Carlo Menotti	アマールと夜の訪問者 Amahl and the night visitors	1
" "	泥棒とオールドミス The old maid and the thief	2
" "	霊媒 The medium	2
" "	ヘルプ Help, Help, the Globolinks!	12

作曲家	作品名	回数
イタリア Italy		
チマローザ Domenico Cimarosa	秘密の結婚 Il matrimonio segreto	3
ドニゼッティ Gaetano Donizetti	夜のベル Il campanello di notte	4
レオンカヴァッロ Giacomo Puccini	道化師 I pagliacci	1
Ruggiero Leoncavallo		
マスカーニ Pietro Mascagni	カヴァレリア・ルスティカーナ Cavalleria rusticana	8
プッチーニ Giacomo Puccini	妖精ヴィッリ Le villi	3
" "	マノン・レスコー Manon Lescaut	3
" "	ラ・ボエーム La Bohème	3
" "	蝶々夫人 Madama Butterfly	84
" "	外套 Il tabarro	3
" "	修道女アンジェリカ Suor Angelica	5
" "	ジャンニ・スキッキ Gianni Schicchi	3
ロッシーニ Gioacchino Rossini	アルジェのイタリア女 L'italiana in Algeri	26
" "	セヴィリアの理髪師 Il barbiere di Seville	26
ヴェルディ Giuseppe Verdi	ナブッコ Nabucco	1
" "	リゴレット Rigoletto	1
" "	椿姫 La Traviata	9
" "	シモン・ボッカネグラ Simon Boccanegra	2
" "	運命の力 La forza del destino	4
" "	ドン・カルロ Don Carlos	1
" "	アイーダ Aida	4
ヴォルフ=フェラーリ Ermanno Wolf-Ferrari	町の広場 Il campiello	3
ドイツ Germany		
フンペーディング Engelbert Humperdinck	ヘンゼルとグレーテル Hänsel und Gretel	103
ロルツィング Gustav Lortzing	ウンディーネ Undine	3
ニコライ Otto Nicolai	オペラのけいこ Opernprobe	4
ウェーバー Carl Maria von Weber	ウインザーの陽気な女房たち Die lustigen Weiber von Windsor	1
	魔弾の射手 Der Freischütz	12

作曲家	作品名	回数
ワイル Kurt Weil	マハゴニー市の興亡 Aufsteig und Fall der Stadt Mahagonny	3
フランス France		
ビゼー Georges Bizet	カルメン Carmen	16
" "	ミラクル博士 Le Docteur Miracle	2
グノー Charles Gounod	ファウスト Faust	1
オッフェンバック Jacques Offenbach	天国と地獄 Orphée aux enfers	3
ラヴェル Maurice Ravel	スペインの時 L'heure espagnole	2
〔バレエ作品〕		
ロシア・ソヴィエト Rossian/Soviet Union		
アサフィエフ Boris Asafiev	バフチサライの泉	6
グラズノフ Aleksandr Glazunov	Бахчисарайский фонтан	
B.チャイコフスキー Boris Alexandrovich Tchaikovsky	ライモンダ Raymonda	6
P.チャイコフスキー Peter Ilyich Tchaikovsky	検察官 The Prosecutor	2
" "	白鳥の湖 The swan lake	89
" "	眠れる森の美女 The sleeping beauty	18
" "	胡桃割人形 The nutcracker	23
" "	オーロラの結婚 Aurora's Wedding	3
" "	雪娘 Снегурочка	1
" "	ロココの主題による変奏曲 Variations sur un thème rococo	1
プロコフィエフ Sergei Prokofiev	ロメオとジュリエット Romeo and Juliet	16
ストラヴィンスキイ Igor Stravinsky	妖精の接吻 Le baiser de la fée	2
" "	ペトルーシュカ Pétrouchka	2
" "	オルフェウス Orpheus	2
フランス France		
アダン Adolphe Charles Adam	ジゼル Giselle	57
" "	海賊 Le corsaire	2
ドリーブ Léo Delibes	コッペリア Coppélia, ou La file aux yeux d'émail	14
タリオーニ Marie Taglioni	ラ・シルフィード La Sylphide	3
ラヴェル Maurice Ravel	ダフニスとクロエ Daphnis et Chloé	3
ベルリオーズ Hector Berlioz	幻想交響曲 Symphonie fantastique	1

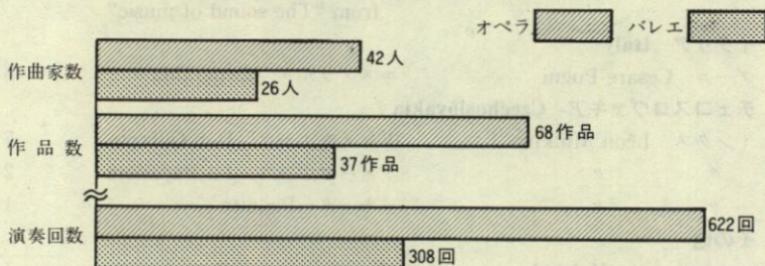
作曲家	作品名	回数
ショーソン Ernest Chausson	リラの園 Le temps des lilas	1
日本 Japan		
池辺晋一郎 Ikebe, Shinichirô	いのち Inochi	1
" "	動と静 Dô-to-Sei (Moving and Silence)	2
石井 歆 Ishii, Kan	邪馬台 Yamatai	1
木村 雅信 Kimura, Masanobu	嵐が丘 Arashi-ga-Oka	2
小島 佳男 Kojima, Yoshio	獅子 Shishi (A Lion)	1
菅野 由弘 Sugano, Yoshihiro	新当麻曼陀羅 Shin-Taima-Mandara	3
木村 雅信 Kimura, Masanobu	竹取物語 Taketori-monogatari	1
アメリカ USA		
バーバー Samuel Barber	メディア Medea-The cave of the heart	1
ロジャーズ Richarl Rodgers	ドレミの唄 "do-re-mi no Uta" from "The sound of music"	2
イタリア Italy		
ブーニ Cesare Pugni	エスメラルダ Esmeralda	6
チェコスロヴァキア Czechoslovakia		
ミンクス Léon Minkus	ドン・キホーテ Don Quixote	7
" "	ラ・バヤデール La Bayadere	2
" "	パキータ Paquita	1
その他		
ヘルステッド Helsted	ゼンツァーノの花祭り	1
ヘルテル他 Hertel	リゼット Lisette	8
編曲作品 Arrangement		
ショパン Chopin/Stravinsky+ Glazunov	レ・シルフィード Les Sylphide	6
—	バレエ名作集 Omnibus	11

【注】新星日響の定期公演以外の演奏活動のなかで、オペラ・バレエ演奏は重要な位置を占めている。記録は楽団創立の1969年から20周年を迎えた1989年度までの全てのオペラ・バレエ演奏を年代順にまとめたもので、上演団体や指揮者が判明しているものは全て記載した。参考資料は楽団が毎年まとめている「事業報告」に依っているが、年によっては記載方法が細部において異なることもありますし、上演団体や指揮者の項目が記載されていない場合もある。バレエの場合の上演団体は略記してあるが、正式名称は以下の通りである。

- ・東京シティバレエ…………東京シティバレエ団
- ・小林恭バレエ…………小林恭バレエ団
- ・東京バレエ…………東京バレエ劇場
- ・マンナバレエ…………マンナバレエ団
- ・白鳥バレエ…………白鳥バレエ団
- ・谷桃子バレエ…………谷桃子バレエ団
- ・小林紀子バレエ…………小林紀子バレエ団
- ・さゆり会バレエ…………さゆり会バレエ団
- ・貝谷バレエ…………貝谷バレエ団
- ・スターダンサーズバレエ…スターダンサーズバレエ団
- ・牧バレエ…………牧バレエ団
- ・松山バレエ…………松山バレエ団
- ・山本礼子バレエ…………山本礼子バレエ団
- ・井上バレエ…………井上バレエ団

こうした記録をまとめてみると、いくつかの特徴がうかがえる。それらは以下のグラフ資料によってその特徴が明確になるとと思われるが、なかでもオペラ演奏においては日本の作品が量的にも質的にも非常に大きな位置を占めていることがわかる。

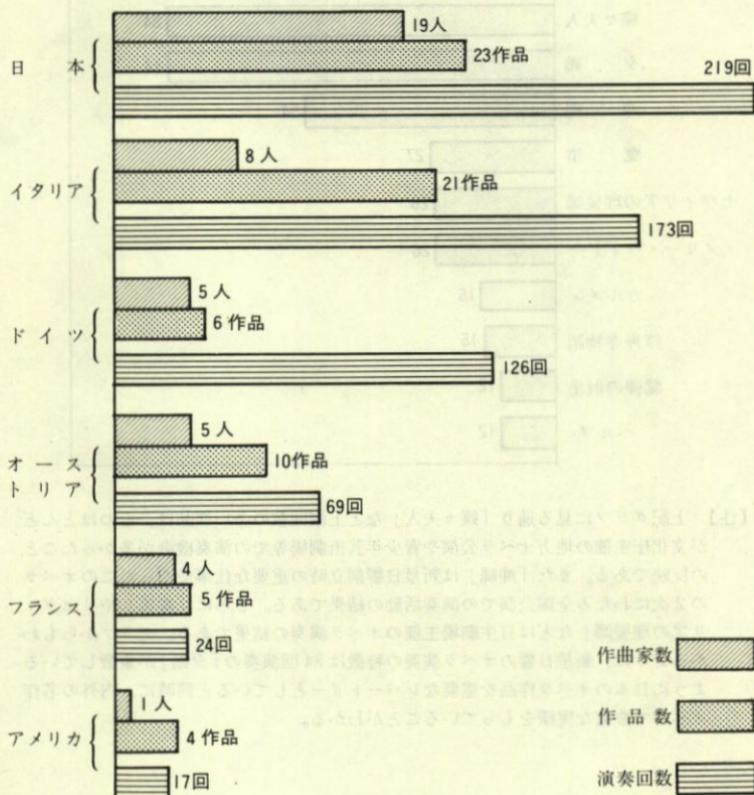
【オペラ・バレエ演奏 [1969-1989] 記録グラフ】



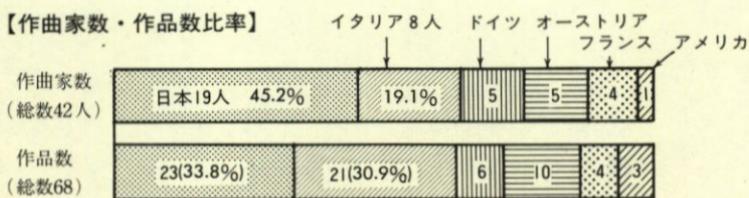
オペラ演奏作品一覧・グラフ

【にまで戻る】 [戻る](#) [次へ](#) [最終ページ](#)

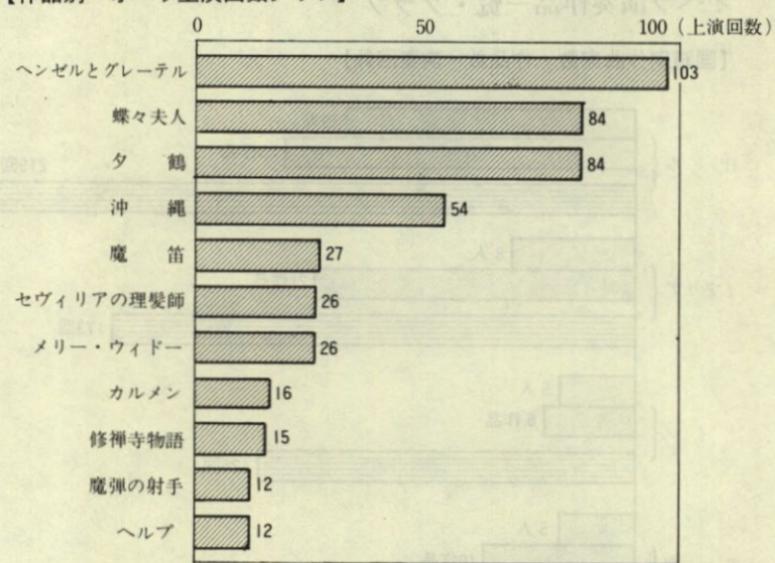
【国籍別作曲家数・作品数・演奏回数】



【作曲家数・作品数比率】



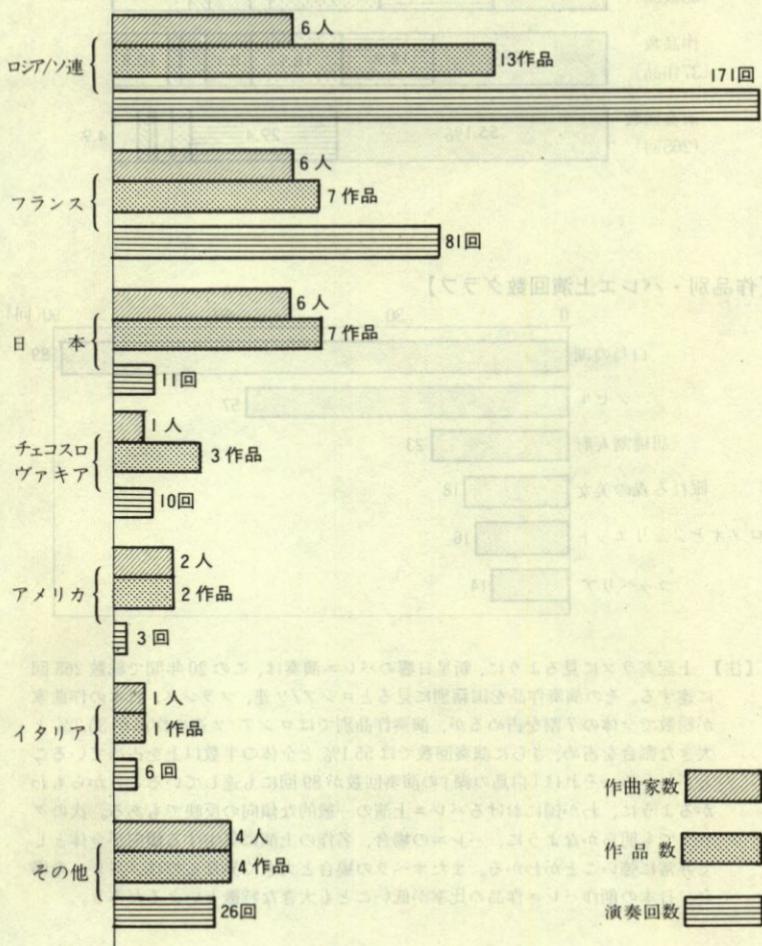
【作品別・オペラ上演回数グラフ】



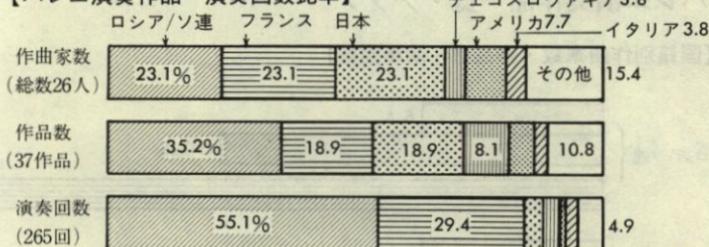
【注】上記グラフに見る通り「蝶々夫人」など上演回数の多い作品は、そのほとんどが文化庁主催の地方オペラ公演や青少年芸術劇場等での演奏機会が多かったことの反映である。また「沖縄」は新星日響創立時の重要な仕事であったこのオペラの2次にわたる全国公演での演奏活動の結果である。さらに「魔笛」や「セヴィリアの理髪師」などは日生劇場主催のオペラ演奏の結果である。グラフからもわかるように、新星日響のオペラ演奏の特徴は84回演奏の「夕鶴」が象徴しているように日本のオペラ作品を重要なレパートリーとしていると同時に、内外の名作オペラで豊富な実績をもっていることがわかる。

バレエ演奏作品一覧・グラフ

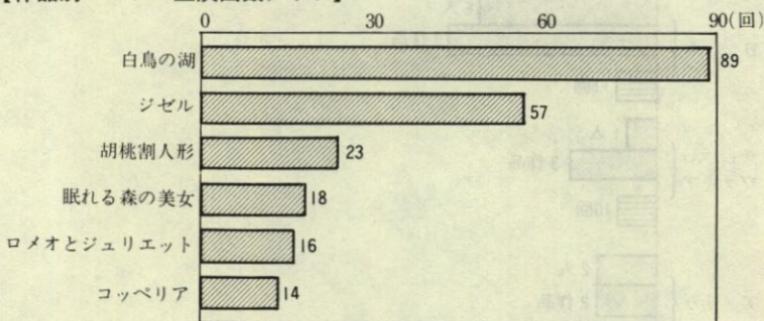
【国籍別作曲家数・作品数・演奏回数】



【バレエ演奏作品・演奏回数比率】



【作品別・バレエ上演回数グラフ】



【注】上記グラフに見るよう、新星日響のバレエ演奏は、この20年間で総数265回に達する。その演奏作品を国籍別に見るとロシア/ソ連、フランス、日本の作曲家が総数で全体の7割を占めるが、演奏作品別ではロシア/ソ連の作品が35.2%と大きな割合を占め、さらに演奏回数では55.1%と全体の半数以上を占めていることがわかる。それは「白鳥の湖」の演奏回数が89回にも達していることからもわかるように、わが国におけるバレエ上演の一般的な傾向の反映でもある。次のグラフでも明らかのように、バレエの場合、名作の上演に集中する傾向が全体として非常に強いことがわかる。またオペラの場合と大きく異なるのは、バレエの場合、日本の創作バレエ作品の比率が低いことも大きな特徴といえるだろう。

(2) 学校公演演奏記録

List of School Concerts

月日	学校名	指揮者	月日	学校名	指揮者
【1971年】					
6. 7	東海大付属高校	三石精一	2. 8	鑑賞教室	
6. 8	磯子小学校	赤堀文雄	3. 1	清水鑑賞教室	
7.13	府中第四中学校	赤堀文雄	5. 8	長野市鑑賞教室	
11.16	足立区小学校鑑賞 教室		5.15		
11.21	多摩中学校	赤堀文雄	6. 6	新潟市鑑賞教室	
			6. 8		
【1972年】					
2.15	小平養護学校		6.13	足立区鑑賞教室	赤堀文雄
4.20	府中市鑑賞教室		6.19	練馬北町小学校	赤堀文雄
6.30	足立区小学校	赤堀文雄	6.20	仙台鑑賞教室	
7.10	川端・渋江小学校		6.24	鳩ヶ谷市鑑賞教室	赤堀文雄
10.28	新潟市鑑賞教室		6.25	小鹿野鑑賞教室	
11. 2			7. 4	熱海鑑賞教室	伴 有雄
11.14	足立区小学校鑑賞 教室	赤堀文雄	7.11	岡谷市鑑賞教室	
			7.13		
【1973年】					
6.14	足立区小学校鑑賞 教室	赤堀文雄	8.19	飯山市鑑賞教室	
6.21	安房南高校		8.24		
6.26	足立区小学校鑑賞 教室		9.26	府中第四中学校	赤堀文雄
10.19	茨木中学校		10. 7	長野市鑑賞教室	
10.26	鳩ヶ谷市鑑賞教室	高階正光	10. 8		
11. 6	武藏村山市鑑賞教 室	星出 豊	10.15	友田小学校	赤堀文雄
11.12	足立区小学校鑑賞 教室		10.25	市川鑑賞教室	赤堀文雄
11.14	座間第三小学校		11. 7	高輪台鑑賞教室	
11.15	相模原市鑑賞教室		11.12	足立区鑑賞教室	赤堀文雄
12. 5	八街鑑賞教室		11.20	足立区鑑賞教室	赤堀文雄
12. 7	府中鑑賞教室		12. 9	八街鑑賞教室	
【1974年】					
2. 7	鑑賞教室		【1975年】		
			1.30	府中鑑賞教室	
			2. 3	三芳小学校	
			3. 4	川端・渋江小学校	
			3. 5	不入斗中学校	
			5.30	鳩ヶ谷市鑑賞教室	
			6. 6	足立区鑑賞教室	
			6.19	足立区鑑賞教室	
			6.24	足利市鑑賞教室	

月日	学校名	指揮者	月日	学校名	指揮者
7. 1	川端・渋江小学校		7. 9	戸板女子高校	赤堀文雄
7. 2	鑑賞教室		7.13	長野県鑑賞教室	
7. 3	鑑賞教室		7.17	京北学園	三石精一
7. 4	半田小学校		9.16	新潟県鑑賞教室	
8.24	鑑賞教室		9.17	新潟県鑑賞教室	
8.29			9.24	下妻鑑賞教室	伴 有雄
9.26	府中第四中学校	赤堀文雄	10.19	新潟鑑賞教室	赤堀文雄
10. 3	鑑賞教室	赤堀文雄	10.20	"	"
10. 4	武藏村山鑑賞教室	赤堀文雄	10.25	飯田鑑賞教室	赤堀文雄
10.12	鑑賞教室		10.26	"	"
10.16			10.28	小牛田鑑賞教室	赤堀文雄
10.18	練馬東小学校	赤堀文雄	11.24	相模原鑑賞教室	星出 豊
10.20	八街小学校		11.25	"	"
11.17	三芳小学校		11.26	足立鑑賞教室	赤堀文雄
11.20	足立鑑賞教室	赤堀文雄	【1977年】		
11.28	府中鑑賞教室		1.29	橘学苑	赤堀文雄
12.12	焼津中学校		5.13	鳩ヶ谷市鑑賞教室	赤堀文雄
【1976年】			6. 7	高知市鑑賞教室	赤堀文雄
1.24	橘学苑	赤堀文雄	6. 8	"	"
3. 4	阿佐ヶ谷中学校		6. 9	藤井高校	赤堀文雄
5. 1	熱海高校	赤堀文雄	6.10	明善高校(高松)	赤堀文雄
5. 6	長野市鑑賞教室	三石精一	6.11	姫路西高校	赤堀文雄
5.12		山田一雄	6.12	岡山鑑賞教室	赤堀文雄
5.13	飯田市鑑賞教室	赤堀文雄	6.23	足立鑑賞教室	赤堀文雄
5.15			6.24	"	"
5.26	飯田市鑑賞教室	赤堀文雄	6.30	川口鑑賞教室	松本紀久雄
5.28			7. 1	"	"
5.31	鳩ヶ谷鑑賞教室	赤堀文雄	7. 6	新潟鑑賞教室	赤堀文雄
6. 1	更埴市鑑賞教室	赤堀文雄	7.18	嘉悦女子高校	赤堀文雄
6. 4			8.31	立川鑑賞教室	松本紀久雄
6.22	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	9.12	向山高校(仙台)	星出 豊
6.24	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	9.16	相模原鑑賞教室	久保田孝
6.28	新潟市鑑賞教室		9.22	錦城高校	赤堀文雄
6.29	新潟市鑑賞教室		9.26	東京都鑑賞教室	A.キューネル
7. 1	川口市鑑賞教室	赤堀文雄	9.30	葛飾区内小学校	
7. 2	"	赤堀文雄	10.11	新潟県鑑賞教室	赤堀文雄
7. 7	府中鑑賞教室		10.12	"	"

月日	学校名	指揮者	月日	学校名	指揮者
10.21	烏山女子高校	A.キュー・ネル	9.28	柏崎鑑賞教室	汐澤安彦
11.10	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	9.30	柏崎鑑賞教室	汐澤安彦
11.11	新潟市鑑賞教室	汐澤安彦	10. 7	新潟鑑賞教室	赤堀文雄
11.12	三条・栃尾市鑑賞教室	赤堀文雄	10.20	武蔵村山市鑑賞教室	赤堀文雄
11.14	新潟市鑑賞教室	山田一雄	10.21	目白学園	汐澤安彦
11.16			10.30	大仁高校	汐澤安彦
11.17	府中市鑑賞教室	宇宿尤人	10.31	静岡県鑑賞教室	汐澤安彦
11.25	相模原鑑賞教室	赤堀文雄	11.14	足立区鑑賞教室	赤堀文雄
11.29	狹山高校	田中良和	11.17	"	"
11.30	焼津高校	村田芳彦	11.24	大妻女子高校	赤堀文雄
12.21	八潮中学	星出 豊	11.28	印旛高校	星出 豊
【1978年】			【1979年】		
1.10	港南中学校	伴 有雄	2.21	小平西高校	星出 豊
1.12	大泉東小学校	A.キュー・ネル	3.10	東松山鑑賞教室	赤堀文雄
2.21	小田原鑑賞教室	田中良和	5. 9	長野市鑑賞教室	汐澤安彦
2.28	葛飾半田小学校	赤堀文雄	5.15	(6日 17回)	
3. 3	上永谷中学校	星出 豊	5.16	長野市鑑賞教室	赤堀文雄
5. 9	鳩ヶ谷市鑑賞教室	赤堀文雄	5.25	(9日 27回)	
5.16	高崎市鑑賞教室	A.キュー・ネル	5.29	鳩ヶ谷市鑑賞教室	
5.17	小諸市鑑賞教室	A.キュー・ネル	6. 7	清水市鑑賞教室	
5.18	長野市鑑賞教室	平井哲三郎	6. 8	清水市鑑賞教室	
5.26			6.14	足立区鑑賞教室	赤堀文雄
6. 2	東京都鑑賞教室	星出 豊	6.15	"	"
6. 5	三条市鑑賞教室	汐澤安彦	6.19	"	"
6. 6	新潟市鑑賞教室	汐澤安彦	6.20	足立区鑑賞教室	赤堀文雄
6.17			6.22	谷戸第二小学校	
6.19	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	6.27	川口市鑑賞教室	三石精一
6.20	"	"	6.29		
6.21	川口市鑑賞教室	伴 有雄	7.16	嘉悦女学院	赤堀文雄
6.22	"	"	7.16	京北高校	赤堀文雄
6.27	府中市鑑賞教室	紙谷一衛	10. 9	武蔵村山市鑑賞教室	赤堀文雄
7.10	新潟市鑑賞教室	汐澤安彦	10.27	荒川工業高校	星出 豊
7.14			11.13	足立区鑑賞教室	赤堀文雄
9.12	葛飾区小学校鑑賞教室		11.14	"	"
			11.16	焼津高校	村田芳彦

月日	学校名	指揮者	月日	学校名	指揮者		
11.30	高島平保育園	赤堀文雄					
12.19	荒川商業高校	赤堀文雄					
【1980年】							
1.17	小平西高校	星出 豊	1.13	小平西高	星出 豊		
4.15	氏家高校	田中良和	5.19	鶴峰高校	国分 誠		
5.28	見附・柄尾市鑑賞 教室(4日9回)	赤堀文雄	5.20	鳩ヶ谷小学校 (3回)	赤堀文雄		
6. 2	長野県北安曇郡	赤堀文雄	5.26	千代田区小学校	国分 誠		
6. 6	(5日15回)		5.28	足利市鑑賞教室	星出 豊		
6.10	新宿区鑑賞教室	山岡重信	5.29	"			
6.11	中央区鑑賞教室	山岡重信	6. 4	新宿区小学校鑑賞 教室(2回)	A. キューネル		
6.12	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	6. 8	新潟小中学校鑑賞 教室(8回)	赤堀文雄		
6.13	(2日6回)		6. 9	足立区鑑賞教室	A. キューネル		
6.17	鳩ヶ谷市鑑賞教室	赤堀文雄	6.11	(11回)			
6.19	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	6.12	川口市鑑賞教室 (12回)	A. キューネル		
6.20	(2日6回)		7. 8	伊那市小中学校鑑 賞教室(9回)			
6.23	長野県鑑賞教室	田中良和	7.10				
6.24	(2日5回)		10. 2	新潟小中学校鑑賞 教室(5回)	赤堀文雄		
6.25	須坂市鑑賞教室	田中良和	10. 3	越谷市鑑賞教室	国分 誠		
6.26	(2日7回)		10. 6	府中市鑑賞教室	国分 誠		
6.27	東京都鑑賞教室	小松一彦	10. 7	(3回)			
7. 2	川口市鑑賞教室	三石精一	10.16	武藏村山市鑑賞教 室(2回)	赤堀文雄		
7. 4	(3日10回)		10.22	板橋鑑賞教室			
9.24	新潟県鑑賞教室	汐澤安彦	10.30	泉ヶ丘中学校	赤堀文雄		
9.26	(3日6回)		11.19	足立区鑑賞教室 (3回)	赤堀文雄		
10. 7	府中市鑑賞教室	赤堀文雄	11.27	相模原鑑賞教室	赤堀文雄		
10.17	武藏村山市鑑賞教 室	赤堀文雄	【1982年】				
10.22	東京都鑑賞教室	星出 豊	1.28	小平西高鑑賞教室	星出 豊		
10.23	宮城県若柳高校	星出 豊	4.26	鳩ヶ谷市鑑賞教室 (3回)	赤堀文雄		
	〃 佐沼高校		4.28	国立高校	岡本俊久		
	〃 登米高校		5.10	新潟市鑑賞教室 (16日40回)	汐澤安彦／ 増井信貴		
11.19	府中市鑑賞教室	赤堀文雄					
11.20	足立区鑑賞教室	赤堀文雄					
11.21	〃(2日6回)	赤堀文雄					
12.18	川口南高校	星出 豊					
12.18	熊谷鑑賞教室						

月日	学校名	指揮者	月日	学校名	指揮者
5.10	長野市鑑賞教室	小田野宏之	6.29	足利市鑑賞教室	大友直人
5.26	(17日39回)	/国分 誠	7. 1	(3日6回)	
6. 1	長野市鑑賞教室	国分 誠	7. 5	新座市鑑賞教室	円光寺雅彦
6. 3	(3日6回)		7. 7	(3日8回)	
6. 4	新宿区鑑賞教室	国分 誠	8.22	岡谷市鑑賞教室	増井信貴
	(3回)		8.27	(6日17回)	
6. 9	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	9.20	板橋区鑑賞教室	大友直人
6.11	(3日9回)			(3回)	
6.15	下妻第一高校	Hレーヴライン	9.26	練馬区鑑賞教室	大友直人
	(2回)			(2回)	
6.17	府中市鑑賞教室	Hレーヴライン	9.27	上越市鑑賞教室	沢瀬安彦
	(3回)		9.29	(3日5回)	
7.16	京北高校	赤堀文雄	10.27	足立区鑑賞教室	赤堀文雄
9.14	府中第四中学校	国分 誠		(3回)	
10.22	武藏村山市鑑賞教室(2回)	赤堀文雄	10. 8	" (3回)	"
10.27	宇都宮商業高校	佐藤功太郎	11. 1	練馬区小学校鑑賞教室	赤堀文雄
11.13	本宿中学校		11. 4	府中第四中学校	長瀬清政
11.19	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	11.17	府中市鑑賞教室	佐藤功太郎
	(3回)			(3回)	
11.20	" (3回)				
11.24	板橋区鑑賞教室	A.キューネル (3回)			
【1983年】					
1.13	小平西高校	星出 豊	1.12	小平西高校	星出 豊
2. 9	日大中学校		1.13	保谷市鑑賞教室	長瀬清政
3. 4	越谷中学校	山崎 茂	1.19	武藏村山市鑑賞教室	赤堀文雄
4.28	国立高校	岡本俊久	1.20	室(2日4回)	
5. 4	鳩ヶ谷市鑑賞教室	赤堀文雄	1.26	西亀有小学校	赤堀文雄
5.11	須坂市鑑賞教室	増井信貴	1.31	海老名市今泉小学 校(2回)	赤堀文雄
5.13	(3日9回)		2. 2	狭山高校	A.キューネル
6. 3	新宿区鑑賞教室	国分 誠	4.24	鳩ヶ谷市仲居小学 校(3回)	赤堀文雄
6. 7	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	5. 2	国立高校	岡本俊久
6.10			5.14	長野市鑑賞教室	佐藤功太郎
6.17	岡谷市鑑賞教室	増井信貴	5.19	(6日16回)	
	(3回)		6. 1	新宿区小学校	佐藤功太郎
6.24	清瀬東高校	国分 誠		(3回)	

月日	学校名	指揮者	月日	学校名	指揮者
6. 5	足立区鑑賞教室	赤堀文雄	5. 7	須坂市鑑賞教室	今村 能
6. 8			5. 9	(3日9回)	
6.11	大妻女子中・高校	長瀬正清 (2回)	5.22	新潟市鑑賞教室	宇宿允人
6.20	中野区中学校鑑賞 教室(2回)	大友直人	6. 4	新宿区鑑賞教室	宇宿允人
6.26	府中市鑑賞教室	及川光悦 (3回)	6.10	松本市鑑賞教室	国分 誠
7. 2	都立定時制高校鑑 賞教室	大友直人	6.14	(5日16回)	
7. 3	"	"	6.20	中野区鑑賞教室	V.レニッケ
9.10	板橋区中学校鑑賞 教室	国分 誠	6.24	足利市鑑賞教室	及川光悦
9.11	"	"	6.25	" (2回)	"
10. 3	越谷西中学校鑑賞 教室	山崎 茂	6.27	府中市鑑賞教室	糸山和彦
10.19	品川区中学校鑑賞 教室	佐藤功太郎	6.28	" (2回)	"
10.22	新潟市中学校鑑賞 教室(3日9回)	大友直人	7. 1	所沢商業高校	佐藤功太郎
10.24			7. 3	新座市鑑賞教室	三石精一
10.25	足立区小学校鑑賞 教室	赤堀文雄	7. 5	(3日8回)	
10.26			9.12	板橋区鑑賞教室	金 洪才
10.30	武藏村山市鑑賞教 室(2日4回)	赤堀文雄	7.10	嘉悦女子高校	国分 誠
10.31			11. 7	武藏村山市鑑賞教 室(2日4回)	長瀬清正
11.14	新潟市中学校鑑賞 教室(3日9回)	国分 誠	11. 8		
11.16			11.13	府中第四中学校	国分 誠
12. 4	府中第四中学校	R.クルチメル	11.26	小平西高校	星出 豊
【1985年】			12. 4	飯能高校	田中良和
2.18	宮城県中学校鑑賞 教室(文化庁中学 校芸術鑑賞教室)	石丸 寛 (5日5回)	【1986年】		
2.22			1.29	渋谷区鑑賞教室	十束尚宏
3. 1	国分寺小学校	金 洪才	1.30	足立区鑑賞教室	A.キューネル
4.26	国立高校	岡本俊久	2.12	足立区鑑賞教室	大野和士
5. 2	鳩ヶ谷市鑑賞教室	赤堀文雄 (3回)	2.14	(3日7回)	
			2.21	大東学園鑑賞教室	糸山和明

月日	学校名	指揮者	月日	学校名	指揮者
4.28	鳩ヶ谷市鑑賞教室 (3回)	新田 孝	2.16	足立区小学校鑑賞	田中良和
4.30	国立高校	岡本俊久	2.18	教室(5日7回)	
5. 6	長野市小学校鑑賞 教室(18日43回)	三石精一 佐藤功太郎	4.28	鳩谷市鑑賞教室 (3回)	堀 俊輔
5.23	新潟市小学校鑑賞 教室(18日47回)	汐澤安彦 田中良和	4.30	国立高校	岡本俊久
6. 3	新宿区鑑賞教室	竹本泰藏 (2回)	5. 7	世田谷区中学鑑賞 教室(2回)	川本敬治
6. 5	大田区中学校鑑賞 教室(2回)	高関 健	5.13	荒川区小学校鑑賞 教室(2回)	国分 誠
6. 9	足利市小学校鑑賞 教室(3日6回)	今村 能	5.22	文化庁中学校芸術 鑑賞教室	佐藤功太郎
6.11	府中市中学校鑑賞 教室(2日4回)	及川光悦	6. 1	高萩中学 校ほか(11日9回)	
6.12	長野高校鑑賞教室 (5日10回)	大町陽一郎	6. 2	新宿区小学校鑑賞 教室(2回)	野口芳久
7. 1	都定期制高校鑑賞 教室(3日3回)	柳山和明	6. 3	府中市中学校鑑賞 教室(2回)	野口芳久
7. 3	新潟市小学校鑑賞 教室(5日16回)	外山 滌	6. 4	" (2回)	"
7. 7	長野市小学校鑑賞 教室(5日15回)	国分 誠	6. 8	松本市小学校鑑賞	現田茂夫
9.18	板橋区中学校鑑賞 教室(2日5回)	十束尚宏	6.12	教室(5日15回)	
9.19	長野高校鑑賞教室 (2回)	大町陽一郎	6.13	新潟市中学校鑑賞 教室(6日14回)	汐澤安彦
10.23	多摩市小学校鑑賞 教室(2回)	小原 全	6.25	都定期制高校鑑賞 教室	柳山和明
11.14	本郷高校	宇宿允人	6.26	"	"
12. 4	武藏村山市小中学 校鑑賞教室 (2日4回)	O.レナルド	7. 8	新座市小・中鑑賞	川本敬治
12. 5	教室(2回)		7.10	教室(3日8回)	
[1987年]			7.14	嘉悦女学院	及川光悦
1.28	足立区中学校鑑賞 教室(2回)	十束尚宏	8.24	木曾市小学校鑑賞	坂本和彦
			8.28	教室(5日15回)	
			9.10	中央区中学校鑑賞 教室	現田茂夫
			9.19	香蘭女学院	佐藤功太郎
			9.21	板橋区中学校鑑賞 教室(2日5回)	現田茂夫
			9.22		
			11. 5	藤沢高校	山本直純
			11.18	淑徳巣鴨高校	河内良智
			11.19	鴻巣中学校	桜井将喜

月日	学校名	指揮者	月日	学校名	指揮者
11.29	小鹿野町小学校	V.ヴァーレック	6.15	新潟市鑑賞教室	長瀬清正
11.30	多摩市小学校鑑賞 教室(2回)	V.ヴァーレック	6.17	(3日9回)	
12. 3	武藏村山市小中鑑 賞教室(2日4回)	田中良和	6.22	飯能高校	宇宿尤人
12. 4			6.24	墨田区小学校鑑賞 教室(2回)	現田茂夫
12.17	常磐松学園	現田茂夫	6.27	足利市中学校鑑賞 教室(2回)	小原 全
12.10	市川学園(2回)	現田茂夫	6.28	"(2回)	"
【1988年】			6.29	松本市小学校鑑賞 教室(4日12回)	現田茂夫
1. 9	小平西高校	増井信貴	7. 2		
1.18	足立区中学校鑑賞 教室	現田茂夫	7. 5	都定期制高校鑑賞 教室	及川光悦
2. 4	文化庁中学芸術鑑 賞教室	星出 豊	7. 6	"	"
2. 5	横川中学 校ほか	"	9.19	香蘭女子高校	佐藤功太郎
2.20	大東学園	糸山和明	9.21	板橋区鑑賞教室	現田茂夫
2.18	足立区小学校鑑賞 教室(7日7回)	現田茂夫	9.22	(5回)	
2.26			11.14	岡崎鑑賞教室	現田茂夫
3.11	所沢美原中学校	坂本和彦	11.16	跡見中・高校	金 洪才
4.28	国立高校	岡本俊久	11.18	鳩山高校	現田茂夫
4.30	浦和学院(2回)	国分 誠	11.19	淑徳女学院	現田茂夫
5. 1	柏江高校	国分 誠	12. 6	武藏村山市小・中 鑑賞教室(4回)	長瀬清正
5.16	豊島区小学校鑑賞 教室(2回)	現田茂夫	12. 7		
5.16	魚津鑑賞教室 (5日15回)	山崎 茂	【1989年】		
5.20			1.18	大妻女子高校	小田野宏文
5.24	鳩ヶ谷市鑑賞教室 (3回)	増井信貴	1.19	足立区中学校鑑賞 教室(3回)	小田野宏文
5.26	鶴峰高校(2回)	山崎 茂	1.26		
6. 2	新宿区小・中鑑賞 教室	現田茂夫	2. 9		
6. 3	"(4回)	"	10	足立区小学校鑑賞 教室(7回)	現田茂夫
6. 9	府中市鑑賞教室 (2回)	野口芳久	16		
6.10	"(2回)	"	17		
6.14	田無工業高校	長瀬清正	2.21	大東学園	糸山和明
6.14	文京区小学校鑑賞 教室	現田茂夫	4.27	鳩ヶ谷市鑑賞教室 (3回)	山崎 茂
			4.28	国立高校	岡本俊久
			5.15	長野市鑑賞教室 (5日27回)	長瀬清政
			5.19		

月日	学校名	指揮者
5.19	新潟市鑑賞教室 (3回)	山崎 茂
5.26	文京区鑑賞教室	現田茂夫
5.30	新潟市鑑賞教室 (4回)	長瀬清政
6. 2	新宿区鑑賞教室 (2回)	現田茂夫
6. 5	武藏野北高校	現田茂夫
6.12	栃木高校	V. レニッケ
6.13	大田区鑑賞教室 (2回)	栗田博之
6.15	府中市鑑賞教室 (4回)	野口芳久
6.27	都定時制高校鑑賞 教室(2回)	長瀬清政
6.29	墨田区鑑賞教室 (2回)	現田茂夫
7.13	嘉悦女学院	現田茂夫
7.19	東大付属中・高校	現田茂夫
9.30	浦和学院	十束尚宏
10.16	飯田市鑑賞教室 (6回)	現田茂夫
11.14	佐野高校(4回)	三石精一
12.12	武藏村山市(4回)	長瀬清正
11.28	武藏村山市(4回)	長瀬清正
11.29		
【1990年】		
1.11	足立区小学校鑑賞 教室(7回)	現田茂夫
2. 9	足立区中学校鑑賞 教室	現田茂夫
2.21	大東学園	柳山和明

(3) 「親子コンサート」演奏記録 List of Eamly Concerts

回 作品名	原作/作曲/初演日時等
1 「セロ弾きのゴーシュ」 オーケストラのための童話	宮沢賢治/林光/1981.5.9 独唱：佐山真知子 指揮：佐藤功太郎
2 音楽物語 「窓ぎわのトットちゃん」	黒柳徹子/小森昭宏/1982.4.3 朗読と歌：黒柳徹子 指揮：小林研一郎
3 音楽物語 「木にとまりたかった木の話」	黒柳徹子/小森昭宏/1983.4.10 歌と語り：黒柳徹子 指揮：佐藤功太郎
4 オーケストラ絵本 「モチモチの木」	斎藤隆介/青島広志/1984.4.7 語り：阿部六郎 指揮：佐藤功太郎
5 オーケストラのための ファンタジー 「いばらの城のおひめさま」	グリム童話/青島広志/1985.3.24 歌と語り：黒柳徹子 指揮：佐藤功太郎
6 音楽物語 「赤神と黒神」	妻鳥純子(A) 鹿野章人(T) 松谷みよ子/松井和彦/1986.3.29
7 オーケストラ・ファンタジー 「トモコのふしぎな ペートーヴェン」	語り：八木光生 指揮：佐藤功太郎 女神：佐藤しのぶ(S) 脚本：西田豊子/ペートーヴェン/ 1987.3.29 構成・編曲：赤堀文雄
8 映像と生演奏による 「スノーマン」	熊倉一雄(ペートーヴェン) 間下このみ (トモコ) 指揮：田中良和 R. ブリッグズ/H. ブレイク/1988.3.27 語り：佐藤文行 指揮：現田茂夫
9 夢の音楽物語 「モモ」	歌：神谷満実子 M. エンデ/山本純ノ介/1989.4.2 語り：岸田今日子 指揮：佐藤功太郎

(注) 第1作はレコード(ピクターPRC-30259)のための書き下ろし作品。(ただし一部は1980年9月23日の第4回「足立区民コンサート」で舞台初演) 第2~6、9作はいずれも書き下ろし新作で、「新星日響春休み親子コンサート」で初演。

3. 楽員名簿

List of Member

〔1969年〕

- Vn 池田 鉄、池田敏美、北川靖子、紀本啓子、桜木弘子、酒向通子、仙波くに子、田辺結子、並木信厚、藤池綵子、宮林優子
Va 赤堀文雄、武田信夫
Vc 小沢敦子
Kb 北中敏仁
Fl 西浦典子、丸山正昭
Ob
Cl 齊藤宏二、渡辺 豊
Fg 加藤洋男
Hr 石井 勝、河野 肇、高原信雄、飛松民夫
Tp 岡 俊彦、榎原 達、津堅直弘、中川真行
Tb 江口信雄、榑松三郎、田中康之、村田芳彦
Tub 東 正生
Per 黒髪紀子、黒川明子

〔1970年〕

- Vn 池田 鉄、池田敏美、市毛登喜恵、及川由利子、北川靖子、紀本啓子、桜木弘子、酒向通子、田辺結子、鶴留紀子、並木信厚、藤池綵子、宮林優子
Va 赤堀文雄、石井ルツ子、武田信夫
Vc 小沢敦子
Kb 北中敏仁、広瀬康英
Fl 喜谷良宗、西浦典子、山本陽子
Ob
Cl 鈴木良昭、渡辺 豊
Fg 大野映彦、加藤洋男
Hr 石井 勝、河野 肇、高原信雄、飛松民夫
Tp 榎原 達、竹本義明、津堅直弘、中川真行
Tb 江口信雄、榑松三郎、田中康之、村田芳彦
Tub 東正生
Per 黒髪紀子

〔1971年〕

- Vn 池田 鉄、池田敏美、市毛登喜美、及川由利子、鹿又真知子、北川靖子、紀本 啓子、桜木弘子、田辺結子、鶴留紀子、並木信厚、藤池綾子、宮沢 強、宮林 優子

Va 赤堀文雄、石井ルッ子、武田信夫
Vc 今井慎太郎、小沢敦子
Kb 北中敏仁
Fl 喜谷良宗、樽松愛子、西浦典子

Ob
Cl 井上靖夫、柏野晋吾、鈴木良昭、渡辺 豊
Fg 大野映彦、加藤洋男
Hr 石井 勝、河野 肇、高原信雄、飛松民夫
Tp 稲原 達、津堅直弘、中川真行
Tb 江口信雄、樽松三郎、村田芳彦
Tub 東 正生
Per 野仲啓之助

〔1972年〕

コンサートマスター 伊藤武英

Vn 池田 鉄、池田敏美、紀本啓子、桜木弘子、田辺結子、並木信厚、中久木摩耶、羽入恵美子、藤池綵子、三浦弘子、宮沢 強、宮林優子

Va 赤堀文雄、武田信夫
Vc 勝田聰一、今井慎太郎、小沢敦子、武田 実
Kb 太田 宏
Fl 樽松愛子、西浦典子

Ob
Cl 井上靖夫、柏野晋吾
Fg 加藤洋男、境野達男
Hr 河野 肇、近藤 孝、高原信雄、飛松民夫
Tp 稲原 達、津堅直弘、中川真行
Tb 江口信雄、樽松三郎、村田芳彦

Tub 東 正生

Per 野仲啓之助

事務局 渡辺 豊

〔1973年〕

コンサートマスター 伊藤武英

Vn 浅野綵子、池田 鉄、池田敏美、紀本啓子、桜木弘子、田辺結子、中久木摩耶、並木信厚、羽入恵美子、三浦弘子、宮沢 強、宮林優子

Va 赤堀文雄、雨宮則子、武田信夫
Vc 勝田聰一、今井慎太郎、小樽敦子、武田 実
Kb 太田 宏
Fl 樽松愛子、津堅典子
Ob
Cl 井上靖夫、柏野晋吾

Fg	境野達男	文朝歌謡、想恋歌特優
Hr	河野 肇、近藤 孝、高原信雄、飛松民夫	田嶺、轟、坂野、森、田嶺、武藤
Tp	津堅直弘、中川真行	〔手前田〕
Tb	江口信雄、博松三郎、村田芳彦	英九、幕田、一矢、木戸、一矢
Tub	野仲啓之助	子前田、木戸、原翠木、中、汽船高、千井田虎、千足田虎、千足田虎、千
事務局	渡辺 豊	十時
〔1974年〕		
コンサートマスター	伊藤武英	十時
Vn	浅野綵子、池田 鉄、池田敏美、内田泰子、河野啓子、桜木弘子、白木礼子、田辺結子、中久木摩耶、並木信厚、宮沢 強、宮林優子	十時
Va	赤堀文雄、藤原則子、武田信夫	十時
Vc	勝田聰一、今井慎太郎、小沢敦子、武田 実	十時
Kb	太田 宏	十時
Fl	博松愛子、津堅典子、林 覚	十時
Ob	松浦真一	十時
Cl	井上靖夫、柏野晋吾	十時
Fg	糸数武博、山本茂夫	十時
Hr	河野 肇、近藤 孝、高原信雄、飛松民夫	文朝歌謡、想恋歌特優
Tp	津堅直弘、中川真行	中九里高、千葉真日向、豊、坂野、森、田嶺、武藤
Tb	博松三郎、藤沢伸行、村田芳彦	〔手前田〕
Tub	山崎 茂	十時
Per	野仲啓之助、加藤博文	十時
事務局	渡辺 豊	十時
〔1975年〕		
コンサートマスター	伊藤武英	十時
Vn	相野田秋子、浅野綵子、池田敏美、内田泰子、河野啓子、桜木弘子、白木礼子、田辺結子、中久木摩耶、並木信厚、宮沢 強、宮林優子	十時
Va	赤堀文雄、藤原則子、武田信夫	十時
Vc	今井慎太郎、小樽敦子、武田 実	十時
Kb	太田 宏	十時
Fl	博松愛子、津堅典子、林 覚	十時
Ob	松浦真一	十時
Cl	井上靖夫、蒲谷隆行	十時
Fg	糸数武博、山本茂夫	十時
Hr	河野 肇、近藤 孝、高原信雄、飛松民夫	十時
Tp	津堅直弘、中川真行、長倉穂司	津根高、文朝歌謡、想恋歌特優
Tb	博松三郎、藤沢伸行、村田芳彦	十時
Tub	山崎 茂	十時

Per 野仲啓之助、加藤博文

事務局 池田 鉄、渡辺 豊、渡辺ふみ

〔1976年〕

コンサートマスター 伊藤武英

Vn 相野田秋子、浅野綵子、池田敏美、内田泰子、加藤結子、河野啓子、神野優子、武田弘子、武田礼子、高橋相子、中久木摩耶、並木信厚、宮沢 強、松代祥子

Va 赤堀文雄、藤原則子、武田信夫

Vc 今井慎太郎、小樽敦子、武田 実

Kb 太田 宏

Fl 横松愛子、津堅典子、林 応 覚

Ob 松浦真一

Cl 井上靖夫、浦谷隆行

Fg 系数武博、山本茂夫

Hr 河野 肇、近藤 孝、高原信雄、飛松民夫

Tp 津堅直弘、中川真行、長倉穂司

Tb 横松三郎、藤沢伸行、村田芳彦

Tub 山崎 茂

Per 野仲啓之助、加藤博文

事務局 池田 鉄、渡辺 豊、岡村真理子、前野武史

〔1977年〕

コンサートマスター 鶴山 寛

Vn 相野田秋子、浅野綵子、池田敏美、内田泰子、加藤結子、河野啓子、後藤真理子、神野優子、武田弘子、武田礼子、高橋相子、中久木摩耶、並木信厚、宮沢 強、松代祥子

Va 赤堀文雄、藤原則子、武田信夫

Vc 今井慎太郎、小樽敦子、武田 実、福村忠雄

Kb 太田 宏、住田敬二

Fl 金子 匠、横松愛子、津堅典子

Ob 松浦真一

Cl 井上靖夫、伊藤正太郎

Fg 山本茂夫

Hr 河野 肇、近藤 孝、高原信雄、飛松民夫

Tp 中川真行、長倉穂司

Tb 横松三郎、藤沢伸行、村田芳彦

Tub 山崎 茂

Per 野仲啓之助、加藤博文、高橋明邦

事務局 池田 鉄、渡辺 豊、有田精一、岡村真理子、前野武史

[1978年] コンサートマスター 嶋山 寛

Vn 浅野綾子、池田敏美、井上葉子、加藤結子、河野啓子、神野優子、城万紀子、武田弘子、武田礼子、高橋相子、中久木摩耶、並木信厚、宮沢 強、松代祥子、山本真理子、山崎泰子、渡辺祥子

Va 赤堀文雄、小沢 豊、藤原則子、武田信夫

Vc 今井慎太郎、小樽敦子、武田 実、福村忠雄

Kb 太田 宏

Fl 樽松愛子、齊藤 匠、津堅典子

Ob 定成綾子、松浦真一

Cl 井上靖夫、伊藤正太郎

Fg 山本茂夫

Hr 河野 駿、近藤 孝、高橋信雄、飛松民夫

Tp 中川真行、長倉穂司

Tb 樽松三郎、藤沢伸行、村田芳彦

Tub 山崎 茂

Per 野仲啓之助、加藤博文、高橋明邦

事務局 池田 鉄、渡辺 豊、有田精一、岡村真理子、前野武史

[1979年] コンサートマスター 嶋山 寛

Vn 浅野綾子、池田敏美、井上葉子、内海洋子、加藤結子、北川靖子(留学)、河野 啓子、神野優子(留学)、城万紀子、武田弘子、武田礼子、高橋相子、中久木摩耶、並木信厚、東村和子、宮沢 強、松代祥子、山崎泰子、山本真理子、渡辺洋子

Va 赤堀文雄、安藤史子、小沢 豊、藤原則子、武田信夫

Vc 今井慎太郎、内海久子、小樽敦子、武田 実、福村忠雄

Kb 太田 宏、高 寿恩

Fl 樽松愛子、齊藤 匠

Ob 小川綾子、松浦真一

Cl 井上靖夫、伊藤正太郎

Fg 山本茂夫、鈴木明邦

Hr 河野 駿、近藤 孝、高原信雄、飛松民夫

Tp 中川真行、長倉穂司、仲村渠政健

Tb 樽松三郎、中沢誠二、村田芳彦

Tub 山崎 茂

Per 野仲啓之助、加藤博文、高橋明邦

事務局 池田 鉄、渡辺 豊、藤井賢吉、有田精一、岡村真理子、前野武史

[1980年] コンサートマスター 荒井英治

- Vn 浅野綵子、池田敏美、井上葉子、内海洋子、加藤結子、北川靖子(留学)、河野啓子、神野優子、城万紀子、武田弘子、武田礼子、中久木摩耶、並木信厚、東村和子、宮沢 強、山崎泰子、山本真理子
- Va 赤堀文雄、小沢 豊、長倉史子、藤原則子、武田信夫
- Vc 今井慎太郎、内海久子、小樽敦子、武田 実、福村忠雄
- Kb 網村敏行、太田 宏、高 寿恩、藁谷ちひろ
- Fl 樽松愛子、齊藤 匠、若林有子
- Ob 小川綾子、松浦真一
- Cl 井上靖夫、伊藤正太郎
- Fg 山本茂夫、鈴木明邦
- Hr 河野 隆、近藤 孝、高原信雄、飛松民夫
- Tp 中川真行、長倉穂司、仲村渠政健
- Tb 樽松三郎、中沢誠二、村田芳彦
- Tub 山崎 茂
- Per 野仲啓之助、加藤博文、高橋明邦
- 事務局 池田 鉄、渡辺 豊、藤井賢吉、有田精一、岡村真理子、前野武史

〔1981年〕

- コンサートマスター 三戸泰雄
- Vn 浅野綵子、池田敏美、井上葉子、岩崎龍彦、内海洋子、大山葉子、加藤結子、北川靖子(留学)、金 映、黒沢誠登、河野啓子、近藤 勉、神野優子
城万紀子、武田弘子、武田礼子、中久木摩耶、並木信厚、古谷俊子、東村和子、宮沢 強、山崎泰子、山本真理子
- Va 赤堀文雄、長倉史子、武田信夫
- Vc 今井慎太郎、内海久子、小樽敦子、武田 実、福村忠雄、宮野 智
- Kb 網村敏行、太田 宏、加藤正幸、高 寿恩、藁谷ちひろ
- Fl 樽松愛子、齊藤 匠、若林有子
- Ob 小川綾子、松浦真一、茂木大輔
- Cl 荒井伸一、井上靖夫、伊藤正太郎
- Fg 山本茂夫、鈴木明邦、田畠博美
- Hr 河野 隆、近藤 孝、高原信雄、千葉正規、飛松民夫
- Tp 中川真行、長倉穂司、仲村渠政健
- Tb 中沢誠二、平田 慎、村田芳彦
- Tub 山崎 茂
- Per 野仲啓之助、加藤博文、高橋明邦、畠中文規
- 事務局 樽松三郎、渡辺 豊、藤井賢吉、有田精一、岡村真理子、前野武史

〔1982年〕

- コンサートマスター 三戸泰雄、千葉慶子
- Vn 池田敏美、岩崎龍彦、大山葉子、小原康子、加藤結子、鎌田由紀夫、北川靖子
(留学)、金 映、黒沢誠登、河野啓子、近藤 勉、神野優子、城万紀子、武田

- 弘子、橋 歌子、千早泰子、月岡和子、中久木摩耶、並木信厚、古谷俊子、東村和子、本田晶子、宮沢 強、室田章子、山崎泰子、山本真理子、横手佐織、R.ワトキンス
- Va 会田ゆみ、赤堀文雄、荒井正昭、遠藤幸男、鈴木アリ、長倉史子、長沢英子、武田信夫、光行澄子、諸橋恵子
- Vc 山岸宜公、今井慎太郎、内海久子、小樽敦子、武田 実、富成倫子、福村忠雄、宮野 智、渡辺明美
- Kb 岡部 純、須藤博美、加藤正幸、高 寿恩、藁谷ちひろ
- Fl 横松愛子、齊藤匠、十亀有子
- Ob 小川綾子、庄司知史、松浦真一、茂木大輔(留学)
- Cl 荒井伸一、井上靖夫、伊藤正太郎
- Fg 山本茂夫、鈴木明邦、菅原恵子
- Hr 宇田紀夫、河野 肇、千葉正規、古野 淳、吉田宏昭
- Tp 中川真行、長倉穂司、仲村渠政健
- Tb 中沢誠二、平田 慎、村田芳彦
- Tub 山崎 茂
- Per 野仲啓之助、加藤博文、高橋明邦、畠中文規
- 事務局 横松三郎、藤井賢吉、有田精一、岡村真理子、塚本 涼、前野武史

[1983年]

- コンサートマスター 三戸泰雄、千葉慶子
- Vn 池田敏美、岩崎龍彦、大山葉子、小原康子、加藤結子、鎌田由紀夫、北川靖子(留学)、黒沢誠登、河野啓子、近藤 勉、桜木弘子、佐藤直子、神野優子、橋歌子、千早泰子、月岡和子、並木信厚、古谷俊子、東村和子、本田晶子、宮沢強、室賀真理、山崎泰子、山本真理子、横手佐織、R.W.ジョンソン
- Va 赤堀文雄、荒井正昭、遠藤幸男、鈴木アリ、長沢英子、武田信夫、藤本ゆみ、光行澄子、諸橋恵子
- Vc 山岸宜公、今井慎太郎、小樽敦子、富成倫子、福村忠雄、宮野 智、渡辺明美
- Kb 岡部 純、須藤博美、加藤博美、加藤正幸、高 寿恩、藁谷ちひろ
- Fl 齊藤匠、菅原 潤、十亀有子
- Ob 小川綾子、庄司知史、松浦真一、茂木大輔(留学)
- Cl 荒井伸一、井上靖夫、伊藤正太郎
- Fg 山本茂夫、鈴木明邦、菅原恵子
- Hr 河野 肇、千葉正規、古野 淳、吉田宏昭
- Tp 中川真行、長倉穂司、仲村渠政健
- Tb 中沢誠二、平田 慎、米倉浩喜
- Tub 山崎 茂
- Per 野仲啓之助、加藤博文、畠中文規、若井恵介
- 事務局 横松三郎、村田芳彦、藤井賢吉、有田精一、岡村真理子、塚本 涼、前野武史

[1984年]

コンサートマスター 三戸泰雄、千葉慶子

Vn 池田敏美、岩崎龍彦、大山葉子、加藤結子、鎌田由紀夫、北川靖子(留学)、黒沢誠登、河野啓子、近藤 勉、桜木弘子、佐藤直子、神野優子、橘 歌子、千早泰子、月岡和子、並木信厚、東村和子、松沢久美子、宮沢 強、室賀真理、山崎泰子、横手佐織

Va 赤堀文雄、荒井正昭、遠藤幸男、鈴木亞里、武田信夫、藤本ゆみ、光行澄子、諸橋恵子

Vc 山岸宜公、今井慎太郎、小樽敦子、富成倫子、福村忠雄、渡辺明美

Kb 岡部 純、須藤博美、加藤正幸、高 寿恩、藁谷ちひろ(留学)

Fl 齊藤さち、斎藤匠、菅原 潤、十亀有子

Ob 小川綾子、庄司知史、松浦真一、茂木大輔(留学)

Cl 荒井伸一、井上靖夫、伊藤正太郎

Fg 山本茂夫、鈴木明邦、菅原恵子

Hr 河野 肇、千葉正規、古野 淳、吉田宏昭

Tp 中川真行、長倉穣司、仲村渠政健

Tb 中沢誠二、平田 慎、米倉浩喜

Tub 山崎 茂

Tur 野仲啓之助、加藤博文、畠中文規、若井恵介

事務局 横松三郎、村田芳彦、藤井賢吉、有田精一、岡村真理子、前野武史

[1985年]

コンサートマスター 千葉慶子

Vn 荒木順子、安藤直子、池田敏美、岩崎龍彦、遠藤直子、大山葉子、加藤結子、鎌田由紀夫、北川靖子(留学)、黒沢誠登、河野啓子、近藤 勉、桜木弘子、神野優子、橘 歌子、千早泰子、月岡和子、並木信厚、畠中和子、松沢久美子、宮沢 強、室賀真理、山崎泰子、横手佐織

Va 赤堀文雄、荒井正昭、遠藤幸男、鈴木亞里、武田信夫、藤本ゆみ、光行澄子、諸橋恵子、山屋房子、吉野恵美

Vc 藤田隆雄、今井慎太郎、小樽敦子、加藤 宏、富成倫子、福村忠雄、渡辺明美

Kb 岡部 純、須藤博美、加藤正幸、高 寿恩、藁谷ちひろ(留学)

Fl 斎藤 匠、菅原 潤、十亀有子

Ob 小川綾子、庄司知史、松浦真一

Cl 荒井伸一、伊藤正太郎

Fg 山本茂夫、鈴木明邦、菅原恵子

Hr 磯部保彦、河野 肇、古野 淳、吉田宏昭、山本友宏

Tp 上野真行、長倉穣司、仲村渠政健

Tb 中沢誠二、平田 慎、米倉浩喜

Tub 山崎 茂

Per 野仲啓之助、加藤博文、畠中文規、若井恵介

事務局 横松三郎、村田芳彦、藤井賢吉、家安勝利、岡村真理子、前野武史

[1986年]

コンサートマスター 佐藤慶子

Vn 芦沢享子、荒木順子、池田敏美、岩崎龍彦、岩崎真弓、遠藤直子、大石須和子、大山葉子、加藤結子、鎌田由紀夫、黒沢誠登、河野啓子、近藤 勉、桜木弘子、佐々治真紀、千早泰子、中沢真理子、並木信厚、畠中和子、松沢久美子、室賀真理、山崎泰子、横井歌子、横手佐織

Va 赤堀文雄、荒井正昭、遠藤幸男、藤本ゆみ、光行澄子、諸橋恵子、山屋房子、吉野恵美

Vc 藤田隆雄、今井慎太郎、小樽敦子、加藤 宏、富成倫子、福村忠雄、三戸明美

Kb 岡部 純、須藤博美、加藤正幸、高 寿恩

Fl 斎藤 匠、坂橋矢波、菅原 潤、十亀有子

Ob 小川綾子、庄司知史、松浦真一

Cl 荒井伸一、伊藤正太郎、杉山 伸

Fg 山本茂夫、鈴木明邦、菅原恵子

Hr 磯部保彦、河野 肇、古野 淳、吉田宏昭、山本友宏

Tp 上野真行、長倉穂司、仲村渠政健、正岡博行

Tb 中沢誠二、平田 健、米倉浩喜

Tub 山崎 茂

Per 野仲啓之助、加藤博文、畠中文規、若井恵介

事務局 横松三郎、村田芳彦、藤井賢吉、家安勝利、岡村真理子、高村千代子、室 鉄次

[1987年]

コンサートマスター 佐藤慶子

Vn 芦沢享子、荒木順子、池田敏美、岩崎龍彦、岩崎真弓、遠藤直子、大石須和子、加藤結子、鎌田由紀夫、黒沢誠登、河野啓子、近藤 勉、桜木弘子、佐々治真紀、千早泰子、中沢真理子、並木信厚、畠中和子、藤井晴雄、松沢久美子、室賀真理、山崎泰子、横手佐織、林 克琳

Va 生沼晴嗣、赤堀文雄、荒井正昭、遠藤幸男、小野瀬敦子、長谷川幸江、光行澄子、諸橋恵子、山屋房子

Vc 藤田隆雄、今井慎太郎、小樽敦子、加藤 宏、鈴木和生、富成倫子、福村忠雄

Kb 岡部 純、須藤博美、加藤正幸、高 寿恩

Fl 斎藤 匠、坂橋矢波、菅原 潤、十亀有子

Ob 小川綾子、庄司知史、松浦真一

Cl 荒井伸一、伊藤正太郎、杉山 伸

Fg 山本茂夫、鈴木明邦、菅原恵子

Hr 磯部保彦、河野 肇、古野 淳、吉田宏昭、山本友宏

Tp 長倉穂司、仲村渠政健、正岡博行

Tb 中沢誠二、平田 健、米倉浩喜

Tub 山崎 茂
Per 野仲啓之助、加藤博文、畠中文規、若井恵介
事務局 樽松三郎、村田芳彦、藤井賢吉、家安勝利、岡村真理子、高村千代子、渡辺立子、渡部知樹、上野真行

〔1988年〕

コンサートマスター 佐藤慶子、深山尚久
Vn 芦沢享子、荒木順子、池田敏美、岩崎龍彦、岩崎眞弓、遠藤直子、大石須和子、加藤結子、黒沢誠登、河野啓子、近藤 勉、桜木弘子、佐々治真紀、千早泰子、中沢真理子、並木信厚、畠中和子、藤井晴雄、松沢久美子、山崎泰子、福村佐織、林 克琳
Va 生沼晴嗣、赤堀文雄、荒井正昭、遠藤幸男、小野瀬敦子、長谷川幸江、山屋房子
Vc 藤田隆雄、小樽敦子、加藤 宏、鈴木和生、富成倫子、福村忠雄、藤田美樹子
Kb 岡部 純、須藤博美、加藤正幸、高 寿恩
Fl 斎藤 匠、坂橋矢波、菅原 潤、十亀有子
Ob 小川綾子、庄司知史、松浦真一
Cl 荒井伸一、伊藤正太郎、万行千秋
Fg 井上俊次、鈴木明邦、菅原恵子
Hr 磯部保彦、河野 肇、古野 淳、吉田宏昭、山本友宏
Tp 大隅正人、長倉穂司、正岡博行
Tb 中沢誠二、平田 慎、米倉浩喜
Tub 山崎 茂
Per 野仲啓之助、加藤博文、畠中文規、若井恵介
事務局 樽松三郎、藤井賢吉、上野真行、家安勝利、今井慎太郎、岡村真理子、沖野博史、柏熊由紀子、高村千代子、村田芳彦、佐々木真二

〔1989年〕

コンサートマスター 佐藤慶子、後藤龍伸
Vn 荒木順子、池田敏美、岩崎龍彦、岩崎眞弓、遠藤直子、河野啓子、黒沢誠登、近藤 勉、桜木弘子、佐々治真紀、田中秀子、中沢真理子、並木信厚、畠中和子、藤井晴雄、松沢久美子、林 克琳、若井須和子
Va 生沼晴嗣、赤堀文雄、遠藤幸男、小野瀬敦子、小俣アリ、永井聖乃、長谷川幸江、山屋房子、
Vc 藤田隆雄、小樽敦子、加藤 宏、鈴木和生、福村忠雄、藤田美樹子
Kb 岡部 純、須藤博美、加藤正幸、高 寿恩
Fl 斎藤 匠、坂橋矢波、菅原 潤、十亀有子、
Ob 小川綾子、庄司知史、松浦真一
Cl 荒井伸一、伊藤正太郎、万行千秋
Fg 井上俊次、鈴木明邦、菅原恵子
Hr 磯部保彦、河野 肇、古野 淳、吉田宏昭、山本友宏、中沢浩士

Tp 大隅正人、長倉穂司、正岡博行
 Tb 中沢誠二、平田 慎、米倉浩喜、五箇正明
 Tub 佐藤 潔
 Per 野仲啓之助、加藤博文、畠中文規、若井恵介
 事務局 横松三郎、上野真行、藤井賢吉、村田芳彦、家安勝利、岡村真理子、沖野博史、柏熊由紀子、佐々木真二、高村千代子、高橋栄治、早坂正樹
 (氏名は当時の姓、契約楽員を含む)

4. 財団法人理事・評議員・事務局員名簿

理事長	塙 悟	糟谷 昇三	楽団顧問	事務局員
飯沢 区	藤井 康男	郡司 博	赤堀 文雄	家安 勝利
専務理事	星出 豊	佐藤 京子	楽団医	岡村真理子
横松 三郎	山田 一雄	須藤 博美	村松 泰	沖野 博史
常務理事	監事	高鍋 水城	楽団代表	柏熊由紀子
藤井 賢吉	石田 巍	高橋 栄治	横松 三郎	高橋 栄治
理事	工藤 順弘	野仲啓之助	楽団長	高村千代子
伊福部 昭	評議員	柳沢 勇雄	上野 真行	佐々木真二
小村 公次	安達 宏治	柳沢 尚武	事務局長	早坂 正樹
熊木 勇	伊藤 茂	村松 泰	藤井 賢吉	
黒柳 徹子	牛谷希志男	渡辺 明郎	事務局次長	
高津伊兵衛	加藤 勝久		村田 芳彦	

本会は明治式財團法人として其の創立よりその歴史とその運営が記載された。また、その歴史と並んで、その運営に貢献した人物たちの名前が記載されている。これらの記録は、本会の歴史とその運営の実績を後世に伝える重要な資料である。

5. 関連記録——資料とその分析

Data and Analysis

(1) 創立時と現在の楽員数比較

パート	創立時	現在	パート	創立時	現在
ヴァイオリン	12	21(5)	トランペット	4	3(0)
ヴィオラ	2	9(1)	トロンボーン	4	3(0)
チェロ	1	6(1)	テューバ	1	1(0)
コントラバス	1	4(0)	打楽器	2	4(0)
フルート	1	4(0)	ピアノ	0	1(0)
オーボエ	0	3(0)	ステージ・マネージャー	0	2(0)
クラリネット	2	3(0)	事務局	0	10(3)
ファゴット	1	3(0)			
ホルン	4	5(1)	計	35	82(11)

【注】()内数字は創立メンバー数

(2) 定期演奏会・年度別開催回数

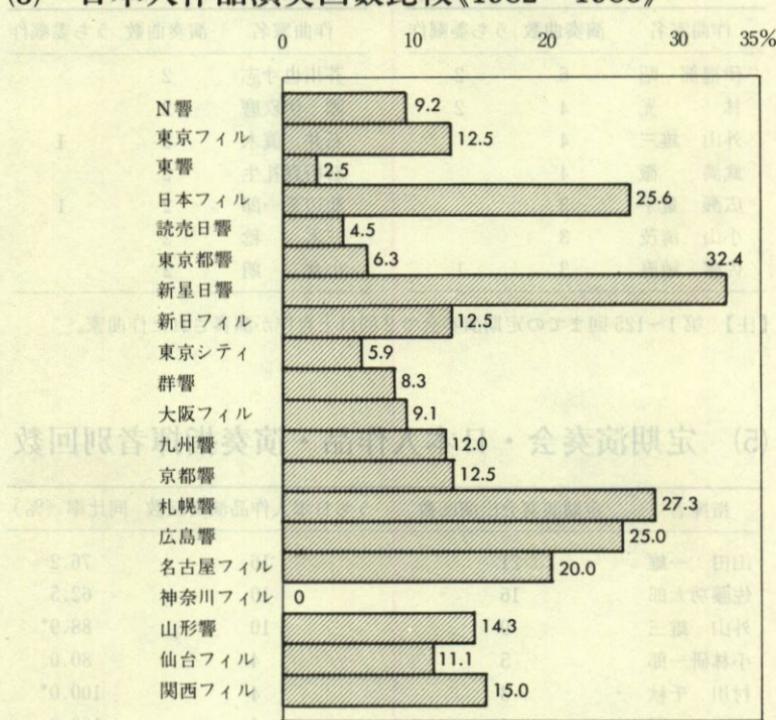
年度	回数	年度	回数
[第Ⅰ期]			
69, 70	2	76	4
71, 72	2	77	6
73	2	78	5
74	4	79, 80	6
75	2	[第Ⅲ期]	
		81~88	9

【注記】

新星日響の楽員数は、表(1)にみる通りその創立時と比べて大幅な増加をみた。この重要な契機となったのが、1981年3月の財団法人化である。その時に予定していた楽員増員計画はほぼ達成されたといえる。また、定期演奏会の年間開催回数も、この財団法人化とともに年間9回となった。その意味では財団法人化は新星日響の演奏活動にとって重要な飛躍をもたらしたといってよいだろう。

定期演奏会開催回数を比較した表(2)を見ると、新星日響の演奏活動の発展の過程がよくわかる。と同時に、創立20周年を機にそれまでの本拠地であった上野の東京文化会館から赤坂のサントリーホールに移った1989年6月以降を、第4期の活動として位置づけることができるだろう。その意味でも、定期演奏会の開催回数とその会場は、オーケストラの演奏活動をみる上での重要なデータといえる。

（3）日本人作品演奏回数比較《1982—1985》



【出典】小川昂・中村洪介編著『日本のオーケストラ』(日本交響楽振興財団発行・音楽之友社刊行)掲載の「日本の交響楽団、定期演奏会記録1982—1985」による。上記数字は日本人作品が演奏された公演回数が全公演数に占める割合を算出したもので、複数の日本人作品が同一演奏会で演奏された場合も1回に数えて算出した。

【注記】上のグラフは、1982年から1985年にかけてのシーズンの全国20のプロ・オーケストラの定期演奏会における日本人作品の演奏状況をグラフ化したものである。このグラフで明らかな通り、新星日響はそのなかでも日本人作品の演奏回数が最も多いオーケストラである。こうした比較は、長期的に継続して行う必要

があるが、それぞれのオーケストラの創立年が異なることもあって、今回は出典にあるような資料を使って比較してみた。しかしこの傾向は、指揮者や音楽監督の異動等の若干の差は見られるものの、ほぼ年代を通して共通したものとなっている。

(4) 定期演奏会・日本人作品・作曲家別演奏回数 《1969—1989》

作曲家名	演奏曲数	うち委嘱作	作曲家名	演奏曲数	うち委嘱作
伊福部 昭	6	2	芥川也寸志	2	
林 光	4	2	團 伊玖磨	2	
外山 雄三	4		石井 真木	2	1
武満 徹	4		石桁真礼生	2	
廣瀬 量平	3		池辺晋一郎	2	1
小山 清茂	3		三木 稔	2	
佐藤 敏直	3	1	小倉 朗	2	

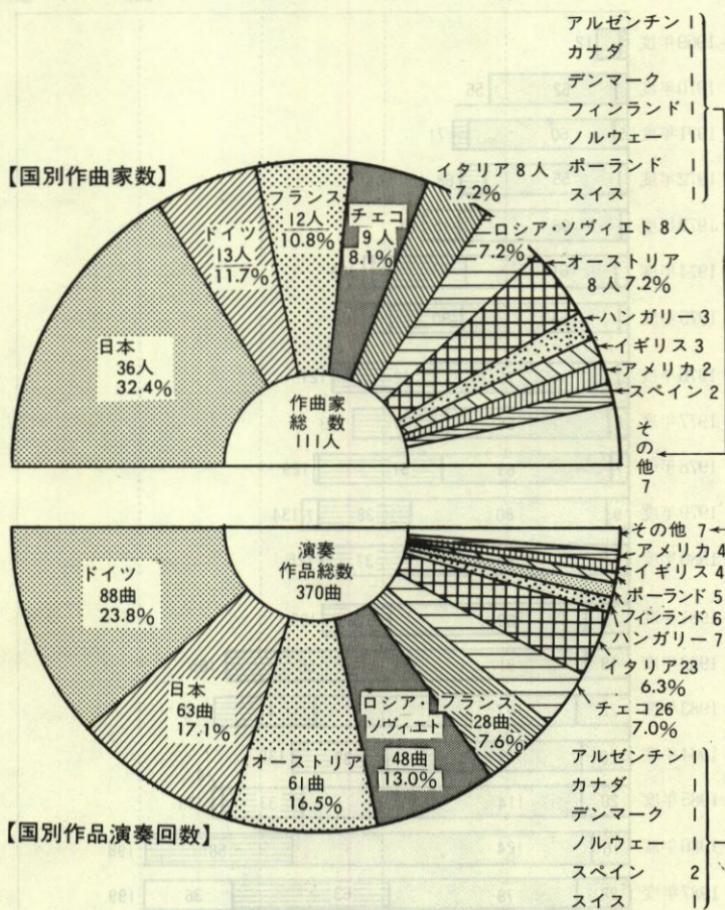
【注】第1～125回までの定期演奏会で2回以上自作が演奏された作曲家。

(5) 定期演奏会・日本人作品・演奏指揮者別回数

指揮者	定期演奏会出演回数	うち日本人作品演奏回数	同比率 (%)
山田 一雄	21	16	76.2
佐藤功太郎	16	10	62.5
外山 雄三	9	10	88.9*
小林研一郎	5	4	80.0
村川 千秋	3	4	100.0*
森 正	4	4	100.0
国分 誠	4	2	50.0
三石 精一	2	2	100.0
山岡 重信	2	2	100.0

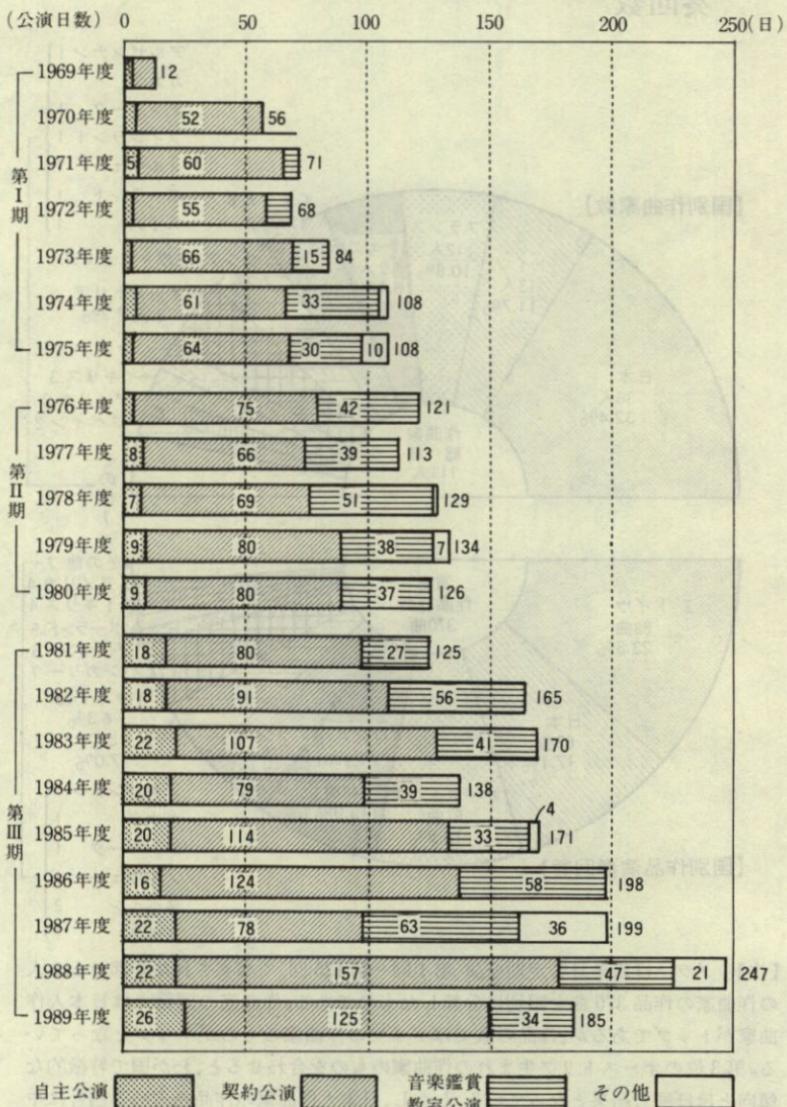
【注】表は第1回から125回までの定期演奏会で、日本人作品を2作品以上演奏した指揮者を表している。括弧内の数字は定期演奏会登場回数を表しており、パーセントで示した数字は日本人作品を演奏した率を表している。*印は同一公演で日本人作品が2曲演奏されたことを示している。

(6) 定期演奏会・演奏作品国別作曲家数／作品演奏回数



【注】グラフは新星日響定期公演(第1回—第125回)で演奏された全部で111人の作曲家の作品370曲を国別に分類したものである。作曲家の国籍では日本人作曲家がトップであるが、作品の数ではドイツの作曲家のものがトップとなっている。第3位のオーストリア生まれの作曲家のものを合わせると、わが国で特徴的な傾向とはほぼ同じ結果となっている。しかし、日本人作曲家の作品の占める割合はやはり作曲家数・演奏曲数ともに大きなウエイトを占めていて、この点からも新星日響の特色ある演奏活動がうかがえる。またチェコスロヴァキアの作曲家の作品に初演ものが多いのも特徴的である。

(7) 年度別・演奏種別・全公演日数比較



自主公演

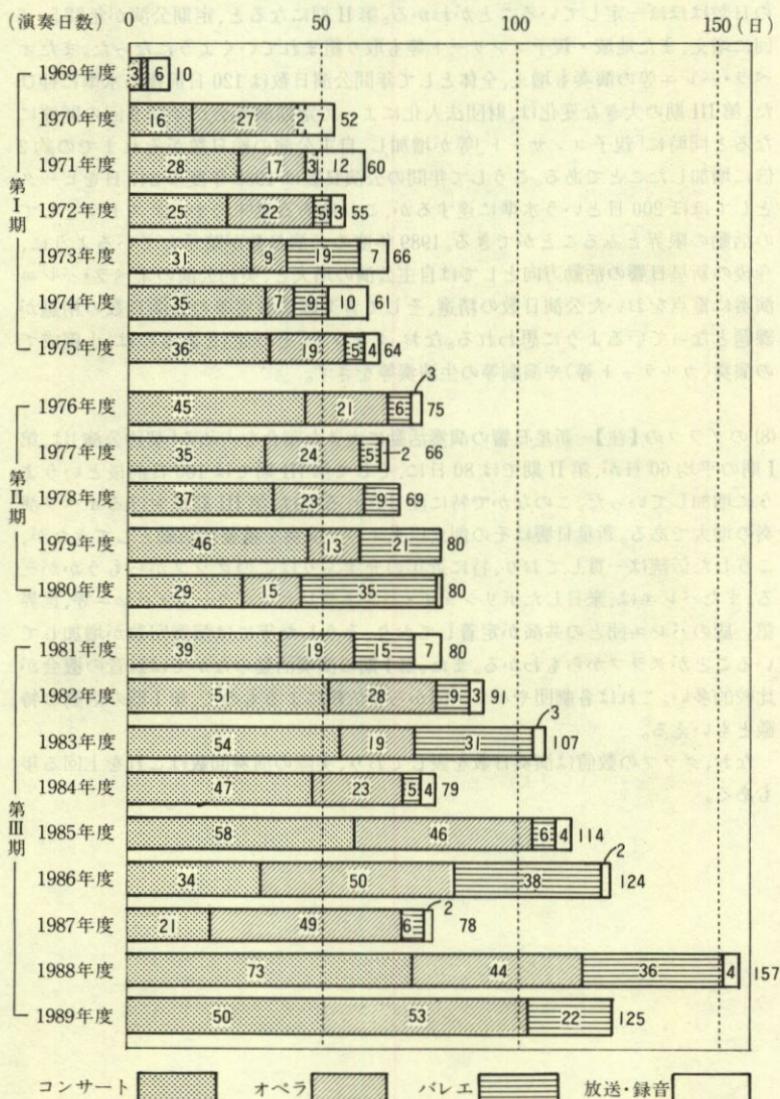
契約公演

音楽鑑賞

教室公演

その他

(8) 契約公演・年度別演奏回数比較



(7) のグラフの【注】 新星日響の公演回数を年度別に見ると、前記グラフのようになる。第Ⅰ期は年間の総公演日数が 100 日前後だが、そのうち自主公演と契約公演の日数はほぼ一定していることがわかる。第Ⅱ期になると、定期公演が年間 5~6 回に増え、また地域・親子コンサート等も取り組まれていくようになった。またオペラ・バレエ等の演奏も増え、全体として年間公演日数は 120 日前後の水準に伸びた。第Ⅲ期の大きな変化は、財団法人化によって定期演奏会が年間 9 回の開催になると同時に「親子コンサート」等が増加し、自主公演の総日数がそれまでの約 2 倍に増加したことである。こうして年間の公演日数は 1988 年度の 247 日をピークとしては 200 日という水準に達するが、これはある意味でオーケストラとしての活動の限界とみることができる。1989 年度の公演日数が暗示しているように、今後の新星日響の活動方向としては自主公演の増大と、契約公演のオペラ・バレエ演奏に重点をおいた公演日数の精選、そして音楽鑑賞教室等の公演日数の精選が課題となっているように思われる。なお、グラフで「その他」とあるのは、小編成での演奏(カルテット等)や演劇等の生演奏等をさす。

(8) のグラフの【注】 新星日響の演奏活動に大きな割合を占める「契約公演」は、第Ⅰ期の平均 60 日が、第Ⅱ期では 80 日に、そして第Ⅲ期では 100 日前後というよう增加していった。このなかで特に注目されるのは、第Ⅲ期におけるオペラ演奏の増大である。新星日響はその創立以来オペラ演奏を重要な活動としてきたが、こうした伝統は一貫しており、特に近年の充実ぶりはこのグラフからもうかがえる。またバレエは、来日したボリショイ・バレエやレニングラード・バレエ等、世界第一級のバレエ団との共演が定着しており、そうした年には演奏回数が増加していることがグラフからもわかる。また、第Ⅰ期の演奏活動のなかでは録音の機会が比較的多い。これは各劇団やバレエ団からの依頼によるもので、第Ⅰ期の活動の特徴ともいえる。

なお、グラフの数値は演奏日数を表しており、実際の演奏回数はこれを上回る年もある。

6. 新星日本交響楽団 20年史年表

Chronological table 1969—1989

小村公次編

新星日本交響楽団	社会・音楽界
1968年(昭和43)	
11.- 来日したベトナム中央歌舞団の伴奏のため、オーケストラが臨時編成される。ここに参加していた音大生が中心となって、新しいオーケストラを作る気運が生まれる	
1969年(昭和44)	
3.- 東大民主化闘争記録映画「燃えあがる炎」の録音のため、音楽家・音大生がオーケストラを組織する	1.10 東大七学部代表団と大学側、「確認書」交換。東大「紛争」自主解決へ大きく前進
3.31 オーケストラ設立準備委員会が発足	1.28~2.3 「東京都オペラシーズン」開始。二期会、ワーグナーの「ラインの黄金」日本初演
5.- 準備委員会の名で「音楽家のみなさん!」という呼びかけ宣言発表	2.20 指揮者アンセルメ没
6.12 新星日響創立総会。時間超過で26日に討議を持ち越す	6.15 内田光子、ペートーヴェン国際音楽コンクールで優勝
6.26 《新星日本交響楽団創立》 新星日本交響楽団創立総会。総会で創立を確認、ただちに録音の仕事に入る	7.5 バックハウス没
9.11 寺原伸夫第2回作品発表会(日仏会館) (独奏・黒沼ユリ子[Vln]、指揮・外山雄三)	7.20 米アポロ11号、人類初の月面到着に成功
10.2 第1回定期演奏会(文京公会堂)(指揮・村川千秋、諸井昭二)	9.- カラヤン指揮コンクールで飯守泰次郎4位に入賞
12.10 オペラ「沖縄」初演に参加(渋谷公会堂) (指揮・井上頼豊)	11.1 遠山音楽財団付属図書館新発足
12.14 日本のうたごえ祭典に出演(日本武道館)	12.- 日本のピアノ生産台数25万 2000余台に達し、アメリカの生産台数を上回る
1970年(昭和45)	
1.10 新星日響第2回楽団総会	1.30~12.16 ペートーヴェン生

新星日本交響楽団	社会・音楽界
2.10 自主的な聴衆組織「新星日響友の会」発足する	誕200年記念演奏会、5期43回にわたって開かれる
3.11 第2回定期演奏会(渋谷公会堂) (指揮・村川千秋)	3.15~9.13 日本万国博覧会開催
4. 2~6.29 オペラ「沖縄」第1次全国公演に参加(21都市22会場で24回演奏)	3.17 読売日響、労働組合を結成
4.20 田川芳音例会に出演。芳音での初演奏	6.22 政府、日米安保条約の自動延長を声明
5.31 東大五月祭に出演(指揮・村川千秋)	6.23 安保条約廃棄をめざす全国統一行動が400カ所で持たれる
7.16 臨時楽団総会が開かれる	7.17 東京地裁、教科書検定は違憲との判決を出す
8.10 交響曲「ベトナム」(大木正夫作曲)初演 (東京労音例会、指揮・村川千秋)	8. 2 東京で初の歩行者天国実施
9.10/11 「特別演奏会(ポップスコンサート)」友の会主催による聴衆と一体となった演奏活動をめざす最初の試み(杉並公会堂、指揮・外山雄三、ゲスト・上条恒彦、山下美音子)	9.- 「ワルシャワの秋」に国民歌劇協会が参加
9.30 初のバレエ音楽録音(「眠れる森の美女」東京シティ・バレエ団、指揮・福田一雄)	10.24 チリで人民連合のアジェンデが大統領に当選
11. 5 第3回定期演奏会(日比谷公会堂) (指揮・村川千秋)	11.15 沖縄国政参加選挙が行われる
12.15 はじめて「第九」の演奏を行う(東京労音例会、指揮・村川千秋)	11.25 三島由紀夫、市ヶ谷の陸上自衛隊東部方面総監部でクーデターを呼びかけ割腹自殺
12.19 府中市民文化の会主催「交響曲の夕べ」に出演(府中市民会館、指揮・外山雄三) 地域コンサートの出発点となる	

1971年(昭和46)

1.24 東京シティ・バレエ団公演(東京労音例会)の「白鳥の湖」に出演。バレエ団との初共演(厚生年金会館、指揮・三石精一)	1.22 東京都響、労働組合結成
2. 8 第3回楽団総会	2.20 第1回福山賞にピアニストの野島稔が決定
3. 5 第4回定期演奏会(文京公会堂) (指揮・外山雄三)	4. 6 ストラヴィンスキー没
4. 1 豊島区千早町にはじめて独自の楽団事務所をもつ	4.18 大木正夫没
6. 2 「ロシア音楽の夕べ」(友の会主催)。白	4.19 N響、労働組合結成。日本演奏家協議会(クラシックからボビュラーまでの演奏家、17楽器別1300名が加

新星日本交響楽団	社会・音楽界
権など出演合唱団との共催による自主公演(共立講堂、指揮・北川剛・石丸寛)	入)発足。委員長・浜坂福夫
6. 7 学校音楽鑑賞教室(学校公演)に初出演(東海大付属高校、指揮・三石精一)	5.10 箕作秋吉没
6.25 オペラ「ナブッコ」日本初演に参加(声専オペラ研究会、指揮・星出豊)	6.17 沖縄返還協定調印
7. 2 第5回定期演奏会(文京公会堂)(指揮・外山雄三)	7.- 東京郵便貯金会館ホール落成
8.10 臨時楽団総会(理念創造問題について討議)	9. 1~23 第6次イタリア歌劇団公演(NHK主催)行われる
9.23~25 「北国新聞」主催《石川県縦断100万人のコンサート》に参加。4会場で演奏(指揮・外山雄三/星出豊)	10.25 中国、国連復帰決定
10.11 第6回定期演奏会(郵便貯金ホール)(指揮・森正)	12.19 日本フィル、賃上げ交渉決裂のためストに突入。「第9」演奏会中止(日本音楽史上初の音楽ストライキ)
12.23 「クリスマス・コンサート」友の会との共催による自主公演(杉並公会堂、指揮・外山雄三)	
1972年(昭和47)	
2. 4 第4回楽団総会	1.24 グアム島で元日本兵横井庄一さん発見される
3. 6 第7回定期演奏会(文京公会堂)(指揮・山田一雄)	2. 3~13 第11回冬季オリンピック大会、札幌で開催
3.19~4. 8 オペラ「沖縄」第2次全国公演	2.- 連合赤軍事件(リンチ殺人事件・浅間山荘事件)発生
4.22~4.30 に参加(28都市29会場で30回演奏)	2.21 ニクソン米大統領、中國訪問
5.13~5.27	3. 1 日本フィル理事者側、フジテレビ・文化放送の運営資金切りを発表
6. 6~6.15	3.15 山陽新幹線新大阪~岡山開通
4.10 「コンチェルトの夕べ」(日本音楽企画)出演。以後こうした契約公演に数多く出演	4.15 川端康成自殺
7. 6 第8回定期演奏会(文京公会堂)(指揮・秋山和慶)	4.29 マンフレッド・グリット没
7.- 日本音楽企画によるオペラ、コンサート等の契約公演が多くなる	5.15 沖縄施政権返還、沖縄県発
10.28~11. 2 新潟県下の音楽鑑賞教室(学校公演)に出演。以後定期化する	
12.10~12.26 静岡・横浜・渋谷・川崎・八	

新星日本交響楽団	社会・音楽界
王子・東京の6会場で労音例会「第9」 公演に出演	足 6.30 日本フィル「分裂」
12.27 第9回定期演奏会(郵便貯金ホール) (指揮・外山雄三)定期公演で初めて「第 9」を演奏。以後1978年まで「第9」を12 月の定期公演で演奏	7. 1 新日本フィル発足 7. 7 田中角栄内閣発足 9.25~30 田中首相訪中、日中国 交正常化交渉で合意 10. 1 職能労働組合日本演奏家協 会(ユニオン日演協)設立
	10.30 作曲家グループ「トランソ ニック」発足
	12.10 総選挙で日本共産党大幅躍 進
1973年(昭和48)	
1.29 第5回楽団総会	1.27 ベトナム和平協定パリで調 印
2. 3~ 2.24 東京バレエ劇場の4回の公演 に参加	2.- 通貨危機が深刻化する
3. 1 第10回定期演奏会(渋谷公会堂) (指揮・山岡重信)	3.30 日本交響楽振興財団(会長 植村甲午郎経団連会長)が 設立される
4.- このころからバレエ公演での演奏出演 が多くなる	5. 2 関鑑子没
6.- 各地での音楽鑑賞教室(学校公演)が数 多くもたれる	5.15 小選挙区制粉碎闘争盛り上 がる
7. 3 第11回定期演奏会(文京公会堂) (指揮・山岡重信)	6. 2 近衛秀麿没
9.- 各種契約公演に数多く出演	6.- 渋谷にNHKホール開場
12. 1 自主公演である「特別演奏会」聞く(東 京文化会館、指揮・伴友雄)	6. 5 井上頼豊演奏生活40年を 祝う会
12.18 第12回定期演奏会(中野サンプラザ ホール)(指揮・伴友雄)「第9」と日本人 作品との組合せが定着するようになる	8. 2 ベルトラメリ能子没 8. 8 金大中氏事件発生 9.11 チリ反革命軍事クーデター 起こりアジェンデ大統領死 亡
	10.22 パブロ・カザルス没
	11.- 石油ショックによる物不足 バニック広がる
	12.21 パブロ・ピカソ没

新星日本交響楽団	社会・音楽界
<p>1974年(昭和49)</p> <p>2.16 第6回楽団総会</p> <p>4. 3 第13回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・外山雄三)創立5周年記念として初の公募合唱団との合同公演でプロコフィエフの「アレクサンドル・ネフスキー」を上演。以後こうした演奏形態が定着する</p> <p>5. 8~5.15 長野県下学校公演</p> <p>6. 6~6. 8 新潟県下学校公演</p> <p>7.11~7.13 岡谷鑑賞教室</p> <p>8.19~8.24 飯山鑑賞教室</p> <p>9.15 アンサンブル向上をめざす特別演奏会(ファミリーコンサート)開く(豊島区民会館)</p> <p>9.29 第14回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・アントニン・キューネル)初めて外国人指揮者を迎える</p> <p>10.- 足立音楽鑑賞会等各地での学校公演が定期化してくる</p> <p>12.26 第15回定期演奏会(日比谷公会堂)(指揮・山田一雄)</p>	<p>1.20 林リリ子没</p> <p>3.21 大橋国一没</p> <p>4.23~25 オペラ小劇場「こんにゃく座」旗掲げ公演</p> <p>5.12 小林研一郎、ブダペスト国際指揮者コンクールで第1位</p> <p>6.22 ダリウス・ミヨー没</p> <p>7. 4 菅原淳、ラロシュ国際打楽器コンクールで第1位</p> <p>8. 8 ニクソン米大統領、ウォーターゲート事件で辞任</p> <p>9.18 斎藤秀雄没</p> <p>9.- ミュンヘン・オペラ(バイエルン国立歌劇場)引越し公演</p> <p>10.24 オイストラフ没</p> <p>11.25~12.17 日本音楽集団、東南アジア各国演奏旅行</p> <p>11.26 田中首相、金脈問題で辞任</p> <p>12. 1 カバレフスキイ来日</p>
<p>1975年(昭和50)</p> <p>2.19 第7回楽団総会</p> <p>3.10 第16回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・アントニン・キューネル)</p> <p>3.25 日本オペラ協会公演の日本人才オペラ作品上演に出演。NHK=FMでその演奏が放送される</p> <p>4.- 豊島区西池袋の新しい事務所(現在地)に事務局移転</p> <p>6.22 「新星日響友の会」総会で《友の会》を「新星日本交響楽協会」に改組(以下《協会》と略称)</p> <p>7. 9/10 東京オペラプロデュース旗掲げ公演に出演し、水準の高い演奏が注目さ</p>	<p>1.17 入場税の細目(免税点100円→3000円、税率5%、10%→一律10%)発表され、4.1から実施</p> <p>2.19 ルイジ・ダラビッコラ没</p> <p>3.10 山陽新幹線岡山-博多間開通</p> <p>3.- カール・ベーム初来日</p> <p>4.30 南ベトナム解放軍チュー政権打倒、臨時革命政府全権掌握</p> <p>6.12 小森宗太郎没</p> <p>8. 2 有田正広、フリュージュの</p>

新星日本交響楽団	社会・音楽界
れる	フランドル音楽祭国際コンクール、トラベルソ部門で第1位
7.22 第17回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・森正)	8. 9 ショスタコーヴィチ没
7.29 「人間を返せ」演奏(被爆30周年、東京労音例会)(指揮・外山雄三)	10. 2~10.30 大阪フィル、ヨーロッパ公演
10.- 協会機関誌『交響楽』創刊	10. 9 豊増昇没
11. 3 二期会オペラ地方公演に初出演(立川)	10.13 團伊玖磨作曲のオペラ「ちゃんちき」初演(二期会)
11.24/25 三木稔作曲のオペラ「春琴抄」初演の演奏を担当(日本オペラ協会、指揮・山田一雄)	11. 7 昭和50年記念中日新聞委嘱作柴田南雄作曲「ゆく河の流れは絶えずして」初演
12.26 第18回定期演奏会(日比谷公会堂)(指揮・山田一雄)	11.26~12. 3 公労協、スト権回復めざす長期192時間スト実施

1976年(昭和51)

2.16/17 第8回楽団総会。創立10周年へ向けての3ヵ年計画を決める	1. 8 周恩来没
4. 3 久喜市での「久喜よい音楽をきく会」主催による音楽会に出演	2.- オペラ研修所が文化庁の委託を受けて二期会内に設けられる(所長・團伊玖磨)
4. 4 第19回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・アントニン・キューネル)この公演以後文化庁助成公演となる	3.22 藤原義江没
5.21 藤原歌劇団オペラ公演に初参加(オペラ「後宮からの誘拐」指揮・杉浦正一)	3.31 東京混声合唱団創立20周年を迎える(記念レコード制作)
7.22 第20回記念定期演奏会(東京文化会館)(指揮・星出豊)この年から定期会員制度導入。年3回から4回(4,7,9,12月)へと公演回数を増やす	4. 9 矢代秋雄没
9. 1 協会主催の室内楽コンサートを新潟で実施	8.16 東京地検、田中角栄前首相を東京地裁に起訴する
9.14 第21回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・三石精一)	9. 3 新響「日本の交響作品展」①
10.14/15 芸術祭主催公演(文化庁)オペラ「春琴抄」に出演(指揮・荒谷俊治)	9. 9 毛沢東没
12.22 第22回定期演奏会(日比谷公会堂)(指	9.24 東響、創立30周年記念海外演奏旅行(カナダ、アメリカ、メキシコ)
	10. 5 N響創立50周年記念式典
	10.12 中国、四人組逮捕による華国峰体制スタート
	11. 2 カーター、米大統領に当選

新星日本交響楽団	社会・音楽界
揮・山田一雄)	12. 4 ブリテン没
	12. 5 総選挙で新自由クラブ躍進
1977年(昭和52年)	
2.28 日本オペラ協会上演「吉四六昇天」の演奏という形で東京都民フェスティバルに初参加	1. 6 ベルリン国立歌劇場(東ドイツ)初来日公演
4. 6 第23回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄)	3.15/26 井上頼豊「日本のチャコ曲半世紀」リサイタル開く
4.29 久喜よい音楽をきく会主催の音楽会に出演	3.24 諸井三郎没
5. 6 第24回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・森正)	3.-モスクワ・オペラ来日公演
5.14 “300人のオーケストラ”コンサート(NHKホール、渡辺暁雄指揮)に出演	4. 9 スペイン共産党合法化、フランコ独裁後の民主化闘争前進
5.20 第9回楽団総会	6. 8 文部省、学習指導要領を発表。「君が代」を国歌と明記し公式行事で「君が代齊唱」を「国歌齊唱」と表現を改めた
5.23/24 NHK-TV“音楽の広場”に初出演、録画収録(指揮・山田一雄)放映は6.4	6.18 服部竜太郎没
7.23 第1回足立区民コンサート(足立区文化会館、指揮・宇宿允人)聴衆開拓の試みとしての自主公演	8. 4 芥川也寸志指揮新響、第8回鳥井賞受賞、記念コンサート
7.26 第25回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ハンス・レーヴライン)	9.13 ストコフスキイ没
9. 5 第26回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・アントニン・キューネル)	9.16 マリア・カラス没
10.22 労音オペラ「カルメン」(山田洋次演出、外山雄三指揮)に出演	9.30 総合文化社(マネージメント)倒産
12.27 第27回定期演奏会(日比谷公会堂)(指揮・外山雄三)委嘱作・林光「声とオーケストラのための『日本共和国初代大統領への手紙』(木島始詩)」初演	10.18 チュリビダッケ来日、読響を指揮
定期演奏会年5回開催となる	11.24 超党派の音楽議員連盟発足
	12.10 東フィル、労働組合結成
	12.18 日演協、日音労、全芸労連等の加盟による「全国音楽家労働組合協議会(音楽労協)」結成

新星日本交響楽団	社会・音楽界
1978年(昭和53)	
2. 8 日本プロ合唱団連合と共に都民芸術フェスティバルに参加(指揮・山田一雄)	1. 19/20 東京オペラ・プロデュースのドビュッシー「ペレアスとメリザンド」舞台初演(佐藤信演出、若杉弘指揮)
3. 1 第28回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄)	2. 1 「東京国際ピアノコンクール」(中島新吉事務局長)の開催強行に反対する評論家19名の反対声明発表される
3. 19 目黒親子劇場主催親子コンサートに出演(親子劇場組織への初出演)	2.- 日本作曲家協議会など16団体がテレビ番組での待遇改善の申入れ
4. 18 第10回楽団総会(前年度演奏料収入が1億円の大台を突破したことが確認され、創立10周年記念事業の具体化が進められた)	4. 1/26 新響「小倉朗交響作品展」
4. 24 第29回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・尾高忠明)	4. 6 諸井三郎記念演奏会
5. -~6. - 各地の音楽鑑賞教室に出演	4. - 渡辺暁雄、日本フィル音楽監督就任
7. 20 第30回定期演奏会(日比谷公会堂)(指揮・渡辺暁雄)	6. -~11. - 消防法改正に伴うスピーリングクラー工事で東京のホールの多くが閉鎖される
10. 1~6 團伊玖磨指揮で「夕鶴」の新潟公演に出演	10. 31 甲斐説宗没
10. 14 第2回足立区民コンサート(指揮・アン・トニン・キューネル、足立区文化会館)	10. - 有事立法をめぐる動きに反対運動高まり、音楽界でも反対声明出される
11. 30 東京労音創立25周年記念公演、林光作曲カントータ「脱出」初演に参加(指揮・林光)	11. 3 牧野弘之没
12. 2 日本のうたごえ祭典、外山雄三作曲「交響曲風雪」初演に参加(指揮・外山雄三)	12. 16 武藏野音大で教員組合結成
12. 26/27 第31回定期演奏会(日比谷公会堂)(指揮・ハンス・レーヴライン)創立10周年記念事業として、レーヴラインを単独招聘	
1979年(昭和54)	
1. 10 第32回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ハンス・レーヴライン)	1. 1 米・中が国交樹立
1. 20 都民芸術フェスティバルに初めて単独出演	1. 16 イラン革命成る
2. 3 第33回定期演奏会(東京文化会館)(指	1. 26 松浦巖(東混理事長)没
	2. 10 中国、ベトナムを侵略
	2. 15 原信子没

新星日本交響楽団	社会・音楽界
揮・山田一雄)	3. 5 江藤俊哉、芸術院賞受賞
4. 4 第34回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・外山雄三)	4. 6 新響「早坂文雄交響作品展」
4.- 第11回楽団総会。年間公演数206回を数え演奏収入1億5000万円を数えるところまでくる	5.11 川本真理没
6.28 新星日響創立10周年記念レセプション(赤坂プリンスホテル・クイーンホール)開く。各界からの来賓100名近い人々の祝辞を受ける	5.11 小野アンナ死去が判明
7.-~ 8.- レニングラード・バレエ団の東京および近県の公演に出演	6.11 中島健蔵没
7.25 第35回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)	6.20~28 ウィーン・フォルクスオーバー初来日
9. 6~15 民音指揮者コンクールの演奏担当	6.28~ 先進国首脳会議(東京サミット)開催
9. 9 第3回足立区民コンサート(足立区文化会館)(指揮・林光)	7. 1 ソニー、ウォークマン発売
9.12 第36回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄)創立10周年記念委嘱作「オーケストラとマリンバのためのラウダ・コンチャルタータ」初演	7.17~20 初の欧州議会開催
10.23 第37回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ズデニエック・コシュラー)	9. 8 鉄建公団の不正経理問題判明
10.28~11.12 團伊玖磨指揮によりオペラ「夕鶴」を4都市で14回上演(うち日生劇場で11回)	10. 7 第35回総選挙。自民党敗北。内紛激化し「40日抗争」激化
11.26 第38回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・森正)	10.26 韓国の朴大統領、射殺される
12.- 年末恒例の「第9」は6会場で7回演奏	11. 4 イランでホメイニ派学生がアメリカ大使館を占拠
1980年(昭和55)	
2.20~ 3. 5 親子劇場公演で九州各地への演奏旅行。5都市(福岡・呉・高知・大村・長崎)7会場で19回公演をもつ	12.27 アフガニスタンでクーデター発生。ソ連が軍事介入を開始
3.31 第39回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・星出豊)	
	1.10 社会・公明両党、連合政権構想で合意。政治原則に共産党の除外を明記
	1.20 米カーター大統領、モスクワ五輪ボイコットを呼びかけ

新星日本交響楽団	社会・音楽界
4.19 運営委員長池田鐵、足立区東伊興町の都道交差点で交通事故のため死亡	ける
4.21 池田鐵の葬儀が自宅の都営住宅内集会所で行われ、参會者1300名が別れを告げる	4.6 新響「日本の交響作品展4」伊福部昭の作品を特集
4.- 文化庁よりオーケストラに対する助成条件の変更(①財団法人であること②年9回の定期公演を開催すること③77名以上の楽団員を有すること)の通知出される。これをめぐって団内討論行われる	5.4 ユーゴスラヴィアのチトー大統領没(87歳)
5.- 新しい運営委員長に博松三郎を選出	5.27 韓国で戒厳軍、光州市に突入。全市を軍事制圧。多数の死者を出す(光州事件)
5.13 第40回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄)プログラム冒頭、故池田鐵の死を悼んでモーツアルトの「レクイエム」より「ラクリモーサ」が演奏された。この回と次回の定期演奏で「伊福部昭の世界」と題する画期的なプログラムが組まれ、「日本狂詩曲」が作曲以来45年ぶりに舞台初演	5.31 堀米ゆず子(Vn)エリザベート国際音楽コンクールで優勝
5.19 楽団による「池田鐵音楽葬」、水道橋の労音会館で行われる	6.12 大平首相衆参同時選挙中に没
5.20 『交響楽』第9号、発行	6.22 衆参同日選挙
5.28~6.26 長野県北安曇郡・北関東・首都圏の各地でのべ50回にもおよぶ長期の音楽鑑賞教室の演奏を行う	6.23 入野義朗没(58歳)
7.16 第41回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)	7.17 鈴木善幸内閣成立
8.24 東京文化会館会議室で臨時楽団総会。助成条件変更をめぐっての団内討論の結果、募金により楽団の財団法人化に取り組むことを決定	7.19 モスクワ五輪開催。日・米・西独・中国など不参加
9.15 第42回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ハンス・レーヴライン)	8.14 ポーランドのグダニスクで造船労働者のスト。「連帯」結成される
9.29 『財団法人新星日本交響楽団設立準備会ニュース』No.1発行。募金運動が広がっていく	9.9 イラン・イラク戦争開始
	9.18 俳優座劇場改築完成

新星日本交響楽団	社会・音楽界
10. 6 『準備会ニュース』No. 2 発行。この時点で団内留保金を含めて3000万円確保の見通し立つ。	10. 21 巨人長島茂雄監督辞任
10. 8 楽団役員、文化庁に3000万余円の銀行預金残高証明書と楽団財産目録を提示。財団法人化へ向けて書類整備に入る。	11. 4 王貞治選手、引退
10. 14 『準備会ニュース』No. 3 発行	11. 4 米次期大統領にレーガン当選
10. 20 藤井事務局次長、財団法人の理事就任要請のため劇作家の飯澤匡氏宅を訪問。飯澤匡氏理就任を快諾	11. 20 第1回日本国際音楽コンクール開催(主催・日本演奏連盟)
10. 25 『準備会ニュース』No. 4 発行	12. 3 『クリティック80』コンサート「清瀬保二1945~1955」開かれる(中央会館)
11.- 各界著名人32氏による《ご寄附のお願い》が発表される	
11. 1 『準備会ニュース』No. 5 発行	
11. 14 龍角散社長藤井康男氏、にんべん社長高津伊兵衛氏に財団法人の理事就任を要請し両氏受諾	
11. 27 第43回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ハンス・レーヴライン)	
12. 15 800余名から3800万円もの寄附金が寄せられ財団法人化の準備整う	
12. 23 『準備会ニュース』No. 7 発行	

1981年(昭和56)

- 1.- 首席コンサートマスターに三戸泰雄氏就任
- 1.17 博松三郎運営委員長、文化庁担当官工藤敏夫に会い、昨年提出した財産目録及び寄附行為(定款)の一部手直しの書類を提出
- 1.19 『準備会ニュース』No. 8 発行。寄附申請者の総数が1000名を超えたことが判明
- 1.28 第44回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・井上道義)
1. 8~ 2.11 演奏回数16回におよぶレニ
1. 1 ギリシャ、ECに加盟
- 1.20 イランで米大使館人質解放
- 2.23 ローマ法王ヨハネ・パウロ二世来日
3. 2 蘆原英了没(74歳)
- 3.16 臨時行政調査会(第二次臨調、会長土光敏光)初会合
- 3.20 神戸ポートアイランド博覧会開幕
- 3.31 ピンクレディ最終公演
- 4.23 「現代日本のオーケストラ音楽」第5回演奏会

新星日本交響楽団	社会・音楽界
シグラード・マールイ劇場パレエ公演 行われる	5.10 仏大統領選でミッテラン当選
3.17 財団法人設立発起人総会開かれる。こ こで飯澤匡氏を理事長、博松三郎を専 務理事に選出し、役員 12 氏が選出され た	6.20 清水和音、第18回 ロン=テ ィボー国際音楽コンクール、 ピアノ部門で第1位
3.26 第45回定期演奏会(東京文化会館)(指 揮・小林研一郎)	
3.27 文部大臣より新星日本交響楽団の財団 法人化の認可が正式におりる	
4.18 労音会館で故池田鐵一周忌「偲ぶ会」開 催	
4.19 『準備会ニュース』No.9 発行。正式認 可を伝え、寄附者の全氏名を掲載した 最終号発刊	
4.- 財団法人化に伴い楽団を財政的に援助 する組織として「賛助会」制度が発足。 法人一口 10 万円、個人一口 1 万円の年 会費	
5.- 第13回楽団総会。財団法人達成の喜び と今後の活動への期待と自覚にあふれ たものとなり飯澤匡新理事長からも挨 拶が行われた	
5.16 第46回定期演奏会(東京文化会館)(指 揮・山田一雄)	
5.21 新星日響財団法人化達成記念バー ティ、上野の池ノ端文化センターで 開催	
6. 3 日本武道館で日本フィル支援「500 人 のコンサート」に参加	
6.17 第47回定期演奏会(新宿文化セン ター)(指揮・アントニン・キューネル)	
7. 1 『交響楽』第10号、発行	
7.10 自主制作レコード「セロ弾きのゴー シュ」発売。書き下ろし新作による親子 コンサートの第1作となる(作曲・林 光)	

新星日本交響楽団	社会・音楽界
7.23~8.3 この年の夏、厚木・新宿・越谷・川越の各都市で「親子コンサート」を初めて開催。のべ1万人の聴衆が参加し成功する	8.18 カール・ベーム没(86歳) 9.8 湯川秀樹没(74歳) 9.14 清瀬保二没(81歳) 9.14 《クリティック80》コンサート・吉田隆子没後25周年記念「君死にたもうことなけれ」開催(日仏会館)
9.- チェロ奏者山岸宜公氏、「セロ弾きのゴーシュ」でのソロを契機に、首席チェロ奏者として入団	10.6 エジプト、サダト大統領暗殺
9.25 新星日響協会・合唱団共催「チェコスロヴァキアの音楽事情」開かれる(労音会館)	10.24 漆原啓子、ヴィエニャフスキー国際ヴァイオリンコンクールで第1位
10.26 第49回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)	12.8 芸大海野義雄教授、楽器購入につき業者より収賄容疑で逮捕。〈芸大ニセヴァイオリン事件〉波紋を呼ぶ
11.21 第50回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・オンドレイ・レナルド)定期公演50回を記念して連続出演の河野・飛松(Hr)、中川(Tp)、村田(Tb)の4楽員が表彰された	12.13 ポーランドで戒厳令 この年 黒柳徹子の「窓ぎわのトットちゃん」が空前のベストセラーとなり、年内430万部売れる
12.15 来春の親子コンサートについて準備会がもたれ、黒柳徹子「窓ぎわのトットちゃん」を演奏することを決める	
12.24 第51回定期演奏会(日比谷公会堂)(指揮・オンドレイ・レナルド)	
1982年(昭和57)	
1.26 第52回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・外山雄三)	1.21 青島広志のオペラ「黄金の国」初演(東京オペラプロデュース)
2.19 第53回定期演奏会(新宿文化センター)(指揮・国分誠)	1.26 ロッキード裁判、東京地裁が全日空若狭得治に有罪判決
3.22 第54回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄)この回より“チャイコフスキーコンサート”ははじまり、年間を通してチャイコフスキーの作品を定期公演で演奏	2.16 第30回尾高賞(尾高惇忠・一柳慧作品が受賞)
4.3/4 春休み親子コンサートで「窓ぎわのトットちゃん」(黒柳徹子原作・小森昭宏作曲)初演され、大きな話題となる。同時に2社からレコードも発売される	3.20 〈反核・日本の音楽家たち〉結成。芥川也寸志、ディック・ミネラの発起で800人が参加
	3.29 カール・オルフ没(86歳)

新星日本交響楽団	社会・音楽界
4.23 第55回定期演奏会(新宿文化センター)(指揮・汐澤安彦)	4.2 フォークランド紛争起る
4.- 佐藤功太郎、首席指揮者に就任する	5.22 第8回民音現代作曲音楽祭
5.7 第56回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)首席指揮者就任披露公演として行われる	6.8 P.シェファー「アマデウス」上演(サンシャイン劇場)
5.- 在京オーケストラで組織されている「日本交響楽団連絡会議」に新星日響、正式加盟(加盟団体は日フィル、N響、新日フィル、読響、東響、都響、東フィル)	6.23~25 <反核・日本の音楽家たち>コンサート開催(日比谷公会堂)
5.10~25 新潟市・長野市での音楽鑑賞教室に出演し、延べ33ステージで演奏	7.12 《クリティック80》コンサート「尾崎宗吉室内楽の夕べ」開催(日仏会館)
6.- 千葉慶子、コンサートマスターに就任	7.20 中国の『人民日報』と韓国の『東亜日報』、日本の文部省の教科書検定による歴史の書換えを批判
6.28 第57回定期演奏会(新宿文化センター)(指揮・小林研一郎)	8.1 若杉弘、東独のドレスデンの国立歌劇場・同管弦楽団常任指揮者に就任
7.5 《試験研究法人》の証明を文部大臣より取得し、以後継続して寄付金募集に取り組む	8.9 「東混8月のまつり」で林光の<新原爆小景>初演(林光指揮、イイノホール)
7.11~8.6 恒例の夏休み親子コンサートが首都圏各地で10回開催。春に初演されたばかりの「窓ぎわのトットちゃん」が各地で再演された	8.14 中野区、自治体として初めて<護憲・非核都市>を宣言
7.14 第57回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ハンス・レーヴライン)	9.14 松尾葉子、ザンソン指揮者コンクールで第1位
7.21~26 文化庁移動芸術祭オペラ公演に出演(越谷~八戸、5回公演)	10.14 大阪のザ・シンフォニーホール開場
8.28/31 日生劇場オペラ公演「泣いた赤鬼」に出演	11.10 ブレジネフ死去、後任にアンドロボフが書記長に就任
9.1~11 民音指揮者コンクールで演奏	11.26 鈴木内閣総辞職。中曾根康弘が首相に選ばれる
9.- ロイス・ジョンソン入団(初の外国人奏者)	12.- 大町陽一郎、ウィーン国立歌劇場専属指揮者に就任
10.1 第59回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)	
10.- 各地でオペラ公演に出演(10月~12月にかけて17回の公演で演奏)	
11.4 第60回定期演奏会(東京文化会館)(指	

新星日本交響楽団	社会・音楽界
揮・佐藤功太郎)	
12.- 各地での「第9」公演に出演。その回数 は自主公演を含めて 10 回	
12.23 第 61 回定期演奏会(日比谷公会堂)(指 揮・ヨハネス・ヴィンクラー)	
1983 年(昭和 58)	
1.10 『交響楽』第 11 号、発行	1.17 中曾根首相訪米、「日本列島 は不沈空母」と発言、問題と なる
1.- 諸物価の高騰のため、第30回定期公演 (1978.7)以来据え置いてきた定期公演 入場料を改訂(A. 3000 → 3500, B. 2600 → 3000, C. 2200 → 2500, D. 1600 → 2000)	3. 1 小林秀雄没(80 歳) 3. 6 文楽人形オペラ「曾根崎心中」(入野義朗作曲・遺作)初 演
1.31 第62回定期演奏会(東京文化会館)(指 揮・星出豊)チャイコフスキイ・シリ ーズのしめくくりとして、オペラ「オルレ アンの少女」が星出豊の構成によって 演奏会形式で日本初演され、注目を集 める	3.14 臨時行政調査会、「行政改革 に関する第5次(最終)答申 を中曾根首相に答申
2.10 「窓ぎわのトットちゃん」のレコードが、 キングレコードの「ヒット賞」(年間を 通してヒットしたレコードに贈られる 賞)を受賞	3.14 OPEC が結成以来はじめて 原油価格の値下げを決議
2.19 協会主催の「春を呼ぶ新星日響ティー サロン」が労音会館で開かれ、楽員によ るサロンコンサートとレコードバザー 等が好評を博す。同時に「新星日響にコ ントラバスを」の募金運動開始される	5. 4 寺山修司没(47 歳) 6. 1 現代日本のオーケストラ音 楽第 7 回演奏会
3. 9 第63回定期演奏会(東京文化会館)(指 揮・山田一雄)	6.11 ホロヴィッツ、初来日。その 演奏をめぐって論議起ころ
4.10 春休み親子コンサート(東京文化会館) (指揮・佐藤功太郎)音楽物語「木にとま りたかった木の話」(黒柳徹子作・小森 昭宏作曲)初演	6.26 第13回参議院選挙実施。自 民安定多数を維持
4.22 第64回定期演奏会(新宿文化センター) (指揮・佐藤功太郎)	6.30 飛鳥田社会党委員長、選挙 で敗北の責任を取り辞意表 明
4.~5. 各地(郡山・仙台・沼津・東京・	8.11 山本薩夫没(73 歳) 8.20 小泉文夫没(56 歳) 8.21 フィリピンのアキノ元上院 議員、帰国直後のマニラ空 港で暗殺される
	9. 1 サハリン沖で大韓航空機を ソ連軍機が撃墜 9. 7 社会党、石橋政嗣委員長・田

新星日本交響楽団	社会・音楽界
宇都宮・水戸・帯広・北見・札幌・新潟)でのファミリー・コンサートに出演し、「窓ぎわのトットちゃん」を18回も演奏する	辺誠書記長の新体制発足 9.18 伊藤恵、ミュンヘン国際音楽コンクール・ピアノ部門優勝
5.26 第65回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・朝比奈隆)	9.29 井口基成没(75歳)
6.~8. 大阪・長野・横浜・狹山等でもファミリーコンサート開かれ、「窓ぎわのトットちゃん」「セロ弾きのゴーシュ」「木にとまりたかった木の話」が演奏される	10.12 堀内敬三没(78歳) 10.12 東京地裁、ロッキード事件で田中首相に有罪判決
6.23 第66回定期演奏会(新宿文化センター)(指揮・小林研一郎)	11.9 レーガン米大統領、来日
7.10~30 首都圏各地(足立・江戸川・川口・川越・千葉・荒川区・越谷・厚木)で夏休み親子コンサートが開かれる	11.11 劇団四季、「キャッツ」無期限上演開始
9.10~18 ポリショイ・バレエ団来日公演に出演。各地で20回のステージに	11.14 第2回東京国際音楽コンクール開催
10.2~12 参加・演奏	12.26 自民党と新自由クラブ、統一会派結成。第2次中曾根内閣
9.22 第2回「おもしろ音楽館」開催(ゲスト: 山田一雄/松尾葉子。渋谷)	
9.24 第67回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・松尾葉子)	
10.25 第68回定期演奏会(新宿文化センター)(指揮・山田一雄)	
11.19 第69回定期演奏会(新宿文化センター)(指揮・佐藤功太郎)	
11.27 「新星日響にあたらしいコントラバスを贈るバザー」(豊島区医師会館)開かれる。募金目標残高を一気に達成し100万円を楽団に寄附	
12.26 第70回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・オンドレイ・レナルド)	
12.- 年末恒例の「第9」公演は9会場で10回演奏	

1984年(昭和59)

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1.17 第71回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・オンドレイ・レナルド) | 2.9 ソ連共産党書記長アンドローフ死去、後任にチャルネンコ |
| 2.19 協会の「コントラバスを贈る」運動の結果、新しく購入したコントラバスの披露を兼ねた「ありがとうコンサート」開かれる | 2.22 イラン・イラク戦争で伊朗が大攻撃を開始 |
| 3.29 第72回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄) | 3.18 江崎グリコ社長誘拐事件発生 |
| 4.- 日本交響楽団連絡会議、入場税免税点引き上げ(3000円→5000円)の成果を報告 | 4.26 レーガン米大統領、訪中 |
| 4.1 『交響楽』第12号、発刊 | 5.7 ハンブルク歌劇場初来日公演。「影のない女」日本初演 |
| 4.7 春休み親子コンサート(簡易保険ホール)(指揮・佐藤功太郎)親子コンサート新作第4作「モチモチの木」(斎藤隆介作・青島広志曲)初演 | 5.25 三木稔のオペラ「あだ」(日本語版)日本初演 |
| 4.10 《ありがとうコンサート》八王子でも開かれる(東京医科大学医療センター) | 7.28 ロサンゼルス五輪、開幕。ソ連諸国不参加 |
| 4.16 第3回おもしろ音楽館(ゲスト: 飯澤匡・山田一雄)開催。テーマは“書く人・演る人” | 8.10 国鉄再建監理委員会が国鉄の分制・民営化を提言 |
| 4.20 第73回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・井上道義) | 8.21 臨時教育審議会(臨教審)発足(会長・岡本道雄) |
| 5.12 第74回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎) | 8.30 有吉佐和子没(53歳) |
| 5.25 新星日響協会第10回総会開かれる(中野サンプラザ) | |
| 6.25 第75回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・小林研一郎) | |
| 7.5/13 「反核日本の音楽家」主催の“オーケストラ・メッセージ”に出演 | |
| 7.22~28 首都圏6カ所で恒例の夏休み親子コンサート開催 | |
| 8.11/12 第1回「星空のコンサート」ツアー(楽団・協会・ロッジ長蔵共催)尾瀬品村戸倉のロッジ長蔵で行われ、好評 | |

新星日本交響楽団	社会・音楽界
を博す	10.31 インドのインディラ・ガンジー首相、シーア教徒の警備兵に射殺される。後継に長男のラジブ・ガンジー氏大統領に就任
8.- 春日部・四街道・野田等で「モチモチの木」による親子コンサート開かれる	11. 6 レーガン大統領、再選
9.- 藤田隆雄氏、山岸氏に代わって首席チェロ奏者に就任	12.19 北京で英国と中国、1997年の香港返還協定に調印
9.14 第76回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ヴィクター・フェルドブリル)	12.20 電電公社の民営化、電気通信事業の自由化等の3法案成立
9.21~10. 6 文化庁移動芸術祭オペラ「蝶々夫人」(豊田・倉敷・姫路・八幡・武生・新発田・能代・福島・桐生・厚木)に出演	
10. 7 「歌とワインとぶどう狩り」(協会主催)が昇仙峡方面ハイキングとして実施、好評	
10.18 第77回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)新星日響創立15周年記念委嘱作「星が飛ぶ時のための序曲」(池辺晋一郎作曲)初演	
10.30 第8回足立区民コンサート(竹の塚社会教育会館)	
11.17 東京医科大学八王子医療センターに新星日響協会の支部誕生。新星日響の音楽活動を支援し、音楽を「心の医療」に役立てようと4名の協会員と81名の賛助教職員でスタート	
11.24 第78回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ルドルフ・クレチメル)	
12.19 第79回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ヴァーツラフ・ノイマン)マーラーの「嘆きの歌」を歌った新星日響合唱団は創立10周年を迎えた	
12.- 年末恒例の「第9」公演は8会場で9回演奏	
1985年(昭和60)	
1.21 「新春のつどい」(協会主催)開かれる	1. 9 両国の新国技館完成
1.28 第80回定期演奏会(東京文化会館)(指	1.31 ニュージーランド首相、核

新星日本交響楽団	社会・音楽界
揮・佐藤功太郎)	積載米艦船の寄港拒否を表
2.14 第81回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・大町陽一郎)	明
2.18~22 文化庁中学校音楽鑑賞教室に出演	1.31 石川達三没(79歳)
3.24 春休み親子コンサート(簡易保険ホール)(指揮・佐藤功太郎)親子コンサート 新作第5作「いばらの城のおひめさま」 (グリム童話・青島広志曲)初演	2. 映画「アマデウス」公開。話題となる
4. 1『交響楽』第13号、発行	2.7 創政会(会長竹下登)初会合
4. 1 第82回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄)	2.27 田中元首相、脳卒中で入院
4.- 各地での契約公演に出演	3.10 ソ連共産党書記長チャルネ
5.- 各地での音楽鑑賞教室に出演	ンコ死去、後任にゴルバ
5.20 第83回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)	チョフ
5.25 東京医科大学八王子医療センターで 「名曲コンサート」開かれる。患者・教職員多數が参加	3.10 世界最長の青函トンネル開通
6. 1 第84回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・国分誠)	3.16 つくば科学万博開幕
6. 8 日野療護園で金管アンサンブルコンサート	4. 1 NTT(日本電信電話会社) 日本たばこ産業会社発足
6.10~7. 5 各地での音楽鑑賞教室に出演	4.- 小林研一郎、京都市響第8代常任指揮者に就任
7.16 第85回定期演奏会(新宿文化センター)(指揮・国分誠)	4. 8 東京地裁、芸大汚職事件で 海野義雄被告に有罪判決
7.20~8. 28 首都圏で8回、恒例の夏休み 親子コンサート開催	4.- NHK=FMの番組改編で クラシック番組減少に批判の声高まる
8.16/17 第2回「星空のコンサート」上高地 で開催。参加者満天の星とカルテットの響きに酔いしれる	5. 8 ベルク「ヴォツェック」、新 日フィル定期公演で全曲初演
9.- 各地で引き続き「窓ぎわのトットちゃん」等の演奏会が行われる(大阪・和歌山・浦和・東京等)	5.17 男女雇用機会均等法成立
9.10~18 民音指揮者コンクールに出演	5.- 第二国立劇場をめぐる論 争、活発に行われる
9.25~10. 5 文化庁移動芸術祭オペラ公演 に出演。「メリーウィドー」上演。山梨	7. 4 第1回(東京の夏)開催
	7.29 ソ連のゴルバチョフ書記長、核実験停止を発表
	8. 1 「反核・日本の音楽家」演奏会でオムニバス・オペラ「奇妙な六つのシーン」初演
	8.12 日航ジャンボ機が群馬県御 巣鷹山に激突。死者520人。 生存者4名

新星日本交響楽団	社会・音楽界
はじめ 9 カ所	10.26 二期会、ベルク「ヴォツェック」を舞台初演(演出・佐藤信、指揮・若杉弘)
10.- 各オペラ団のオペラ公演に出演	11.19 ジュネーブで6年ぶりに米ソ首脳会談
10.21 第86回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ハンス・ワルター・ケンベル)	
11.12 第87回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)	
12.13 第88回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・フランティシェック・ワイナール)	
12.- 年末恒例の「第9」公演は10会場で11回演奏	
1986年(昭和61)	
1.16 第89回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄)	1.22 社会党が西欧型社会民主主義路線に転換する新宣言を採択
1.23 「新春のつどい」(協会主催)開かれる	2.25 フィリピンでアキノを大統領に臨時政府樹立。マルコス、米に亡命
2.- 各地での契約公演に出演	2.- オペラ公演でスライドによる訳詞の上映による原語上演が採用される(藤原歌劇団)
3.8 第10回足立区民コンサート[小アンサンブル]開催(東部区民福祉センター)	2.28 スウェーデンのバルメ首相、暗殺される
3.8 「第4回名曲コンサート」(東京医大八王子医療センター)開かれる[小アンサンブル]	3.24 逗子市の市長リコールで、緑派の現職市長が勝利
3.29 春休み親子コンサート(簡易保険ホール)(指揮・佐藤功太郎)親子コンサート新作第6作音楽物語「赤神と黒神」(松谷みよ子作・松井和彦曲)初演	3.- サティ・ブーム続く
4.15 定期会員報『コンチェルト』創刊される	4.26 ソ連・ウクライナ共和国のチェルノブイリ原発で世界最大の原子炉爆発事故発生。深刻な放射能汚染広がる
4.21 第90回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)演奏会形式によるオペラ「魔弾の射手」上演。注目を集め	5.4 東京サミット開幕
5.- 深山尚久、コンサートマスターに就任	6.8 オーストリア大統領選舉で、ナチ疑惑のワルトハイム前国連事務総長が当選
5.6~23 恒例の長野・新潟音楽鑑賞教室に出演	7.6 衆参同日選舉。自民党圧勝
5.27 第91回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄)	
6.-~7.- 名地での音楽鑑賞教室に出演	
6.18 第92回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・国分誠)	

新星日本交響楽団	社会・音楽界
7.10 第4回「おもしろ音楽館」(ゲスト・朝比奈隆、宇野功芳)開催(東京文化会館会議室)	7. 9 第2回「東京の夏」音楽祭
7.16 第93回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・朝比奈隆)	7.13 ショパン・コンクール優勝者ブーニン初来日。ブームを呼ぶ
7.25~29 首都圏4カ所で恒例の夏休み親子コンサート開催	7.28 文化庁、芸術活動に民活導入
8.16/17 第3回「星空のコンサート」八ヶ岳で開催。美濃戸山荘での弦楽四重奏演奏が好評を博す	7.30 東北自動車道の浦和一青森間が全通
8.29~9.15 レニングラード・バレエ団地日公演に参加、4会場14公演で演奏	8.12 新自由クラブ解党、自民復帰を決定
9.21~10.1 文化庁移動芸術祭オペラ公演「メリー・ウィドー」に出演(花巻等で8公演)	9. 6 土井たか子、日本社会党委員長に当選。日本の大政党初の女性党首誕生
10. 2~10.10 レニングラード・バレエ団地日公演に出演(静岡他で8公演)	10.10 国労修善寺大会で労資協調路線を拒否、六本木執行部発足
10.29 第94回定期演奏会(簡易保険ホール)(指揮・ルドルフ・クレチメル)	10.12 赤坂にサントリーホール開場。武満徹監修の国際作曲委嘱シリーズ始まる
10.~11.- この時期、各種のオペラ・バレエ公演への出演が多くなる	10.31 中曾根首相の自民党総裁の任期延長
11.28 第95回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・オンドレイ・レナルド)	11.15 伊豆三原山が209年ぶりに大噴火。島民らに島外避難命令出される
12.18 第96回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・オンドレイ・レナルド)ドヴォルザーク「レクイエム」演奏に際して、チェコスロヴァキアからのソリスト4人を迎える	11.28 国鉄分割・民営化関連8法案が成立
12.25 オンドレイ・レナルド、新星日響首席客演指揮者に就任が決定	12. 5 公明党、矢野委員長・大久保書記長の新人事体制発足
12.- 年末恒例の「第9」公演は8会場で9回演奏	12.19 ソ連の反体制物理学者サハロフ博士夫妻、国内流刑解除
1987年(昭和62)	
1.12 都民芸術フェスティバルに参加。山田一雄の指揮でマーラーの交響曲第1番等を演奏	1.16 胡耀邦中国共産党總書記辞任。總書記代行に趙紫陽首相を選出

新星日本交響楽団	社会・音楽界
1.31 第97回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・外山雄三)	1.17 日本初の女性エイズ患者認定
2.16~20 足立区小学校音楽鑑賞教室に出演	2. 2 「売上税」に対しオーケストラ関係18団体が反対声明
2.23 第98回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)この回で佐藤功太郎の首席指揮者としての活動終了	3. 8 参院岩手選挙区補欠選挙で、社会党候補が売上税反対を訴えて圧勝
3.29 春休み親子コンサート(簡易保険ホール)(指揮・田中良和)親子コンサート新作第7作オーケストラ・ファンタジー「トモコのふしぎなベートーヴェン」(西田豊子脚本・赤堀文雄構成編曲)初演	3.23 国鉄新会社JRグループの創立総会開かれる
4.20 第99回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・小林研一郎)定期公演100回記念シリーズ、スタート	3.27 旧東京音楽学校奏楽堂が上野公園内に復元、落成式執行
5.10 協会主催「練習見学会」開かれる	3.31 劇団四季の「キャッツ」が上演回数1224回で終了する。
5.15 『交響楽』第14号、発行	4. 1 国鉄の分割・民営化開始
5.15 第100回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・山田一雄)定期公演100回記念委嘱作・伊福部昭作曲「サロメ」改訂版初演	4.- 若杉弘、東京都響の音楽監督に加え、首席指揮者も兼務
5.22~6.1 文化庁中学校芸術鑑賞教室出演(高萩中他9回演奏)	4.12 統一地方選挙前半戦、革新系候補が圧勝。国民の「売上税」への強い拒否反応が現れる
6.- 各地での音楽鑑賞教室に出演(新潟市等)	5. 3 朝日新聞阪神支局に散弾銃男が乱入、記者1人死亡、1人重体。「赤報隊」と名乗る犯行声明届く
6.22 第101回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・佐藤功太郎)	5.10 帝銀事件の死刑囚平沢貞通が八王子医療刑務所で死亡(95歳)
6.24 第12回足立区民コンサート(室内楽)開催	7.25 第3回<東京の夏>音楽祭
7. 6 第102回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ヘルムート・ヴォルフ)	7.-~8.- 京都市響、北朝鮮へ演奏旅行
7. 8~10 新座市音楽鑑賞教室に出演(3日間で8回の演奏)	8. 7 岸信介元首相没(90歳)
7.18~22 首都圏4カ所で恒例の夏休み親子コンサート開催	8. 9 若杉弘、サントリーユ音楽賞受賞記念のコンサートを東京と大阪で開く
7.25~8.10 文化庁こども芸術劇場に出	8.27 砂原美智子没(64歳)

新星日本交響楽団	社会・音楽界
演。「ヘンゼルとグレーテル」を近江八幡市他で13回演奏(小編成)	9.- 東京芸術大学創立100周年記念演奏会もたれる
7.28~8.2 文化庁こども芸術劇場に出演。「修禅寺物語」を八王子市他で5回演奏(小編成)	9.- 斎藤秀雄記念オーケストラ、ヨーロッパ公演
8.14~16 第4回「星空のコンサート」上高地で開催。夏の行事としてすっかり定着する	9.14 第1回津山国際総合音楽祭
8.28/29 日生劇場親子で楽しむ音楽童話「泣いた赤鬼」に出演	10.- ベルリン・ドイツ・オペラ来日公演「ニーベルングの指環」全曲日本初演
9.- 現田茂夫、新星日響指揮者に就任	10.20 中曾根首相、自民党次期総裁に竹下登幹事長を指名
9.17 第5回「おもしろ音楽館」(ゲスト・佐藤しおぶ・松井和彦)開催(渋谷カワイ)	11. 6 竹下内閣発足
9.25~10.4 文化庁移動芸術祭、オペラ「メリー・ウィドー」出演(刈谷市他で8回演奏)	11.20 全民労連発足
10. 9 第1回評議員会開催。15氏選出	11.29 大韓航空機事件発生
10.12 第103回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・三石精一)	12. 8 御茶の水に室内楽専用ホールの「カザルスホール」が開場
11. 9~16 日生劇場オペラ公演「魔笛」に出演	12.10 ハイフェッツ没(86歳)
11.17 東京駅コンサートに出演(指揮・團伊玖磨)	12.16 韓国大統領選挙で盧泰愚当選
11.21 協会主催「練習見学会」(光明院)	
11.25 第104回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・ウラジミール・ヴァーレック)	
12. 9 第105回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・ラインハルト・ペータース)	
12.23 第13回足立区民コンサート“クリスマス・ナイト・コンサート”開かれる	
12.- 年末恒例の「第9」公演は9会場で10回演奏	
1988年(昭和63)	1.- CDとLPの生産比は、金額で73対27、枚数69対31
1. 9 第6回「おもしろ音楽館」(ゲスト・武藤英明、ティルシャル[Hr]、ヴァチカ	

新星日本交響楽団	社会・音楽界
ジエ夫人)テーマは“チェコ音楽よもやま話”	と、CDの大幅な増加が目立つ
1.12 第106回定期演奏会(東京文化会館) (指揮・武藤英明)	1. 9 宇野重吉没(73歳)
1.- 1988年度の定期公演入場料金を改訂。 1回券(A. 3500→4000, B. 3000→3500, C. 2500→3000, D. 2000→2000 車椅子1500)となる	1.15 大韓航空機事件で金賢姫(蜂谷真由美)が犯行を認め る記者会見を行う
1.- 事務局、創立以来初の親睦旅行に出かける	2.25 韓国、盧泰愚新政権発足
2.17 第107回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・パスカル・ヴェロ)	2.26 東響、「清瀬保二作品展」
2.18~26 足立区小学校音楽鑑賞教室に出演	3.12 大阪フィル、オーケストラ・シンポジウム開催
2.-~3.- 各種オペラ公演に出演(東京オペラ・プロデュース、二期会等)	3.13 青函トンネル、営業運転開始
3.12 東京医科大学八王子医療センター「第6回名曲ミニコンサート」に出演。[室内楽]	3.23 群馬交響楽団、オーケストラ・シンポジウム開催
3.26 春休み親子コンサート(簡易保険ホール)「窓ぎわのトットちゃん」上演	3.30 田谷力三没(89歳)
3.27 春休み親子コンサート(簡易保険ホール)(指揮・現田茂夫)親子コンサート第8作、映像と生演奏による「スノーマン」上演(ブリックグズ作・ブレイク曲)	4. 7~5.10 東京都響、創立20周年記念として海外20都市での演奏旅行
4. 2/3 春休み親子コンサート(狭山・浦和) 「トモコのふしぎなベートーヴェン」上演	4. 9~6. 5 東京都美術館「1920年代・日本」展開催
4.16 第108回定期演奏会(東京文化会館) (指揮・現田茂夫)	4.10瀬戸大橋開通
5.10 第109回定期演奏会(東京文化会館) (指揮・山田一雄)	4.29 劇団四季「オペラ座の怪人」ロングランの幕を開ける
5.16~20 富山県音楽鑑賞教室に出演(魚津他で15回演奏)	5.22 野村光一没(92歳)
5.27/29 松山パレエ団公演に出演	5.- メトロボリタン・オペラ来日
6. 4 第14回足立区民コンサート『たのしいウィーンの調べ』開催(竹の塚社会教育	5.29 レーガン米大統領、モスクワ訪問
	6.17 小松川崎市助役が公開前のリクルート関連株を取得、公開後の売却益1億円を得ていたことが判明。—「リクルート事件」の発端
	6.- ブーニン、西ドイツに亡命
	6.- 反原発ロックのレコード、会社の圧力で発売中止となる

新星日本交響楽団	社会・音楽界
会館)	7.18 イラン政府、イラン・イラク戦争の国連停戦決議受け入れ
6.13 第110回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・武藤英明)	7.23 横須賀沖で自衛隊潜水艦「なだしお」と釣り船「第1富士丸」が衝突、釣り客30人死亡
6.15~17 新潟市での音楽鑑賞教室に出演	7.29 政府、消費税法案を閣議決定
6.16~18 民音指揮者コンクール予選で演奏	8.11 J = P. ボネル没(56歳)
6.- 各地での音楽鑑賞教室に出演	8.20 イラン・イラク戦争、7年11カ月ぶりで停戦実現
7.- 後藤龍伸、コンサートマスターに就任	9.- ミラノ・スカラ座来日公演
7.18 第111回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・オンドレイ・レナルド)	10.- 都議会オーケストラ振興議員連盟(会長・我孫子清水氏)設立
7.21~23 首都圏4カ所で恒例の夏休み親子コンサート開催	10.- 津田ホール(千駄ヶ谷)開場
7.26~29 文化庁青少年芸術劇場公演「修禅寺物語」に出演(小野市他4カ所で演奏)	11. 8 米次期大統領にブッシュ当選
7.28~8.10 文化庁青少年芸術劇場公演「ヘンゼルとグレーテル」に出演(出雲市他12カ所で演奏(小編成)	11.15 原太郎没(84歳)
8. 7/8 第5回「星空のコンサート」上高地で開催	11.18 三木稔のオペラ「じょうり」日本初演(セントルイス・オペラ、日生劇場)
9. 9~12 民音指揮者コンクール本選で演奏	12. 9 宮沢副総理、リクルート疑惑で引責辞任
9.13~20 ポリショイ・バレエ団来日公演に	12.14 真藤NTT会長もリ疑惑で辞任
10. 5~16 出演。各地での演奏22回を演奏	12.19 山路芳久没(38歳)
10. 9 第7回「おもしろ音楽館」開催(ゲスト・ポリショイ・バレエ団のメンバーを迎えて)	12.23 消費税法案、成立
10.21 第112回定期演奏会(簡易保険ホール)(指揮・ワーシリー・シナイスキー)	
10.-~11.- 藤原歌劇団、二期会等各演奏団体のオペラ・バレエ等に出演。その優れた演奏が高い評価を受ける	
11.29 第113回定期演奏会(東京文化会館)(指揮・国分誠)	
12.19 クリスマス・コンサートとして「スノーマン」を上演(新宿文化センター)	
12.23 第114回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・カール・マルティン)	

新星日本交響楽団	社会・音楽界
12.- 年末恒例の「第9」公演は3会場で4回演奏	
1989年(平成1)	
1.14 都民芸術フェスティバル出演	1. 7 天皇裕仁死去
1.17 第115回定期演奏会(東京文化会館) (指揮・現田茂夫)	1.12/18 東京都響<日本の作曲家シリーズ>諸井誠・柴田南雄特集の演奏会開かれる
1.21~28 「トモコのふしぎなベートーヴェン」演奏会に出演(下館・伊勢原)	1.31 芥川也寸志没(63歳)
1.22~31 川崎おやこ劇場公演に参加。10回公演	2.- うたごえ運動40周年記念音楽会開く
2.13 第116回定期演奏会(東京文化会館) (指揮・ハンス・ヨアヒム・カウフマン)	2. 3 こんにゃく座、オペラ「十二夜」初演
2.16~28 「サントリー10夜連続大音楽会」 に出演	2.24 「大喪の日」服喪休館再検討となり、声楽グループ<トレリンク>予定通り演奏会実施
3. 5 「ドリンキング・コンサートin室内楽」 開催	2.- 各地の自治体首長選挙で自民党候補が大苦戦。消費税問題や政治腐敗に対する住民の強い批判で野党候補者に票集中
3.30~4. 8 「春のファミリーコンサート」 (協賛・東武百貨店)を東武沿線で開催。 新しい地域コンサートのスタイル	3.10 「アンサンブル金沢」設立記念公演(カザルスホール)
3.25/26 「クラシック・クライマックス」を サントリーホールで開催。両日とも満席となる	3.28 「オーケストラ・フォーラム'89」開催(赤坂・全日空ホテル)
3.27 東京オーケストラ事業協同組合設立認可(参加楽団: 東フィル、東響、日本フィル、新星日響、新日本フィル)	3.28~30 「音楽と情報科学」国際シンポジウム開催(国立音大)
4. 2 春休み親子コンサート(簡易保険ホール)(指揮・佐藤功太郎)親子コンサート 新作第9作・夢の音楽物語「モモ」(エンデ原作・山本純ノ介曲)初演	4. 1 消費税実施
4.17 第117回定期演奏会(東京文化会館) (指揮・現田茂夫)	4. 9 本島長崎市長の「天皇にも戦争責任があった」との発言をめぐる反応を取り材したNHK番組「拝啓、長崎市長殿」放映
5.12 第118回定期演奏会(東京文化会館) (指揮・外山雄三)東京文化会館での最後の定期演奏会となる	5.27 仙台フィル、東京公演(サン
6. 9 第119回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・山田一雄)定期公演の会場を	

新星日本交響楽団	社会・音楽界
サントリーホールに移した最初の公演。創立20周年記念委嘱作として「オルガンとオーケストラのEXISTENCE」が初演される	トリーホール)
6.- 楽団代表に樋松三郎、楽団長に上野真行が就任	6. 2 宇野内閣成立
6.17 創立20周年記念特別演奏会「窓ぎわのトットちゃん」(サントリーホール)開催	6. 4 中国の天安門広場で民主化を求めて集会を開いていた学生達を人民解放軍が武力弾圧
6.26 新星日響創立20周年記念パーティー開かれる(東京会館)	6. 5 ソフィア・グバイドゥーリナ来日記念演奏会
7.10 第119回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・オンドレイ・レナルド)創立20周年シリーズとしてマーラーの交響曲第8番「千人の交響曲」演奏される	6. 9 ヴァイオリニスト、メニューヒン中国公演を中止
7.20/21/31 首都圈3カ所で恒例の夏休み親子コンサート開催	6.24 美空ひばり没(52歳)
9.28 創立20周年記念特別演奏会「我が隣人たちの音楽—アジア・オセアニアの管弦楽曲特集」(サントリーホール)開催。注目を集めます	7.- 日本近代音楽館、港区麻布台の新しいビルに移転
10. 7 第121回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・ライントンハルト・ペータース)	7.- ポリショイ・オペラ19年ぶり2度目の来日公演
11.20 第122回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・大友直人)創立20周年記念委嘱作として石井眞木「オーケストラのための『碎動鬼(風のエモーション)』」初演	7. 3 東京都議会選挙で自民党惨敗、社会党大幅に議席を伸ばす
12.27 第123回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・アルベルト・ヴェントウラ)	7.10 大野和士、ザグレブ・フィルの音楽監督に就任
	7.16 カラヤン没(81歳)
	7.23 参議院選挙で自民党、歴史的な敗北。社会党議席を倍増させる
	8.- 海部内閣成立
	9.- ポーランドで「連帯」主導の内閣発足
	11. 5 ウラジミール・ホロヴィツ没(85歳)
	11. 9 ベルリンの壁崩壊
	11.21 労資協調路線の「日本労働組合総連合」(連合)発足。反連合勢力は「全国労働組合総連合」(全労連)を結成

1990年(平成2)

- 1.25 第124回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・現田茂夫)
 2.28 第125回定期演奏会(サントリーホール)(指揮・飯守泰次郎)

【注】○本年表は「新星日本交響楽団20年史」の内容と関連しながら、その20年間を概観する目的で作成した。

- 1969年から1979年までは、「新星日本交響楽団10年史年表」に依っているが、資料項目の若干を加除整理した。
- 本年表中、たとえば9.6は9月6日を表し、9.-は日付が特定できない事項を表している。
- 参考資料:「新星日本交響楽団10年史年表」作成時の資料に加えて以下の資料を参考にした。
- ・新星日響公演活動記録メモ、総会資料・プログラム
 - ・「近代日本総合年表 第二版」(1984年、岩波書店)
 - ・「朝日新聞縮刷版」
 - ・「毎日新聞縮刷版」
 - ・各種新聞切り抜き資料
 - ・その他

本書に添付した 20 周年記念 CD

今回、この「20 年史」に当楽団の名演集として CD をつけました。音楽は「百読は一聴にしかず」、これで「新星」の響きをおわかりいただけると思います。当団にゆかりの 6 人の指揮者で、曲目もバラエティにとんだ選曲としました。とくにラストに収録されている山田一雄先生による十八番「ローマの松」は、圧倒的な快演がありますところなく録音されて、聴く者をコンサートホールに引きもどすほどのすごさがあります。

このような変化にとんだ名曲を、色を変え演奏することが可能となったのも、当団にとっては大きな前進といえるでしょう。なお、曲目や指揮者については CD のブックレットをご覧いただくとして、当団は実に多くの CD や LP を発表してきました。それは、日本のレコード業界が外国オーケストラ一辺倒に徹していることを考え直してほしい気持ちも多いのです。この CD を聴いて、少しは日本のオーケストラの実力を認めてほしいとも考ええるところです。

[CD 曲目]

- ①シャブリエ作曲 「狂詩曲「スペイン」」
指揮現田茂夫 1989.6.17
- ②ラヴェル作曲 「マ・メール・ロワ」より一寸法師
- ③ラヴェル作曲 「マ・メール・ロア」より妖精の国
指揮バスカル・ヴェロ 1988.2.17
- ④フォーレ作曲 「レクイエム」よりリベラメ
指揮バスカル・ヴェロ バリトン芳野靖夫 新星日響合唱団/荒川少年少女合唱隊 1988.2.17
- ⑤ヴィルディ作曲 「レクイエム」よりリベラメ
指揮オンドレイ・レナルド ソプラノ佐藤しのぶ 新星日響合唱団/東京ライエン・コーラ 1988.7.18
- ⑥モーツアルト作曲 交響曲第 41 番「ジュピター」より第 1 楽章
指揮佐藤功太郎 1988.6.4
- ⑦外山雄三作曲 ヴァイオリン協奏曲より第 1 楽章
指揮外山雄三 ヴァイオリン前橋汀子 1987.1.31
- ⑧レスピーギ作曲 交響詩「ローマの松」
指揮山田一雄 1989.7.9

なお、⑦のヴァイオリンソロの前橋汀子さんが CD ブックで落ちていました。ここでおわびし、追加しておきます。

録音エンジニア 新星日響 音響担当 山崎達朗

編集後記

「20年史」を刊行する計画は、1988年中頃（創立19年目）でしたので、それから約1年半を経てようやく完成することができました。

巻頭のごあいさつやご祝辞・座談会は、1989年6月の創立記念日に発刊することを目標にしておりましたので、ご協力をいただいてから、すでに多くの時間が経過しております。ご協力をいただいた方々へ発刊が遅れたことを深くお詫び申し上げます。

「20年史」「本文」および「資料」は、小村公次氏の全面的なご協力をいただきました。氏は当財団の理事に就任いただいている音楽評論家です。市立船橋高等学校で教鞭をとるかたわら、そのやさしい眼差しと深い洞察で評論活動を行っていることは、すでにご存知の方も多いと思います。この場を借りて氏の労に対して改めて御礼申し上げます。

この「20年史」をご一読いただければ、新星日響が、その誕生から20年を経てどんなオーケストラに成長してきたか、どんな業績を残してきたかが客観的にもご理解いただけるものと確信いたします。資料がぼう大なものになりましたが、「事実が何よりも多くを語っている」という小村公次氏の強い希望もあり、できるだけ多くの資料を掲載することにいたしました。資料が散逸しない間に活字にしておくことと同時に、オーケストラを研究しようという人の研究材料となれれば幸いです。

新星日響20年の歴史を改めて洗いだしましたので、不十分な点も多くあると思われます。ご意見ご感想をいただいて完全なものとしていきたいと思っております。

新星日響はこれから10年でも大いに飛躍するでしょう。しかし、もっともっと大きく羽ばたくことのできるよう読者の皆さまの力強いご支援をお願い申し上げます。

新星日本交響楽団 20 年史

定価 3,000 円

編集 * 新星日本交響楽団 20 年史編集委員会

執筆 * 小村公次

発行 * 1990 年 2 月 28 日 初版発行

財団法人新星日本交響楽団

東京都豊島区西池袋 3-16-4 丸石ビル

03-985-4836(代) fax 03-981-0510

写真 * 伊藤千里ほか

制作 * 株式会社洛思社

印刷 * 笹氣出版印刷株式会社